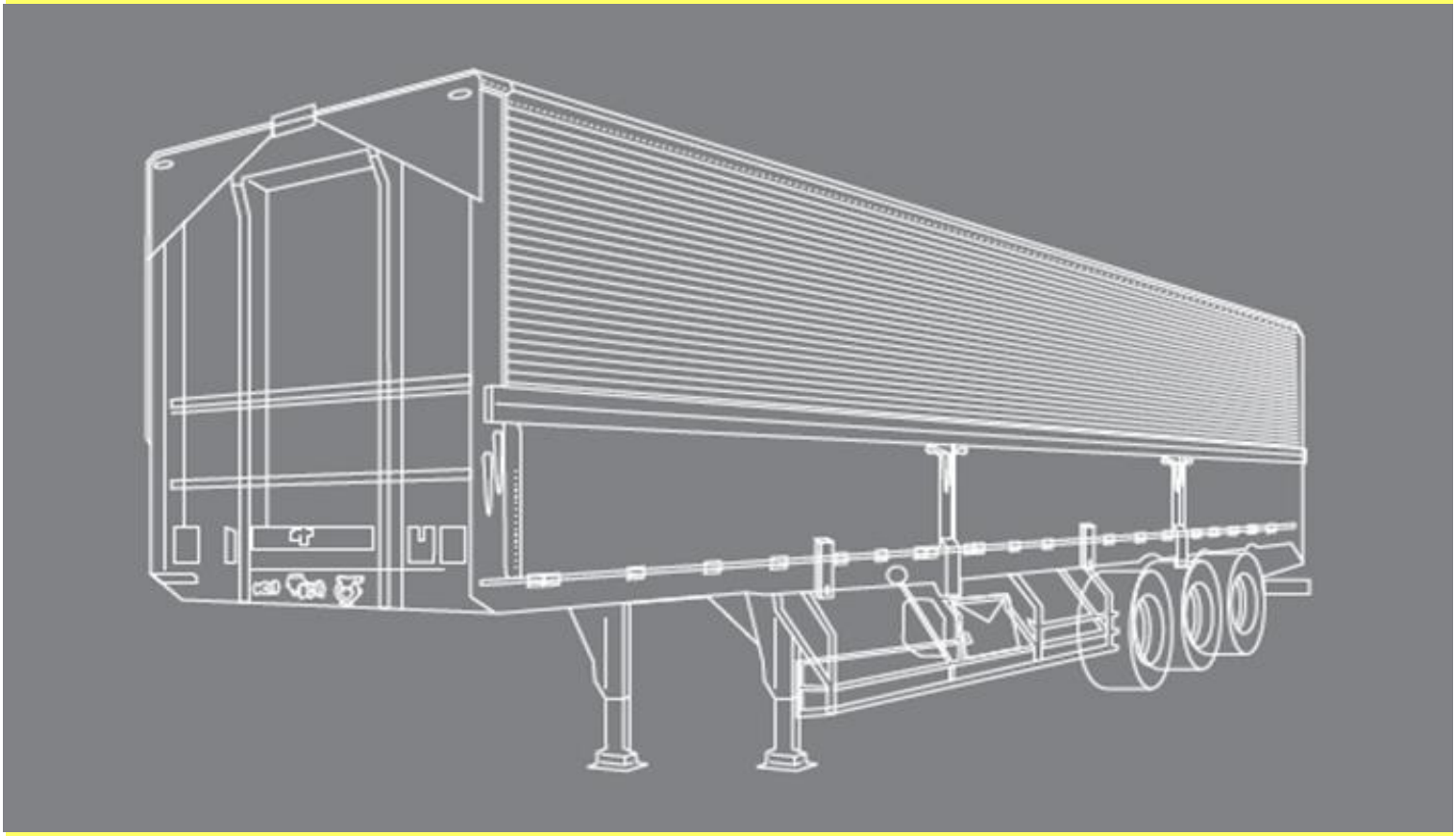
トレーラ
定期点検
整備の手引き



2026年版

一般社団法人　日本自動車車体工業会
トレーラ部会

はじめに

お客様各位

日頃は当会トレーラ部会会員の製品をご愛顧いただき、誠にありがとうございます。

昨今より、２０２４年問題による人手不足も顕著になってきていることから、トレーラによる貨物輸送の一層の効率化が図られることとなり、日本の物流に対する期待は現在も高い状況が続いております。

一方、大型自動車による車両火災や車輪の脱落など、社会的に大きな課題も抱えており、トレーラ部会といたしましてもそれらの防止の観点から、関連各位への啓発等を進めております。

このような状況のなか、トレーラ部会では点検整備方式及び分解整備記録簿の変更に伴い「トレーラ定期点検整備の手引き」を都度改訂し、２０２５年にはそれらの各冊子を１冊にまとめた統合版を発行いたしましたが、この度「特定整備記録簿２０２６年度版」の発売に伴い改訂版を発行いたします。

点検対象年度については「トレーラの点検実施方法」の各ページの右肩に表記しました。詳細につきましては「本書の使い方」をご参照ください。

トレーラの安全な運行には、これらをはじめとした法定点検はもとより、トレーラメーカーが指定する点検や整備、部品の定期交換を十分に行って頂くことが何よりも重要であることをご理解いただきたいと思います。

トレーラは一般の乗用車などに比べて車体が長いうえに積載量も大きいため、ひとたび事故などが発生すると、社会インフラに与える影響も大きなものとなるおそれがあります。トレーラを安全に運行することは、トレーラメーカーを含む運送事業の関係者にとって社会的使命であると考えております。トレーラの整備に関わる方はもちろんですが、ドライバーを含めた運送事業にかかわるすべての方にこの手引書の内容をご理解いただき、適切な点検・整備及び純正部品の使用により安全な運行を心がけていただきたいと思います。

今後とも、当会会員によるトレーラが運送事業にかかわる皆様のご発展に貢献できますよう、努めてまいります。

２０２６年9月吉日

一般社団法人 日本自動車車体工業会
トレーラ部会長　能條 幹也

本書の使い方

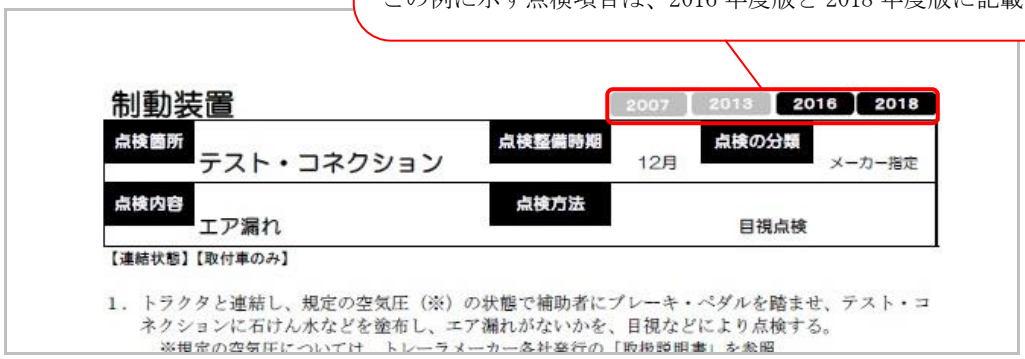
当会では、トレーラ定期点検整備の手引きを、道路運送車両の保安基準の改正や自動車点検基準の改正等に伴い、2007 年度版、2013 年度版、2016 年度版、2018 年度版と発行してきました。本書は、これらを１冊にまとめたものです。各年度版により、点検項目等の一部に異なる箇所がありますが、これを各ページの右肩のアイコンで示しました。その他、本書の使い方について記します。

各年度版に記載のある項目かどうかを示します。

黒：当該年度版に記載の有る点検項目

灰：当該年度版に記載の無い点検項目

この例に示す点検項目は、2016 年度版と 2018 年度版に記載があることを示します。

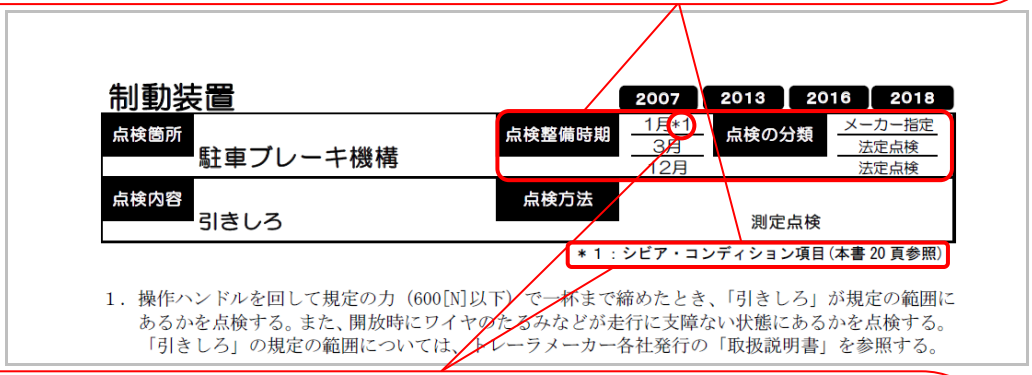


点検整備時期と点検の分類を示します。

この例に示す点検項目は、３ヶ月ごとの法定点検項目、及び、１２ヶ月ごとの法定点検項目であることを示します。

また、シビア・コンディションの場合には１ヶ月ごとに点検するメーカー指定点検項目であることを示します。

シビア・コンディションについては、本書 20 頁を参照してください。



点検整備時期に記載の「＊」には以下の６種類があります。

＊１：シビア・コンディション項目（本書 20 頁参照）

＊２：距離項目（本書 7 頁参照）

＊３：納入後及び交換後１月

＊４：使用開始から５年以上経過車

＊５：使用開始から１０年以上経過車、シビア・コンディション該当車（本書 20 頁参照）は使用開始から５年以上経過車

＊６：使用開始から１０年以上経過車

それぞれに該当する車両の状態や時期に応じて、記載の点検整備時期に点検を行って下さい。

目　　次

はじめに …… 1
本書の使い方 …… 2
自動車の点検整備関係の要点 …… 5
　１．点検整備の義務 …… 5
　２．点検整備実施上の注意 …… 5
　３．日常点検 …… 6
　４．定期点検及びトレーラメーカーが指定する点検整備 …… 7
　５．「長期使用過程車の劣化及び損傷」についての点検整備項目 …… 11
　６．点検の記録及び保存 …… 11
　７．定期交換部品 …… 19
　８．激しい使われ方をした場合（シビア・コンディション） …… 20
　９．用語 …… 22

トレーラ点検の実施方法

制 動 装 置　ブレーキ・ペダル …… 24
　　駐車ブレーキ機構 …… 25
　　ホース及びパイプ …… 29
　　ディスク・キャリパ …… 30
　　プレーキ・チャンバ …… 31
　　リレー・エマージェンシ・バルブ …… 34
　　ブレーキ・カム …… 36
　　ブレーキ・カム・シャフト …… 38
　　ブレーキ・ドラム及びブレーキ・シュー …… 39
　　バック・プレート（アンカ・ブラケット） …… 42
　　ブレーキ・ディスク及びパッド …… 43
　　分離ブレーキ …… 45
　　ロード・センシング・バルブ …… 47
　　テスト・コネクション …… 49
　　オートマチック・スラック・アジャスタ …… 50
　　ＡＢＳ/ＥＢＳ装置 …… 54
走 行 装 置　アクスル …… 57
　　ホイール（長期使用過程車の劣化及び損傷含） …… 58
緩 衝 装 置　リーフ・サスペンション …… 68
　　エア・サスペンション …… 74
　　ショック・アブソーバ …… 83
　　ウォーキング・ビーム・サスペンション …… 85
電 気 装 置　バッテリ …… 87
　　電気配線 …… 88
エア・コンプレッサ …… 89
車枠及び車体 …… 90
連 結 装 置 ……101

補　助　脚 …… 105
ドーリ・ドローバ　ターン・テーブル …… 109
アンチ・ジャック・ナイフ装置 …… 116
ドローバ …… 123
ドローバ・サポート …… 130
車軸自動昇降装置（緩衝装置）…… 134
そ　の　他 …… 138
長期使用過程車の劣化及び損傷（走行装置・アクスル）…… 140
（走行装置・ホイール）…… 141
（車枠及び車体）…… 144

トレーラメーカー一覧 …… 146

本書の他に、トレーラの点検整備などに関する情報を「トレーラサービスニュース」として掲載しています。こちらも合わせてご覧ください。

リンク先

自動車の点検整備関係の要点

１．点検整備の義務

自動車は、保安基準に適合していることが運行の要件とされており、道路運送車両法では、自動車の点検整備を行い、常に保安基準に適合させる責任は自動車使用者にあると定められています（第 47 条）。したがって、自動車使用者は日常点検及び、定期点検を行わなければなりません。

２．点検整備実施上の注意

点検を行う場合の特に注意すべき事項について、「自動車の点検及び整備に関する手引き」（国土交通省告示第 317 号、令和 5 年 10 月 20 日）では、次のように記載されています。

(1) 安全な場所を選ぶ。
(2) ユーザー自身が、定期点検のうちの一定部分を行おうとする場合には、知識、技量に見合った項目について行う。
(3) 適切な機械・工具や測定器具を使用する。
(4) 自動車をリフト・アップする場合には、適切なジャッキ、スタンド、リフトなどを使用して安全に行う。（自動車に備付けの簡易なジャッキは、タイヤ交換時に使用するものです。）

また、整備を行う場合の特に注意すべき事項について、次のように記載されています。

(1) 安全な場所を選ぶ。
(2) ユーザー自身が整備を行おうとする場合は、知識、技量の範囲内で行う。
(3) 適切な工具を使用する。
(4) エンジンは停止状態で行う。
(5) 駐車ブレーキ・レバーを十分に引き、車輪に輪止めをかけるなどして、車両を動かないようにして行う。
(6) 自動車をリフト・アップする場合には、適切なジャッキ、スタンド、リフトなどを使用して安全に行う。（自動車に備付けの簡易なジャッキは、タイヤ交換時に使用するものです。）
(7) 廃棄部品や油脂液類は、環境に悪影響を与えないよう適切に処理を行う。

３．日常点検

日常点検は、使用者又は運転者が１日１回、その運行の開始前に行う点検です。下表に記します。

【記号の意味】

●及び★印：法定項目

★印：走行距離、運行時の状態等から判断した適切な時期に行うことで足りる項目を示す。

○及び◇印：ﾒｰｶｰ指定項目

◇印：ｼﾋﾞｱ・ｺﾝﾃﾞｨｼｮﾝ項目（本書 20 頁参照）のいずれかに該当する場合に点検すべき項目を示す。

点検項目			日常点検	備考
点検箇所		点検内容		
制動装置	ﾌﾞﾚｰｷ・ﾍﾟﾀﾞﾙ	ﾌﾞﾚｰｷの効き具合	●	連結状態
	駐車ﾌﾞﾚｰｷ機構	引きしろ	●	
		ﾌﾞﾚｰｷの効き具合	○	
		駐車ﾌﾞﾚｰｷ・ﾊﾞﾙﾌﾞの排気口からの排気音の状態	○	ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞ式駐車ﾌﾞﾚｰｷ車のみ
	ﾎｰｽ及びﾊﾟｲﾌﾟ	漏れ、損傷及び取付状態	○	連結状態 ﾅｲﾛﾝ・ﾁｭｰﾌﾞを含む
	ﾌﾞﾚｰｷ・ﾁｬﾝﾊﾞ	機能	○	連結状態
	ﾘﾚｰ・ｴﾏｰｼﾞｪﾝｼ・ﾊﾞﾙﾌﾞ	機能	○	
	(牽引自動車の) 空気圧力計	空気圧力の上り具合	●	
	ﾌﾞﾚｰｷ・ﾊﾞﾙﾌﾞ (ﾘﾚｰ・ｴﾏｰｼﾞｪﾝｼ・ﾊﾞﾙﾌﾞ)	ﾘﾚｰ・ｴﾏｰｼﾞｪﾝｼ・ﾊﾞﾙﾌﾞからの排気音の状態	●	
	ﾄﾞﾚﾝ・ｺｯｸ	漏れ	○	
	ABS/EBS装置	警告灯の作動確認	○	連結状態 ABS/EBS付車のみ
走行装置	ﾀｲﾔ	空気圧	●	
		亀裂及び損傷	●	
		異状な摩耗	●	
		溝の深さ	★	
		ﾃﾞｨｽｸ・ﾎｲｰﾙの取付状態	●	車両総重量8ﾄﾝ以上の被牽引自動車のみ
	ﾎｲｰﾙ	ﾎｲｰﾙ・ﾅｯﾄ及びﾎｲｰﾙ・ﾎﾞﾙﾄの緩み	◇	
装置緩衝	ｴｱ・ｻｽﾍﾟﾝｼｮﾝ	ｴｱ漏れ	◇	ｴｱ・ｻｽﾍﾟﾝｼｮﾝ車のみ 連結状態
電気装置	ﾊﾞｯﾃﾘ	液量	○	取付車のみ
	電気配線	接続部の緩み及び損傷	○	
	灯火装置 及び方向指示器	点灯または点滅具合、汚れ 及び損傷	●	連結状態
ｴｱ・ｺﾝﾌﾟﾚｯｻ		ｴｱ・ﾀﾝｸの凝水	●	連結状態
車枠及び車体		ｽﾍﾟｱ・ﾀｲﾔの取付状態	○	車両総重量8ﾄﾝ以上の被牽引自動車のみ 取付車のみ
連結装置		ｷﾝｸﾞ・ﾋﾟﾝ及びﾙﾈｯﾄ・ｱｲの摩耗、 亀裂及び損傷	○	
運行中の異状箇所		当該箇所の異状	●	
補助脚		作動状態	○	取付車のみ
車軸自動昇降装置		ｴｱ漏れ	◇	車軸自動昇降装置 取付車のみ

４．定期点検及びトレーラメーカーが指定する点検整備

(1)定期点検は道路運送車両法第 48 条第 1 項及び、自動車点検基準により、自動車の種別毎に点検時期及び、点検項目が定められています。

(2)トレーラの各装置等の性能を維持するためには、定期点検以外の点検整備も必要です。

(3)自動車運送事業の用に供する、トレーラ及び車両総重量が 8 トン以上のトレーラについて整理すると次表のようになります。

【記号の意味】

●及び★印：法定項目

★印：距離項目

自動車検査証の交付を受けた日、又は当該点検を行った日以降の走行距離が 3 月当たり 2 千ｷﾛﾒｰﾄﾙ以下の自動車については、前回の当該点検を行うべきこととされる時期に、当該点検を行わなかった場合を除き、行わないことができる項目を示す。

○及び◇印：ﾒｰｶｰ指定項目

＊○印：備考欄に記載した適切な時期に行う項目を示す。

◇印：ｼﾋﾞｱ・ｺﾝﾃﾞｨｼｮﾝ項目(本書 20 頁参照)のいずれかに該当する場合に点検すべき項目を示す。

点検項目			点検時期 被牽引自動車			備考
点検箇所		点検内容	1月ごと	3月ごと	12月ごと	
制動装置	ﾌﾞﾚｰｷ・ﾍﾟﾀﾞﾙ	ﾌﾞﾚｰｷの効き具合		●	●	連結状態
	駐車ﾌﾞﾚｰｷ機構	引きしろ	◇	●	●	
		ﾌﾞﾚｰｷの効き具合		●	●	
		ねじ部の摩耗及び損傷		○	○	ﾊﾝﾄﾞﾙ式駐車ﾌﾞﾚｰｷ車のみ
		駐車ﾌﾞﾚｰｷ・ﾊﾞﾙﾌﾞの排気口からの排気音の状態		○	○	ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞ式駐車ﾌﾞﾚｰｷ車のみ
	ﾎｰｽ及びﾊﾟｲﾌﾟ	漏れ、損傷及び取付状態	◇	●	●	連結状態 ﾅｲﾛﾝ・ﾁｭｰﾌﾞを含む
	ﾃﾞｨｽｸ・ｷｬﾘﾊﾟ	機能、摩耗及び損傷			○	ﾃﾞｨｽｸ・ﾌﾞﾚｰｷ車のみ
	ﾌﾞﾚｰｷ・ﾁｬﾝﾊﾞ	ﾛｯﾄﾞのｽﾄﾛｰｸ	◇	●	●	連結状態
		機能		◇	●	
	ﾘﾚｰ・ｴﾏｰｼﾞｪﾝｼ・ﾊﾞﾙﾌﾞ	機能		○	●	連結状態
		ﾘﾚｰ・ﾋﾟｽﾄﾝ部の凝水		○	○	
				＊○		＊冬期前
	ﾌﾞﾚｰｷ・ｶﾑ	摩耗		◇	●	
	ﾌﾞﾚｰｷ・ｶﾑ・ｼｬﾌﾄ	摩耗及び損傷		◇	○	
	ﾌﾞﾚｰｷ・ﾄﾞﾗﾑ及びﾌﾞﾚｰｷ・ｼｭｰ	ﾄﾞﾗﾑとﾗｲﾆﾝｸﾞとのすき間	◇	●	●	ﾄﾞﾗﾑ・ﾌﾞﾚｰｷ車のみ
		ｼｭｰの摺動部分及びﾗｲﾆﾝｸﾞの摩耗	◇	★	★	
		ﾄﾞﾗﾑの摩耗及び損傷		◇	●	
	ﾊﾞｯｸ・ﾌﾟﾚｰﾄ	ﾊﾞｯｸ・ﾌﾟﾚｰﾄの状態			●	
	ﾌﾞﾚｰｷ・ﾃﾞｨｽｸ及びﾊﾟｯﾄﾞ	ﾃﾞｨｽｸとﾊﾟｯﾄﾞとのすき間	◇	★	★	ﾃﾞｨｽｸ・ﾌﾞﾚｰｷ車のみ
		ﾊﾟｯﾄﾞの摩耗	◇	★	★	
		ﾃﾞｨｽｸの摩耗及び損傷		◇	●	

点検項目			点検時期 被牽引自動車			備考
点検箇所		点検内容	1月ごと	3月ごと	12月ごと	
制動装置	分離ﾌﾞﾚｰｷ	ｴﾏｰｼﾞｪﾝｼ・ﾌﾞﾚｰｷの作動確認			○	連結状態
	ﾛｰﾄﾞ・ｾﾝｼﾝｸﾞ・ﾊﾞﾙﾌﾞ	取付状態		○	○	連結状態 取付車のみ
		機能		○	○	
	ﾃｽﾄ・ｺﾈｸｼｮﾝ	漏れ			○	R13適用車のみ
	ｵｰﾄﾏﾁｯｸ・ｽﾗｯｸ・ｱｼﾞｬｽﾀ	機能	◇	○	○	自動調整式車のみ
	ABS/EBS装置	警告灯の作動確認			○	連結状態 ABS/EBS付車のみ
		部品の機能確認			○	
		車輪速ｾﾝｻの作動確認			○	
		電気配線接続部の緩み 及び損傷		○	○	
		ｺﾝﾄﾛｰﾙ・ﾊﾞﾙﾌﾞ(ﾓｼﾞｭﾚｰﾀ)の 作動確認			○	
走行装置	ｱｸｽﾙ	亀裂、損傷及び変形		○	○	
	ﾎｲｰﾙ	ﾀｲﾔの状態		★	★	
		ﾎｲｰﾙ・ﾅｯﾄ 及びﾎｲｰﾙ・ﾎﾞﾙﾄの緩み	◇	●	●	
		ﾎｲｰﾙ・ﾅｯﾄ 及びﾎｲｰﾙ・ﾎﾞﾙﾄの損傷	◇	◇	●	車両総重量8ﾄﾝ以上の 被牽引自動車のみ
		ﾘﾑ、ｻｲﾄﾞ・ﾘﾝｸﾞ 及びﾃﾞｨｽｸ・ﾎｲｰﾙの損傷	◇	○	●	
		ﾎｲｰﾙ・ﾍﾞｱﾘﾝｸﾞのがた		◇	●	
		ﾊﾌﾞ・ｷｬｯﾌﾟの取付状態		○	○	
		車軸のｱﾗｲﾒﾝﾄ			○	
緩衝装置	ﾘｰﾌ・ｻｽﾍﾟﾝｼｮﾝ	ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞの損傷	◇	●	●	ﾘｰﾌ・ｻｽﾍﾟﾝｼｮﾝ車のみ
		取付部及び連結部の緩み、 がた及び損傷		○	●	
			＊○			＊納入後及び交換後1月
		ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞ摺動面の摩耗			○	
	ｴｱ・ｻｽﾍﾟﾝｼｮﾝ	ｴｱ漏れ		●	●	ｴｱ・ｻｽﾍﾟﾝｼｮﾝ車のみ 連結状態
		ﾍﾞﾛｰｽﾞの損傷	◇	★	★	
		ﾄﾚｰﾘﾝｸﾞ・ｱｰﾑの損傷	◇	○	○	
		ﾄﾚｰﾘﾝｸﾞ・ｱｰﾑ取付ﾎﾞﾙﾄの緩み		○	○	
		取付部及び連結部の緩み 並びに損傷		★	★	
			＊○			＊納入後及び交換後1月
		ﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ・ﾊﾞﾙﾌﾞの機能			●	ｴｱ・ｻｽﾍﾟﾝｼｮﾝ車のみ 連結状態
		ﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ・ﾊﾞﾙﾌﾞのﾛｯﾄﾞ 取付部の損傷		○	○	
		ﾌﾟﾛﾃｸｼｮﾝ・ﾊﾞﾙﾌﾞの機能			○	
		ﾊｲﾄ・ｺﾝﾄﾛｰﾙ・ﾊﾞﾙﾌﾞの機能			○	

点検項目			点検時期 被牽引自動車			備考
点検箇所		点検内容	1月ごと	3月ごと	12月ごと	
緩衝装置	ｼｮｯｸ･ｱﾌﾞｿｰﾊﾞ	油漏れ及び損傷		●	●	取付車のみ
		取付ﾎﾞﾙﾄの緩み			○	
				＊○		＊納入後及び交換後1月
	ｳｫｰｷﾝｸﾞ･ﾋﾞｰﾑ･ｻｽﾍﾟﾝｼｮﾝ	連結部のがた及び損傷			○	ｳｫｰｷﾝｸﾞ･ﾋﾞｰﾑ･ｻｽﾍﾟﾝｼｮﾝ車のみ
		ﾌﾞﾗｹｯﾄ取付部の緩み及び損傷		○	○	
				＊○		＊納入後及び交換後1月
電気装置	ﾊﾞｯﾃﾘ	ﾀｰﾐﾅﾙ部の接続状態		○	○	取付車のみ
	電気配線	接続部の緩み及び損傷		●	●	
ｴｱ･ｺﾝﾌﾟﾚｯｻ		ｴｱ･ﾀﾝｸの凝水		●	●	連結状態
車枠及び車体		緩み及び損傷		●	●	
		ｽﾍﾟｱ･ﾀｲﾔ取付装置の緩み、がた及び損傷		●	●	車両総重量8ﾄﾝ以上の被牽引自動車のみ取付車のみ
		ｽﾍﾟｱ･ﾀｲﾔの取付状態		●	●	
		ﾂｰﾙ･ﾎﾞｯｸｽの取付部の緩み及び損傷		●	●	
		ｶｳﾝﾀ･ｳｪｲﾄ取付ﾎﾞﾙﾄの緩み及び損傷		○	○	取付車のみ
連結装置		ｶﾌﾟﾗの機能及び損傷			●	取付車のみ
		ｷﾝｸﾞ･ﾋﾟﾝ及びﾙﾈｯﾄ･ｱｲの摩耗、亀裂及び損傷		○	●	
補助脚		作動状態		○	○	取付車のみ
		内外筒の損傷		○	○	
		取付部の緩み及び損傷			○	
		回転部及び摺動部の摩耗			○	
ドーリ・ドローバ	ﾀｰﾝ･ﾃｰﾌﾞﾙ	作動状態		○	○	ﾌﾙ･ﾄﾚｰﾗのみ連結状態
		亀裂、損傷及び変形		○	○	
		取付ﾎﾞﾙﾄの緩み		○	○	
				＊○		＊納入後及び交換後1月
	ｱﾝﾁ･ｼﾞｬｯｸ･ﾅｲﾌ装置	作動状態		○	○	ﾌﾙ･ﾄﾚｰﾗのみ連結状態
		配管のｴｱ漏れ及び油漏れ		○	○	
		ﾃﾞｨｽｸ･ﾌﾟﾚｰﾄの汚れ		○	○	
		ｵｲﾙ･ﾘｻﾞｰﾊﾞ･ﾀﾝｸの液量		○	○	
		ﾌﾞｰｽﾀの機能			○	
		ﾌﾞﾚｰｷ･ﾗｲﾆﾝｸﾞの摩耗		○	○	
		ﾌﾞﾚｰｷ･ﾍｯﾄﾞの機能			○	

点検項目			点検時期 被牽引自動車			備考
点検箇所		点検内容	1月ごと	3月ごと	12月ごと	
ドーリ・ドローバ	ﾄﾞﾛｰﾊﾞ	作動状態		○	○	ﾌﾙ・ﾄﾚｰﾗのみ 連結状態
		ﾌﾚｰﾑの亀裂、損傷及び変形		○	○	
		ﾄﾞﾛｰﾊﾞ・ﾋﾟﾝ・ﾅｯﾄの緩み			○	
		ﾄﾞﾛｰﾊﾞ・ﾋﾟﾝ・ﾌﾞｯｼｭの摩耗		○	○	
	ﾄﾞﾛｰﾊﾞ・ｻﾎﾟｰﾄ	作動状態		○	○	
		ｻﾎﾟｰﾄ・ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞの損傷		○	○	
車軸自動昇降装置		ｴｱ漏れ		○	○	車軸自動昇降装置 取付車のみ
		ｱｰﾑ・ｺﾞﾑ・ｸｯｼｮﾝの摩耗		○	○	
		ﾍﾞﾛｰｽﾞまたはﾁｬﾝﾊﾞの損傷	◇	○	○	
		取付部及び連結部の緩み並びに損傷		○	○	
			＊○			＊納入後及び交換後1月
その他		ｼｬｼ各部の給油脂状態	◇	●	●	
		長期使用過程車の劣化及び損傷		11ﾍﾟｰｼﾞに記載		

５.「長期使用過程車の劣化及び損傷」についての点検整備項目

初度登録から 5 年が経過したトレーラは、5 年目以降、一部項目は初度登録から 10 年が経過したトレーラは、10 年目以降、次表の点検項目を実施します。

【記号の意味】

◇、△、◇△及び□：ﾒｰｶｰ指定項目

△印：使用開始から 5 年以上経過した被牽引自動車の場合に点検する項目を示す。

◇△印：ｼﾋﾞｱ・ｺﾝﾃﾞｨｼｮﾝ項目(本書 20 頁参照)に該当する、使用開始から 5 年以上経過した被牽引自動車の場合に点検する項目を示す。

□印：使用開始から 10 年以上経過した被牽引自動車の場合に点検する項目を示す。

点検項目		点検時期 被牽引自動車			備考
点検箇所	点検内容	1月ごと	3月ごと	12月ごと	
ｱｸｽﾙ	ｽﾋﾟﾝﾄﾞﾙの亀裂及び損傷			△	
	ｽﾋﾟﾝﾄﾞﾙの摩耗			◇△又は□	
ﾎｲｰﾙ	ﾎｲｰﾙ･ﾅｯﾄ及びﾎｲｰﾙ･ﾎﾞﾙﾄの損傷		△	△	車両総重量8ﾄﾝ以上の被牽引自動車のみ
	ﾊﾌﾞの亀裂、損傷及び変形			△	
	ﾊﾌﾞの摩耗			◇△又は□	
車枠及び車体	錆腐食状態			□	

・安全を確保するため、点検はトレーラメーカーが指定する整備工場等で実施することをお勧めします。

６．点検の記録及び保存

点検の結果及び整備の概要は、分解整備記録簿に記録し、保存しなければならないとされています(道路運送車両法第 49 条)。

自動車整備事業者は、記録した分解整備記録簿を 2 年間の保存が必要です。

ただし、特にトレーラメーカーが指定する場合はその期間、保存して下さい。

なお､使用者は分解整備記録簿を自動車に備え付けて保存することが義務付けられています。

次に、日本自動車車体工業会が指定する被牽引自動車用の分解整備記録簿(2026 年度以降は特定整備記録簿) を参考として示します。

2007 年度版(スペアタイヤキャリア補足)

分解整備記録簿
(点検整備記録簿写)
□ヵ月定期点検整備
(□に 1 又は 3 又は12と記入して使用する)
被牽引自動車用

事業用等

記号
●、★：法定項目（★は距離項目：注１）
○：メーカー指定項目
◇：シビアコンディション項目（注２）
△：長年使用し続けた被牽引自動車の項目(注３)

区分及び記号

良	レ	交換	×
分解	○	修理	△
調整	A	清掃	C
締付	T	給油	L

依頼者（使用者）の氏名又は名称　　様
住所

自動車登録番号
初度登録年(省略する場合は/を記入)

車名及び型式(省略する場合は/を記入)
車台番号(自動車登録番号のない自動車のみ記載)(記載しない場合は/を記入)

被牽引自動車用・別表４

点検箇所	点検内容	点検整備時期 1月	3月	12月	結果
制動装置	ブレーキ・ペダル			●	●	
	駐車ブレーキ機構	引きしろ		◇	●	●	
		ブレーキの効き具合			●	●	
		ねじ部の摩耗及び損傷			○	○	
		駐車ブレーキ・バルブの排気口からの排気音の状態			○	○	
	ホース及びパイプ	漏れ、損傷及び取付状態		◇	●	●	
	ディスク・キャリパ	機能、摩耗及び損傷				○	
	ブレーキ・チャンバ	ロッドのストローク		◇	●	●	
		機能			◇	●	
	リレー・エマージェンシ・バルブ	機能			○	●	
	ブレーキ・カム	摩耗			◇	●	
	ブレーキ・カム・シャフト	摩耗及び損傷			◇	○	
	ブレーキ・ドラム及びブレーキ・シュー	ドラムとライニングとのすき間		◇	●	●	
		シューの摺動部分及びライニングの摩耗		◇	★	★	
		ドラムの摩耗及び損傷			◇	●	
	バック・プレート	バック・プレートの状態				●	
	ブレーキ・ディスク及びパッド	ディスクとパッドとのすき間		◇	★	★	
		パッドの摩耗		◇	★	★	
		ディスクの摩耗及び損傷			◇	●	
	分離・ブレーキ	エマージェンシ・ブレーキの作動確認				○	
	ロード・センシング・バルブ	取付状態			○	○	
		機能			○	○	
	アートマチック・スラック・アジャスタ	機能		◇	○	○	
	ABS装置	警告灯の作動確認				○	
		部品の機能確認				○	
		車輪速センサの作動確認				○	
		電気配線接続部の緩み及び損傷			○	○	
		コントロール・バルブ(モジュレータ)の作動確認				○	
走行装置	アクスル	亀裂、損傷及び変形			○	○	
		スピンドルの亀裂及び損傷				△	
	ホイール	タイヤ状態 タイヤの空気圧			★	★	
		タイヤの亀裂及び損傷			★	★	
		タイヤの溝の深さ			★	★	
		タイヤの異状な摩耗			★	★	
		タイヤの金属片、石、その他の異物			★	★	
		ホイール・ナット及びホイール・ボルトの緩み		◇	●	●	
		※ホイール・ナット及びホイール・ボルトの損傷		◇	△	●	
		リム、サイド・リング及びディスク・ホイールの損傷		◇	○	●	
		ハブの亀裂、損傷及び変形				△	
		ホイール・ベアリングのがた			◇	●	
		車軸のアライメント				○	
緩衝装置	リーフ・サスペンション	スプリングの損傷		◇	●	●	
		取付部及び連結部の緩み、がた及び損傷			○	●	
		Uボルトの緩み及び損傷			○	●	
		トルク・ロッドの連結部のがた			○	●	
		スプリング摺動面の摩耗				○	
	ウォーキング・ビーム・サスペンション	連結部のがた及び損傷				○	
		ブラケット取付部の緩み及び損傷			○	○	
	エア・サスペンション	エア漏れ			●	●	
		ベローズの損傷		◇	★	★	
		取付部、連結部の緩み並びに損傷			★	★	
		スプリング・ピボットの緩み並びに損傷			★	★	
		Uボルトの緩み並びに損傷			★	★	
		レベリング・バルブの機能				●	
		レベリング・バルブのロッド取付部の損傷			○	○	
		プロテクション・バルブの機能				○	
		ハイト・コントロール・バルブの機能				○	
	ショック・アブソーバ	油漏れ及び損傷			●	●	
車軸自動昇降装置		エア漏れ			○	○	
		アーム・ゴムクッションの摩耗			○	○	
		ベローズの損傷		◇	○	○	
		取付部及び連結部の緩み並びに損傷			○	○	
電気装置	バッテリ	ターミナル部の接続状況			○	○	
	電気配線	接続部の緩み及び損傷			●	●	
	エア・コンプレッサ	エア・タンクの凝水			●	●	
車枠及び車体		緩み及び損傷			●	●	
		物品積載装置の緩み及び損傷			●	●	
		巻込防止装置の緩み及び損傷			●	●	
		突入防止装置の緩み及び損傷			●	●	
連結装置		カウンターウェート取付ボルトの緩み及び損傷			○	○	
		▲カプラの機能及び損傷				●	
		キング・ピン及びルネット・アイの摩耗、亀裂及び損傷			○	●	
		キング・ピン取付部の損傷			○	●	
		▲ルネット・アイ取付部の緩み			○	●	
		キング・ピン・プレートの腐食及び損傷				○	
その他		シャーシの各部の給油脂状態		◇	●	●	
補助脚		作動状態			○	○	
		内外筒の損傷			○	○	
		取付部の緩み及び損傷				○	
		回転部及び摺動部の摩耗				○	

ドリーロー	点検箇所	点検内容	点検整備時期 1月	3月	12月	結果
	ターン・テーブル	作動状態			○	○	
		亀裂、損傷及び変形			○	○	
		取付ボルトの緩み			○	○	
		ターン・テーブル・ピンの摩耗、変形			○	○	
		ストッパ・ピンの摩耗、変形			○	○	
	アンチ・ジャック・ナイフ装置	作動状態			○	○	
		配管のエア及びオイル漏れ			○	○	
		ディスク・プレートの汚れ			○	○	
		オイル・リザーバ・タンクの液量			○	○	
		ブースタの機能				○	
		ブレーキ・ライニングの摩耗			○	○	
		ブレーキ・ヘッドの機能				○	
	ドローバ	作動状態			○	○	
		フレームの亀裂、損傷及び変形			○	○	
		ドローバ・ピン・ナットの緩み				○	
		ドローバ・ピン・ブッシュの摩耗			○	○	
	ドローバ・サポート	作動状態			○	○	
		サポート・スプリングの損傷			○	○	
		ドローバ・ストッパ・ピンの摩耗、変形			○	○	
		スイング・ガイド・ピンの摩耗、変形			○	○	

その他必要となった点検・整備の内容

車枠及び車体
※スペア・タイヤ取付装置の緩み、がた及び損傷
※スペア・タイヤの取付状態
※ツール・ボックスの取付部の緩み及び損傷

交換部品等	数量

この記録簿は二年間保存して下さい

工場用

メンテナンスに関するアドバイス

点検又は分解整備時の総走行距離　　km

タイヤの残溝1.6mm以上				
	前輪	左	右	mm
	後輪	左	右	mm
ライニングの残厚	前輪	左	右	mm
	後輪	左	右	mm

点検年月日　　年　月　日
整備完了年月日　　年　月　日
整備主任者　　印

分解整備事業者の氏名又は名称及び所在地

(認証又は指定番号)

(注)タイヤの残溝、ライニングの残厚は最摩耗箇所の数値

連結時のトラクター型式

※車両総重量８トン以上の被牽引自動車に限る
▲：セミトレーラは不要
注１：走行距離が３カ月あたり2,000km未満の場合には省略できる項目（２回連続しての省略は出来ない）
注２：シビアコンディションの判定例は記録簿の見開きに示す
注３：長年使用し続けたとは、使用開始から５年以上経過したことを言う

(自動車 点検/分解 整備記録簿)
□ヵ月定期点検整備
(□に 1 又は 3 又は12と記入して使用する)
被牽引自動車用

事業用等
記号
●、★：法定項目（★は距離項目：注１）
○：メーカー指定項目
◇：シビアコンディション項目（注２）
△：長年使用し続けた被牽引自動車の項目(注３)

区分及び記号

良	レ	交換	×
分解	○	修理	△
調整	A	清掃	C
締付	T	給油	L

依頼者（使用者）の氏名又は名称　　様
住所

自動車登録番号
初度登録年(省略する場合は/を記入)

車名及び型式(省略する場合は/を記入)
車台番号(自動車登録番号のない自動車のみ記載)(記載しない場合は/を記入)

被牽引自動車用・別表４

点検箇所	点検内容	点検整備時期 1月	3月	12月	結果
制動装置	ブレーキ・ペダル			●	●	
	駐車ブレーキ機構	引きしろ		◇	●	●	
		ブレーキの効き具合			●	●	
		ねじ部の摩耗及び損傷			○	○	
		駐車ブレーキ・バルブの排気口からの排気音の状態			○	○	
	ホース及びパイプ	漏れ、損傷及び取付状態		◇	●	●	
	ディスク・キャリパ	機能、摩耗及び損傷				○	
	ブレーキ・チャンバ	ロッドのストローク		◇	●	●	
		機能			◇	●	
	リレー・エマージェンシ・バルブ	機能			○	●	
	ブレーキ・カム	摩耗			◇	●	
	ブレーキ・カム・シャフト	摩耗及び損傷			◇	○	
	ブレーキ・ドラム及びブレーキ・シュー	ドラムとライニングとのすき間		◇	●	●	
		シューの摺動部分及びライニングの摩耗		◇	★	★	
		ドラムの摩耗及び損傷			◇	●	
	バック・プレート	バック・プレートの状態				●	
	ブレーキ・ディスク及びパッド	ディスクとパッドとのすき間		◇	★	★	
		パッドの摩耗		◇	★	★	
		ディスクの摩耗及び損傷			◇	●	
	分離・ブレーキ	エマージェンシ・ブレーキの作動確認				○	
	ロード・センシング・バルブ	取付状態			○	○	
		機能			○	○	
	アートマチック・スラック・アジャスタ	機能		◇	○	○	
	ABS装置	警告灯の作動確認				○	
		部品の機能確認				○	
		車輪速センサの作動確認				○	
		電気配線接続部の緩み及び損傷			○	○	
		コントロール・バルブ(モジュレータ)の作動確認				○	
走行装置	アクスル	亀裂、損傷及び変形			○	○	
		スピンドルの亀裂及び損傷				△	
	ホイール	タイヤ状態 タイヤの空気圧			★	★	
		タイヤの亀裂及び損傷			★	★	
		タイヤの溝の深さ			★	★	
		タイヤの異状な摩耗			★	★	
		タイヤの金属片、石、その他の異物			★	★	
		ホイール・ナット及びホイール・ボルトの緩み		◇	●	●	
		※ホイール・ナット及びホイール・ボルトの損傷		◇	△	●	
		リム、サイド・リング及びディスク・ホイールの損傷		◇	○	●	
		ハブの亀裂、損傷及び変形				△	
		ホイール・ベアリングのがた			◇	●	
		車軸のアライメント				○	
緩衝装置	リーフ・サスペンション	スプリングの損傷		◇	●	●	
		取付部及び連結部の緩み、がた及び損傷			○	●	
		Uボルトの緩み及び損傷			○	●	
		トルク・ロッドの連結部のがた			○	●	
		スプリング摺動面の摩耗				○	
	ウォーキング・ビーム・サスペンション	連結部のがた及び損傷				○	
		ブラケット取付部の緩み及び損傷			○	○	
	エア・サスペンション	エア漏れ			●	●	
		ベローズの損傷		◇	★	★	
		取付部、連結部の緩み並びに損傷			★	★	
		スプリング・ピボットの緩み並びに損傷			★	★	
		Uボルトの緩み並びに損傷			★	★	
		レベリング・バルブの機能				●	
		レベリング・バルブのロッド取付部の損傷			○	○	
		プロテクション・バルブの機能				○	
		ハイト・コントロール・バルブの機能				○	
	ショック・アブソーバ	油漏れ及び損傷			●	●	
車軸自動昇降装置		エア漏れ			○	○	
		アーム・ゴムクッションの摩耗			○	○	
		ベローズの損傷		◇	○	○	
		取付部及び連結部の緩み並びに損傷			○	○	
電気装置	バッテリ	ターミナル部の接続状況			○	○	
	電気配線	接続部の緩み及び損傷			●	●	
	エア・コンプレッサ	エア・タンクの凝水			●	●	
車枠及び車体		緩み及び損傷			●	●	
		物品積載装置の緩み及び損傷			●	●	
		巻込防止装置の緩み及び損傷			●	●	
		突入防止装置の緩み及び損傷			●	●	
連結装置		カウンターウェート取付ボルトの緩み及び損傷			○	○	
		▲カプラの機能及び損傷				●	
		キング・ピン及びルネット・アイの摩耗、亀裂及び損傷			○	●	
		キング・ピン取付部の損傷			○	●	
		▲ルネット・アイ取付部の緩み			○	●	
		キング・ピン・プレートの腐食及び損傷				○	
その他		シャーシの各部の給油脂状態		◇	●	●	
補助脚		作動状態			○	○	
		内外筒の損傷			○	○	
		取付部の緩み及び損傷				○	
		回転部及び摺動部の摩耗				○	

ドリーロー	点検箇所	点検内容	点検整備時期 1月	3月	12月	結果
	ターン・テーブル	作動状態			○	○	
		亀裂、損傷及び変形			○	○	
		取付ボルトの緩み			○	○	
		ターン・テーブル・ピンの摩耗、変形			○	○	
		ストッパ・ピンの摩耗、変形			○	○	
	アンチ・ジャック・ナイフ装置	作動状態			○	○	
		配管のエア及びオイル漏れ			○	○	
		ディスク・プレートの汚れ			○	○	
		オイル・リザーバ・タンクの液量			○	○	
		ブースタの機能				○	
		ブレーキ・ライニングの摩耗			○	○	
		ブレーキ・ヘッドの機能				○	
	ドローバ	作動状態			○	○	
		フレームの亀裂、損傷及び変形			○	○	
		ドローバ・ピン・ナットの緩み				○	
		ドローバ・ピン・ブッシュの摩耗			○	○	
	ドローバ・サポート	作動状態			○	○	
		サポート・スプリングの損傷			○	○	
		ドローバ・ストッパ・ピンの摩耗、変形			○	○	
		スイング・ガイド・ピンの摩耗、変形			○	○	

その他必要となった点検・整備の内容

車枠及び車体
※スペア・タイヤ取付装置の緩み、がた及び損傷
※スペア・タイヤの取付状態
※ツール・ボックスの取付部の緩み及び損傷

交換部品等	数量

この記録簿は携行保存して下さい

使用者用

メンテナンスに関するアドバイス

点検又は分解整備時の総走行距離　　km

タイヤの残溝1.6mm以上				
	前輪	左	右	mm
	後輪	左	右	mm
ライニングの残厚	前輪	左	右	mm
	後輪	左	右	mm

点検年月日　　年　月　日
整備完了年月日　　年　月　日
整備主任者　　印

分解整備事業者の氏名又は名称及び所在地

(認証又は指定番号)

(注)タイヤの残溝、ライニングの残厚は最摩耗箇所の数値

連結時のトラクター型式

※車両総重量８トン以上の被牽引自動車に限る
▲：セミトレーラは不要
注１：走行距離が３カ月あたり2,000km未満の場合には省略できる項目（２回連続しての省略は出来ない）
注２：シビアコンディションの判定例は記録簿の見開きに示す
注３：長年使用し続けたとは、使用開始から５年以上経過したことを言う

2013 年度版，2016 年度版(R13 補足及びスペアタイヤキャリア補足)

分解整備記録簿〔2013年度版：2013年4月以降の新型自動車に適用〕(含R13適用車)

(自動車 点検 分解 整備記録簿)
(点検整備記録簿写)

□ ヵ月定期点検整備
(□ に1又は3又は12と記入して使用する)

被牽引自動車用

事業用等

記号
●、★：法定項目（★は距離項目：注1）
○：メーカー指定項目
◇：シビアコンディション項目（注2）
△：5年以上使用し続けた被牽引自動車の項目
□：10年以上使用し続けた被牽引自動車の項目

区分及び記号

良	レ	交換	×
分解	○	修理	△
調整	A	清掃	C
締付	T	給油	L

依頼者（使用者）の氏名又は名称　　様
住所

自動車登録番号
初度登録年(省略する場合は／を記入)
車名及び型式(省略する場合は／を記入)
車台番号(自動車登録番号のない自動車のみ記載)(記載しない場合は／を記入)

被牽引自動車用・別表4

点検箇所	点検内容	点検整備時期 1月	3月	12月	結果
制動装置 ブレーキ・ペダル	ブレーキの効き具合		●	●	
駐車ブレーキ機構	引きしろ	◇	●	●	
	ブレーキの効き具合		●	●	
	ねじ部の摩耗及び損傷		○	○	
	駐車ブレーキ・バルブの排気口からの排気音の状態		○	○	
ホース及びパイプ	漏れ、損傷及び取付状態	◇	●	●	
ディスク・キャリパ	機能、摩耗及び損傷			○	
ブレーキ・チャンバ	ロッドのストローク	◇	●	●	
	機能		◇	●	
リレー・エマージェンシ・バルブ	機能		○	●	
	リレー・ピストン部の凝水		○	○	
			*1○		
ブレーキ・カム	摩耗		◇	●	
ブレーキ・カム・シャフト	摩耗及び損傷		◇	○	
ブレーキ・ドラム及びブレーキ・シュー	ドラムとライニングとのすき間	◇	●	●	
	シューの摺動部分及びライニングの摩耗	◇	★	★	
	ドラムの摩耗及び損傷		◇	●	
バック・プレート	バック・プレートの状態			●	
ブレーキ・ディスク及びパッド	ディスクとパッドとのすき間	◇	★	★	
	パッドの摩耗	◇	★	★	
	ディスクの摩耗及び損傷		◇	●	
分離ブレーキ	エマージェンシ・ブレーキの作動確認			○	
ロード・センシング・バルブ	取付状態		○	○	
	機能		○	○	
テスト・コネクション(R13 適用車のみ)	漏れ			○	
オートマチック・スラック・アジャスタ	機能	◇	○	○	
ABS/EBS装置(連結状態 ABS/EBS付車のみ)	警告灯の作動確認			○	
	部品の機能確認			○	
	車輪速センサの作動確認			○	
	電気配線接続部の緩み及び損傷		○	○	
	コントロール・バルブ(モジュレータ)の作動確認			○	
走行装置 アクスル	亀裂、損傷及び変形		○	○	
ホイール	タイヤの状態		★	★	
	ホイール・ナット及びホイール・ボルトの緩み	◇	●	●	
	※ホイール・ナット及びホイール・ボルトの損傷	◇	◇	●	
	リム、サイド・リング及びディスク・ホイールの損傷	◇	○	●	
	ホイール・ベアリングのがた		◇	●	

点検箇所	点検内容	点検整備時期 1月	3月	12月	結果
走行装置 ホイール	ハブ・キャップの取付状態		○	○	
	車軸のアライメント			○	
緩衝装置 リーフ・サスペンション	スプリングの損傷	◇	●	●	
	取付部及び連結部の緩み、がた及び損傷		○	●	
			*2○		
	スプリング摺動面の摩耗			○	
エア・サスペンション	エア漏れ		●	●	
	ベローズの損傷	◇	★	★	
	トレーリング・アームの損傷	◇	○	○	
	トレーリング・アーム取付ボルトの緩み		○	○	
	取付部及び連結部の緩み並びに損傷		★	★	
			*2○		
	レベリング・バルブの機能			●	
	レベリング・バルブのロッド取付部の損傷		○	○	
	プロテクション・バルブの機能			○	
	ハイト・コントロール・バルブの機能			○	
ショック・アブソーバ	油漏れ及び損傷		●	●	
	取付ボルトの緩み			○	
			*2○		
ウォーキング・ビーム・サスペンション	連結部のがた及び損傷			○	
	ブラケット取付部の緩み及び損傷		○	○	
			*2○		
電気装置 バッテリ	ターミナル部の接続状況		○	○	
電気配線	接続部の緩み及び損傷		●	●	
エア・コンプレッサ	エア・タンクの凝水		●	●	
車枠及び車体	緩み及び損傷		●	●	
	カウンタ・ウェイト取付ボルトの緩み及び損傷		○	○	
連結装置	カプラの機能及び損傷			●	
	キング・ピン及びルネット・アイの摩耗、亀裂及び損傷		○	●	
補助脚	作動状態		○	○	
	内外筒の損傷		○	○	
	取付部の緩み及び損傷			○	
	回転部及び摺動部の摩耗			○	
▲ドリー・ドローバ ターン・テーブル	作動状態		○	○	
	亀裂、損傷及び変形		○	○	
	取付ボルトの緩み		○	○	
			*2○		
アンチ・ジャック・ナイフ装置	作動状態		○	○	

点検箇所	点検内容	点検整備時期 1月	3月	12月	結果
▲ドリー・ドローバ アンチ・ジャック・ナイフ装置	配管のエア及び油漏れ		○	○	
	ディスク・プレートの汚れ		○	○	
	オイル・リザーバ・タンクの液量		○	○	
	ブースタの機能			○	
	ブレーキ・ライニングの摩耗		○	○	
	ブレーキ・ヘッドの機能			○	
ドローバ	作動状態		○	○	
	フレームの亀裂、損傷及び変形		○	○	
	ドローバ・ピン・ナットの緩み			○	
	ドローバ・ピン・ブッシュの摩耗		○	○	
ドローバ・サポート	作動状態		○	○	
	サポート・スプリングの損傷		○	○	
車軸自動昇降装置	エア漏れ		○	○	
	アーム・ゴム・クッションの摩耗		○	○	
	ベローズまたはチャンバの損傷	◇	○	○	
	取付部及び連結部の緩み並びに損傷		○	○	
			*2○		
その他	シャシ各部の給油脂状態	◇	●	●	
長期使用過程車の劣化及び損傷 アクスル	スピンドルの亀裂及び損傷			△	
	スピンドルの摩耗			◇△又は□	
ホイール	ホイール・ナット及びホイール・ボルトの損傷		△	△	
	ハブの亀裂、損傷及び変形			△	
	ハブの摩耗			◇△又は□	
車枠及び車体	錆腐食状態			□	

その他必要となった点検・整備の内容

車枠及び車体	
※スペア・タイヤ取付装置の緩み、がた及び損傷	
※スペア・タイヤの取付状態	
※ツール・ボックスの取付部の緩み及び損傷	

交換部品等	数量

メンテナンスに関するアドバイス

点検又は分解整備時の総走行距離				km
タイヤの残溝 1.6mm以上	前輪	左	右	mm
	中輪	左	右	mm
	後輪	左	右	mm
ライニングの残厚	前輪	左	右	mm
	中輪	左	右	mm
	後輪	左	右	mm

点検年月日　　年　月　日
整備完了年月日　　年　月　日
整備主任者
印

分解整備事業者の氏名又は名称及び所在地

(認証又は指定番号)

工場用

この記録簿は二年間保存して下さい

(注) タイヤの残溝、ライニングの残厚は最摩耗箇所の数値

連結時のトラクター型式

※車両総重量8トン以上の被牽引自動車のみ
▲…フルトレーラのみ
注1：走行距離が3カ月あたり2,000km未満の場合には省略できる項目（2回連続しての省略は出来ない）
注2：シビアコンディションの判定例は記録簿の見開きに示す

*1 冬期前
*2 納入後及び交換後1月

(自動車 点検 分解 整備記録簿)
□ ヵ月定期点検整備
(□ に1又は3又は12と記入して使用する)
被牽引自動車用
〔2013年度版：2013年4月以降の新型自動車に適用〕(含R13適用車)
事業用等
記号
●、★：法定項目（★は距離項目：注1）
○：メーカー指定項目
◇：シビアコンディション項目（注2）
△：5年以上使用し続けた被牽引自動車の項目
□：10年以上使用し続けた被牽引自動車の項目
区分及び記号
良 レ 交換 ×
分解 ○ 修理 △
調整 A 清掃 C
締付 T 給油 L
依頼者（使用者）の氏名又は名称　様
住所
自動車登録番号
初度登録年(省略する場合は／を記入)
車名及び型式(省略する場合は／を記入)
車台番号(自動車登録番号のない自動車のみ記載)(記載しない場合は／を記入)
被牽引自動車用・別表4

点検箇所	点検内容	点検整備時期 1月	3月	12月	結果
制動装置 ブレーキ・ペダル	ブレーキの効き具合		●	●	
駐車ブレーキ機構	引きしろ	◇	●	●	
	ブレーキの効き具合		●	●	
	ねじ部の摩耗及び損傷		○	○	
	駐車ブレーキ・バルブの排気口からの排気音の状態		○	○	
ホース及びパイプ	漏れ、損傷及び取付状態	◇	●	●	
ディスク・キャリパ	機能、摩耗及び損傷			○	
ブレーキ・チャンバ	ロッドのストローク	◇	●	●	
	機能		◇	●	
リレー・エマージェンシ・バルブ	機能		○	●	
	リレー・ピストン部の凝水		○	○	
			*1○		
ブレーキ・カム	摩耗		◇	●	
ブレーキ・カム・シャフト	摩耗及び損傷		◇	○	
ブレーキ・ドラム及びブレーキ・シュー	ドラムとライニングとのすき間	◇	●	●	
	シューの摺動部分及びライニングの摩耗	◇	★	★	
	ドラムの摩耗及び損傷		◇	●	
バック・プレート	バック・プレートの状態			●	
ブレーキ・ディスク及びパッド	ディスクとパッドとのすき間	◇	★	★	
	パッドの摩耗	◇	★	★	
	ディスクの摩耗及び損傷		◇	●	
分離ブレーキ	エマージェンシ・ブレーキの作動確認			○	
ロード・センシング・バルブ	取付状態		○	○	
	機能		○	○	
テスト・コネクション(R13 適用車のみ)	漏れ			○	
オートマチック・スラック・アジャスタ	機能	◇	○	○	
ABS/EBS装置(連結状態 ABS/EBS付車のみ)	警告灯の作動確認			○	
	部品の機能確認			○	
	車輪速センサの作動確認			○	
	電気配線接続部の緩み及び損傷		○	○	
	コントロール・バルブ(モジュレータ)の作動確認			○	
走行装置 アクスル	亀裂、損傷及び変形		○	○	
ホイール	タイヤの状態		★	★	
	ホイール・ナット及びホイール・ボルトの緩み	◇	●	●	
	※ホイール・ナット及びホイール・ボルトの損傷	◇	◇	●	
	リム、サイド・リング及びディスク・ホイールの損傷	◇	○	●	
	ホイール・ベアリングのがた		◇	●	

点検箇所	点検内容	点検整備時期 1月	3月	12月	結果
走行装置 ホイール	ハブ・キャップの取付状態		○	○	
	車軸のアライメント			○	
緩衝装置 リーフ・サスペンション	スプリングの損傷	◇	●	●	
	取付部及び連結部の緩み、がた及び損傷		○	●	
			*2○		
	スプリング摺動面の摩耗			○	
エア・サスペンション	エア漏れ		●	●	
	ベローズの損傷	◇	★	★	
	トレーリング・アームの損傷	◇	○	○	
	トレーリング・アーム取付ボルトの緩み		○	○	
	取付部及び連結部の緩み並びに損傷		★	★	
			*2○		
	レベリング・バルブの機能			●	
	レベリング・バルブのロッド取付部の損傷		○	○	
	プロテクション・バルブの機能			○	
	ハイト・コントロール・バルブの機能			○	
ショック・アブソーバ	油漏れ及び損傷		●	●	
	取付ボルトの緩み			○	
			*2○		
ウォーキング・ビーム・サスペンション	連結部のがた及び損傷			○	
	ブラケット取付部の緩み及び損傷		○	○	
			*2○		
電気装置 バッテリ	ターミナル部の接続状況		○	○	
電気配線	接続部の緩み及び損傷		●	●	
エア・コンプレッサ	エア・タンクの凝水		●	●	
車枠及び車体	緩み及び損傷		●	●	
	カウンタ・ウェイト取付ボルトの緩み及び損傷		○	○	
連結装置	カプラの機能及び損傷			●	
	キング・ピン及びルネット・アイの摩耗、亀裂及び損傷		○	●	
補助脚	作動状態		○	○	
	内外筒の損傷		○	○	
	取付部の緩み及び損傷			○	
	回転部及び摺動部の摩耗			○	
▲ドリー・ドローバ ターン・テーブル	作動状態		○	○	
	亀裂、損傷及び変形		○	○	
	取付ボルトの緩み		○	○	
			*2○		
アンチ・ジャック・ナイフ装置	作動状態		○	○	

点検箇所	点検内容	点検整備時期 1月	3月	12月	結果
▲ドリー・ドローバ アンチ・ジャック・ナイフ装置	配管のエア及び油漏れ		○	○	
	ディスク・プレートの汚れ		○	○	
	オイル・リザーバ・タンクの液量		○	○	
	ブースタの機能			○	
	ブレーキ・ライニングの摩耗		○	○	
	ブレーキ・ヘッドの機能			○	
ドローバ	作動状態		○	○	
	フレームの亀裂、損傷及び変形		○	○	
	ドローバ・ピン・ナットの緩み			○	
	ドローバ・ピン・ブッシュの摩耗		○	○	
ドローバ・サポート	作動状態		○	○	
	サポート・スプリングの損傷		○	○	
車軸自動昇降装置	エア漏れ		○	○	
	アーム・ゴム・クッションの摩耗		○	○	
	ベローズまたはチャンバの損傷	◇	○	○	
	取付部及び連結部の緩み並びに損傷		○	○	
			*2○		
その他	シャシ各部の給油脂状態	◇	●	●	
長期使用過程車の劣化及び損傷 アクスル	スピンドルの亀裂及び損傷			△	
	スピンドルの摩耗			◇△又は□	
ホイール	ホイール・ナット及びホイール・ボルトの損傷		△	△	
	ハブの亀裂、損傷及び変形			△	
	ハブの摩耗			◇△又は□	
車枠及び車体	錆腐食状態			□	

その他必要となった点検・整備の内容

車枠及び車体	
※スペア・タイヤ取付装置の緩み、がた及び損傷	
※スペア・タイヤの取付状態	
※ツール・ボックスの取付部の緩み及び損傷	

交換部品等	数量

メンテナンスに関するアドバイス

点検又は分解整備時の総走行距離				km
タイヤの残溝 1.6mm以上	前輪	左	右	mm
	中輪	左	右	mm
	後輪	左	右	mm
ライニングの残厚	前輪	左	右	mm
	中輪	左	右	mm
	後輪	左	右	mm

点検年月日　　年　月　日
整備完了年月日　　年　月　日
整備主任者
印

分解整備事業者の氏名又は名称及び所在地

(認証又は指定番号)

使用者用

この記録簿は携行保存して下さい

(注) タイヤの残溝、ライニングの残厚は最摩耗箇所の数値

連結時のトラクター型式

※車両総重量8トン以上の被牽引自動車のみ
▲…フルトレーラのみ
注1：走行距離が3カ月あたり2,000km未満の場合には省略できる項目（2回連続しての省略は出来ない）
注2：シビアコンディションの判定例は記録簿の見開きに示す

*1 冬期前
*2 納入後及び交換後1月

2018年度版（メーカー指定1月，冬季前，他）

この記録簿は三年間保存してください

[メーカー推奨点検]
[1月，冬季前，他]

分解整備記録簿
（点検整備記録簿写）

区分及び記号				依頼者（使用者）の氏名または名称		自動車登録番号	車名及び型式（省略する場合は/を記入）
良	レ	交換	×		様		
分解	○	修理	△			初度登録年（省略する場合は/を記入）	車台番号（自動車登録番号のない自動車のみ。記載しない場合は/を記入）
調整	A	清掃	C	住所			
締付	T	給油	L				

（※車両総重量8トン以上の被牽引自動車のみ）

（□）1月［シビアコンディション点検項目（シビアコンディションの判定例は見開きに表示）］

（□）時期別による点検項目

制動装置
- □ ハンドル式駐車ブレーキ：レバーの引きしろ
- □ ホース、ナイロンチューブ及びパイプ：漏れ、損傷及び取付状態
- □ ブレーキ・チャンバ：ロッドのストローク
- □ ブレーキ・ドラムとライニング（ブレーキ・ディスクとパッド）とのすき間
- □ ブレーキ・シュー：摺動部分及びブレーキ・ライニング（パッド）の摩耗
- □ オートマチック・スラック・アジャスタの機能

走行装置
- □ ホイール・ナット及びホイール・ボルトの緩み
- ※□ ホイール・ナット及びホイール・ボルトの損傷
- □ ホイール・リム、サイド・リング及びディスク・ホイールの損傷

緩衝装置
- □ リーフサスペンション（エアサスペンション）：スプリング（ベローズ）の損傷
- □ エアサスペンション：トレーリング・アームの損傷

車軸自動昇降装置
- □ ベローズまたはチャンバの損傷

その他の装置
- □ シャシ各部の給油脂状態

［納入後及び交換後1月点検］

緩衝装置ほか
- □ リーフサスペンション（エアサスペンション）取付部及び 連結部の緩み、がた及び損傷
- □ ショックアブソーバの取付ボルトの緩み
- □ ウォーキング・ビーム・サスペンションのブラケット取付部の 緩み及び損傷
- □ 車軸自動昇降装置の取付部及び連結部の緩み並びに損傷

［冬期前点検］

制動装置
- □ リレー・エマージェンシ・バルブのリレー・ピストン部の凝水

タイヤの残溝、ライニング（パッド）の残溝は最摩耗箇所の数値

点検又は分解整備時の総走行距離 km 点検年月日 年 月 日 整備完了年月日 年 月 日	タイヤの残溝 1.6mm 以上 (mm)	前輪	左	右	メンテナンスに関するアドバイス
		中輪	左	右	
その他必要になった点検・整備の内容		後輪	左	右	分解整備事業者の氏名又は名称及び所在地
	ライニング（パッド）の残溝（mm）	前輪	左	右	
交換部品		中輪	左	右	整備主任者 認証または指定番号
		後輪	左	右	
	連結時のトラクター型式				

工場用

この記録簿は携行保存してください
この記録簿は三年間保存してください

[メーカー推奨点検]
[1月，冬季前，他]

分解整備記録簿
（点検整備記録簿写）

区分及び記号				依頼者（使用者）の氏名または名称		自動車登録番号	車名及び型式（省略する場合は/を記入）
良	レ	交換	×		様		
分解	○	修理	△			初度登録年（省略する場合は/を記入）	車台番号（自動車登録番号のない自動車のみ。記載しない場合は/を記入）
調整	A	清掃	C	住所			
締付	T	給油	L				

（※車両総重量8トン以上の被牽引自動車のみ）

（□）1月［シビアコンディション点検項目（シビアコンディションの判定例は見開きに表示）］

（□）時期別による点検項目

制動装置
- □ ハンドル式駐車ブレーキ：レバーの引きしろ
- □ ホース、ナイロンチューブ及びパイプ：漏れ、損傷及び取付状態
- □ ブレーキ・チャンバ：ロッドのストローク
- □ ブレーキ・ドラムとライニング（ブレーキ・ディスクとパッド）とのすき間
- □ ブレーキ・シュー：摺動部分及びブレーキ・ライニング（パッド）の摩耗
- □ オートマチック・スラック・アジャスタの機能

走行装置
- □ ホイール・ナット及びホイール・ボルトの緩み
- ※□ ホイール・ナット及びホイール・ボルトの損傷
- □ ホイール・リム、サイド・リング及びディスク・ホイールの損傷

緩衝装置
- □ リーフサスペンション（エアサスペンション）：スプリング（ベローズ）の損傷
- □ エアサスペンション：トレーリング・アームの損傷

車軸自動昇降装置
- □ ベローズまたはチャンバの損傷

その他の装置
- □ シャシ各部の給油脂状態

［納入後及び交換後1月点検］

緩衝装置ほか
- □ リーフサスペンション（エアサスペンション）取付部及び 連結部の緩み、がた及び損傷
- □ ショックアブソーバの取付ボルトの緩み
- □ ウォーキング・ビーム・サスペンションのブラケット取付部の 緩み及び損傷
- □ 車軸自動昇降装置の取付部及び連結部の緩み並びに損傷

［冬期前点検］

制動装置
- □ リレー・エマージェンシ・バルブのリレー・ピストン部の凝水

タイヤの残溝、ライニング（パッド）の残溝は最摩耗箇所の数値

点検又は分解整備時の総走行距離 km 点検年月日 年 月 日 整備完了年月日 年 月 日	タイヤの残溝 1.6mm 以上 (mm)	前輪	左	右	メンテナンスに関するアドバイス
		中輪	左	右	
その他必要になった点検・整備の内容		後輪	左	右	分解整備事業者の氏名又は名称及び所在地
	ライニング（パッド）の残溝（mm）	前輪	左	右	
交換部品		中輪	左	右	整備主任者 認証または指定番号
		後輪	左	右	
	連結時のトラクター型式				

使用者用

2018 年度版（メーカー指定 3 月，12 月，長期使用過程）

この記録簿は三年間保存してください

[メーカー推奨点検]
[3月，12月，長期使用過程]

分解整備記録簿
（点検整備記録簿写）

区分及び記号			
良	レ	交換	×
分解	○	修理	△
調整	A	清掃	C
締付	T	給油	L

依頼者（使用者）の氏名または名称　様　住所

自動車登録番号	車名及び型式（省略する場合は/を記入）
初度登録年（省略する場合は/を記入）	車台番号（自動車登録番号のない自動車のみ。記載しない場合は/を記入）

（□）メーカー推奨点検項目　（※車両総重量8トン以上の被牽引自動車のみ）　（□＋□）3月
（□）シビアコンディション点検項目（シビアコンディションの判定例は見開きに表示）　（□＋□＋□＋□）12月

制動装置
- □ ハンドル式駐車ブレーキ：ねじ部の摩耗及び損傷
- □ スプリング式駐車ブレーキ・バルブの排気口からの排気音の状態
- □ ブレーキ・ディスク・キャリパの機能、摩耗及び損傷
- □ ブレーキ・カム・カムシャフトの摩耗及び損傷
- □ リレー・エマージェンシ・バルブの機能、リレー・ピストン部の凝水
- □ エマージェンシ・ブレーキ（分離ブレーキ）の作動確認
- □ ロード・センシング・バルブの取付状態及び機能
- □ テスト・コネクションからの漏れ（R13適用車のみ）
- □ オートマチック・スラック・アジャスタの機能
- □ ABS/EBS電気配線接続部の緩み及び損傷
- □ ABS/EBS装置、警告灯及び各部品（センサ，モジュレータ）の作動確認
- □ ブレーキ・チャンバの機能
- □ ブレーキ・カム及びカムシャフトの摩耗及び損傷
- □ ブレーキ・ドラム（ディスク）の摩耗及び損傷

走行装置
- □ アクスルの亀裂、損傷及び変形
- □ ホイール・リム、サイド・リング及びディスク・ホイールの損傷
- □ ホイール・ハブ・キャップの取付状態
- □ 車軸のアライメント
- ※□ ホイール・ナット及びホイール・ボルトの損傷
- □ ホイール・ベアリングのがた

緩衝装置
- □ リーフの取付部及び連結部とエアサスペンションのアーム及びアーム取付ボルトの緩み、がた及び損傷

緩衝装置
- □ スプリング摺動面の摩耗
- □ エアサスペンション：レベリング・バルブのロッド取付部の損傷
- □ エアサスペンション：プロテクション・バルブの機能
- □ エアサスペンション：ハイト・コントロール・バルブの機能
- □ ショックアブソーバの取付ボルトの緩み
- □ ウォーキング・ビーム・サスペンション：ブラケット取付部の 緩み及び損傷
- □ ウォーキング・ビーム・サスペンション：連結部のがた及び損傷

電気装置
- □ バッテリ：ターミナル部の接続状況

その他の装置
- □ 車両カウンタ・ウェイト取付ボルトの緩み及び損傷
- □ キング・ピンの摩耗、亀裂及び損傷
- □ 補助脚：作動状態及び内外筒の損傷
- □ 補助脚：取付部の緩み及び損傷，及び回転部・摺動部の摩耗

車軸自動昇降装置
- □ ベローズまたはチャンバのエア漏れ、摩耗及び損傷，取付部及び
- □ アーム・ゴム・クッションの摩耗　連結部の緩み並びに損傷

[長期使用過程車]△5年,□10年,◇▽：シビア5年
- □ △ アクスル・スピンドルの亀裂及び損傷
- □ □/◇△ アクスル・スピンドルの摩耗
- ※□ △ ホイール・ナット及びホイール・ボルトの損傷
- □ △ ホイール・ハブの亀裂、損傷及び変形
- □ □/◇△ ホイール・ハブの摩耗
- □ □ 車枠及び車体の錆腐食状態

タイヤの残溝、ライニング（パッド）の残溝は最摩耗箇所の数値

点検又は分解整備時の総走行距離			km	メンテナンスに関するアドバイス
点検年月日	年	月	日	
整備完了年月日	年	月	日	
その他必要になった点検・整備の内容				分解整備事業者の氏名又は名称及び所在地
交換部品				整備主任者　認証または指定番号

タイヤの残溝 1.6mm 以上（mm）			
	前輪	左	右
	中輪	左	右
	後輪	左	右
ライニング（パッド）の残溝（mm）	前輪	左	右
	中輪	左	右
	後輪	左	右
連結時のトラクター型式			

工場用

この記録簿は携行保存してください
この記録簿は三年間保存してください

[メーカー推奨点検]
[3月，12月，長期使用過程]

分解整備記録簿
（点検整備記録簿写）

区分及び記号			
良	レ	交換	×
分解	○	修理	△
調整	A	清掃	C
締付	T	給油	L

依頼者（使用者）の氏名または名称　様　住所

自動車登録番号	車名及び型式（省略する場合は/を記入）
初度登録年（省略する場合は/を記入）	車台番号（自動車登録番号のない自動車のみ。記載しない場合は/を記入）

（□）メーカー推奨点検項目　（※車両総重量8トン以上の被牽引自動車のみ）　（□＋□）3月
（□）シビアコンディション点検項目（シビアコンディションの判定例は見開きに表示）　（□＋□＋□＋□）12月

制動装置
- □ ハンドル式駐車ブレーキ：ねじ部の摩耗及び損傷
- □ スプリング式駐車ブレーキ・バルブの排気口からの排気音の状態
- □ ブレーキ・ディスク・キャリパの機能、摩耗及び損傷
- □ ブレーキ・カム・カムシャフトの摩耗及び損傷
- □ リレー・エマージェンシ・バルブの機能、リレー・ピストン部の凝水
- □ エマージェンシ・ブレーキ（分離ブレーキ）の作動確認
- □ ロード・センシング・バルブの取付状態及び機能
- □ テスト・コネクションからの漏れ（R13適用車のみ）
- □ オートマチック・スラック・アジャスタの機能
- □ ABS/EBS電気配線接続部の緩み及び損傷
- □ ABS/EBS装置、警告灯及び各部品（センサ，モジュレータ）の作動確認
- □ ブレーキ・チャンバの機能
- □ ブレーキ・カム及びカムシャフトの摩耗及び損傷
- □ ブレーキ・ドラム（ディスク）の摩耗及び損傷

走行装置
- □ アクスルの亀裂、損傷及び変形
- □ ホイール・リム、サイド・リング及びディスク・ホイールの損傷
- □ ホイール・ハブ・キャップの取付状態
- □ 車軸のアライメント
- ※□ ホイール・ナット及びホイール・ボルトの損傷
- □ ホイール・ベアリングのがた

緩衝装置
- □ リーフの取付部及び連結部とエアサスペンションのアーム及びアーム取付ボルトの緩み、がた及び損傷

緩衝装置
- □ スプリング摺動面の摩耗
- □ エアサスペンション：レベリング・バルブのロッド取付部の損傷
- □ エアサスペンション：プロテクション・バルブの機能
- □ エアサスペンション：ハイト・コントロール・バルブの機能
- □ ショックアブソーバの取付ボルトの緩み
- □ ウォーキング・ビーム・サスペンション：ブラケット取付部の 緩み及び損傷
- □ ウォーキング・ビーム・サスペンション：連結部のがた及び損傷

電気装置
- □ バッテリ：ターミナル部の接続状況

その他の装置
- □ 車両カウンタ・ウェイト取付ボルトの緩み及び損傷
- □ キング・ピンの摩耗、亀裂及び損傷
- □ 補助脚：作動状態及び内外筒の損傷
- □ 補助脚：取付部の緩み及び損傷，及び回転部・摺動部の摩耗

車軸自動昇降装置
- □ ベローズまたはチャンバのエア漏れ、摩耗及び損傷，取付部及び
- □ アーム・ゴム・クッションの摩耗　連結部の緩み並びに損傷

[長期使用過程車]△5年,□10年,◇▽：シビア5年
- □ △ アクスル・スピンドルの亀裂及び損傷
- □ □/◇△ アクスル・スピンドルの摩耗
- ※□ △ ホイール・ナット及びホイール・ボルトの損傷
- □ △ ホイール・ハブの亀裂、損傷及び変形
- □ □/◇△ ホイール・ハブの摩耗
- □ □ 車枠及び車体の錆腐食状態

タイヤの残溝、ライニング（パッド）の残溝は最摩耗箇所の数値

点検又は分解整備時の総走行距離			km	メンテナンスに関するアドバイス
点検年月日	年	月	日	
整備完了年月日	年	月	日	
その他必要になった点検・整備の内容				分解整備事業者の氏名又は名称及び所在地
交換部品				整備主任者　認証または指定番号

タイヤの残溝 1.6mm 以上（mm）			
	前輪	左	右
	中輪	左	右
	後輪	左	右
ライニング（パッド）の残溝（mm）	前輪	左	右
	中輪	左	右
	後輪	左	右
連結時のトラクター型式			

使用者用

2018 年度版(法定)

この記録簿は三年間保存してください

[法定点検]

分解整備記録簿
(点検整備記録簿写)

区分及び記号				依頼者(使用者)の氏名または名称	自動車登録番号	車名及び型式(省略する場合は/を記入)
良	レ	交換	×			
分解	○	修理	△	様	初度登録年(省略する場合は/を記入)	車台番号(自動車登録番号のない自動車のみ。記載しない場合は/を記入)
調整	A	清掃	C	住所		
締付	T	給油	L			

(□)3月
(□+□)12月

(★は距離項目、走行距離が3カ月あたり2,000km未満の場合には省略できる項目、2回連続しての省略はできない)
(※車両総重量8トン以上の被牽引自動車のみ)

制動装置
- □ ブレーキペダル:ブレーキの効き具合
- □ 駐車ブレーキ:引きしろ
- □ 駐車ブレーキ:効き具合
- □ ホース、ナイロンチューブ及びパイプ:漏れ、損傷及び取付状態
- □ ブレーキ・チャンバ:ロッドのストローク
- □ リレー・エマージェンシ・バルブ:機能
- □ ブレーキ・ドラムとブレーキ・ライニングとのすき間
- □ ブレーキ・ディスク:摩耗及び損傷
- □ ブレーキ・チャンバの機能
- □ ブレーキ・カムの摩耗
- □ ブレーキ・ドラムの摩耗及び損傷
- □ ブレーキ・ドラムのバックプレートの状態
- ★□ ブレーキ・シュー:摺動部分及びブレーキ・ライニングの摩耗
- ★□ ブレーキ・ディスクとパッドとのすき間
- ★□ ブレーキ・パッド:摩耗

走行装置
- □ ホイール・ナット及びホイール・ボルトの緩み
- ※□ ホイール・ナット及びホイール・ボルトの損傷
- □ ホイール・リム、サイド・リング及びディスク・ホイールの損傷
- □ ホイール・ベアリングのがた
- ★□ タイヤの状態

緩衝装置
- □ リーフサスペンション:スプリングの損傷
- □ リーフサスペンション:取付部及び連結部の緩み、がた及び損傷
- □ エアサスペンション:エア漏れ
- □ ショックアブソーバ:油漏れ及び損傷
- □ エアサスペンション:レベリング・バルブの機能
- ★□ エアサスペンション:ベローズの損傷
- ★□ エアサスペンション:取付部及び連結部の緩み並びに損傷

電気装置
- □ 電気配線:接続部の緩み及び損傷

車枠及び車体
- □ 車枠及び車体の緩み及び損傷
- ※□ スペア・タイヤ取付装置の緩み、がた及び損傷
- ※□ スペア・タイヤの取付状態
- ※□ ツール・ボックスの取付部の緩み及び損傷

その他の装置
- □ エア・タンクの凝水
- □ キング・ピン及びルネット・アイの摩耗、亀裂及び損傷
- □ 連結カプラの機能及び損傷
- □ シャシ各部の給油脂状態

タイヤの残溝、ライニング(パッド)の残溝は最摩耗箇所の数値

点検又は分解整備時の総走行距離 km	タイヤの残溝 1.6mm 以上 (mm)	前輪	左	右	メンテナンスに関するアドバイス
点検年月日 年 月 日		中輪	左	右	
整備完了年月日 年 月 日		後輪	左	右	分解整備事業者の氏名又は名称及び所在地
その他必要になった点検・整備の内容	ライニング(パッド)の残溝 (mm)	前輪	左	右	
		中輪	左	右	
交換部品		後輪	左	右	整備主任者 認証または指定番号
	連結時のトラクター型式				

工場用

この記録簿は携行保存してください
この記録簿は三年間保存してください

[法定点検]

分解整備記録簿
(点検整備記録簿写)

区分及び記号				依頼者(使用者)の氏名または名称	自動車登録番号	車名及び型式(省略する場合は/を記入)
良	レ	交換	×			
分解	○	修理	△	様	初度登録年(省略する場合は/を記入)	車台番号(自動車登録番号のない自動車のみ。記載しない場合は/を記入)
調整	A	清掃	C	住所		
締付	T	給油	L			

(□)3月
(□+□)12月

(★は距離項目、走行距離が3カ月あたり2,000km未満の場合には省略できる項目、2回連続しての省略はできない)
(※車両総重量8トン以上の被牽引自動車のみ)

制動装置
- □ ブレーキペダル:ブレーキの効き具合
- □ 駐車ブレーキ:引きしろ
- □ 駐車ブレーキ:効き具合
- □ ホース、ナイロンチューブ及びパイプ:漏れ、損傷及び取付状態
- □ ブレーキ・チャンバ:ロッドのストローク
- □ リレー・エマージェンシ・バルブ:機能
- □ ブレーキ・ドラムとブレーキ・ライニングとのすき間
- □ ブレーキ・ディスク:摩耗及び損傷
- □ ブレーキ・チャンバの機能
- □ ブレーキ・カムの摩耗
- □ ブレーキ・ドラムの摩耗及び損傷
- □ ブレーキ・ドラムのバックプレートの状態
- ★□ ブレーキ・シュー:摺動部分及びブレーキ・ライニングの摩耗
- ★□ ブレーキ・ディスクとパッドとのすき間
- ★□ ブレーキ・パッド:摩耗

走行装置
- □ ホイール・ナット及びホイール・ボルトの緩み
- ※□ ホイール・ナット及びホイール・ボルトの損傷
- □ ホイール・リム、サイド・リング及びディスク・ホイールの損傷
- □ ホイール・ベアリングのがた
- ★□ タイヤの状態

緩衝装置
- □ リーフサスペンション:スプリングの損傷
- □ リーフサスペンション:取付部及び連結部の緩み、がた及び損傷
- □ エアサスペンション:エア漏れ
- □ ショックアブソーバ:油漏れ及び損傷
- □ エアサスペンション:レベリング・バルブの機能
- ★□ エアサスペンション:ベローズの損傷
- ★□ エアサスペンション:取付部及び連結部の緩み並びに損傷

電気装置
- □ 電気配線:接続部の緩み及び損傷

車枠及び車体
- □ 車枠及び車体の緩み及び損傷
- ※□ スペア・タイヤ取付装置の緩み、がた及び損傷
- ※□ スペア・タイヤの取付状態
- ※□ ツール・ボックスの取付部の緩み及び損傷

その他の装置
- □ エア・タンクの凝水
- □ キング・ピン及びルネット・アイの摩耗、亀裂及び損傷
- □ 連結カプラの機能及び損傷
- □ シャシ各部の給油脂状態

タイヤの残溝、ライニング(パッド)の残溝は最摩耗箇所の数値

点検又は分解整備時の総走行距離 km	タイヤの残溝 1.6mm 以上 (mm)	前輪	左	右	メンテナンスに関するアドバイス
点検年月日 年 月 日		中輪	左	右	
整備完了年月日 年 月 日		後輪	左	右	分解整備事業者の氏名又は名称及び所在地
その他必要になった点検・整備の内容	ライニング(パッド)の残溝 (mm)	前輪	左	右	
		中輪	左	右	
交換部品		後輪	左	右	整備主任者 認証または指定番号
	連結時のトラクター型式				

使用者用

特定整備記録簿

（1／2）

この記録簿は三年間保存してください

（点検整備記録簿写）

□ カ月定期点検整備

（□に1又は3又は12と記入して使用する）

被牽引自動車用

事業用等	点検整備時期	結果区分及び記号				依頼者（使用者）の氏名又は名称	自動車登録番号	車名及び型式（省略する場合は/を記入）
	●、★：法定項目（★は距離項目：注1）	良	レ	交換	×	様		
	○、◇、△、□：メーカー指定項目	分解	○	修理	△	住所	初度登録年（省略する場合は/を記入）	車台番号（登録番号のない場合のみ、記載しない場合は/を記入）
	◇シビア・コンディション項目（注2）	調整	A	清掃	C			
	△ 5年以上使用し続けた被牽引自動車の項目	締付	T	給油	L			
	□ 10年以上使用し続けた被牽引自動車の項目	省略	P	該当なし	／			

点検整備時期 1月	3月	12月	結果	制動装置
	●	●		ブレーキ・ペダル：ブレーキの効き具合
◇	●	●		駐車ブレーキ機構：引きしろ
	●	●		駐車ブレーキ機構：ブレーキの効き具合
	○	○		駐車ブレーキ機構：ねじ部の摩耗及び損傷
	○	○		駐車ブレーキ機構：駐車ブレーキ・バルブの排気口からの排気音の状態
◇	●	●		ホース及びパイプ：漏れ、損傷及び取付状態
		○		ディスク・キャリパ：機能、摩耗及び損傷
◇	●	●		ブレーキ・チャンバ：ロッドのストローク
	◇	●		ブレーキ・チャンバ：機能
	○	●		リレー・エマージェンシ・バルブ：機能
	○	○		リレー・エマージェンシ・バルブ：リレー・ピストン部の凝水
	◇	●		ブレーキ・カム：摩耗
	◇	○		ブレーキ・カム・シャフト：摩耗及び損傷
◇	●	●		ブレーキ・ドラム及びブレーキ・シュー：ドラムとライニングとのすき間
◇	★	★		ブレーキ・ドラム及びブレーキ・シュー：シューの摺動部分及びライニングの摩耗
	◇	●		ブレーキ・ドラム及びブレーキ・シュー：ドラムの摩耗及び損傷
		●		バック・プレート：バック・プレートの状態
◇	★	★		ブレーキ・ディスク及びパッド：ディスクとパッドとのすき間
◇	★	★		ブレーキ・ディスク及びパッド：パッドの摩耗
	◇	●		ブレーキ・ディスク及びパッド：ディスクの摩耗及び損傷
		○		分離ブレーキ：エマージェンシ・ブレーキの作動確認
	○	○		ロード・センシング・バルブ：取付状態
	○	○		ロード・センシング・バルブ：機能
		○		テスト・コネクション（R13適用車のみ）：漏れ
◇	○	○		オートマチック・スラック・アジャスタ：機能
		○		ABS/EBS装置：警告灯の作動確認
		○		ABS/EBS装置：部品の機能確認
		○		ABS/EBS装置：車輪速センサの作動確認
	○	○		ABS/EBS装置：電気配線接続部の緩み及び損傷
		○		ABS/EBS装置：コントロール・バルブ(モジュレータ)の作動確認

点検整備時期 1月	3月	12月	結果	走行装置
	○	○		アクスル：亀裂、損傷及び変形
	★	★		ホイール：タイヤの状態
◇	●	●		ホイール：ホイール・ナット及びホイール・ボルトの緩み
◇	◇	●		ホイール：※ホイール・ナット及びホイール・ボルトの損傷
◇	○	●		ホイール：リム、サイド・リング及びディスク・ホイールの損傷
	◇	●		ホイール：ホイール・ベアリングのがた
	○	○		ホイール：ハブ・キャップの取付状態
		○		ホイール：車軸のアライメント
				緩衝装置
◇	●	●		リーフ・サスペンション：スプリングの損傷
	○	●		リーフ・サスペンション：取付部及び連結部の緩み、がた及び損傷
		○		リーフ・サスペンション：スプリング摺動面の摩耗
	●	●		エア・サスペンション：エア漏れ
◇	★	★		エア・サスペンション：ベローズの損傷
◇	○	○		エア・サスペンション：トレーリング・アームの損傷
	○	○		エア・サスペンション：トレーリング・アーム取付ボルトの緩み
	★	★		エア・サスペンション：取付部及び連結部の緩み並びに損傷
		●		エア・サスペンション：レベリング・バルブの機能
	○	○		エア・サスペンション：レベリング・バルブのロッド取付部の損傷
		○		エア・サスペンション：プロテクション・バルブの機能
		○		エア・サスペンション：ハイト・コントロール・バルブの機能
	●	●		ショック・アブソーバ：油漏れ及び損傷
		○		ショック・アブソーバ：取付ボルトの緩み
		○		ウォーキング・ビーム・サスペンション：連結部のがた及び損傷
	○	○		ウォーキング・ビーム・サスペンション：ブラケット取付部の緩み及び損傷

※車両総重量8トン以上の被牽引自動車のみ

注1：走行距離が3カ月あたり2,000㎞未満の場合には省略できる項目
（2回連続しての省略は出来ない）

注2：シビア・コンディションの判定例は記録簿の見開きに示す

工場控

特定整備記録簿

この記録簿は携行保存してください
この記録簿は三年間保存してください （1／2）

（点検整備記録簿写）

□ カ月定期点検整備

（□に1又は3又は12と記入して使用する）

被牽引自動車用

事業用等	点検整備時期	結果区分及び記号				依頼者（使用者）の氏名又は名称	自動車登録番号	車名及び型式（省略する場合は/を記入）
	●、★：法定項目（★は距離項目：注1）	良	レ	交換	×	様		
	○、◇、△、□：メーカー指定項目	分解	○	修理	△	住所	初度登録年（省略する場合は/を記入）	車台番号（登録番号のない場合のみ、記載しない場合は/を記入）
	◇シビア・コンディション項目（注2）	調整	A	清掃	C			
	△ 5年以上使用し続けた被牽引自動車の項目	締付	T	給油	L			
	□ 10年以上使用し続けた被牽引自動車の項目	省略	P	該当なし	／			

点検整備時期 1月	3月	12月	結果	制動装置
	●	●		ブレーキ・ペダル：ブレーキの効き具合
◇	●	●		駐車ブレーキ機構：引きしろ
	●	●		駐車ブレーキ機構：ブレーキの効き具合
	○	○		駐車ブレーキ機構：ねじ部の摩耗及び損傷
	○	○		駐車ブレーキ機構：駐車ブレーキ・バルブの排気口からの排気音の状態
◇	●	●		ホース及びパイプ：漏れ、損傷及び取付状態
		○		ディスク・キャリパ：機能、摩耗及び損傷
◇	●	●		ブレーキ・チャンバ：ロッドのストローク
	◇	●		ブレーキ・チャンバ：機能
	○	●		リレー・エマージェンシ・バルブ：機能
	○	○		リレー・エマージェンシ・バルブ：リレー・ピストン部の凝水
	◇	●		ブレーキ・カム：摩耗
	◇	○		ブレーキ・カム・シャフト：摩耗及び損傷
◇	●	●		ブレーキ・ドラム及びブレーキ・シュー：ドラムとライニングとのすき間
◇	★	★		ブレーキ・ドラム及びブレーキ・シュー：シューの摺動部分及びライニングの摩耗
	◇	●		ブレーキ・ドラム及びブレーキ・シュー：ドラムの摩耗及び損傷
		●		バック・プレート：バック・プレートの状態
◇	★	★		ブレーキ・ディスク及びパッド：ディスクとパッドとのすき間
◇	★	★		ブレーキ・ディスク及びパッド：パッドの摩耗
	◇	●		ブレーキ・ディスク及びパッド：ディスクの摩耗及び損傷
		○		分離ブレーキ：エマージェンシ・ブレーキの作動確認
	○	○		ロード・センシング・バルブ：取付状態
	○	○		ロード・センシング・バルブ：機能
		○		テスト・コネクション（R13適用車のみ）：漏れ
◇	○	○		オートマチック・スラック・アジャスタ：機能
		○		ABS/EBS装置：警告灯の作動確認
		○		ABS/EBS装置：部品の機能確認
		○		ABS/EBS装置：車輪速センサの作動確認
	○	○		ABS/EBS装置：電気配線接続部の緩み及び損傷
		○		ABS/EBS装置：コントロール・バルブ(モジュレータ)の作動確認

点検整備時期 1月	3月	12月	結果	走行装置
	○	○		アクスル：亀裂、損傷及び変形
	★	★		ホイール：タイヤの状態
◇	●	●		ホイール：ホイール・ナット及びホイール・ボルトの緩み
◇	◇	●		ホイール：※ホイール・ナット及びホイール・ボルトの損傷
◇	○	●		ホイール：リム、サイド・リング及びディスク・ホイールの損傷
	◇	●		ホイール：ホイール・ベアリングのがた
	○	○		ホイール：ハブ・キャップの取付状態
		○		ホイール：車軸のアライメント
				緩衝装置
◇	●	●		リーフ・サスペンション：スプリングの損傷
	○	●		リーフ・サスペンション：取付部及び連結部の緩み、がた及び損傷
		○		リーフ・サスペンション：スプリング摺動面の摩耗
	●	●		エア・サスペンション：エア漏れ
◇	★	★		エア・サスペンション：ベローズの損傷
◇	○	○		エア・サスペンション：トレーリング・アームの損傷
	○	○		エア・サスペンション：トレーリング・アーム取付ボルトの緩み
	★	★		エア・サスペンション：取付部及び連結部の緩み並びに損傷
		●		エア・サスペンション：レベリング・バルブの機能
	○	○		エア・サスペンション：レベリング・バルブのロッド取付部の損傷
		○		エア・サスペンション：プロテクション・バルブの機能
		○		エア・サスペンション：ハイト・コントロール・バルブの機能
	●	●		ショック・アブソーバ：油漏れ及び損傷
		○		ショック・アブソーバ：取付ボルトの緩み
		○		ウォーキング・ビーム・サスペンション：連結部のがた及び損傷
	○	○		ウォーキング・ビーム・サスペンション：ブラケット取付部の緩み及び損傷

※車両総重量8トン以上の被牽引自動車のみ

注1：走行距離が3カ月あたり2,000㎞未満の場合には省略できる項目
（2回連続しての省略は出来ない）

注2：シビア・コンディションの判定例は記録簿の見開きに示す

お客様控

（2／2）

この記録簿は三年間保存してください

工場控

点検整備時期 1月	3月	12月	結果	
				電気装置
	○	○		バッテリ：ターミナル部の接続状態
	●	●		電気配線：接続部の緩み及び損傷
				エア・コンプレッサ
	●	●		エア・タンクの凝水
				車枠及び車体
	●	●		緩み及び損傷
	●	●		※ スペア・タイヤ取付装置の緩み、がた及び損傷
	●	●		※ スペア・タイヤの取付状態
	●	●		※ ツール・ボックスの取付部の緩み及び損傷
	○	○		カウンタ・ウェイト取付ボルトの緩み及び損傷
				連結装置
		●		カプラの機能及び損傷
	○	●		キング・ピン及びルネット・アイの摩耗、亀裂及び損傷
				補助脚
	○	○		作動状態
	○	○		内外筒の損傷
		○		取付部の緩み及び損傷
		○		回転部及び摺動部の摩耗
				車軸自動昇降装置
	○	○		エア漏れ
	○	○		アーム・ゴム・クッションの摩耗
◇	○	○		ベローズまたはチャンバの損傷
	○	○		取付部及び連結部の緩み並びに損傷
				その他
◇	●	●		シャシ各部の給油脂状態

点検整備時期 1月	3月	12月	結果	
		△		**長期使用過程車の劣化及び損傷**
		◇△又は□		アクスル：スピンドルの亀裂及び損傷
	△	△		アクスル：スピンドルの摩耗
		△		ホイール：※ホイール・ナット及びホイール・ボルトの損傷
		◇△又は□		ホイール：ハブの亀裂、損傷及び変形
		□		ホイール：ハブの摩耗
				車枠及び車体：錆腐食状態
				ドーリ・ドローバ（フル・トレーラのみ）
	○	○		ターン・テーブル：作動状態
	○	○		ターン・テーブル：亀裂、損傷及び変形
	○	○		ターン・テーブル：取付ボルトの緩み
	○	○		アンチ・ジャック・ナイフ装置：作動状態
	○	○		アンチ・ジャック・ナイフ装置：配管のエア漏れ及び油漏れ
	○	○		アンチ・ジャック・ナイフ装置：ディスク・プレートの汚れ
	○	○		アンチ・ジャック・ナイフ装置：オイル・リザーバ・タンクの液量
		○		アンチ・ジャック・ナイフ装置：ブースタの機能
	○	○		アンチ・ジャック・ナイフ装置：ブレーキ・ライニングの摩耗
		○		アンチ・ジャック・ナイフ装置：ブレーキ・ヘッドの機能
	○	○		ドローバ：作動状態
	○	○		ドローバ：フレームの亀裂、損傷及び変形
		○		ドローバ：ドローバ・ピン・ナットの緩み
	○	○		ドローバ：ドローバ・ピン・ブッシュの摩耗
	○	○		ドローバ・サポート：作動状態
	○	○		ドローバ・サポート：サポート・スプリングの損傷

点検年月日	年 月 日
整備完了年月日	年 月 日
登録番号又は車台番号	
特定整備事業者の氏名又は名称及び事業場の所在地並びに認証番号	
整備主任者の氏名	

その他必要になった点検・整備の内容、交換部品等	
メンテナンスに関するアドバイス	

点検又は特定整備時の総走行距離		km
連結時のトラクター型式		

		左 外	左 内	右 外	右 内
タイヤの残溝 1.6mm以上 [mm]	前輪	外：	内：	外：	内：
	中輪	外：	内：	外：	内：
	後輪	外：	内：	外：	内：
ライニング（パッド）の残厚 [mm]	前輪	上：	下：	上：	下：
	中輪	上：	下：	上：	下：
	後輪	上：	下：	上：	下：

ライニング（パッド）の残厚は最摩耗箇所の数値

この記録簿は携行保存してください
この記録簿は三年間保存してください
（2／2）

お客様控

点検整備時期 1月 3月 12月 結果
電気装置
バッテリ：ターミナル部の接続状態
電気配線：接続部の緩み及び損傷
エア・コンプレッサ
エア・タンクの凝水
車枠及び車体
緩み及び損傷
※ スペア・タイヤ取付装置の緩み、がた及び損傷
※ スペア・タイヤの取付状態
※ ツール・ボックスの取付部の緩み及び損傷
カウンタ・ウェイト取付ボルトの緩み及び損傷
連結装置
カプラの機能及び損傷
キング・ピン及びルネット・アイの摩耗、亀裂及び損傷
補助脚
作動状態
内外筒の損傷
取付部の緩み及び損傷
回転部及び摺動部の摩耗
車軸自動昇降装置
エア漏れ
アーム・ゴム・クッションの摩耗
ベローズまたはチャンバの損傷
取付部及び連結部の緩み並びに損傷
その他
シャシ各部の給油脂状態
点検整備時期 1月 3月 12月 結果
長期使用過程車の劣化及び損傷
アクスル：スピンドルの亀裂及び損傷
アクスル：スピンドルの摩耗
ホイール：※ホイール・ナット及びホイール・ボルトの損傷
ホイール：ハブの亀裂、損傷及び変形
ホイール：ハブの摩耗
車枠及び車体：錆腐食状態
ドーリ・ドローバ（フル・トレーラのみ）
ターン・テーブル：作動状態
ターン・テーブル：亀裂、損傷及び変形
ターン・テーブル：取付ボルトの緩み
アンチ・ジャック・ナイフ装置：作動状態
アンチ・ジャック・ナイフ装置：配管のエア漏れ及び油漏れ
アンチ・ジャック・ナイフ装置：ディスク・プレートの汚れ
アンチ・ジャック・ナイフ装置：オイル・リザーバ・タンクの液量
アンチ・ジャック・ナイフ装置：ブースタの機能
アンチ・ジャック・ナイフ装置：ブレーキ・ライニングの摩耗
アンチ・ジャック・ナイフ装置：ブレーキ・ヘッドの機能
ドローバ：作動状態
ドローバ：フレームの亀裂、損傷及び変形
ドローバ：ドローバ・ピン・ナットの緩み
ドローバ：ドローバ・ピン・ブッシュの摩耗
ドローバ・サポート：作動状態
ドローバ・サポート：サポート・スプリングの損傷
点検年月日 年 月 日
整備完了年月日 年 月 日
登録番号又は車台番号
特定整備事業者の氏名又は名称及び事業場の所在地並びに認証番号
整備主任者の氏名
その他必要になった点検・整備の内容、交換部品等
メンテナンスに関するアドバイス
点検又は特定整備時の総走行距離 km
連結時のトラクター型式
左 外 左 内 右 外 右 内
タイヤの残溝 1.6mm以上 [mm] 前輪 外： 内： 外： 内：
中輪 外： 内： 外： 内：
後輪 外： 内： 外： 内：
ライニング（パッド）の残厚 [mm] 前輪 上： 下： 上： 下：
中輪 上： 下： 上： 下：
後輪 上： 下： 上： 下：
ライニング（パッド）の残厚は最摩耗箇所の数値

７．定期交換部品

定期交換部品とは、トレーラメーカーがトレーラの安全を確保するうえで、走行や時間の経過に伴って摩耗・劣化する部品のうち、通常の点検ではそれらの程度の判定が困難なものや、その後の安全を確保し得る期間が予測しにくいものを対象としたものです。したがって、交換にあたっては、トレーラメーカーの指定する時期（期間、走行キロ）にしたがってください。

定期交換部品項目		交換時期 年ごと交換 単位：年	備　　考
制動装置	ﾌﾞﾚｰｷ･ﾁｬﾝﾊﾞのﾀﾞｲﾔﾌﾗﾑ及びｺﾞﾑ部品	2	
	ﾌﾞﾚｰｷ･ﾁｬﾝﾊﾞのｽﾌﾟﾘﾝｸﾞ･ﾁｬﾝﾊﾞ部	3	非分解型のみ
	ﾌﾞﾚｰｷ･ﾎｰｽ	2	
	ｴｱ･ﾌﾞﾚｰｷ･ﾎｰｽ･ｶｯﾌﾟﾘﾝｸﾞのﾊﾟｯｷﾝ類	1	
	ﾘﾚｰ･ｴﾏｰｼﾞｪﾝｼ･ﾊﾞﾙﾌﾞのｺﾞﾑ部品	1	
	ﾌﾞﾚｰｷ用機器のｺﾞﾑ部品及びﾊﾟｯｷﾝ類	1	
	ｵｰﾄﾏﾁｯｸ･ｽﾗｯｸ･ｱｼﾞｬｽﾀ	3	ｼﾋﾞｱ・ｺﾝﾃﾞｨｼｮﾝ車のみ
	ABS/EBS ｺﾝﾄﾛｰﾙ･ﾊﾞﾙﾌﾞ	5	
	ﾊｲﾄ･ｾﾝｻ	5	取付車のみ
	ｸｨｯｸ･ﾘﾘｰｽ･ﾊﾞﾙﾌﾞ	5	取付車のみ
	ﾀﾞﾌﾞﾙ･ﾁｪｯｸ･ﾊﾞﾙﾌﾞ	5	取付車のみ
	ﾊﾟｰｷﾝｸﾞ･ﾌﾞﾚｰｷ･ﾊﾞﾙﾌﾞ	5	取付車のみ
	ﾌﾟﾚｯｼｬ･ｺﾝﾄﾛｰﾙ･ﾊﾞﾙﾌﾞ	5	取付車のみ
	ﾌﾟﾛﾃｸｼｮﾝ･ﾊﾞﾙﾌﾞ	5	取付車のみ
	ﾌﾞﾚｰｷ･ｼｭｰのﾘﾀｰﾝ･ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞ	1	
	ﾃｽﾄ･ｺﾈｸｼｮﾝ	5	R13 適用車のみ
走行装置	ﾎｲｰﾙ･ﾊﾌﾞ･ﾍﾞｱﾘﾝｸﾞのｵｲﾙ･ｼｰﾙ	1	
	ﾊﾌﾞ･ｷｬｯﾌﾟ･ｼｰﾙ	1	
	ﾎｲｰﾙ･ﾊﾌﾞ･ﾍﾞｱﾘﾝｸﾞのｸﾞﾘｰｽ	1	
	ｵｲﾙ･ｼｰﾙ付きｽﾗｽﾄ･ﾜｯｼｬ	5	該当車軸のみ
緩衝装置	ﾘｰﾌ･ｻｽﾍﾟﾝｼｮﾝ車のｴｺﾗｲｻﾞのｺﾞﾑ及びﾒﾀﾙ･ﾌﾞｯｼｭ	2	ﾘｰﾌ･ｻｽﾍﾟﾝｼｮﾝ車のみ
	ﾘｰﾌ･ｻｽﾍﾟﾝｼｮﾝ車のﾗｼﾞｱｽ･ﾛｯﾄﾞのｺﾞﾑ･ﾌﾞｯｼｭ	2	
	ｴｱ･ｻｽﾍﾟﾝｼｮﾝ車のﾍﾞﾛｰｽﾞ	3	ｴｱ･ｻｽﾍﾟﾝｼｮﾝ車のみ
	ｴｱ･ｻｽﾍﾟﾝｼｮﾝ車のｱｰﾑのｺﾞﾑ･ﾌﾞｯｼｭ	2	
	ﾊｲﾄ･ｺﾝﾄﾛｰﾙ･ﾊﾞﾙﾌﾞ	5	
	ﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ･ﾊﾞﾙﾌﾞ	3	
	ｳｫｰｷﾝｸﾞ･ﾋﾞｰﾑ･ｻｽﾍﾟﾝｼｮﾝ車のｺﾞﾑ及びﾒﾀﾙ･ﾌﾞｯｼｭ	2	ｳｫｰｷﾝｸﾞ･ﾋﾞｰﾑ･ｻｽﾍﾟﾝｼｮﾝ車のみ
	ｼｮｯｸ･ｱﾌﾞｿｰﾊﾞ	3	取付車のみ
ｱﾝﾁ･ｼﾞｬｯｸ･ﾅｲﾌ装置のﾌﾞﾚｰｷ液		1	ﾌﾙ･ﾄﾚｰﾗのみ
車軸自動昇降装置	ﾘﾌﾄ･ｱｸｽﾙ･ｺﾝﾄﾛｰﾙ･ﾊﾞﾙﾌﾞ	5	取付車のみ
	ｴｱ･ﾎｰｽ	2	
	ﾍﾞﾛｰｽﾞ	3	
	ｴｱ･ﾁｬﾝﾊﾞのﾀﾞｲﾔﾌﾗﾑ及びｺﾞﾑ部品	2	
	ﾁｬｰｼﾞﾝｸﾞ･ﾊﾞﾙﾌﾞ	5	
	ﾘﾐｯﾃｨﾝｸﾞ･ﾊﾞﾙﾌﾞ	5	

＊具体的な交換部品、交換時期については、各トレーラメーカー発行の取扱説明書等にしたがってください。

８．激しい使われ方をした場合（シビア・コンディション）

走行距離が多い場合や未舗装路での運行が多い場合など、厳しい条件で使用（シビア・コンディション）された車両について、法定点検項目に加え、定期的に点検すべき項目をトレーラメーカーが指定しています。

車の使い方や、通常走行している道路状況などをユーザーから聞き取りをする、又は、ハブオドメーター、トラクターの走行距離計や日報などにより、走行距離の確認を行い、シビア・コンディションかどうかを判定してください。

シビア・コンディションに該当する車両についてはトレーラメーカーの指定にしたがって点検整備を行ってください。

(1) シビア・コンディションの判定

悪路 （凸凹路、砂利道、雪道、未舗装道路など）	走行距離の 30%以上が次の条件に該当する場合 ・運転者が体に衝撃（突き上げ感）を感じる荒れた路面 ・車体が左右に振られる荒れた路面
走行距離が多い	事業用自動車 ・10,000 ㎞以上／1 ヶ月、走行する場合
山道、登り降りの頻繁な走行	走行距離の 30%以上が次の条件に該当する場合 ・登り下りの走行が多く、ブレーキの使用回数が多い場合 ・車体が左右に振られる多い場合
牽引自動車の駐車ブレーキの多用	渋滞、荷役待ち等で駐停車の回数が多く、牽引自動車の駐車ブレーキを多用（20 回／日前後）する場合

（注）詳細は、トレーラメーカーの取扱説明書等の指定にしたがってください。

(2) シビア・コンディション点検の設定　－点検項目の例－

定期点検項目のうち、シビア・コンディションにより、車両への負担度合が大きく影響するものを、トレーラメーカーの指定する時期に繰り上げて実施します。日常点検に繰り上げる項目を以下の①に、1 月ごとに繰り上げる項目を以下の②に、3 月ごとに繰り上げる項目を以下の③に示します。また、長期使用過程車においては、通常 10 年以上経過した時点で点検する項目を、5 年以上経過の時点に繰り上げて行う項目を以下の④に示します。

【記号の意味】

●及び★印：法定項目

★印：距離項目

自動車検査証の交付を受けた日、又は当該点検を行った日以降の走行距離が 3 月当たり 2 千ｷﾛﾒｰﾄﾙ以下の自動車については、前回の当該点検を行うべきこととされる時期に、当該点検を行わなかった場合を除き、行わないことができる項目を示す。

○及び◇印：ﾒｰｶｰ指定項目

◇印：ｼﾋﾞｱ・ｺﾝﾃﾞｨｼｮﾝ項目（本書 20 頁参照）のいずれかに該当する場合に点検すべき項目を示す

◇△印：ｼﾋﾞｱ・ｺﾝﾃﾞｨｼｮﾝ項目（本書 20 頁参照）に該当する、使用開始から 5 年以上経過した被牽引自動車の場合に点検する項目を示す。

①シビア・コンディションの場合に日常点検に繰り上げる点検項目

点検項目			日常点検	備考
点検箇所		点検内容		
装置走行	ﾎｲｰﾙ	ﾎｲｰﾙ・ﾅｯﾄ及びﾎｲｰﾙ・ﾎﾞﾙﾄの緩み	◇	
装置緩衝	ｴｱ・ｻｽﾍﾟﾝｼｮﾝ	ｴｱ漏れ	◇	ｴｱ・ｻｽﾍﾟﾝｼｮﾝ車のみ 連結状態
車軸自動昇降装置		ｴｱ漏れ	◇	車軸自動昇降装置 取付車のみ

②シビア・コンディションの場合に１ヶ月ごとの点検に繰り上げる点検項目

点検項目			点検時期 被牽引自動車			備考
点検箇所		点検内容	1月ごと	3月ごと	12月ごと	
制動装置	駐車ﾌﾞﾚｰｷ機構	引きしろ	◇	●	●	
	ﾎｰｽ及びﾊﾟｲﾌﾟ	漏れ、損傷及び取付状態	◇	●	●	連結状態 ﾅｲﾛﾝ・ﾁｭｰﾌﾞを含む
	ﾌﾞﾚｰｷ・ﾁｬﾝﾊﾞ	ﾛｯﾄﾞのｽﾄﾛｰｸ	◇	●	●	連結状態
	ﾌﾞﾚｰｷ・ﾄﾞﾗﾑ及びﾌﾞﾚｰｷ・ｼｭｰ	ﾄﾞﾗﾑとﾗｲﾆﾝｸﾞのすき間	◇	●	●	ﾄﾞﾗﾑ･ﾌﾞﾚｰｷ車のみ
		ｼｭｰの摺動部分及びﾗｲﾆﾝｸﾞの摩耗	◇	★	★	
	ﾌﾞﾚｰｷ・ﾃﾞｨｽｸ及びﾊﾟｯﾄﾞ	ﾃﾞｨｽｸとﾊﾟｯﾄﾞとのすき間	◇	★	★	ﾃﾞｨｽｸ･ﾌﾞﾚｰｷ車のみ
		ﾊﾟｯﾄﾞの摩耗	◇	★	★	
	ｵｰﾄﾏﾁｯｸ・ｽﾗｯｸ・ｱｼﾞｬｽﾀ	機能	◇	○	○	自動調整式車のみ
走行装置	ﾎｲｰﾙ	ﾎｲｰﾙ・ﾅｯﾄ及びﾎｲｰﾙ･ﾎﾞﾙﾄの緩み	◇	●	●	
		ﾎｲｰﾙ・ﾅｯﾄ及びﾎｲｰﾙ･ﾎﾞﾙﾄの損傷	◇	◇	●	車両総重量 8 ﾄﾝ以上の被牽引自動車のみ
		ﾘﾑ､ｻｲﾄﾞ・ﾘﾝｸﾞ及びﾃﾞｨｽｸ･ﾎｲｰﾙの損傷	◇	○	●	
緩衝装置	ﾘｰﾌ･ｻｽﾍﾟﾝｼｮﾝ	ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞの損傷	◇	●	●	
	ｴｱ･ｻｽﾍﾟﾝｼｮﾝ	ﾍﾞﾛｰｽﾞの損傷	◇	★	★	
		ﾄﾚｰﾘﾝｸﾞ・ｱｰﾑの損傷	◇	○	○	
車軸自動昇降装置		ﾍﾞﾛｰｽﾞまたはﾁｬﾝﾊﾞの損傷	◇	○	○	取付車のみ
その他		ｼｬｼ各部の給油脂状態	◇	●	●	

③シビア・コンディションの場合に３ヶ月ごとの点検に繰り上げる点検項目

点検項目			点検時期 被牽引自動車			備考
点検箇所		点検内容	1月ごと	3月ごと	12月ごと	
制動装置	ﾌﾞﾚｰｷ・ﾁｬﾝﾊﾞ	機能		◇	●	連結状態
	ﾌﾞﾚｰｷ・ｶﾑ	摩耗		◇	●	
	ﾌﾞﾚｰｷ・ｶﾑ・ｼｬﾌﾄ	摩耗及び損傷		◇	○	
制動装置	ﾌﾞﾚｰｷ･ﾄﾞﾗﾑ及びﾌﾞﾚｰｷ・ｼｭｰ	ﾄﾞﾗﾑの摩耗及び損傷		◇	●	
	ﾌﾞﾚｰｷ･ﾃﾞｨｽｸ及びﾊﾟｯﾄﾞ	ﾃﾞｨｽｸの摩耗及び損傷		◇	●	ﾃﾞｨｽｸ･ﾌﾞﾚｰｷ車のみ
走行装置	ﾎｲｰﾙ	ﾎｲｰﾙ・ﾍﾞｱﾘﾝｸﾞのがた		◇	●	

④シビア・コンディションの場合に使用開始から 5 年以上経過の時点に繰り上げる点検項目

点検項目		点検時期 被牽引自動車			備考
点検箇所	点検内容	1月ごと	3月ごと	12月ごと	
ｱｸｽﾙ	ｽﾋﾟﾝﾄﾞﾙの摩耗			◇△	
ﾎｲｰﾙ	ﾊﾌﾞの摩耗			◇△	

⑶ シビア・コンディションの場合の定期交換部品

シビア・コンディションの場合の定期交換部品については、本書 19 頁に示す“７．定期交換部品”の一覧表に記載された部品・装置などを対象とし、交換時期については通常の 1/2 程度とします。ただし、シビア・コンディション時の交換時期が明記してある場合を除きます。

＊具体的な交換部品、交換時期については、各トレーラメーカー発行の取扱説明書等にしたがってください。

９．用　語

本書の主な用語の意味は、次のとおり。

点　検：部品の摩耗、損傷、破損及び、各装置の機能などについて調べる作業、又は、測定する作業をいう。

遊　び：各機構の連結部又は接触部には潤滑、その他の目的のために製作当初から適正なクリアランスが必要量、与えられている。これらの機能上、障害とならない限度までのものをいう。

が　た：「遊び」の限度を超えてクリアランスが増大したものをいう。

へたり：ばねなどの衰損具合をいう。目視または計測により良否を判断する。

劣　化：ゴム、プラスチック製品などで、当初の柔軟性が失われ、もろくなり破損しやすい状態をいう。

トレーラ点検の実施方法

制動装置

2007 2013 2016 2018

点検箇所	ブレーキ・ペダル	点検整備時期	3月 12月	点検の分類	法定点検 法定点検
点検内容	ブレーキの効き具合	点検方法	走行点検・測定点検		

【連結状態】

1．乾燥した路面を走行してブレーキ・ペダルを踏み込んだとき、踏力に応じた制動力が得られ、進行方向にまっすぐに止まることができるかを点検する。

2．ブレーキ・テスタで点検する場合は、左右前後輪の制動力の総和及び、左右差が規定値にあるかを点検する。
※ 制動力の和は検査時車両状態の軸重の 50%以上あること。
※ 制動力の左右差は検査時車両状態の軸重の 8%以下であること。



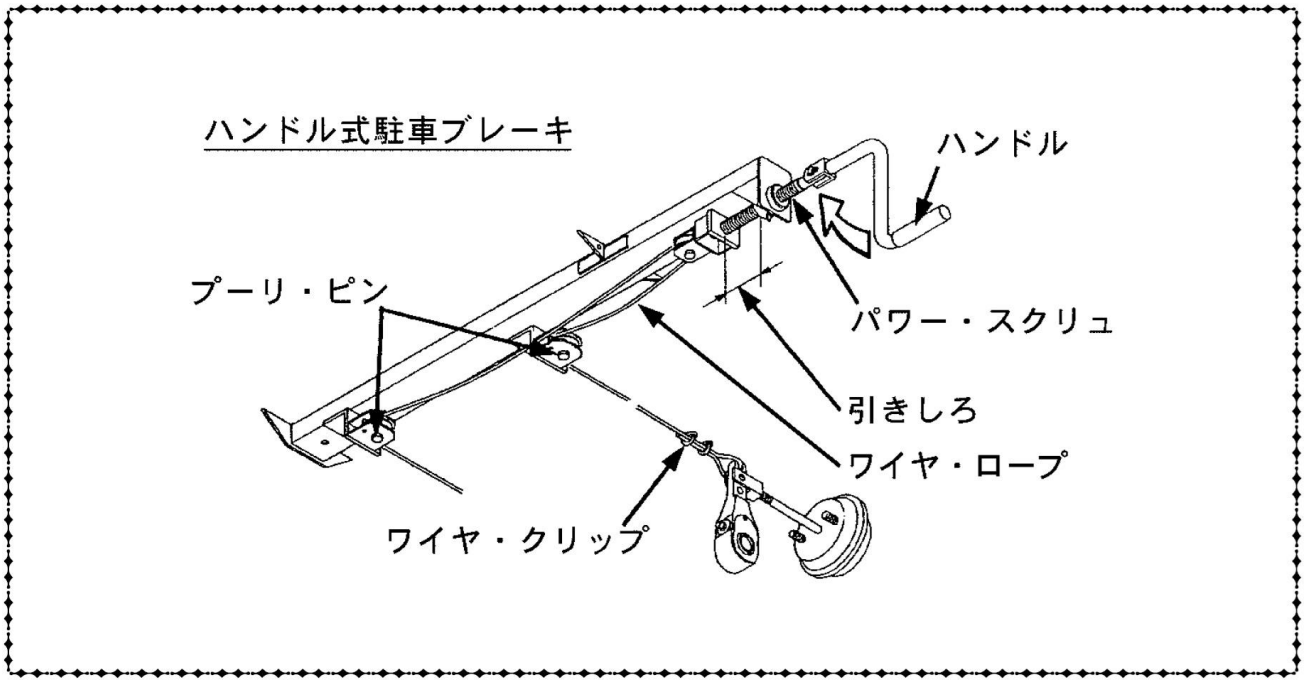
制動装置

2007	2013	2016	2018

点検箇所	駐車ブレーキ機構	点検整備時期	1月*1 3月 12月	点検の分類	メーカー指定 法定点検 法定点検
点検内容	引きしろ	点検方法	測定点検		

＊１：シビア・コンディション項目（本書 20 頁参照）

１．操作ハンドルを回して規定の力（600[N]以下）で一杯まで締めたとき、「引きしろ」が規定の範囲にあるかを点検する。また、開放時にワイヤのたるみなどが走行に支障ない状態にあるかを点検する。「引きしろ」の規定の範囲については、トレーラメーカー各社発行の「取扱説明書」を参照する。



制動装置

2007	2013	2016	2018

点検箇所	駐車ブレーキ機構	点検整備時期	3月 12月	点検の分類	法定点検 法定点検
点検内容	ブレーキの効き具合	点検方法	測定点検		

１．乾燥した急坂（5 分の 1（20%）勾配）の路面で、停止状態が保持できるかを点検する。

２．ブレーキ・テスタで制動力が規定値以上（※）あるかを点検する。
※ 制動力の総和は、検査時車両状態の重量の 20%以上あること。

制動装置

2007 2013 2016 2018

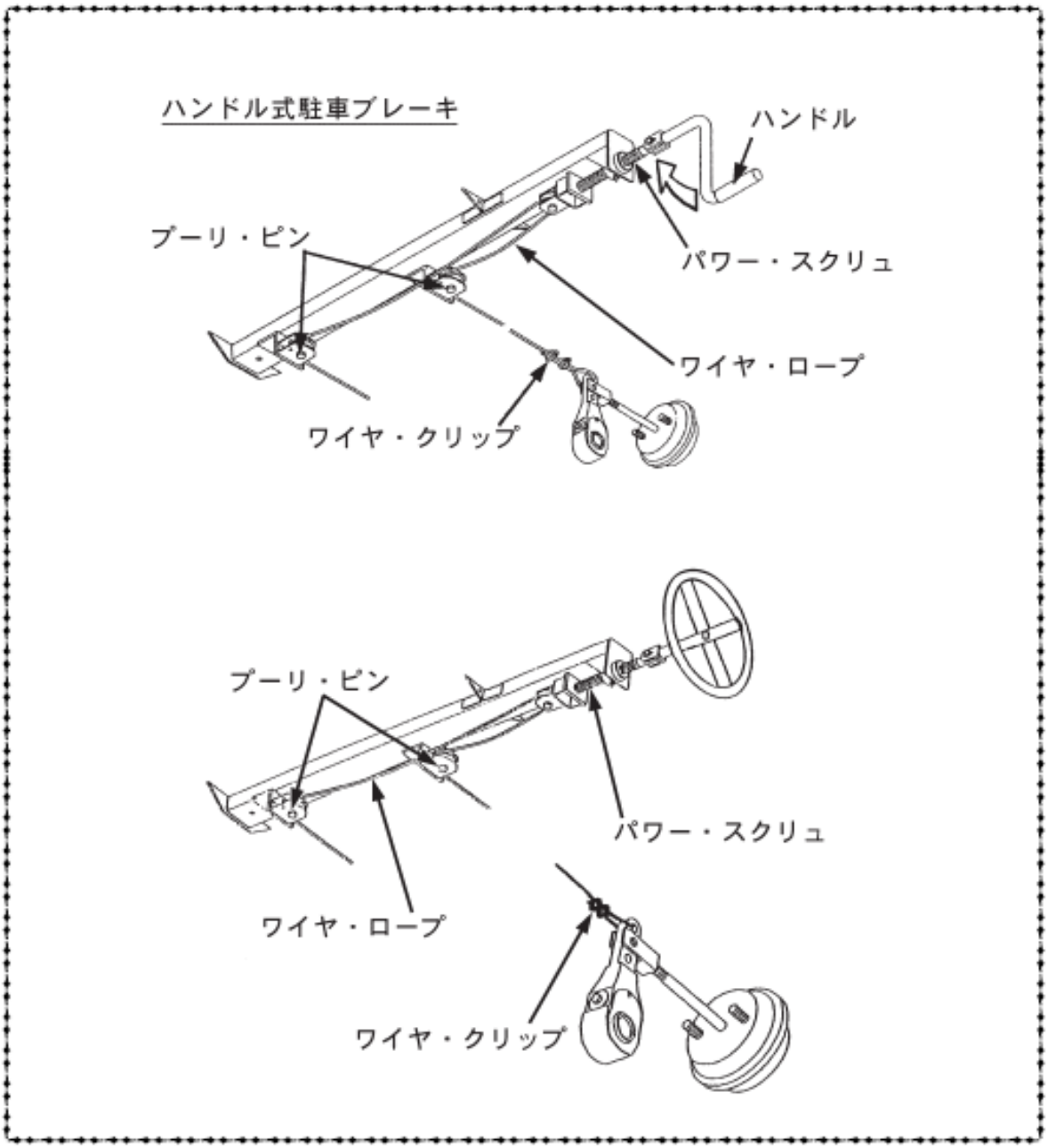
点検箇所	駐車ブレーキ機構	点検整備時期	3月 12月	点検の分類	メーカー指定 メーカー指定
点検内容	ねじ部の摩耗及び損傷	点検方法	目視点検、手工具による点検		

【ハンドル式駐車ブレーキ車のみ】

1．パワー・スクリュ部、プーリ・ピンに摩耗、損傷、錆付きがないかを、目視などにより点検する。

2．ワイヤー・ロープに摩耗、損傷、錆付きがないかを、目視などにより点検する。

3．ワイヤ・クリップの締付ボルトに緩みがないかを、スパナなどにより点検する



制動装置

2007 2013 2016 2018

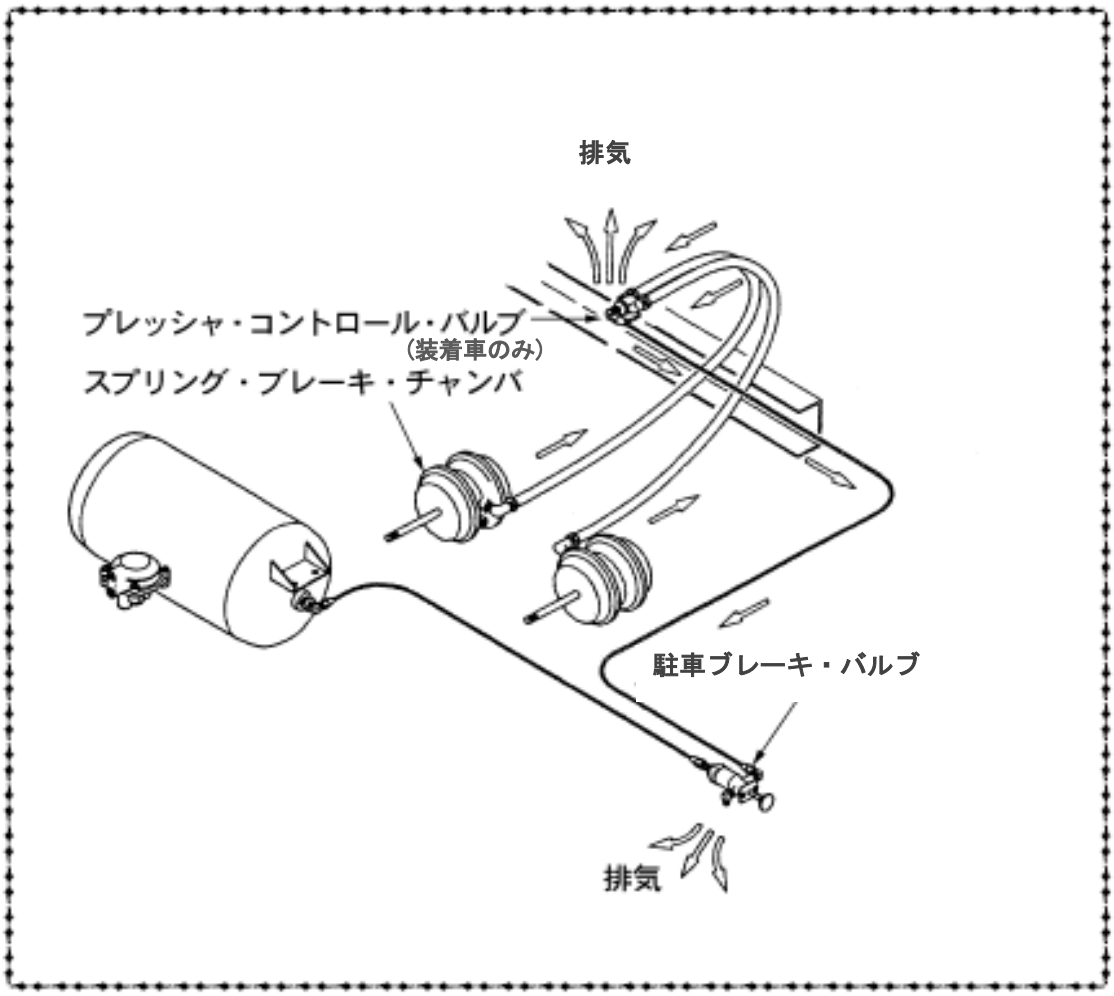
点検箇所	駐車ブレーキ機構	点検整備時期	3月 12月	点検の分類	メーカー指定 メーカー指定
点検内容	駐車ブレーキ・バルブの 排気口からの排気音の状態	点検方法	目視点検、聴覚点検		

【スプリング式駐車ブレーキ車のみ】

1．トラクタと連結し、規定の空気圧（※）の状態で駐車ブレーキ・バルブを作動側に操作したとき、トレーラのスプリング・ブレーキ・チャンバが作動し、ブレーキがかかるかを点検する。
※規定の空気圧については、トレーラメーカー各社発行の「取扱説明書」を参照

2．作動時に駐車ブレーキ・バルブからの排気音が正常であるかを点検する。

3．駐車ブレーキ・バルブを解除側に操作したとき、スプリング・ブレーキ・チャンバが元に戻り、ブレーキが解除するかを点検する。



〈ワンポイント・アドバイス〉

● トレーラのエア・タンク内圧力が規定値（※）以下では、バルブ操作で解除出来ないことがあります。
その場合には、エア・タンクに規定の空気圧（※）を充填してから点検してください。

制動装置

2007 2013 2016 2018

点検箇所	ホース及びパイプ	点検整備時期	1月*1 3月 12月	点検の分類	メーカー指定 法定点検 法定点検
点検内容	漏れ、損傷及び取付状態	点検方法	目視点検、手工具による点検		

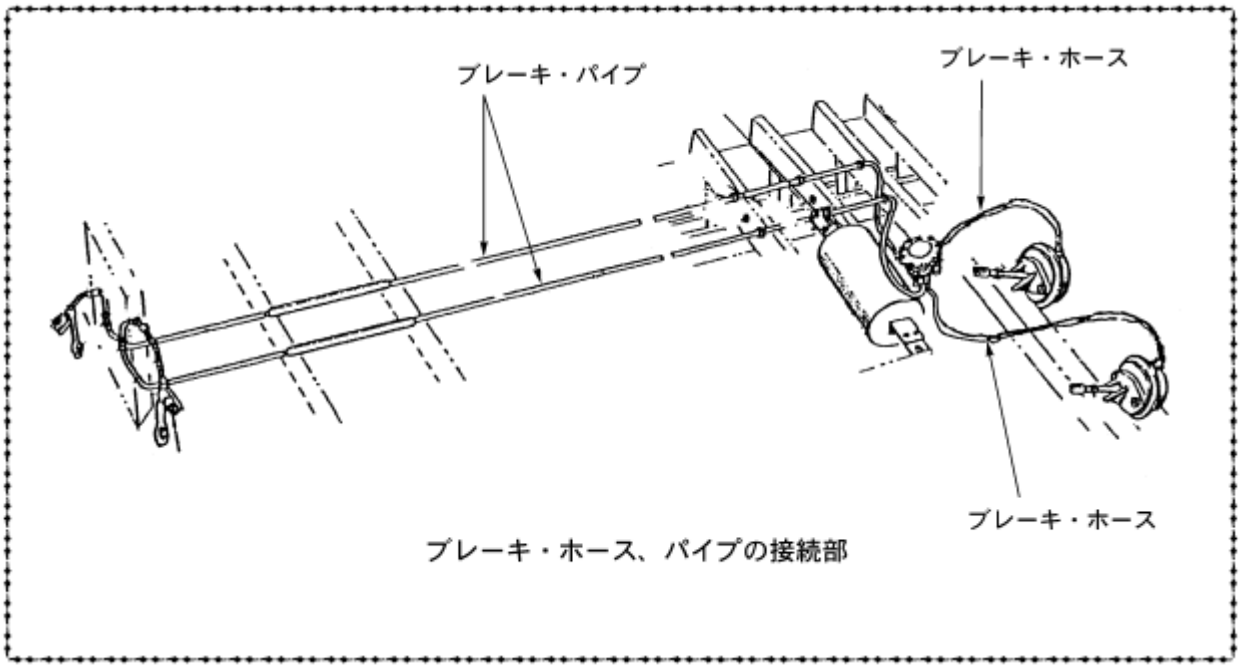
【連結状態】　　＊１：シビア・コンディション項目（本書 20 頁参照）

１．トラクタと連結し、規定の空気圧の状態で、補助者にブレーキ・ペダルを一杯に踏み込ませ、ホース及び、パイプの接続部に石けん水などを塗布し、エア漏れがないかを目視などにより点検する。又は、エンジンを始動させ、タンク内圧力が規定値に達したときエンジンを停止し、圧力計により、空気圧の保持状態からエア漏れがないかを点検する。

２．走行中の振動やハンドル操作などにより、パイプ及び、ホースが車体その他の部分と接触のおそれがないかを目視などにより点検する。

３．ホースに劣化による膨らみや亀裂及び、損傷がないかを目視などにより点検する。

４．接続部及び、クランプに緩みなどがないかを、スパナなどにより点検する。



ブレーキ・ホース、パイプの接続部

〈ワンポイント・アドバイス〉

● ブレーキ・ホースを構成しているゴムや繊維層は使用するにつれ劣化が進みます。車両によっては定期交換部品になっているので、メーカーの指定する時期に交換が必要です。

制動装置

2007 2013 2016 2018

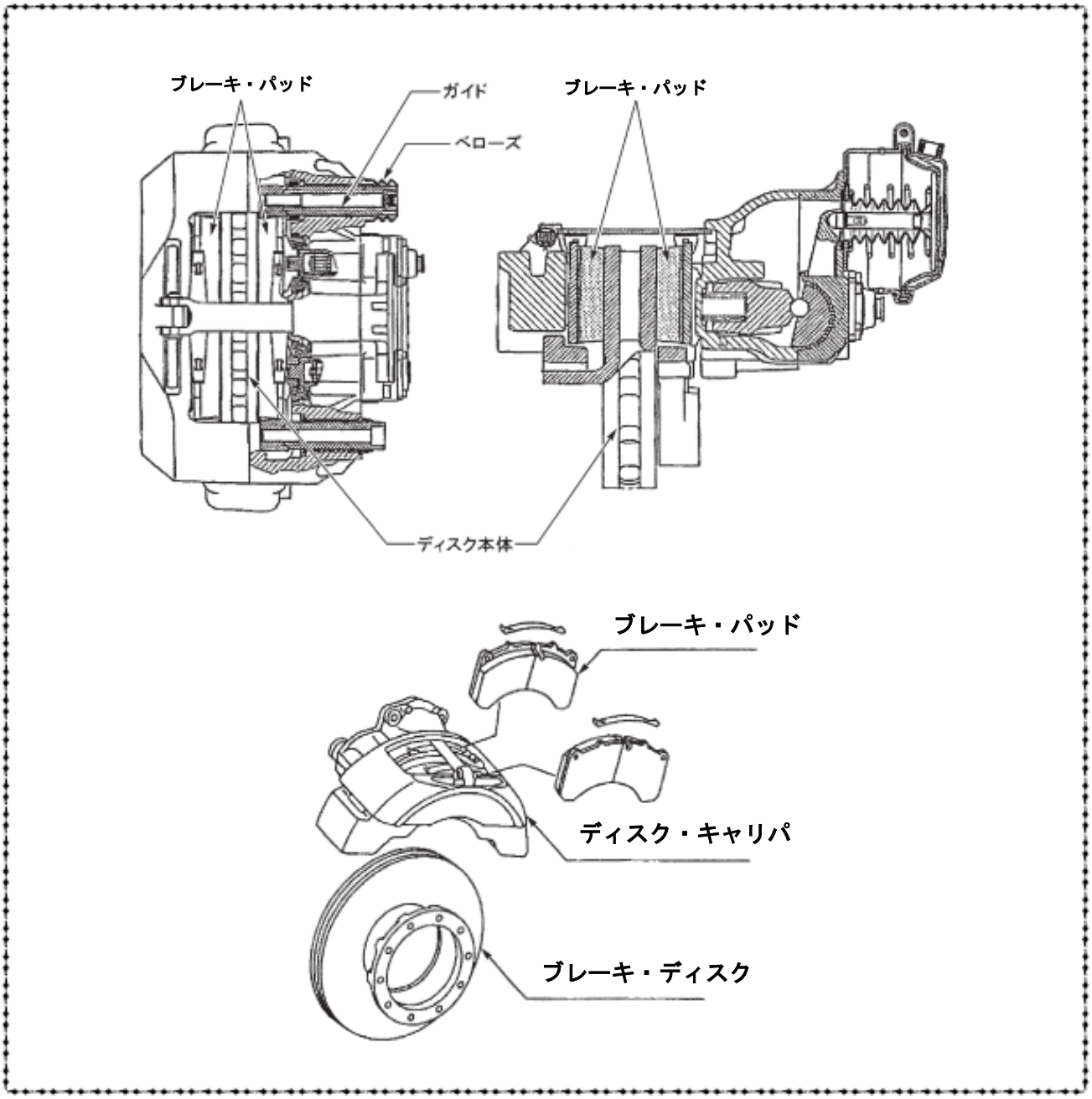
点検箇所	ディスク・キャリパ	点検整備時期	12月	点検の分類	メーカー指定
点検内容	機能、摩耗及び損傷	点検方法	目視点検、リフト・アップ点検		

【ディスク・ブレーキ車のみ】

1．リフト･アップなどの状態でホイールを取外し、ディスク･キャリパからブレーキ･パッドを取外し、ディスク・キャリパを全移動範囲にわたり手でスライドさせ、異状がないかを、目視などにより点検する。

2．ディスク・キャリパ周辺をエアガンなどで清掃し、ディスク・キャリパ取付け部と連結部に損傷がないかを、目視などにより点検する。

3．ベローズなど、ゴム製品の損傷がないかを、目視などにより点検する。



制動装置

2007	2013	2016	2018

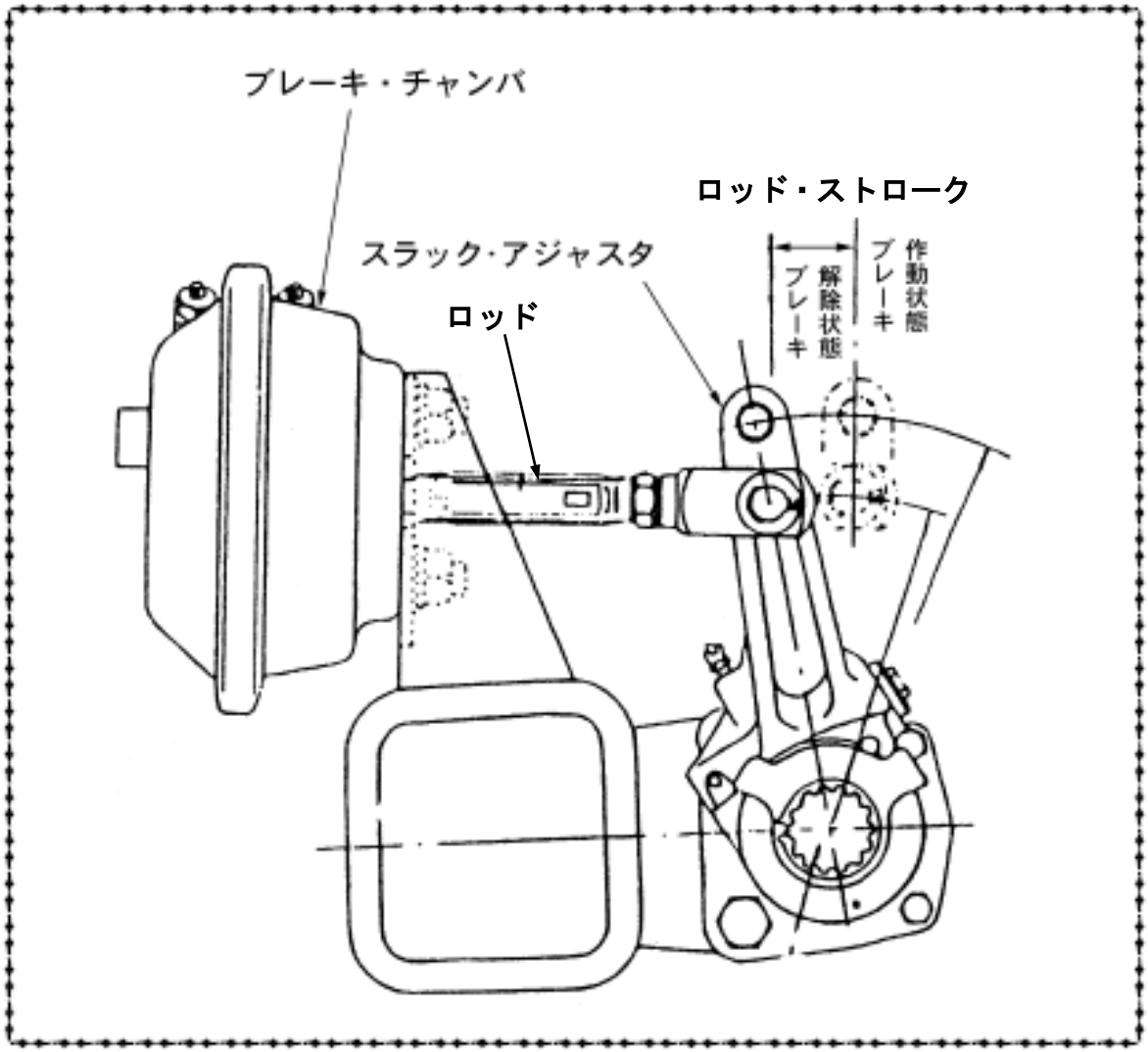
点検箇所	ブレーキ・チャンバ	点検整備時期	1月*1 3月 12月	点検の分類	メーカー指定 法定点検 法定点検
点検内容	ロッドのストローク	点検方法	測定点検		

【連結状態】

＊１：シビア・コンディション項目（本書 20 頁参照）

１．トラクタと連結し、規定の空気圧（※）の状態で補助者にブレーキ・ペダルを一杯に踏み込ませ、ロッドのストロークが規定の範囲（※）にあるかを、スケールなどにより点検する。

※規定の空気圧、規定のロッド・ストローク範囲についてはトレーラメーカー各社発行の「取扱説明書」を参照



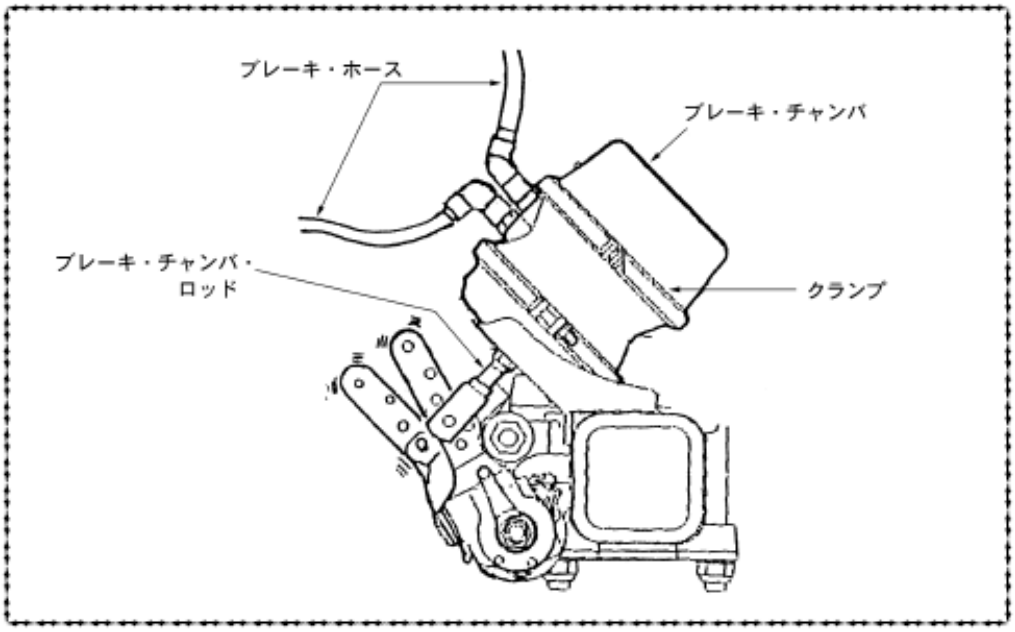
制動装置

2007 2013 2016 2018

点検箇所	ブレーキ・チャンバ	点検整備時期	3月*1 12月	点検の分類	メーカー指定 法定点検
点検内容	機能	点検方法	目視点検		

【連結状態】　　＊１：シビア・コンディション項目（本書 20 頁参照）

1．トラクタと連結し、規定の空気圧（※）の状態で補助者にブレーキ・ペダルを一杯に踏み込ませ、ブレーキ・チャンバのクランプ回りやホースの接続部に石けん水などを塗布し、エア漏れがないかを目視などにより点検する。
　※規定の空気圧については、トレーラメーカー各社発行の「取扱説明書」を参照
2．ペダルを戻したとき、ブレーキ・チャンバ・ロッドの戻りに異状がないかを、目視などにより点検する。
3．ブレーキ・チャンバを分解する場合には、ダイヤフラム、スプリング、ゴム部品などに損傷や劣化がないかを、目視などにより点検する。



〈ワンポイント・アドバイス〉

● 使用状況により、法定点検に加えてメーカー指定の点検が必要です。
ブレーキ・チャンバのダイヤフラム及び、ゴム部品やスプリング・チャンバ部は、定期交換部品になっているので、メーカーの指定する時期に交換することが必要です。

【注　意】
スプリング・ブレーキ室
（スプリング・チャンバ部）の分解禁止
スプリング・ブレーキ・チャンバにおいて、スプリング・ブレーキ室には強力なスプリングが入っています。不用意に分解すると、スプリングが飛び出し重大な事故の原因になります。



制動装置

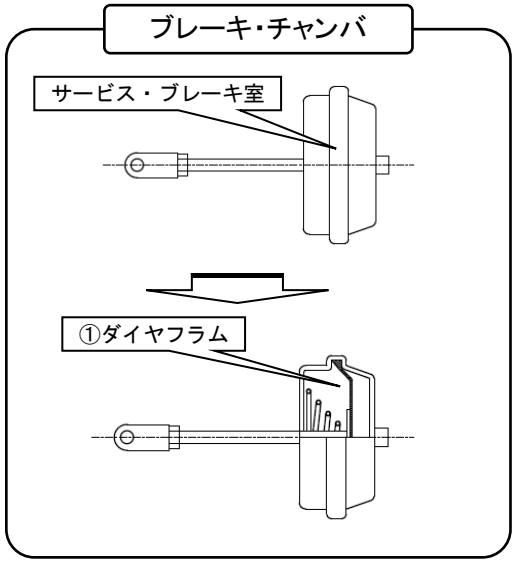
2007 2013 2016 2018

点検箇所	ブレーキ・チャンバ	点検整備時期	3月*1 12月	点検の分類	メーカー指定 法定点検
点検内容	機能	点検方法	目視点検		

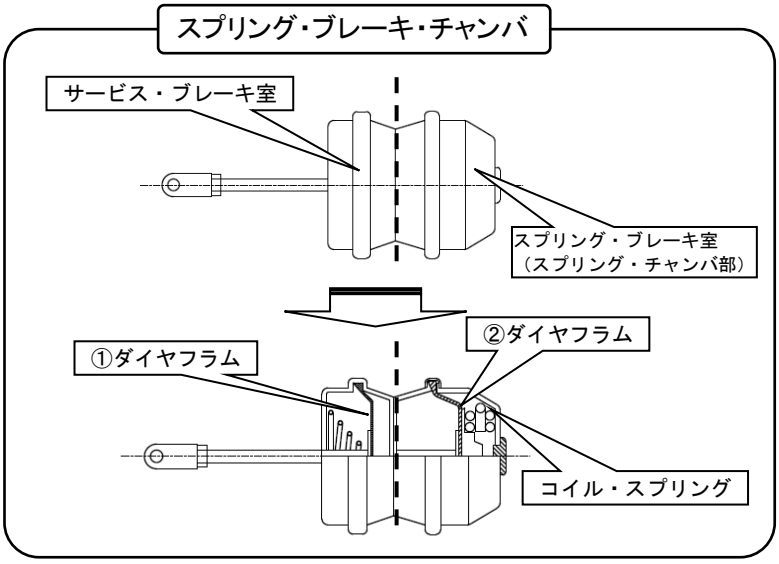
【連結状態】　　＊１：シビア・コンディション項目（本書 20 頁参照）

4．チャンバ内ダイヤフラムの定期交換
ブレーキ・チャンバやスプリング・ブレーキ・チャンバ内のダイヤフラムはゴム製品のため、経年により劣化するため、定期的な交換が必要。
ただし、スプリング・ブレーキ室（スプリング・チャンバ部）内には強力なコイル・スプリングが組み込まれており、非分解構造のため、スプリング・ブレーキ・チャンバ本体の交換が必要。
【詳しくは各メーカーの取扱説明書を参照ください】

5．ブレーキ・チャンバとスプリング・ブレーキ・チャンバのダイヤフラムの違い
1）ブレーキ・チャンバには１個のダイヤフラムがある。（ダイヤフラム交換可能）
2）スプリング・ブレーキ・チャンバはサービス・ブレーキ室とスプリング・ブレーキ室で構成されているため、２個のダイヤフラムが組み込まれている。（サービス・ブレーキ室のダイヤフラムの交換は可能だが、スプリング・ブレーキ室は非分解構造の為、ダイヤフラム単体の交換は不可）



①ダイヤフラムをメーカーが指定する時期に交換する。



①ダイヤフラムをメーカーが指定する時期に交換する。
②スプリング・ブレーキ室ダイヤフラムは非分解構造のため、スプリング・ブレーキ・チャンバ本体をメーカーが指定する時期に交換する。

〈ワンポイント・アドバイス〉

● 劣化したダイヤフラムを使用し続けるとエア漏れにより、ブレーキの機能に支障をきたすおそれがあります。
【サービス・ブレーキ室の場合】
ブレーキ力の低下により、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。
【スプリング・ブレーキ室の場合】
ブレーキの引き摺りを起こし、最悪の場合、火災に至るおそれがあります。

制動装置

2007 2013 2016 2018

点検箇所	リレー・エマージェンシ・バルブ	点検整備時期	3月 12月	点検の分類	メーカー指定 法定点検
点検内容	機能	点検方法	聴音点検、目視点検		

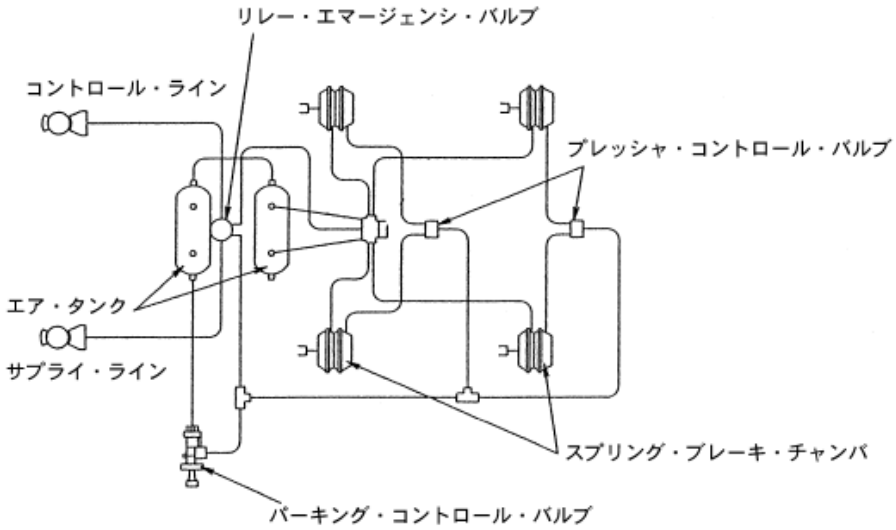
【連結状態】

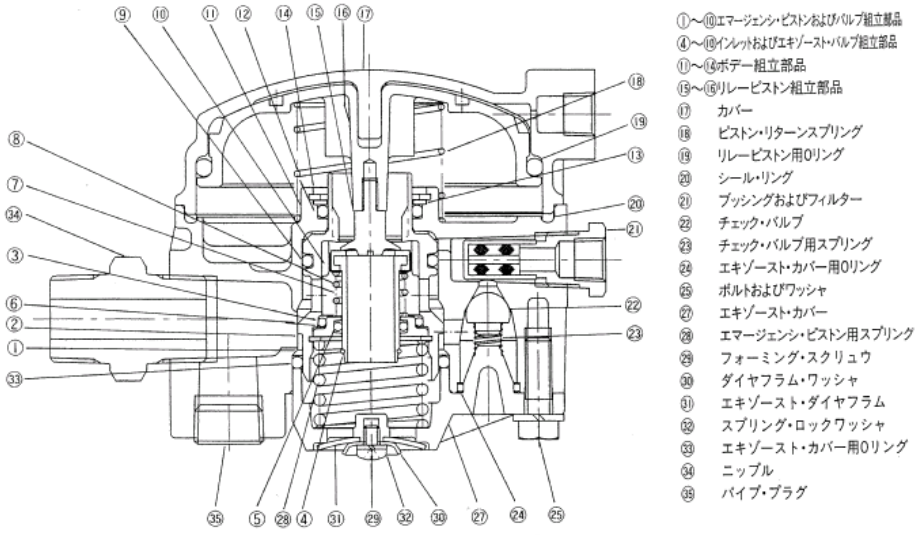
2007 年版適用車では、本点検項目に「リレー・エマージェンシ・バルブのリレー・ピストン部の凝水」の点検を含めて取り扱うことを推奨

1．トラクタと連結し、規定の空気圧（※）の状態で、補助者にブレーキ・ペダルを一杯に踏み込ませ、リレー・エマージェンシ・バルブからエア漏れがないかを、音により点検する。
また、ペダルを戻した時、バルブからのエアの排出に異状がないかを、音により点検する。

2．リレー・エマージェンシ・バルブの入口側と出口側に圧力計を取付け、トラクタと連結し、規定の空気圧（※）の状態で、補助者にブレーキ・ペダルを踏み込ませ、入口側と出口側の圧力差が規定の範囲にあるかを点検する。又は、分解してバルブ、ピストン、ダイヤフラム、スプリング、ゴム部品などに損傷、劣化がないか目視などにより点検する。

※規定の空気圧については、「トレーラメーカー各社発行の「取扱説明書」を参照





リレー・エマージェンシ・バルブの構造（Nabtesco の場合）

制動装置

2007 2013 2016 2018

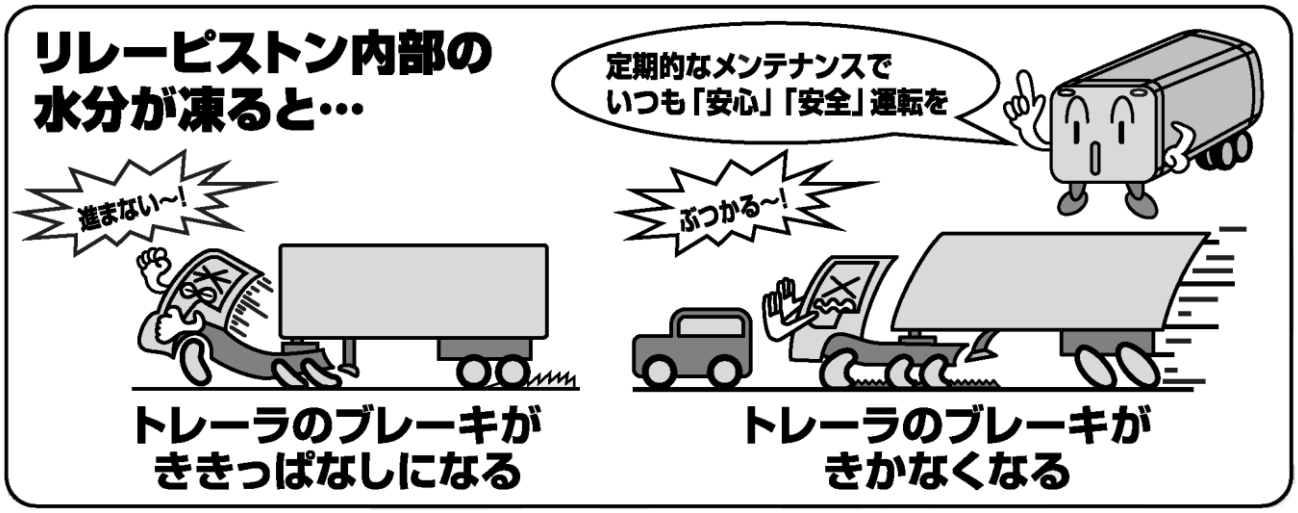
点検箇所	ﾘﾚｰ･ｴﾏｰｼﾞｪﾝｼ･ﾊﾞﾙﾌﾞ	点検整備時期	3月 12月 冬期前	点検の分類	メーカー指定 メーカー指定 メーカー指定
点検内容	リレー・ピストン部の凝水	点検方法	聴音点検、目視点検		

2007 年版適用車では、本点検項目は「リレー・エマージェンシ・バルブの機能」の点検に含めて取り扱うことを推奨

〈リレー・エマージェンシ・バルブ内部の水分除去等、清掃の必要性〉

・ブレーキ・エア系統には、エア・ドライヤを通しても多少の水分が含まれています。
冬季に気温が氷点下になる地域においては、その水分が凍結してその結果、車両のブレーキ作動不良を起こし、非常に危険な状態となります。
そのため、定期的な点検整備が必要です。

ブレーキ機器の凍結に注意！



1．コントロール・ラインのエア配管を取り外し、コントロール・ラインの水分を除去する。

2．バルブカバーの六角ボルト４本を外す。

3．バルブカバーとリレー・ピストンを、本体より取り外す。

4．バルブカバー部から、リレー・ピストンを取り外す。(Nabtesco 製のみ)
※リレー・ピストンを取り外す際、コントロールのポート部から圧縮エアを徐々に吹き込むと、簡単に外れます。

5．バルブカバー内部とリレー・ピストン部を点検し、水分および汚れがある場合は布等で清掃する。
※分解時には下記も実施してください。
○コントロール・ライン、サプライ・ラインの配管内エアブロー
○ゴム製品（Ｏリング等）の交換及び専用グリースの塗布

次頁の分解図も参照してください。

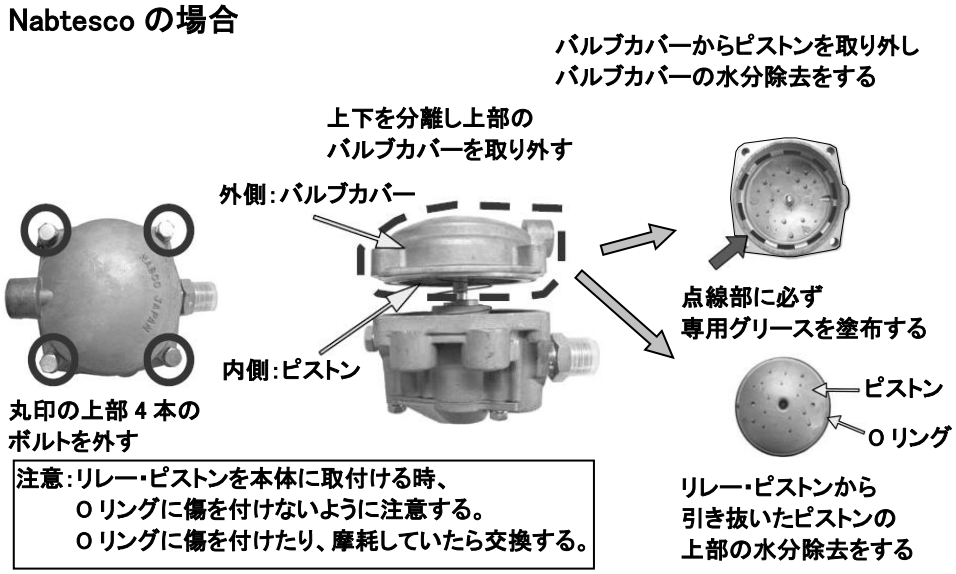
制動装置

2007 | 2013 | 2016 | 2018

点検箇所		点検整備時期		点検の分類	
	ﾘﾚｰ・ｴﾏｰｼﾞｪﾝｼ・ﾊﾞﾙﾌﾞ		3月		メーカー指定
			12月		メーカー指定
			冬期前		メーカー指定
点検内容		点検方法			
	リレー・ピストン部の凝水		聴音点検、目視点検		

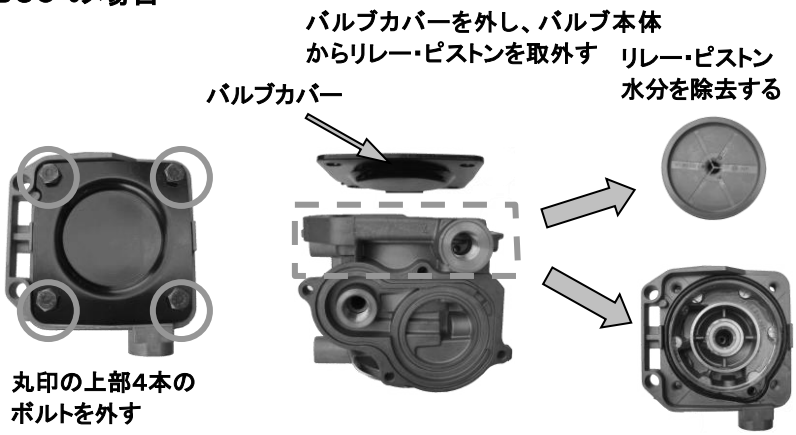
2007 年版適用車では、本点検項目は「リレー・エマージェンシ・バルブの機能」の点検に含めて取り扱うことを推奨

Nabtesco の場合



注意:リレー・ピストンを本体に取付ける時、
O リングに傷を付けないように注意する。
O リングに傷を付けたり、摩耗していたら交換する。

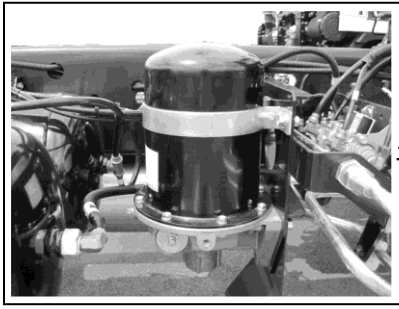
WABCO の場合



注意:リレー・ピストンを本体へ取り付ける時、
O リングに傷を付けない様に注意する。
O リングに傷を付けたり、摩耗していたら交換する。

〈ワンポイント・アドバイス〉

● リレー・ピストン部の水分および付着物除去と同様に、トラクタに装着されているエア・ドライヤの性能を維持するために、定期的な点検整備が必要です。
（交換部品や交換時期等については、各トラクタメーカーの取扱い説明書に従ってください。）



エア・ドライヤ

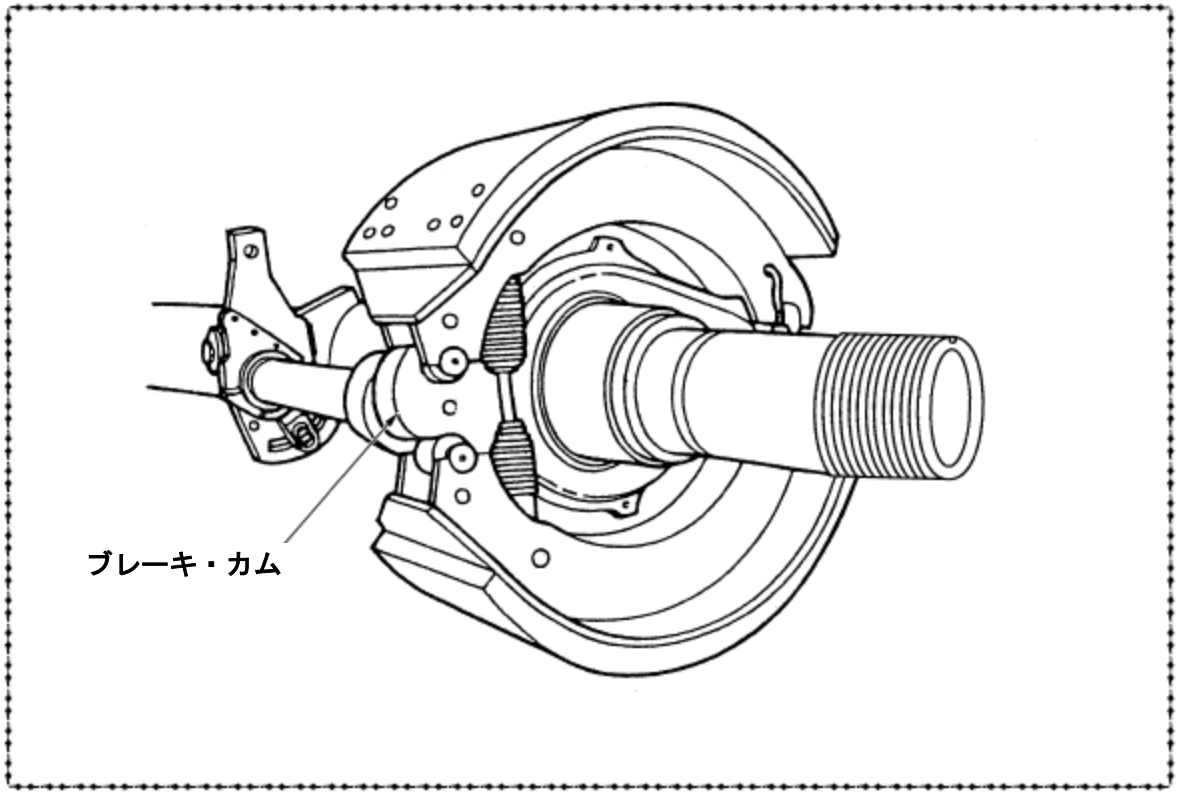
制動装置

2007 2013 2016 2018

点検箇所	ブレーキ・カム	点検整備時期	3月*1 12月	点検の分類	メーカー指定 法定点検
点検内容	摩耗	点検方法	目視点検、ﾘﾌﾄ･ｱｯﾌﾟ点検		

＊１：シビア・コンディション項目（本書 20 頁参照）

１．リフト・アップなどの状態でブレーキ・ドラムを取外し、ブレーキ・カムに摩耗、損傷がないかを、目視などにより点検する。



制動装置

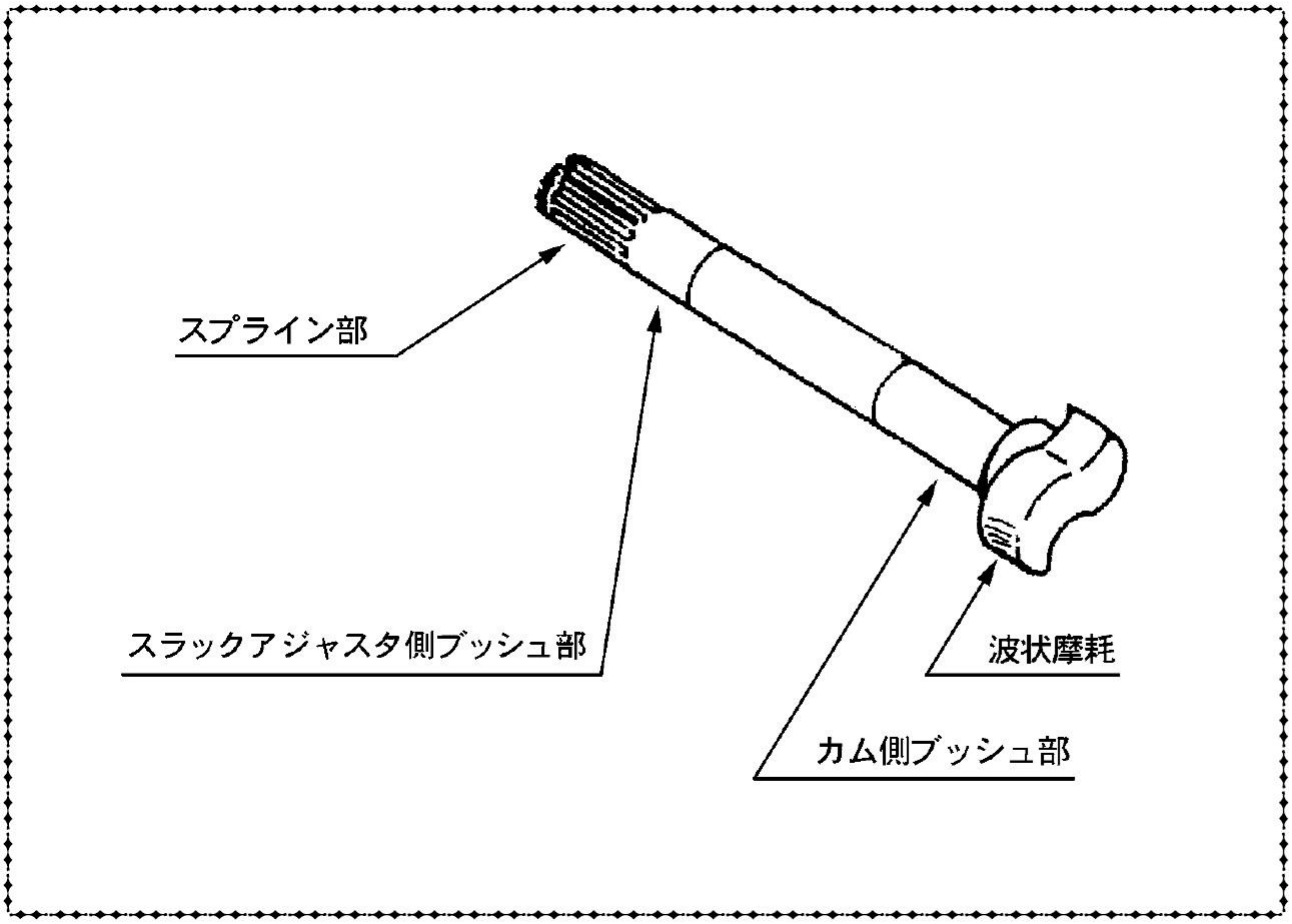
2007 2013 2016 2018

点検箇所	ブレーキ・カム・シャフト	点検整備時期	3月*1 12月	点検の分類	メーカー指定 メーカー指定
点検内容	摩耗及び損傷	点検方法	目視点検、ﾘﾌﾄ･ｱｯﾌﾟ点検、測定点検		

＊１：シビア・コンディション項目(本書 20 頁参照)

1．リフト・アップなどの状態で、ブレーキ・カム・シャフトを取り外し、ブッシュ部及びスプライン部に摩耗及び、損傷がないかを目視などにより点検する。特にカム面に波状摩耗がないかを点検する。

2．ブッシュ部の外径をノギス等により測定する。



〈ワンポイント・アドバイス〉

● ブレーキ・カム・シャフトは、トレーラメーカーで設定されている基準により判定し、摩耗限度に達したものは交換してください。

制動装置

2007	2013	2016	2018

点検箇所	ﾌﾞﾚｰｷ･ﾄﾞﾗﾑ及びﾌﾞﾚｰｷ･ｼｭｰ	点検整備時期	1月*1 3月 12月	点検の分類	メーカー指定 法定点検 法定点検
点検内容	ﾄﾞﾗﾑとﾗｲﾆﾝｸﾞとのすき間	点検方法	目視点検、ﾘﾌﾄ･ｱｯﾌﾟ点検、測定点検		

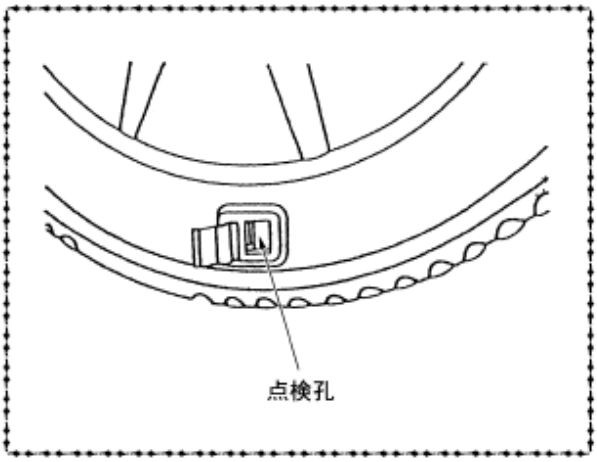
【ドラム・ブレーキ車のみ】　　＊１：シビア・コンディション項目(本書 20 頁参照)

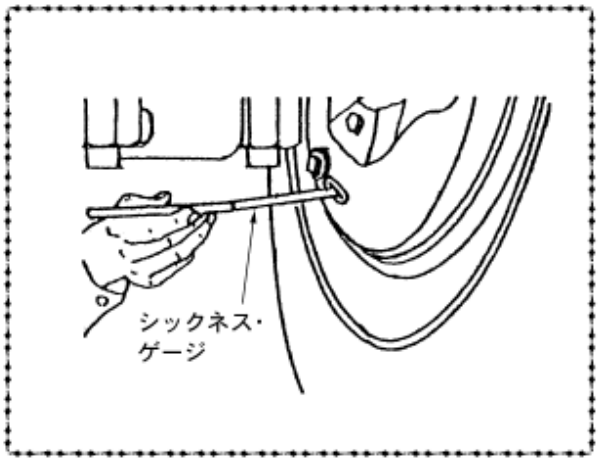
１．自動調整方式

トラクタと連結し、リフト・アップなどの状態でブレーキ・ペダル又は、駐車ブレーキ・レバーを数回操作し、ブレーキ・シューを安定させた後、タイヤを手で回したとき、引きずりがないかを点検する。

２．手動調整方式

トラクタと連結し、リフト・アップなどの状態でブレーキ・ペダル又は駐車ブレーキ・レバーを数回操作し、ブレーキ・シューを安定させた後、点検孔のあるものはシックネス・ゲージにより点検し、点検孔のないものはスラック・アジャスタにより、すき間を調整する。





制動装置

2007	2013	2016	2018

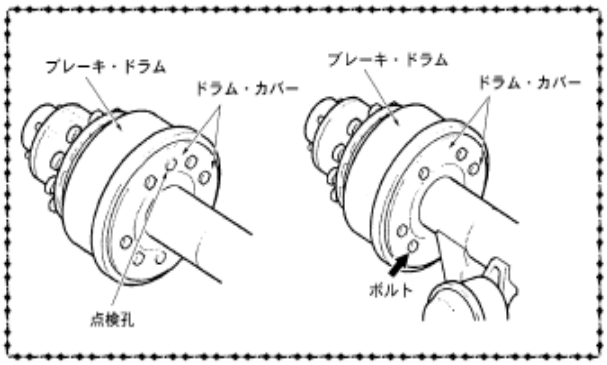
点検箇所	ﾌﾞﾚｰｷ･ﾄﾞﾗﾑ及びﾌﾞﾚｰｷ･ｼｭｰ	点検整備時期	1月*1 3月*2 12月*2	点検の分類	メーカー指定 法定点検 法定点検
点検内容	ｼｭｰの摺動部分 及びﾗｲﾆﾝｸﾞの摩耗	点検方法	目視点検、ﾘﾌﾄ･ｱｯﾌﾟ点検、測定点検 聴音点検		

【ドラム・ブレーキ車のみ】

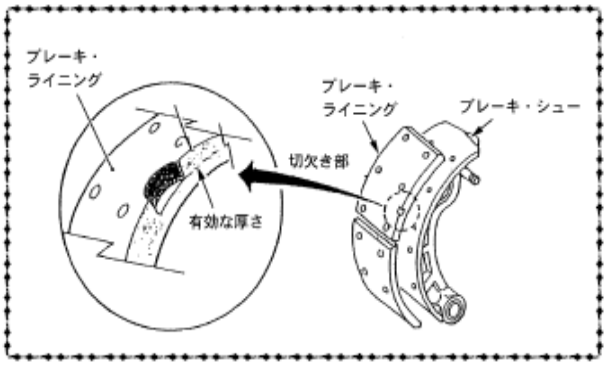
＊１：シビア・コンディション項目（本書 20 頁参照）
＊２：距離項目（本書 7 頁参照）

１．3 ヶ月点検時（1 ヶ月点検時：シビア・コンディション）
ライニングの残量を直接確認できる点検孔を有する構造又は、ドラム・カバーが取外せる構造の車両については以下の手順で点検する。
ただし、点検孔、又はドラム・カバーが取外せないもの及び、点検の結果、ライニングの残量が使用限度に近づいている場合や異状が認められる場合は、下記２項 12 ヶ月点検時の手順で点検する。

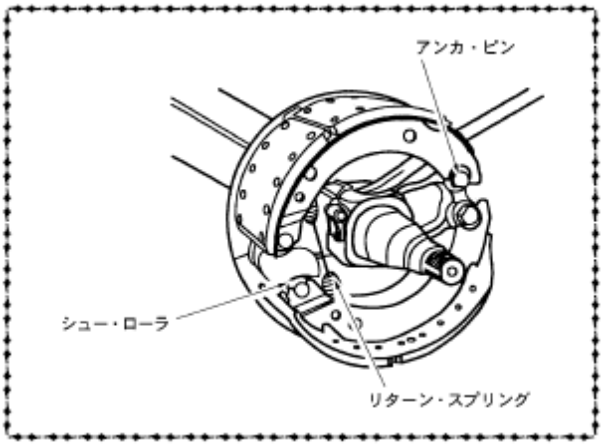
①ドラム・カバーを取外すか、ライニング残量点検孔から、ライニングの残量を目視で点検する。また、ライニングの端面に亀裂、剥離などの損傷がないかを、目視で点検する。
②低速で走行し、緩やかにブレーキを踏んだ時、ブレーキから異音が発生しないかを確認することにより、リベット、ボルトの緩みを点検する。
③リフト･アップなどの状態で、手でタイヤを回し、ブレーキを踏んだ状態からペダルを放した時に、直ぐにタイヤが回せるかで、シューの戻り不良（ブレーキの引きずり）がないかを点検する。



２．12 ヶ月点検時
１）ブレーキ・ドラムを取外し点検する。
①ライニングに異状な摩耗や、損傷、剥離がないかを目視などにより点検する。
②ライニングの厚みをスケールなどにより点検する。
③リベット、ボルトに緩みがないかを点検する。



２）シューを分解する場合には以下の点検をする。
①ブレーキ・シューの摺動部分の異状な摩耗や損傷がないか点検する。
②アンカ・ピンの摩耗や錆付状態、リターン・スプリングのへたりがないかを点検する。
③シュー・ローラがスムーズに作動するか点検する。
④調整装置がスムーズに作動するかを点検する。



〈ワンポイント・アドバイス〉

- ライニングは保安上重要な部品です。ブレーキの使用により、熱の影響を受けると同時に消耗が伴います。交換用の新品のライニングを、熱影響を受けたライニングと同時に使用すると制動力がばらつく要因となり、極端な場合には片効きの原因にもなりますので、交換時は左右輪を同時にすべてのライニングを交換することが必要です。

制動装置

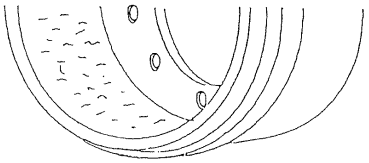
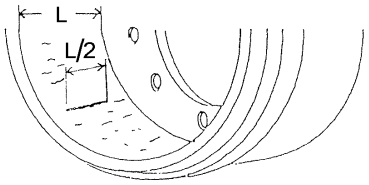
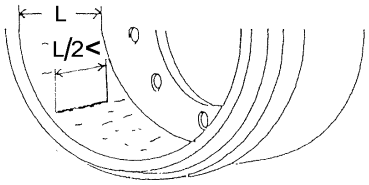
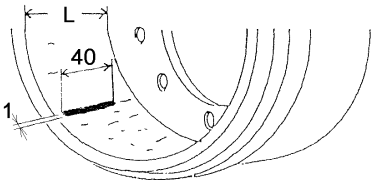
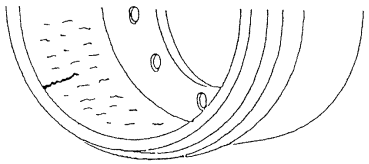
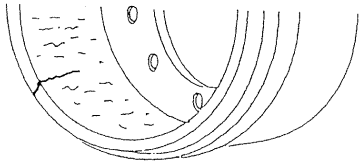
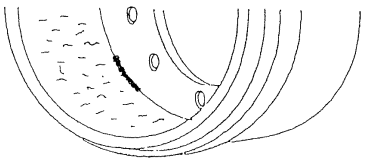
2007 2013 2016 2018

点検箇所	ﾌﾞﾚｰｷ･ﾄﾞﾗﾑ及びﾌﾞﾚｰｷ･ｼｭｰ	点検整備時期	3月*1 12月	点検の分類	メーカー指定 法定点検
点検内容	ﾄﾞﾗﾑの摩耗、及び損傷	点検方法	目視点検、ﾘﾌﾄ･ｱｯﾌﾟ点検		

【ドラム・ブレーキ車のみ】　　＊１：シビア・コンディション項目(本書 20 頁参照)

1．リフト・アップなどの状態で、ブレーキ・ドラムを取外し、ドラムの内面に異状な摩耗（条痕、偏摩耗、段付摩耗)、ヒートクラック、亀裂、損傷などがないかを目視などにより点検する。

1）ヒートクラックの判定

ケース		状態図	状況	判定
1			摺動面の細かい網目状の割れ	使用可能
2			摺動面幅の L/2 未満の割れ	使用可能
3	A		摺動面幅の L/2 以上にわたる連続した割れ	使用不可
	B		摺動面幅の 40㎜ 以上で開口部が 1㎜ 以上の割れ	使用不可
4	A		ドラム端面部に達した割れ	使用不可
	B		摺動面の裏側まで達した割れ	使用不可
5			円周方向の割れ	使用不可

2）摩耗量の判定

摩耗限度については、各トレーラメーカーが設定している基準値に基づき判定してください。

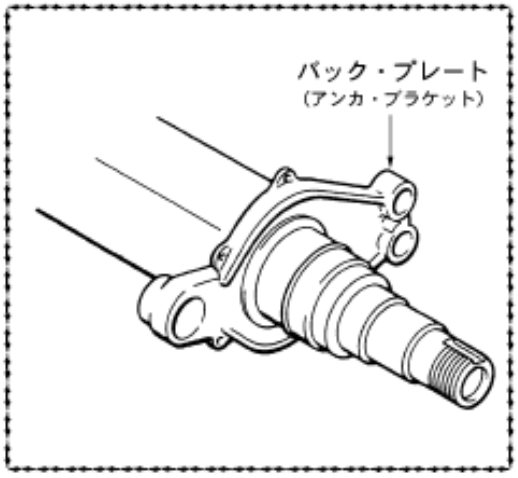
制動装置

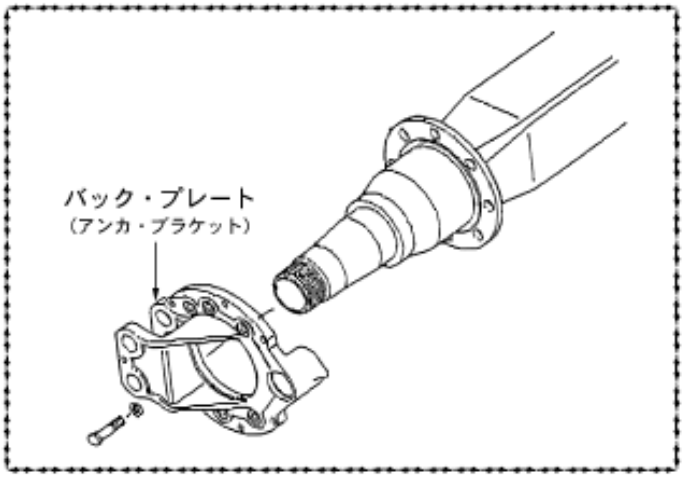
2007 2013 2016 2018

点検箇所	ﾊﾞｯｸ･ﾌﾟﾚｰﾄ(ｱﾝｶ･ﾌﾞﾗｹｯﾄ)	点検整備時期	12月	点検の分類	法定点検
点検内容	ﾊﾞｯｸ･ﾌﾟﾚｰﾄの状態	点検方法	目視点検、手工具による点検 ﾘﾌﾄ･ｱｯﾌﾟ点検		

1．リフト・アップなどの状態で、バック・プレート（アンカ・ブラケット）に亀裂、損傷、変形がないかを、目視などにより点検する。

2．リフト・アップなどの状態で、バック・プレート（アンカ・ブラケット）の取付けボルトに緩みがないかを、スパナなどにより点検する。





制動装置

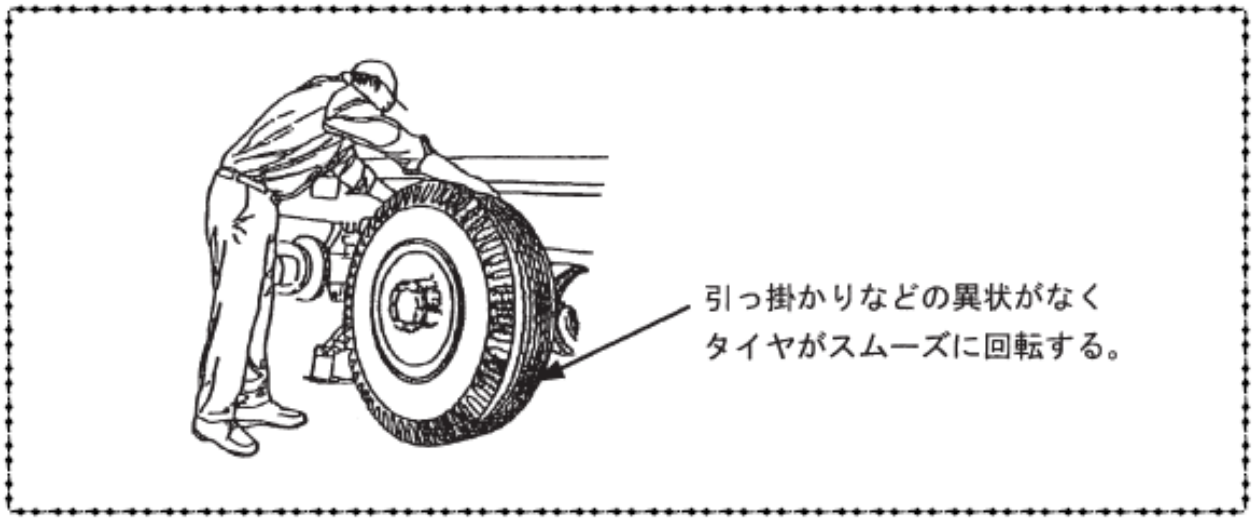
2007 2013 2016 2018

点検箇所	ﾌﾞﾚｰｷ･ﾃﾞｨｽｸ及びﾊﾟｯﾄﾞ	点検整備時期	1月*1 3月*2 12月*2	点検の分類	メーカー指定 法定点検 法定点検
点検内容	ﾃﾞｨｽｸとﾊﾟｯﾄﾞとのすき間	点検方法	ﾘﾌﾄ･ｱｯﾌﾟ点検、感覚点検		

【ディスク・ブレーキ車のみ】

＊１：シビア・コンディション項目（本書 20 頁参照）
＊２：距離項目（本書 7 頁参照）

1. リフト・アップなどの状態でタイヤを手で回したとき、異状な引きずりがないかを点検する。



制動装置

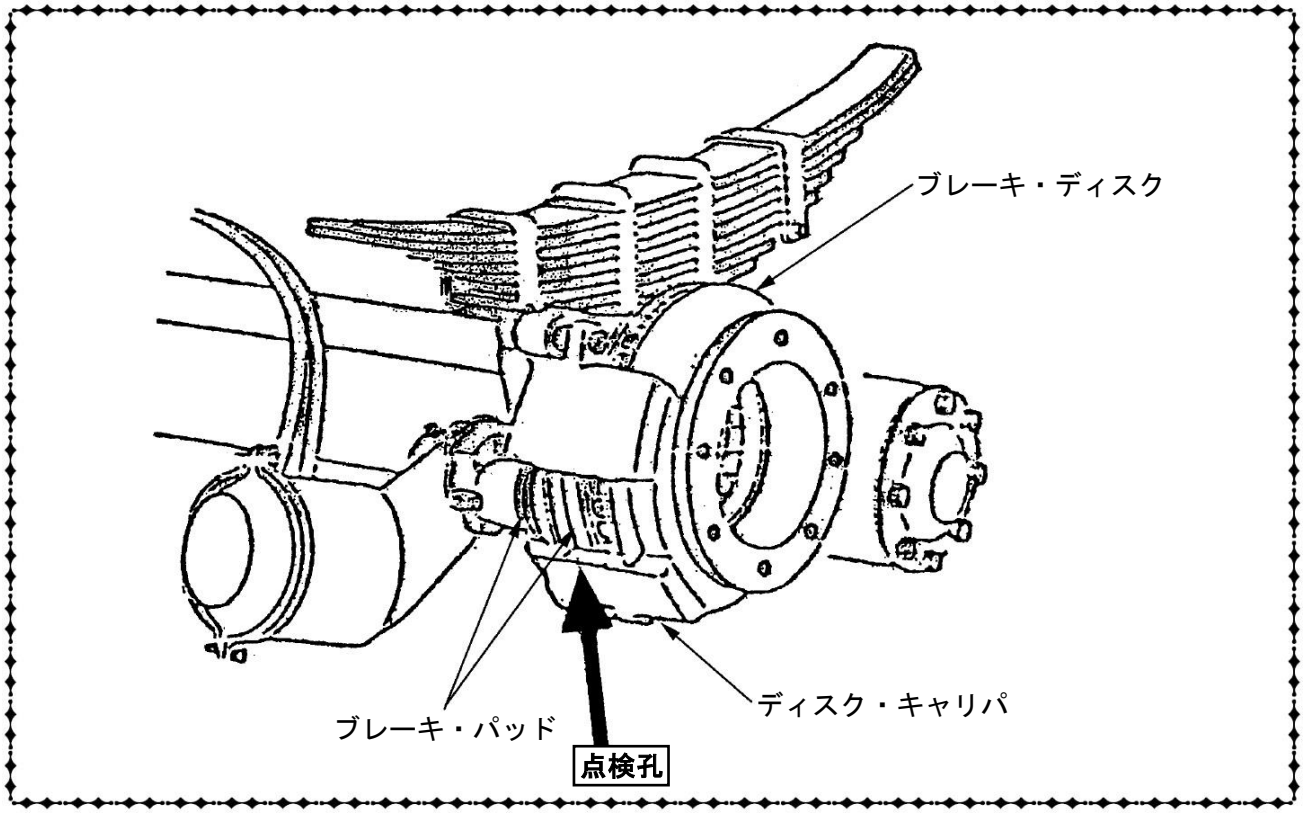
2007 2013 2016 2018

点検箇所	ﾌﾞﾚｰｷ･ﾃﾞｨｽｸ及びﾊﾟｯﾄﾞ	点検整備時期	1月*1 3月*2 12月*2	点検の分類	メーカー指定 法定点検 法定点検
点検内容	ﾊﾟｯﾄﾞの摩耗	点検方法	ﾘﾌﾄ･ｱｯﾌﾟ点検、目視点検、測定点検		

【ディスク・ブレーキ車のみ】

＊１：シビア・コンディション項目（本書 20 頁参照）
＊２：距離項目（本書 7 頁参照）

1．リフト・アップなどの状態で、ホイールを取外しディスク・キャリパの点検孔からブレーキ・パッドの厚みを点検する。また、必要に応じてスケールなどにより点検する。
※ブレーキ・パッドの厚みが、使用限度以上あること（インジケータのあるものはインジケータにて確認）。



〈ワンポイント・アドバイス〉

- ブレーキ・パッドは保安上重要な部品です。ブレーキの使用により、熱の影響を受けると同時に消耗が伴います。交換用の新品のブレーキ・パッドを、熱影響を受けたブレーキ・パッドと同時に使用すると制動力がばらつく要因となり、極端な場合には片効きの原因にもなりますので、交換時は左右輪を同時にすべてのブレーキ・パッドを交換することが必要です。

制動装置

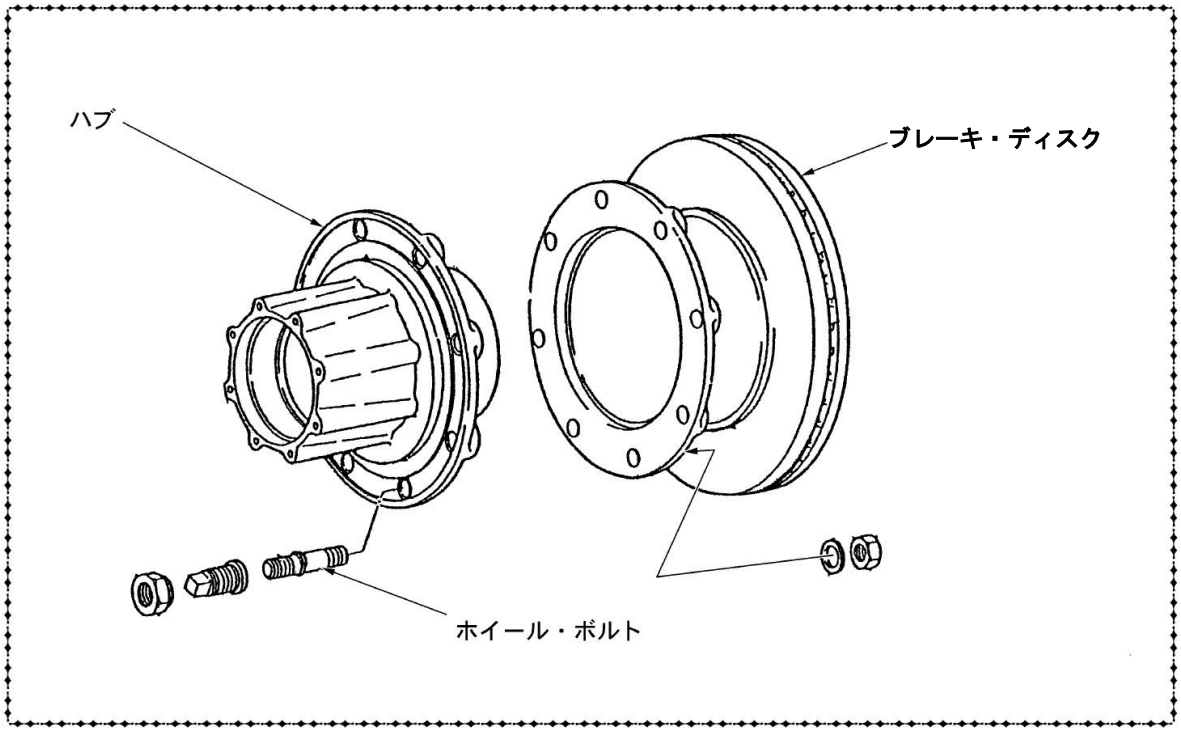
2007 2013 2016 2018

点検箇所	ﾌﾞﾚｰｷ･ﾃﾞｨｽｸ及びﾊﾟｯﾄﾞ	点検整備時期	3月*1 12月	点検の分類	メーカー指定 法定点検
点検内容	ﾃﾞｨｽｸの摩耗及び損傷	点検方法	ﾘﾌﾄ･ｱｯﾌﾟ点検、目視点検		

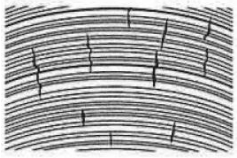
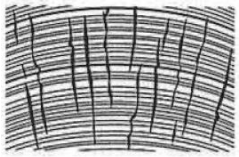
【ディスク・ブレーキ車のみ】　　＊１：シビア・コンディション項目（本書 20 頁参照）

1．リフト・アップなどの状態で、ホイールを取外しブレーキ・ディスクに異状な摩耗や損傷がないかを、目視などにより点検する。

※ブレーキ・ドラムと同様にブレーキ・ディスク表面は、熱影響によりヒートクラックが発生するが、発生したヒートクラックが長く繋がり、損傷に至るおそれがないかを点検する。



1）ヒートクラックの判定

状態図	状況	判定
	ブレーキ・ディスク幅の７５％未満の亀裂長さ	使用可能
	ブレーキ・ディスク幅の７５％以上の亀裂長さ	使用不可

2）摩耗量の判定

摩耗限度については、各トレーラメーカーが設定している基準値に基づき判定してください。

制動装置

2007 2013 2016 2018

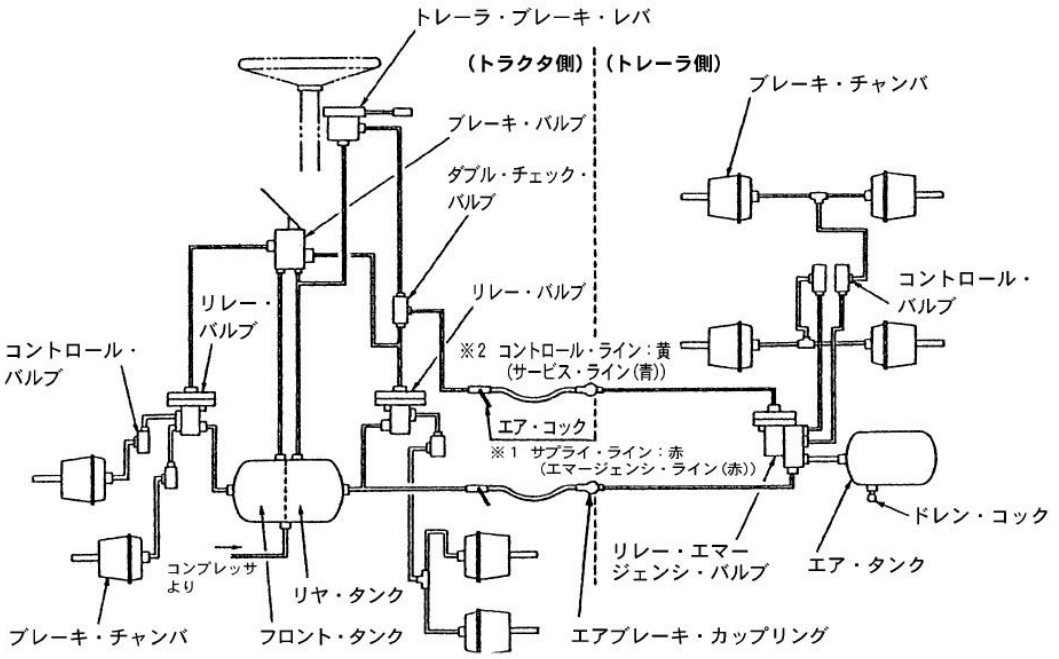
点検箇所	分離ブレーキ	点検整備時期	12月	点検の分類	メーカー指定
点検内容	ｴﾏｰｼﾞｪﾝｼ･ﾌﾞﾚｰｷの作動確認	点検方法	目視点検		

【連結状態】

1．トラクタと連結し、規定の空気圧（※）の状態でサプライ・ライン（エマージェンシ・ライン）のホース・カップリングを切離したとき、トレーラのブレーキ・チャンバが作動しブレーキがかかるかを点検する。なお、中期ブレーキ対応車は、トラクタ側の駐車ブレーキを解除した状態で点検する。

※規定の空気圧については、トレーラメーカー各社発行の「取扱説明書」を参照

2．上記の状態から再度、サプライ・ライン（エマージェンシ・ライン）のホース・カップリングを接続したとき、ブレーキ・チャンバが元の状態に戻り、ブレーキが解除するかを点検する。



※１．サプライ・ライン（エマージェンシ・ライン）
サプライ・ラインを経由してトラクタからエア・タンクに常時エアを供給する。

※２．コントロール・ライン（サービス・ライン）
トラクタのブレーキ・ペダルの踏み代に応じた圧力をリレー・エマージェンシ・バルブに伝える。

〈ワンポイント・アドバイス〉

- トレーラ及びトラクタのエア・タンク内圧力が規定値以下では、上記の作動ができない場合があります。その場合には、エンジンを掛けエア・タンクに規定の空気圧を充填してから点検してください。

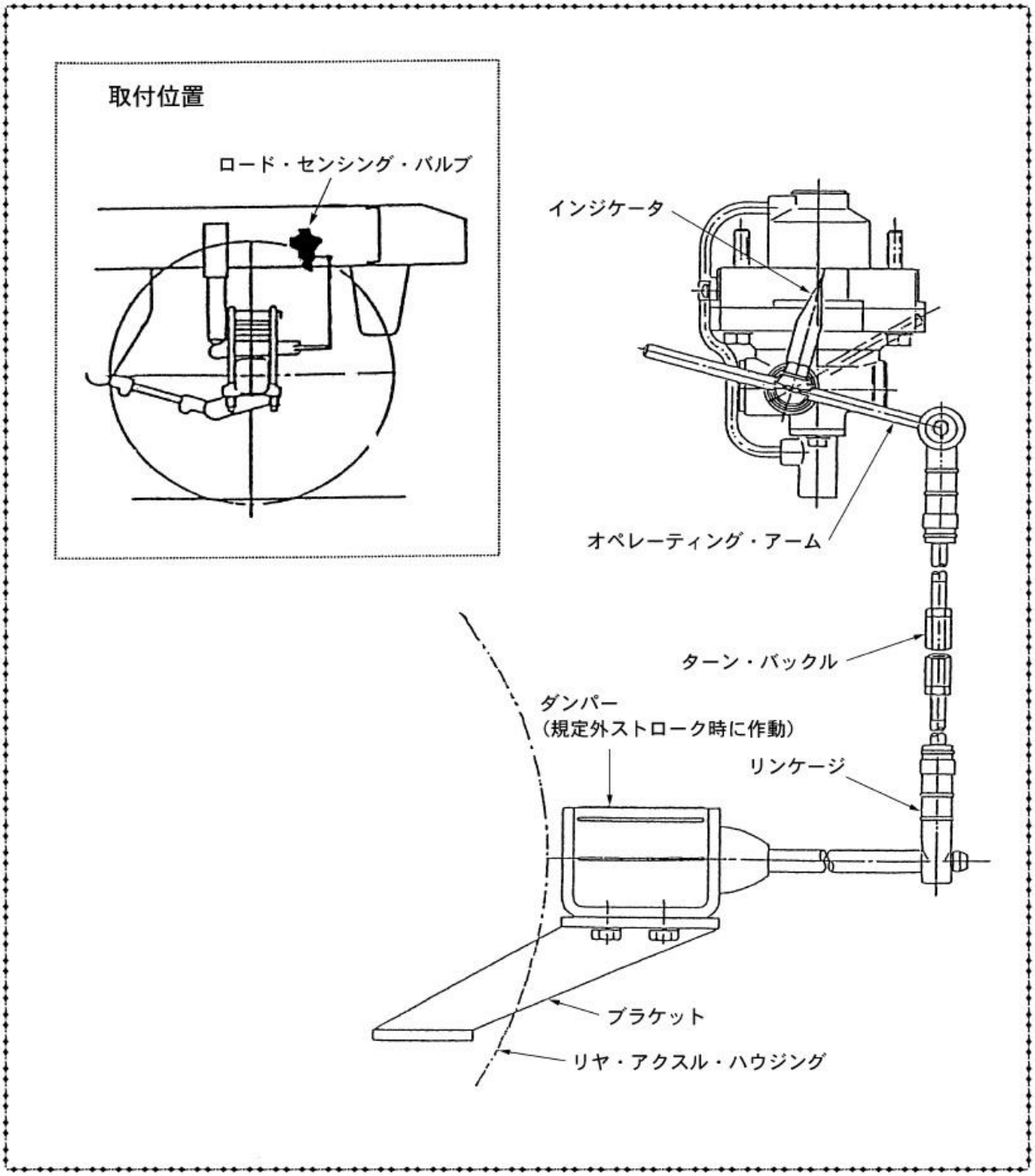
制動装置

2007 2013 2016 2018

点検箇所	ﾛｰﾄﾞ・ｾﾝｼﾝｸﾞ・ﾊﾞﾙﾌﾞ	点検整備時期	3月 12月	点検の分類	メーカー指定 メーカー指定
点検内容	取付状態	点検方法	目視点検、手工具による点検		

【連結状態】【取付車のみ】

1．バルブ、ブラケット、ロッド、ターン・バックルの取付けボルト、割りピンの脱落、緩みがないかを、目視及び、スパナなどにより点検する。



ロード・センシング・バルブ取付け状態（例）

制動装置

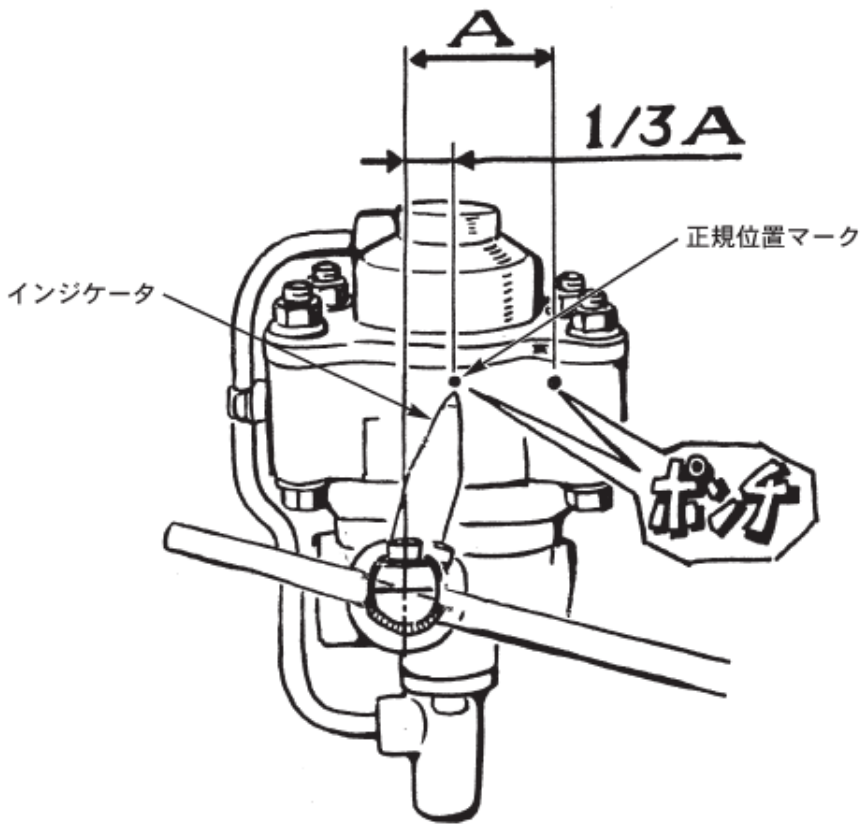
2007 2013 2016 2018

点検箇所	ﾛｰﾄﾞ・ｾﾝｼﾝｸﾞ・ﾊﾞﾙﾌﾞ	点検整備時期	3月 12月	点検の分類	メーカー指定 メーカー指定
点検内容	機能	点検方法	目視点検		

【連結状態】【取付車のみ】

1．トラクタと連結し、規定の空気圧（※）の状態で補助者にブレーキ・ペダルを一杯に踏み込ませバルブ本体、排気ポート、配管接続部に石けん水などを塗り、エア漏れがないかを、目視などにより点検する。
※規定の空気圧については、トレーラメーカー各社発行の「取扱説明書」を参照

2．空車状態で、インジケータの指示が正規の位置にあるかを点検する。



インジケータ正規位置(空車時)

〈ワンポイント・アドバイス〉

● ロード・センシング・バルブは、積載量に応じてトレーラ後軸の制動力を調節し、タイヤロックを減少させる役目をしています。
調節が適切に行われていない場合、制動力不足になり、ジャック・ナイフ現象などを起こしやすくなり、非常に危険ですから、点検、調整を確実に実施してください。

制動装置

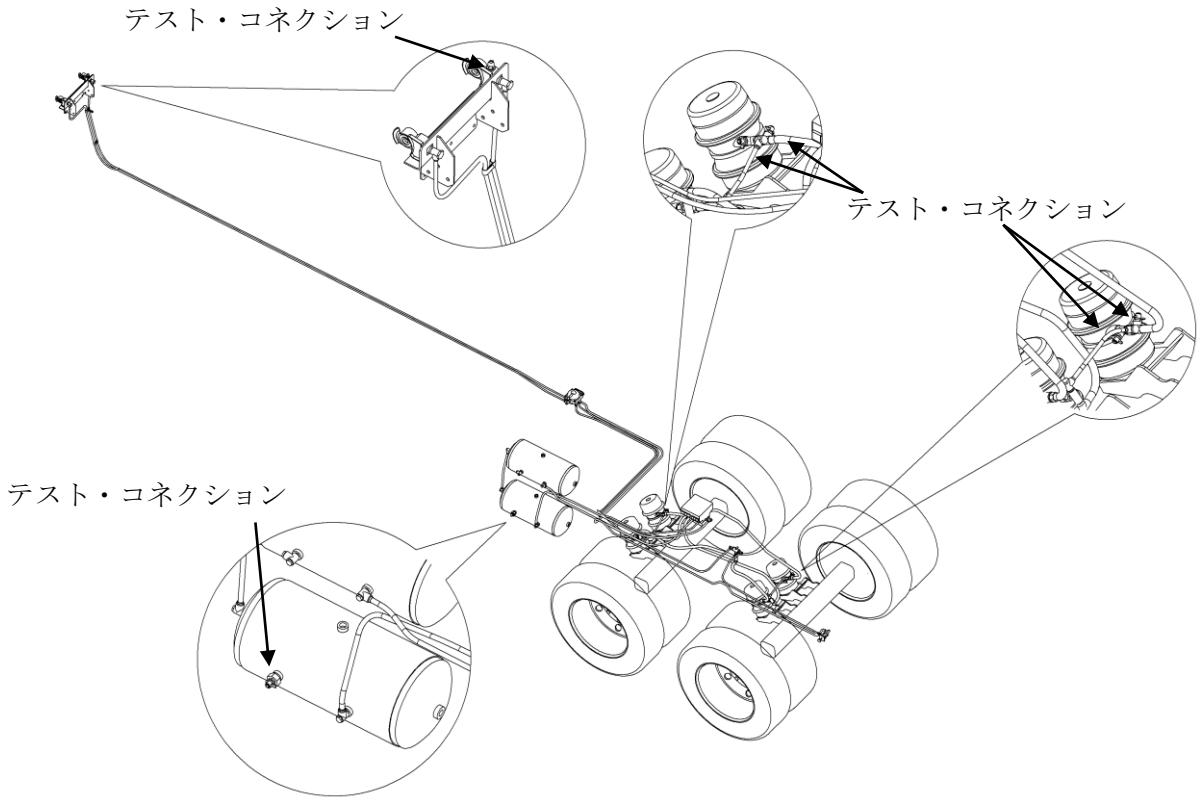
2007 2013 **2016** **2018**

点検箇所	テスト・コネクション	点検整備時期	12月	点検の分類	メーカー指定
点検内容	エア漏れ	点検方法	目視点検		

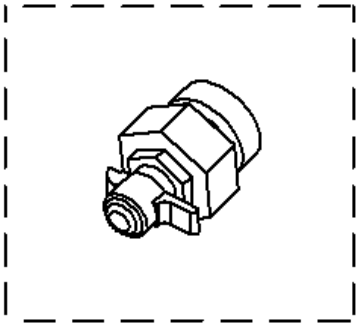
【連結状態】【取付車のみ】

1．トラクタと連結し、規定の空気圧（※）の状態で補助者にブレーキ・ペダルを踏ませ、テスト・コネクションに石けん水などを塗布し、エア漏れがないかを、目視などにより点検する。
※規定の空気圧については、トレーラメーカー各社発行の「取扱説明書」を参照

2．取付け部、及び保護キャップなどに緩み、異状がないかを、スパナなどにより点検する。
※テスト・コネクションの取付け位置は、各トレーラメーカーの取扱説明書などの指示による。



テスト・コネクションの例



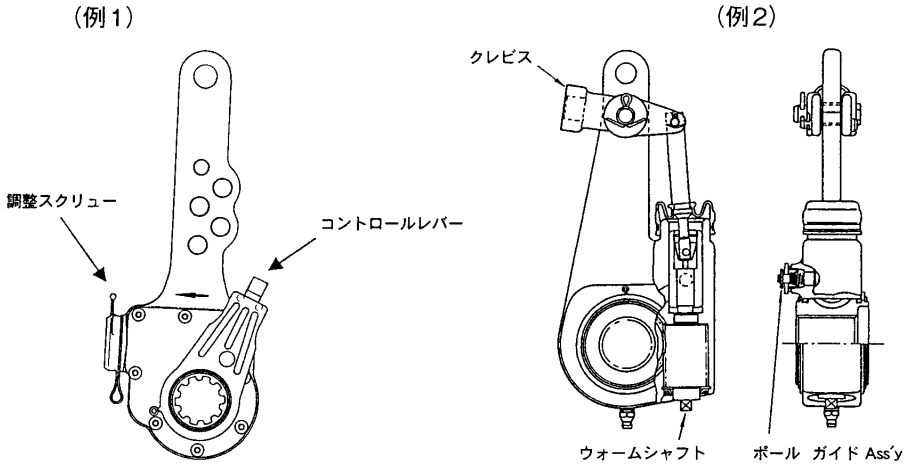
制動装置

2007	2013	2016	2018

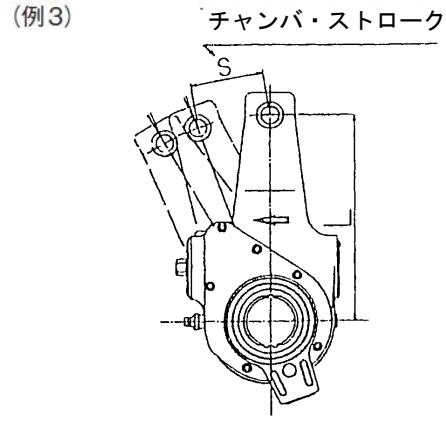
点検箇所	オートマチック・スラック・アジャスタ	点検整備時期	1月*1 3月 12月	点検の分類	メーカー指定 メーカー指定 メーカー指定
点検内容	機能	点検方法	目視点検		

【自動調整式車のみ】　　＊１：シビア・コンディション項目（本書 20 頁参照）

1．オートマチック・スラック・アジャスタ本体に損傷・変形がないかを、目視などにより点検する。
2．調整スクリューを戻し、規定の空気圧（※）の状態でブレーキを数回作動させ、開放したときに、調整スクリューが回転するかを、目視で点検する。
※規定の空気圧については、トレーラメーカー各社発行の「取扱説明書」を参照



オートマチック・スラック・アジャスタ



ブレーキ・チャンバ・ストローク測定

〈ワンポイント・アドバイス〉

● 点検の注意
(1) トラクタの駐車ブレーキ・レバーの多用、又、登り降りの頻繁な走行等ではオートマチック・スラック・アジャスタに負担がかかるため、『シビア・コンディション点検』が必要です。
(2) オートマチック・スラック・アジャスタの不具合が進行すると、当該車輪の制動力が低下するおそれがあります。確実に点検し、異状がある場合には部品交換など、適切な処置を行ってください。
(3) シビア・コンディションでは、オートマチック・スラック・アジャスタは、3 年毎の定期交換部品です。（2013 年 4 月以降の新規登録車に適用されます）

制動装置

2007 2013 2016 2018

点検箇所	ｵｰﾄﾏﾁｯｸ･ｽﾗｯｸ･ｱｼﾞｬｽﾀ	点検整備時期	1月*1 3月 12月	点検の分類	メーカー指定 メーカー指定 メーカー指定
点検内容	機能	点検方法	目視点検		

【自動調整式車のみ】　　＊１：シビア・コンディション項目（本書 20 頁参照）

３．オートマチック・スラック・アジャスタの点検要領

１）点検項目・点検整備時期

○：メーカー指定項目　◇：シビア・コンディション項目　●：法定点検項目

点検項目		点検整備時期		
点検箇所	点検内容	１ヶ月ごと	３ヶ月ごと	12 ヶ月ごと
ブレーキ・チャンバ	ロッドのストローク	◇	●	●
オートマチック・スラック・アジャスタ	給油脂	◇	●	●
	機能　※１	◇	○	○

※１　オートマチック・スラック・アジャスタの機能点検には、「本体の損傷や亀裂の点検」、「自動調整機能の点検」及び「アジャスト・スクリュー回転トルクの点検」が含まれる。

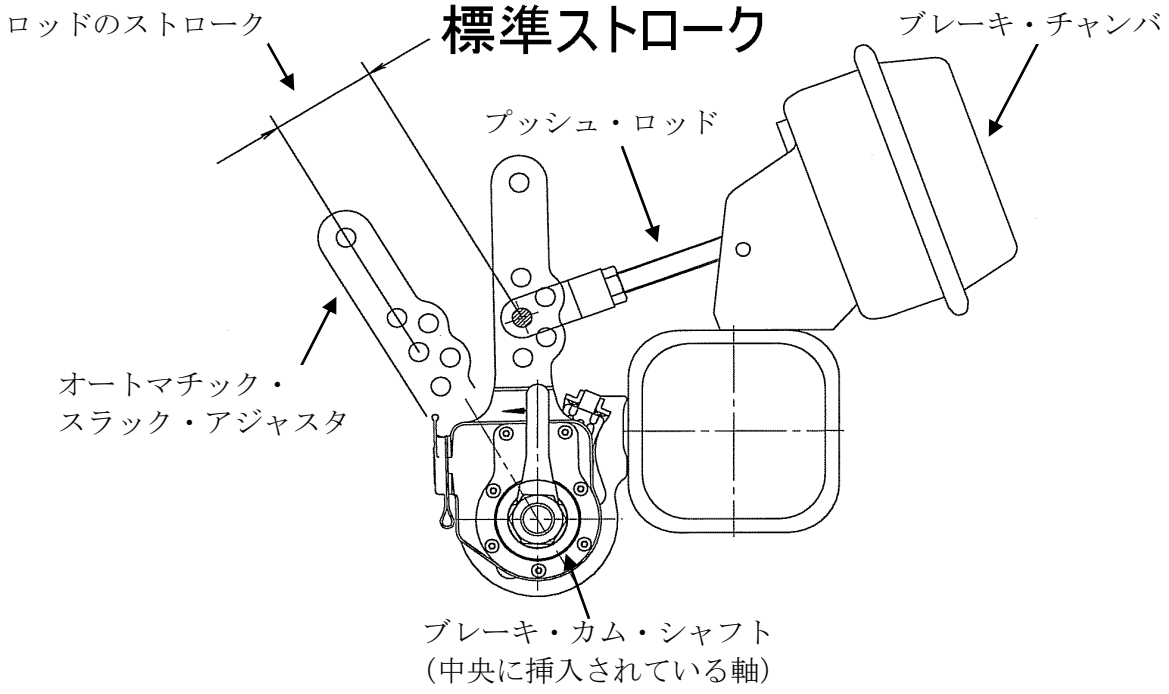
２）ブレーキ・チャンバのプッシュ・ロッド・ストロークの点検方法

①トラクタの空気圧力計が規定圧（※２）であることを確認して、エンジンを停止する。

※２　規定の空気圧については、トレーラメーカー各社発行の「取扱説明書」を参照

②フート・ブレーキを数回踏み込み、トラクタの空気圧力計が５００ｋＰａとなったときにフート・ブレーキを数回踏み込み、ブレーキ・チャンバのプッシュ・ロッドのストロークを確認する。なお、標準ストローク等は、トレーラメーカー各社発行の「取扱説明書」を参照。

ブレーキ・チャンバのプッシュ・ロッド・ストロークが正常範囲内にない場合は、４）項のオートマチック・スラック・アジャスタの機能の点検を実施する。



ブレーキ装置概要

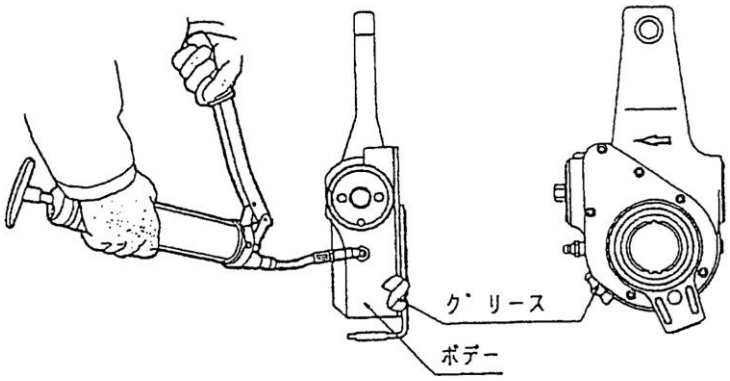
制動装置

2007	2013	2016	2018

点検箇所	ｵｰﾄﾏﾁｯｸ･ｽﾗｯｸ･ｱｼﾞｬｽﾀ	点検整備時期	1月*1 3月 12月	点検の分類	メーカー指定 メーカー指定 メーカー指定
点検内容	機能	点検方法	目視点検		

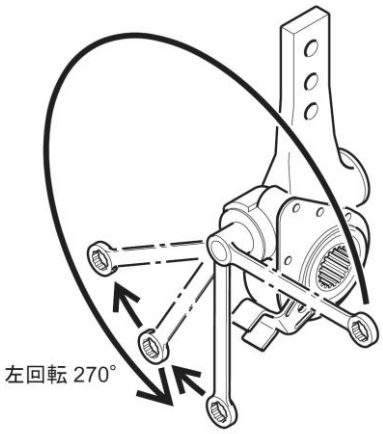
【自動調整式車のみ】　　＊１：シビア・コンディション項目（本書 20 頁参照）

3）オートマチック・スラック・アジャスタの給油脂
オートマチック･スラック･アジャスタ本体のグリース･ニップルから指定のグリースを注入し、古いグリースが押し出されるまで十分に給脂をする。



給脂要領

4）オートマチック・スラック・アジャスタの機能の点検
①損傷や亀裂の点検
本体に損傷や変形がないかを、目視などにより点検する。
②スプライン部のがたの点検
ブレーキを開放した状態で、オートマチック・スラック・アジャスタを手で作動させるなどしてブレーキ・カム・シャフトとの動きに、がたがないかを確認する。
③自動調整機能とアジャスト・スクリュー回転トルクの点検 **【Haldex 社製のｵｰﾄﾏﾁｯｸ･ｽﾗｯｸ･ｱｼﾞｬｽﾀの場合】**
③-1 自動調整機能の点検
ａ．トラクタ・トレーラに車輪止めを掛け、全ブレーキを開放する。
ｂ．アジャスト・スクリューを１２ｍｍのメガネレンチまたはソケット・レンチを使用し、右方向に一杯に廻す。
（左右とも同一部品、以下左右とも同一に調整する）
ｃ．左方向に３／４回転（２７０°）戻す。
ｄ．エンジンを掛けて、トラクタのエア圧を規定値（５９０ｋＰａ以上）にする。
ｅ．エンジンを掛けたまま、フート・ブレーキを２０～３０回作動させた後、ブレーキを掛ける毎にメガネレンチが右回りに徐々に回転すること、及びブレーキ・チャンバのプッシュ・ロッド・ストロークが標準値及び限界値以下となることを確認する。



ブレーキ操作により
徐々に右回転する

③-2 アジャスト・スクリューの回転トルクの点検
アジャスト・スクリューをメガネレンチで左回りに廻すとき、ノッチ音がして約１８N･m以上のトルクが必要。

③-1 項，③-2 項いずれか 1 項でも不適であれば、オートマチック・スラック・アジャスタの機能が損なわれている為、オートマチック・スラック・アジャスタを交換する。

制動装置

2007	2013	2016	2018

点検箇所		点検整備時期		点検の分類	
	ｵｰﾄﾏﾁｯｸ･ｽﾗｯｸ･ｱｼﾞｬｽﾀ		1月*1 3月 12月		メーカー指定 メーカー指定 メーカー指定
点検内容		点検方法			
	機能		目視点検		

【自動調整式車のみ】　　＊１：シビア・コンディション項目（本書 20 頁参照）

④自動調整機能とアジャスト・スクリュー回転トルクの点検 **【BPW 社製のｵｰﾄﾏﾁｯｸ･ｽﾗｯｸ･ｱｼﾞｬｽﾀの場合】**

④-1 自動調整機能の点検

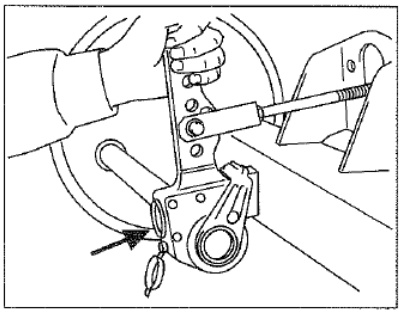
ａ．トラクタ・トレーラに車輪止めを掛け全ブレーキを開放する。

ｂ．調整スクリューを反時計方向へ３／４回転程度回してブレーキ・チャンバのプッシュ・ロッド・ストロークを５０ｍｍ以上とする。

ｃ．オートマチック・スラック・アジャスタを手で作動させて次の機能を確認する。

ｉ）カチ、カチという調整音が聞こえることを確認する。

ii）調整スクリューが作動のたびに時計方向へわずかに回転する。

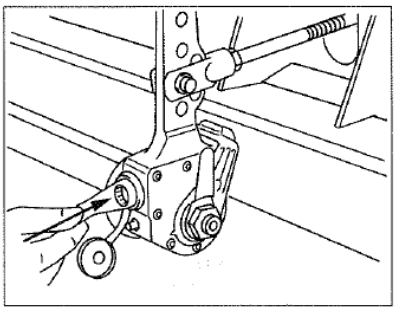


④-2 自動調整機能が確認できない場合の点検

調整スクリューを回すとオートマチック・スラック・アジャスタが前後に動くかどうかを点検する。
以下の状態ではオートマチック・スラック・アジャスタが損耗しているので交換してください。

ａ．調整スクリューを回してもオートマチック・スラック・アジャスタが前後に動かない。

ｂ．調整スクリューの回転トルクが１７Ｎ･ｍを越すか、異常に軽い場合。



〈ワンポイント・アドバイス〉

●機能点検後あるいは交換後の処置

オートマチック・スラック・アジャスタ等の機能点検後あるいは交換後のブレーキ調整等の整備は、トレーラメーカー各社発行の「整備要領書」、または「取扱説明書」に基づき、行ってください。

制動装置

2007 2013 2016 2018

点検箇所	ABS装置/EBS装置	点検整備時期	12月	点検の分類	メーカー指定
点検内容	警告灯の作動確認、部品の機能確認、車速度センサーの作動確認	点検方法	目視点検、走行点検		

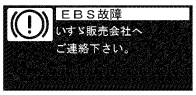
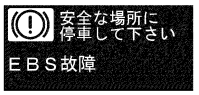
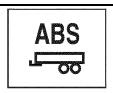
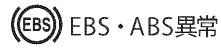
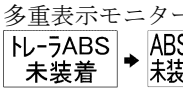
【連結状態】【ABS/EBS 付車のみ】

1．トラクタと連結し、トラクタのスタータ･スイッチを"OFF"から"ON"位置にしたとき､運転席の「トレーラ・ウォーニング・ランプ」が点灯するかを点検する。

2．同時に「インフォメーション・ランプ」が点灯した後、消灯するかを点検する。

3．走行開始後、定めたられた車速以上（メーカー指定数値による）になるか、または、数秒後に「トレーラ・ウォーニング・ランプ」が消灯するかを点検する。

【ABS/EBS ランプの表示例】

	トレーラＡＢＳ ウォーニング・ランプ	トレーラＡＢＳ インフォメーション・ ランプ	トラクタＡＢＳ ウォーニング・ランプ	ＥＢＳウォーニング・ランプ
いすゞ	 トレーラ側ＡＢＳが故障の場合に点灯	 ＡＢＳ未装着トレーラ連結時に点灯 ＡＢＳジャンパーケーブルが接合されていない場合に点灯		 停車中  走行中  ＡＢＳ、ＥＢＳが異常の場合に点灯
UD	 トレーラ側ＡＢＳが故障の場合に点灯 キースイッチ「ＯＮ」で点灯 数秒後又は、車速７ｋｍ/ｈ以上で消灯	 ＡＢＳ未装着トレーラ連結時に点灯	 トラクタ側ＡＢＳが故障の場合に点灯 詳細はトラクタの取扱説明書を参照ください。	 ＥＢＳシステムに異常及び機能低下があると点灯し、ブザーが鳴ります。
日野	 トレーラ側ＡＢＳが故障の場合に点灯 スタータキー「ＯＮ」で点灯し、ＡＢＳ正常時、消灯	 ＡＢＳ未装着トレーラ連結時に点灯 ＡＢＳジャンパーケーブルが接合されていない場合に点灯		  ＡＢＳ、ＥＢＳ又はハブが異常の場合に点灯
ふそう	ランプ  多重表示モニター  トレーラ側ＡＢＳが故障の場合に点灯	ランプ点灯無し 多重表示モニター  ＡＢＳ未装着トレーラ連結時に点灯 ＡＢＳジャンパーケーブルが接合されていない場合に点灯	ランプ  多重表示モニター  トラクタ側ＡＢＳが故障の場合に点灯	ランプ  多重表示モニター 

制動装置

2007 2013 2016 2018

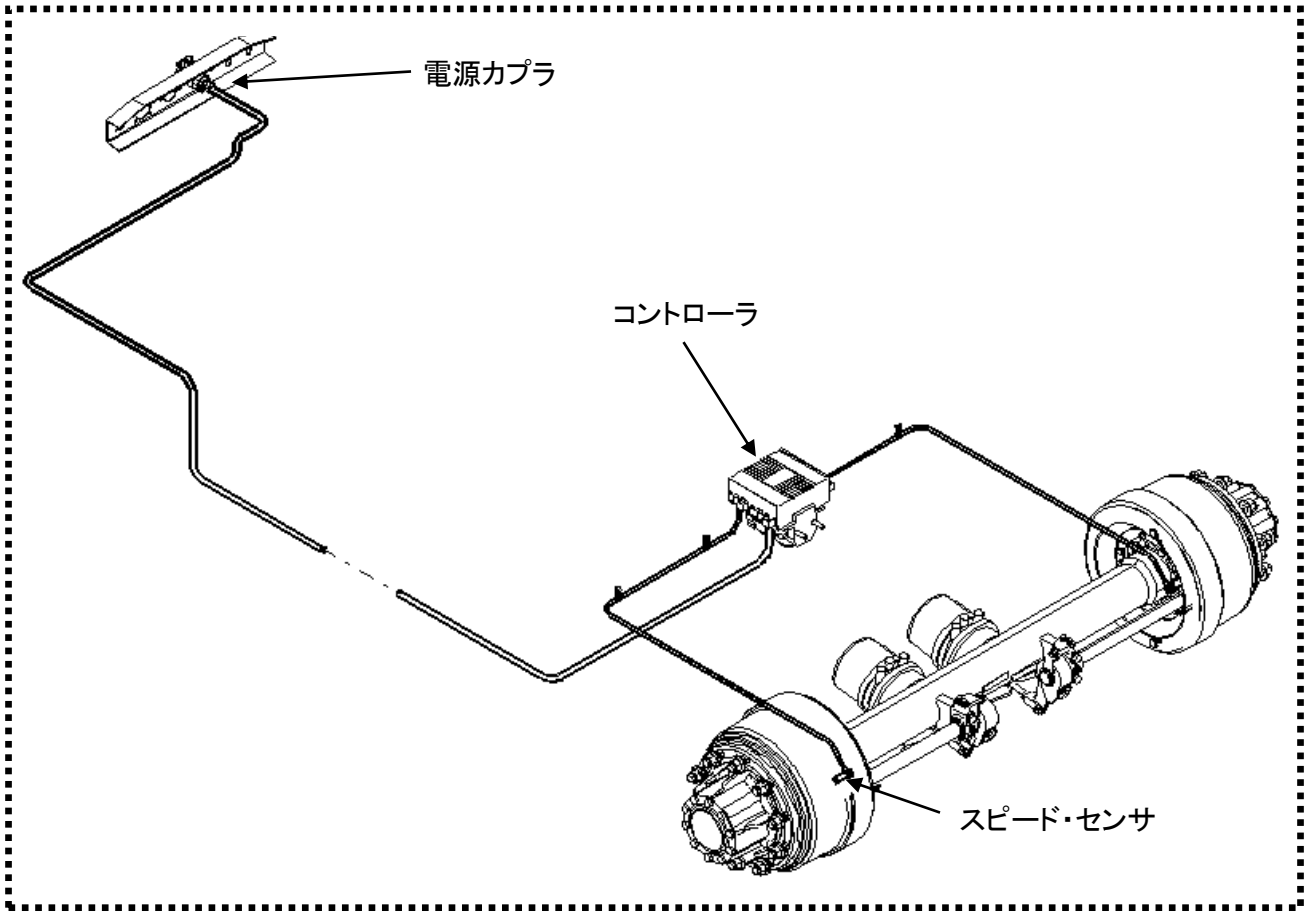
点検箇所	ABS装置/EBS装置	点検整備時期	3月 12月	点検の分類	メーカー指定 メーカー指定
点検内容	電気配線接続部の緩み及び損傷	点検方法	目視点検		

【連結状態】【ABS/EBS 付車のみ】

1．電気配線に損傷がないか、配線接続の各コネクターに緩みがないかを、目視などにより点検する。

2．電気配線のクランプに緩みがないかを、目視などにより点検する。

3．電気配線が他部品と干渉する恐れがないかを、目視などにより点検する。



制動装置

2007 2013 2016 2018

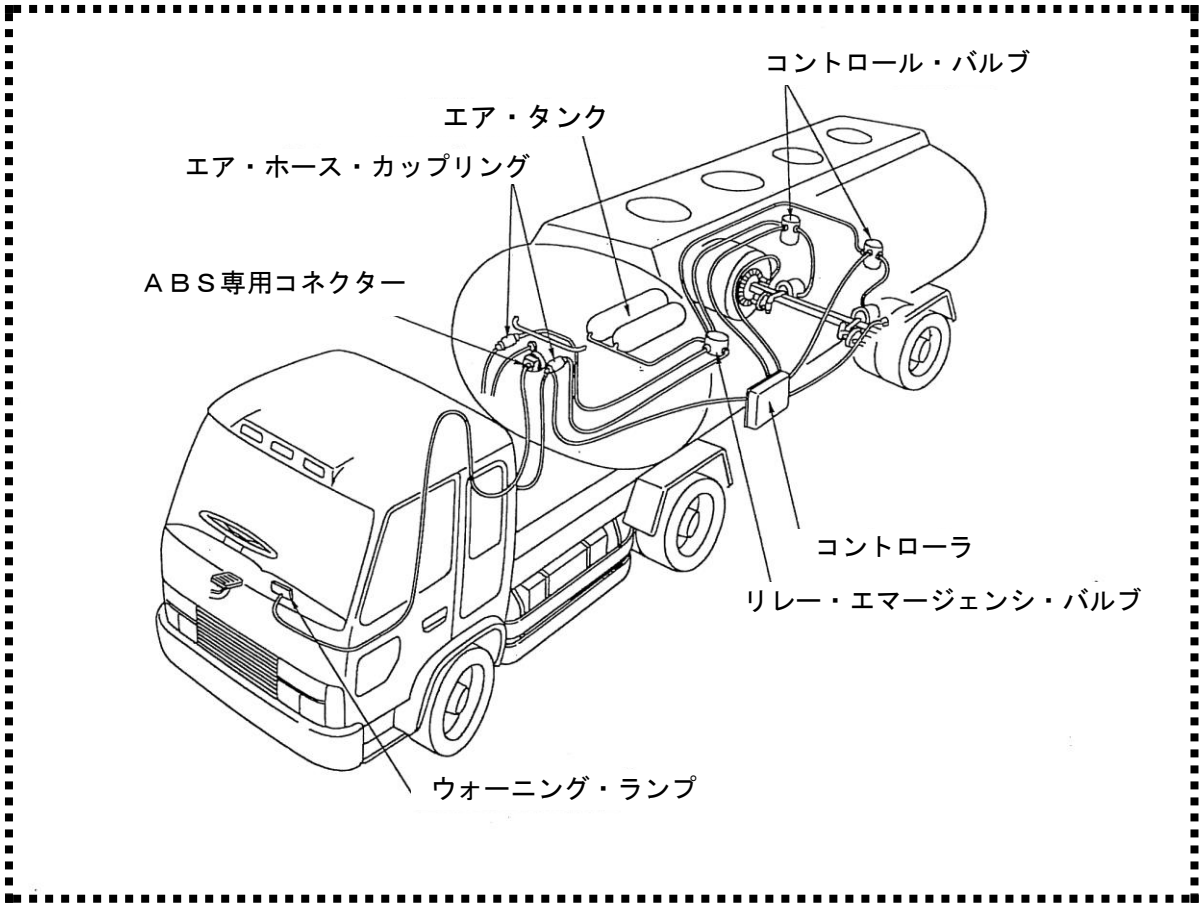
点検箇所	ABS装置/EBS装置	点検整備時期	12月	点検の分類	メーカー指定
点検内容	ｺﾝﾄﾛｰﾙ･ﾊﾞﾙﾌﾞ(ﾓｼﾞｭﾚｰﾀ)の作動確認	点検方法	聴音点検、目視点検		

【連結状態】【ABS/EBS 付車のみ】

1．トラクタと連結し、規定の空気圧の状態で、補助者にブレーキ・ペダルを一杯に踏み込ませ、各コントロール・バルブからエア漏れがないかを点検する。

2．トラクタのスタータ・スイッチを“OFF”から“ON”にした時に、コントロール・バルブがカチカチと作動音がするかを点検する。

3．トレーラ･ブレーキを掛けた状態でスタータ･スイッチを“OFF”から“ON”にした時に、コントロール・バルブが作動、排気する（減圧時一回排気音がする）かを点検する。



〈ワンポイント・アドバイス〉

- トレーラ及びトラクタのエア・タンク内圧力が規定値以下では、上記の作動ができない場合があります。その場合には、エンジンを掛け、エア・タンクに規定の空気圧を充填してから点検してください。
  規定の空気圧については、トレーラメーカー各社発行の「取扱説明書」を参照してください

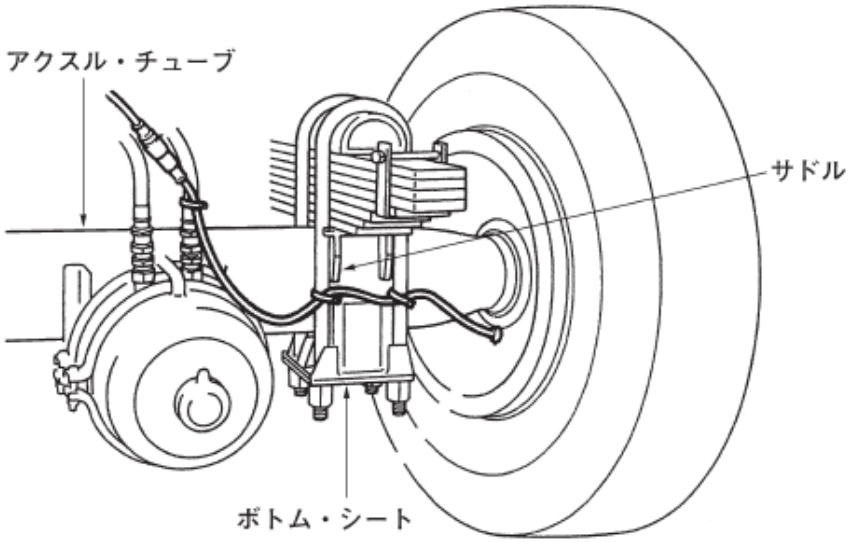
走行装置

2007 2013 2016 2018

点検箇所	アクスル	点検整備時期	3月 12月	点検の分類	メーカー指定 メーカー指定
点検内容	亀裂、損傷及び変形	点検方法	目視点検		

2007 年版適用車では、本点検項目に「ホイールのハブ・キャップの取付状態」の点検を含めて取り扱うことを推奨

1．点検するアクスル部分をリフト・アップなどの状態で、目視などにより次の点検をする。
　1）アクスル・チューブに亀裂、損傷及び変形がないか。
　2）サドル（スプリング・シート）及びボトム・シートとの溶接部に亀裂、損傷がないか。



走行装置

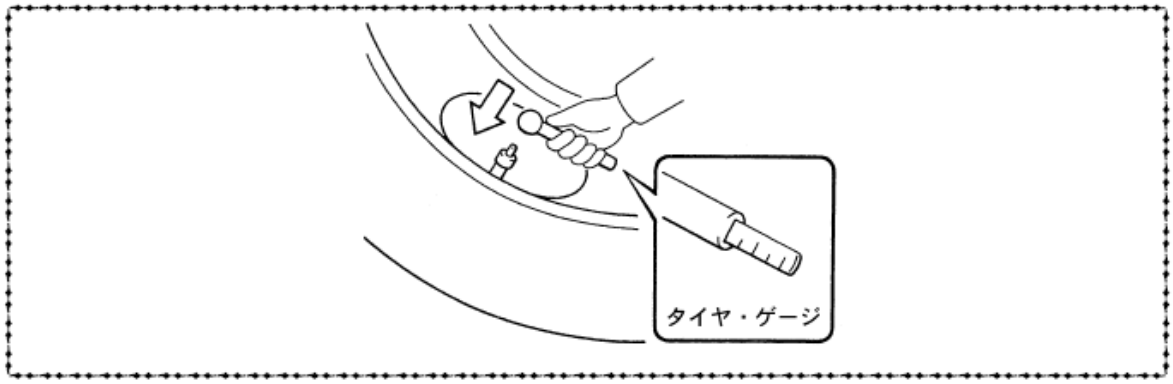
2007 2013 2016 2018

点検箇所	ホイール	点検整備時期	3月*2 12月*2	点検の分類	法定点検 法定点検
点検内容	ﾀｲﾔの状態	点検方法	ﾘﾌﾄ･ｱｯﾌﾟ点検、目視点検、測定点検		

＊２：距離項目（本書７頁参照）

１．タイヤの空気圧（スペア・タイヤを含む）

１）タイヤ・ゲージを用いて、タイヤの空気圧が規定値にあるかを点検する。
スペア・タイヤについても同様に点検する。

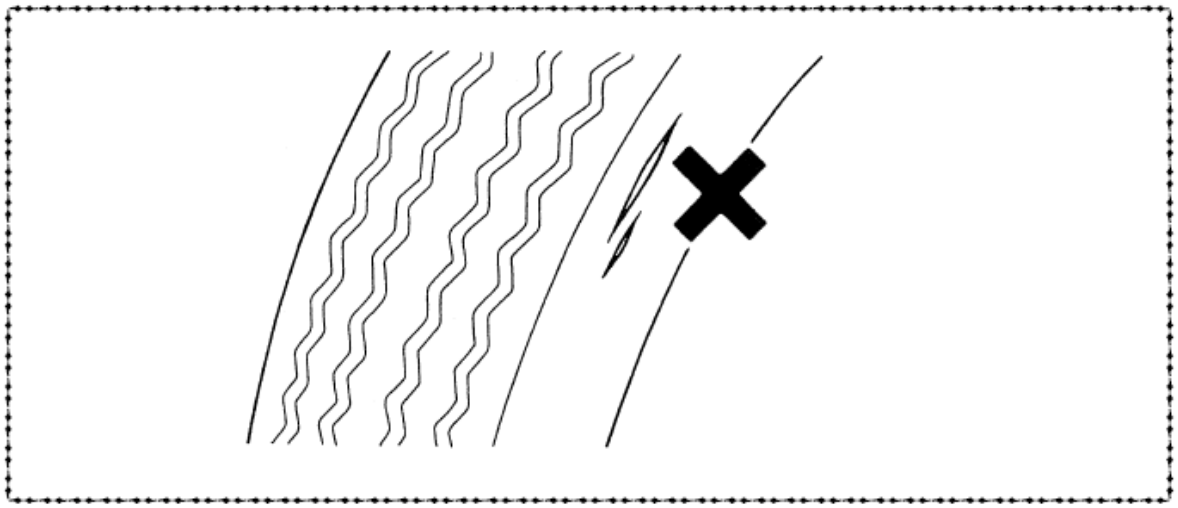


〈ワンポイント・アドバイス〉

- バルブからのエア漏れがないか、また、バルブ・キャップが装着されているかを確認してください。

２．タイヤの亀裂及び損傷

１）タイヤの接地面の全周と両側面に亀裂、損傷がないかを、目視により点検する。



走行装置

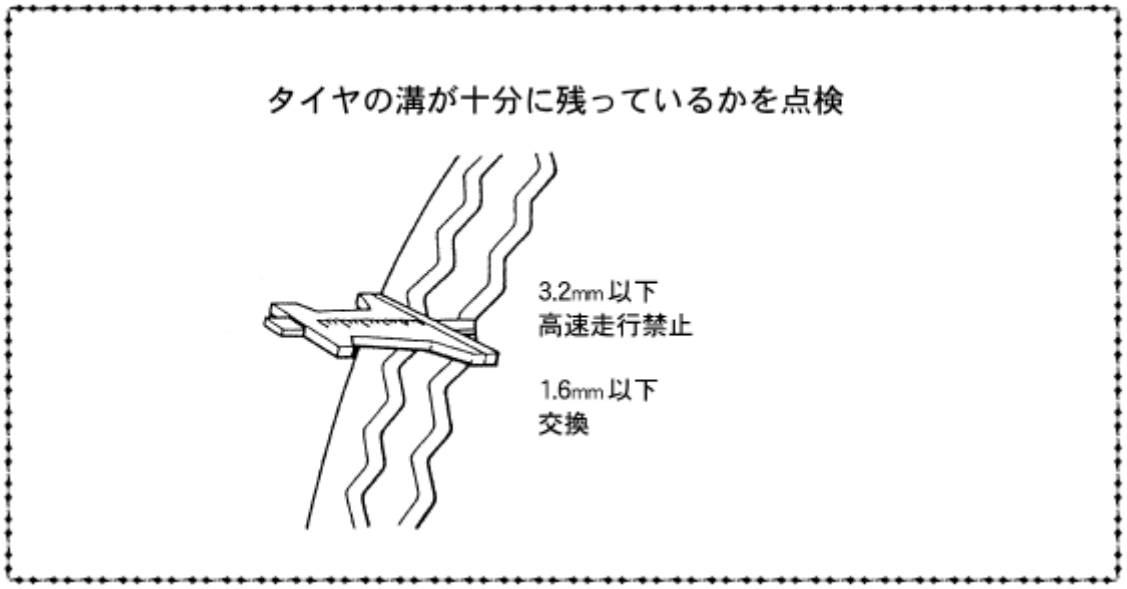
2007 2013 2016 2018

点検箇所	ホイール	点検整備時期	3月*2 12月*2	点検の分類	法定点検 法定点検
点検内容	ﾀｲﾔの状態	点検方法	ﾘﾌﾄ･ｱｯﾌﾟ点検、目視点検、測定点検		

＊２：距離項目(本書７頁参照)

３．タイヤの溝の深さ

１）タイヤの接地面の全周にわたり溝の深さが規定値以上あるかを、デプス・ゲージなどにより点検する。



４．タイヤの異状な摩耗

１）タイヤに、偏摩耗などの異状な摩耗がないかを、目視などにより点検する



〈ワンポイント・アドバイス〉

● タイヤには、残り溝の深さが 1.6㎜ の摩耗状態を表すためのウエア・インジケータが設けられています。
①残り溝深さ 1.6㎜ 以下はタイヤ交換
②残り溝深さ 3.2㎜ 以下は高速道路の走行禁止

走行装置

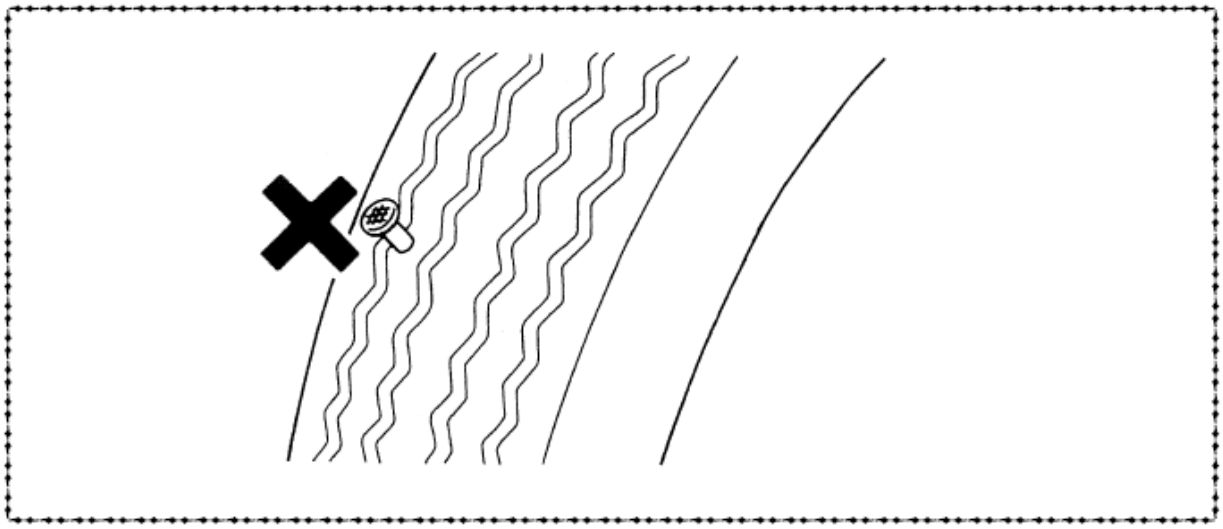
2007 2013 2016 2018

点検箇所	ホイール	点検整備時期	3月*2 12月*2	点検の分類	法定点検 法定点検
点検内容	ﾀｲﾔの状態	点検方法	ﾘﾌﾄ･ｱｯﾌﾟ点検、目視点検、測定点検		

＊２：距離項目（本書７頁参照）

５．金属片、石、その他の異物

１）タイヤの接地面の全周と両側面に釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを、目視などにより点検する。



走行装置

2007	2013	2016	2018

点検箇所	ホイール	点検整備時期	1月*1 3月 12月	点検の分類	メーカー指定 法定点検 法定点検
点検内容	ﾎｲｰﾙ･ﾅｯﾄ及びﾎｲｰﾙ･ﾎﾞﾙﾄの緩み	点検方法	目視点検、手工具による点検		

＊１：シビア・コンディション項目(本書 20 頁参照)

１．ホイール・ナット、ボルトに緩みがないかを、ホイール・ナット・レンチなどにより点検する。

２．車両総重量 8 トン以上の被牽引車にあっては、次の点検を行う。

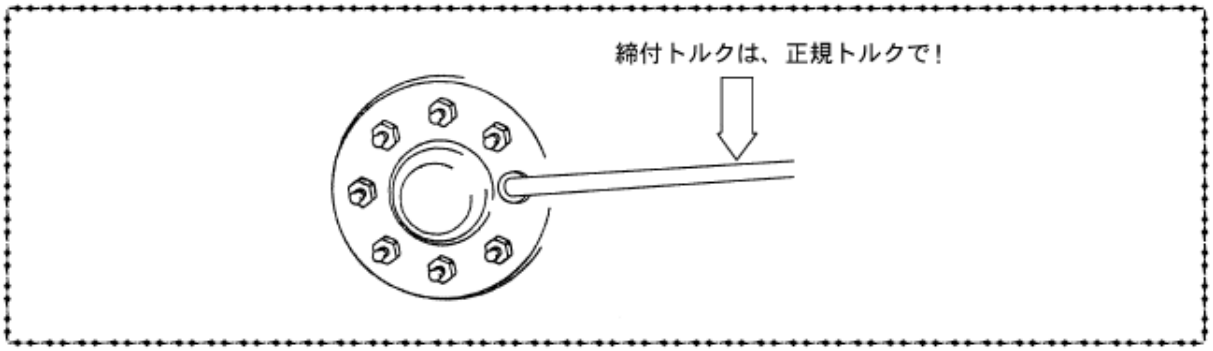
１）JIS 方式のシングル・タイヤ及び ISO 方式のタイヤの場合は、トルク・レンチなどによりホイール・ナットを規定トルク（※）で締め付ける。

２）JIS 方式のダブル・タイヤの場合は、ホイール・ボルトの半数（1 個おき）のアウタ・ナットを緩めて、インナ・ナットをトルク・レンチなどにより規定トルク（※）で締め付ける。

次に、緩めたアウタ・ナットをトルク・レンチなどにより規定トルク（※）で締め付ける。その後、ホイール・ボルトの残りの半数のアウタ・ナット及び、インナ・ナットについても同様の措置を講じる。

３）リヤ・シャフトの支持方式が全浮動式のものにあっては、アクスル・シャフトの取付けナット及びボルトに緩みがないかを点検する。

※規定トルクについては、トレーラメーカー各社発行の「取扱説明書」を参照



〈ワンポイント・アドバイス〉

- JIS 方式のホイール･ナットは右側タイヤが右ネジ、左側タイヤは左ネジを使用しています。ISO 方式のホイール・ナットは左右タイヤ共に右ネジを使用しています。
- 一部の車を除き、JIS 方式のダブル・タイヤの内側ナットは袋ナットになっているので、内側ナットも確実に点検してください。
- アルミ・ホイールを装着する場合は、ホイール・ボルト及び、インナ・ナットをアルミ・ホイール用に交換が必要です。

走行装置

2007	2013	2016	2018

点検箇所	ホイール	点検整備時期	1月*1 3月*4 12月	点検の分類	メーカー指定 メーカー指定 法定点検
点検内容	ﾎｲｰﾙ･ﾅｯﾄ及びﾎｲｰﾙ･ﾎﾞﾙﾄの損傷	点検方法	ﾘﾌﾄ･ｱｯﾌﾟ点検、目視点検		

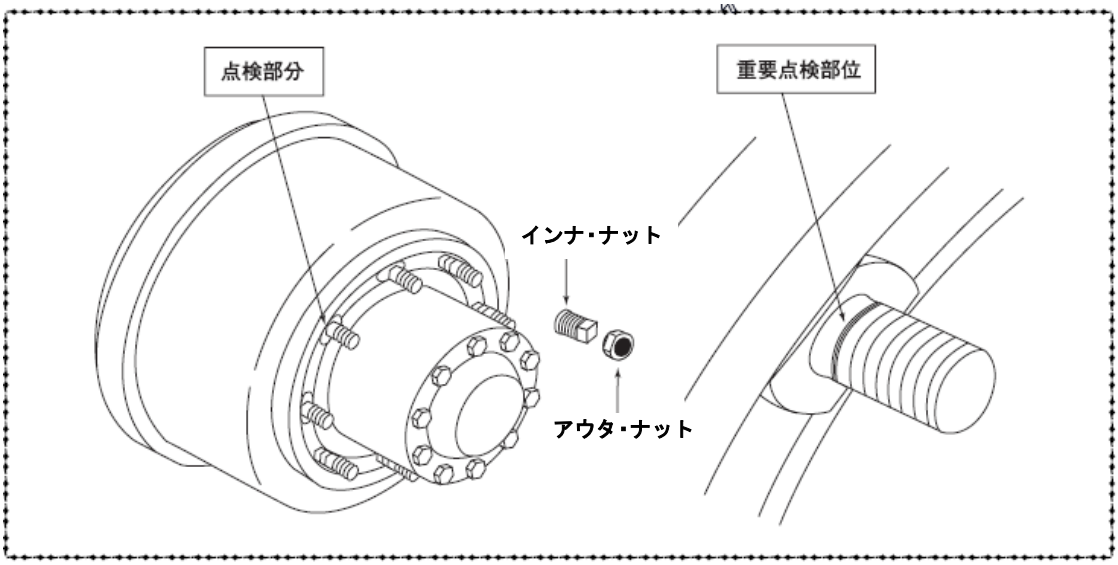
【車両総重量 8 ﾄﾝ以上の被牽引自動車のみ】

＊１：シビア・コンディション項目（本書 20 頁参照）
＊４：使用開始から５年以上経過車

１．リフト・アップなどの状態で、ディスク・ホイールを取り外し、次の点検を行う。

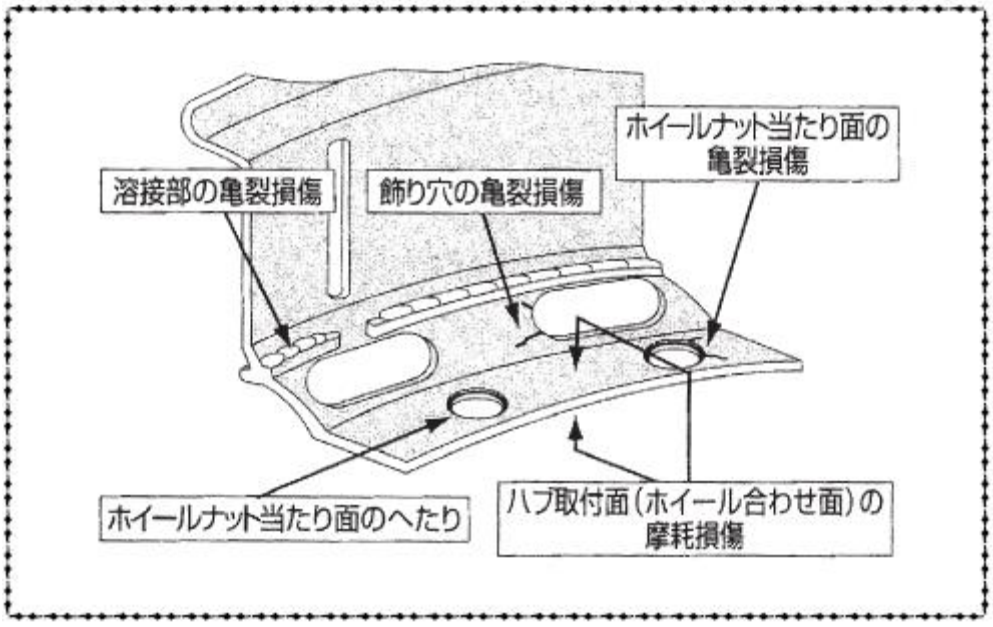
１）ホイール・ボルト及び、ホイール・ナットに亀裂や損傷がないか、ボルトに伸びはないか、著しい錆の発生はないかなどを、目視などにより点検する。また、ネジ部につぶれ、やせ、かじり等の異状がないかを目視などにより点検する。

※ ホイール・ボルトのネジ部に亀裂などがないかを目視又は、染色浸透探傷などにより点検する。



ＩＳＯ方式の場合は、ホイール･ナットの座金が円滑に回転するかを手で回すなどして確認する。特に、ホイール・ボルト及びホイール・ナットが新品の状態から一定期間（目安は４年）を経過している場合は入念に確認する。

２）ディスク・ホイールのボルト穴や飾り穴まわり及び、溶接部に亀裂や損傷がないか、ホイール・ナットの当たり面に亀裂や損傷及び、へたりがないかを、目視などにより点検する。
また、ハブへの取付け面とディスク・ホイール合わせ面に摩耗や損傷がないかを、目視などにより点検する。



走行装置

2007	2013	2016	2018

点検箇所	ホイール	点検整備時期	1月*1 3月*4 12月	点検の分類	メーカー指定 メーカー指定 法定点検
点検内容	ﾎｲｰﾙ･ﾅｯﾄ及びﾎｲｰﾙ･ﾎﾞﾙﾄの損傷	点検方法	ﾘﾌﾄ･ｱｯﾌﾟ点検、目視点検		

【車両総重量 8 ﾄﾝ以上の被牽引自動車のみ】

＊１：シビア・コンディション項目（本書 20 頁参照）
＊４：使用開始から５年以上経過車

２．ディスク・ホイールを取り付けるときには、次の点検を行う。

１） 関係部品の清掃

①ディスク・ホイールのハブへの取り付け面とディスク・ホイール合わせ面
②ホイール・ナットの当たり面
③ハブのディスク・ホイール取付面（ISO 方式の場合はハブのはめ合い部（インロー部）を含む）
④ホイール・ボルトのねじ部
⑤ホイール・ナットのねじ部（JIS 方式の場合はホイール・ナットの座面部を含む）
等を清掃し、さび・ゴミ・泥・追加塗装等の異物を取り除く。特に、積雪地域や舗装されていない道路を走行する車両にあっては、入念に清掃する。

２）ホイール・ボルト及びホイール・ナットの潤滑

①JIS 方式の場合は、ホイール・ボルト及び、ホイール・ナットのねじ部及び、ホイール・ナットの当たり面に規定の油類を薄く塗布する。
②ISO 方式の場合は、ホイール・ナットねじ部及び、ホイール・ナットとワッシャとの間にのみ、規定の油類を塗布する。また、ハブのはめ合い部（インロー部）に規定のグリースを薄く塗布する。
（潤滑についてトレーラメーカーの指示がある場合は、その指示する方法で行うこと。）

３）ホイール・ナットの締め付け

①ディスク・ホイールの中心点を挟んで、反対側にある 2 つのホイール・ナットを交互に、かつ、個々のホイール・ナットが均等に締め付けられるように、数回に分けて徐々に締め付ける。
この場合、あらかじめ奥まで手で回して入れ、円滑に回ることを確認する。回転に引っかかりなどの異状がある場合は、ホイール・ボルト等を新品と交換する。特に、ホイール・ボルト及びホイール・ナットが新品の状態から一定期間（目安は４年）を経過している場合は、手で回して円滑に回ることを入念に確認する。
②最後にトルク・レンチなどにより、規定トルクで締め付ける。

４）インパクト・レンチで締め付ける場合

締め付け時間や圧縮空気圧力等に留意し、締めすぎないように十分注意を払う。最終的にはトルク・レンチなどにより、規定トルクで締め付ける。

３．JIS 方式のダブル･タイヤの場合の点検方法

①はじめにインナ･ナットについて、リフト・アップなどの状態で、ディスク・ホイールを取り外して行う点検及びディスク・ホイールを取り付ける際に行う点検をする。
②次にアウタ・ナットについて、インナ・ナットと同様に点検をする。

４．ディスク・ホイールの取付け後、走行により当該部位の馴染みによりボルトに緩みが生じるため、適度な走行（一般的に 50～100km走行後が最も望ましいとされている）後に、「ホイール・ナット及びホイール・ボルトの緩み」（3 月ごとの点検項目）に示す方法により、増し締めを行う。

〈ワンポイント・アドバイス〉

- **ホイール・ボルトの亀裂などにより、ホイール・ボルトを交換する場合には、その車輪の全てのホイール・ボルトとホイール・ナットをセットで交換してください。**

走行装置

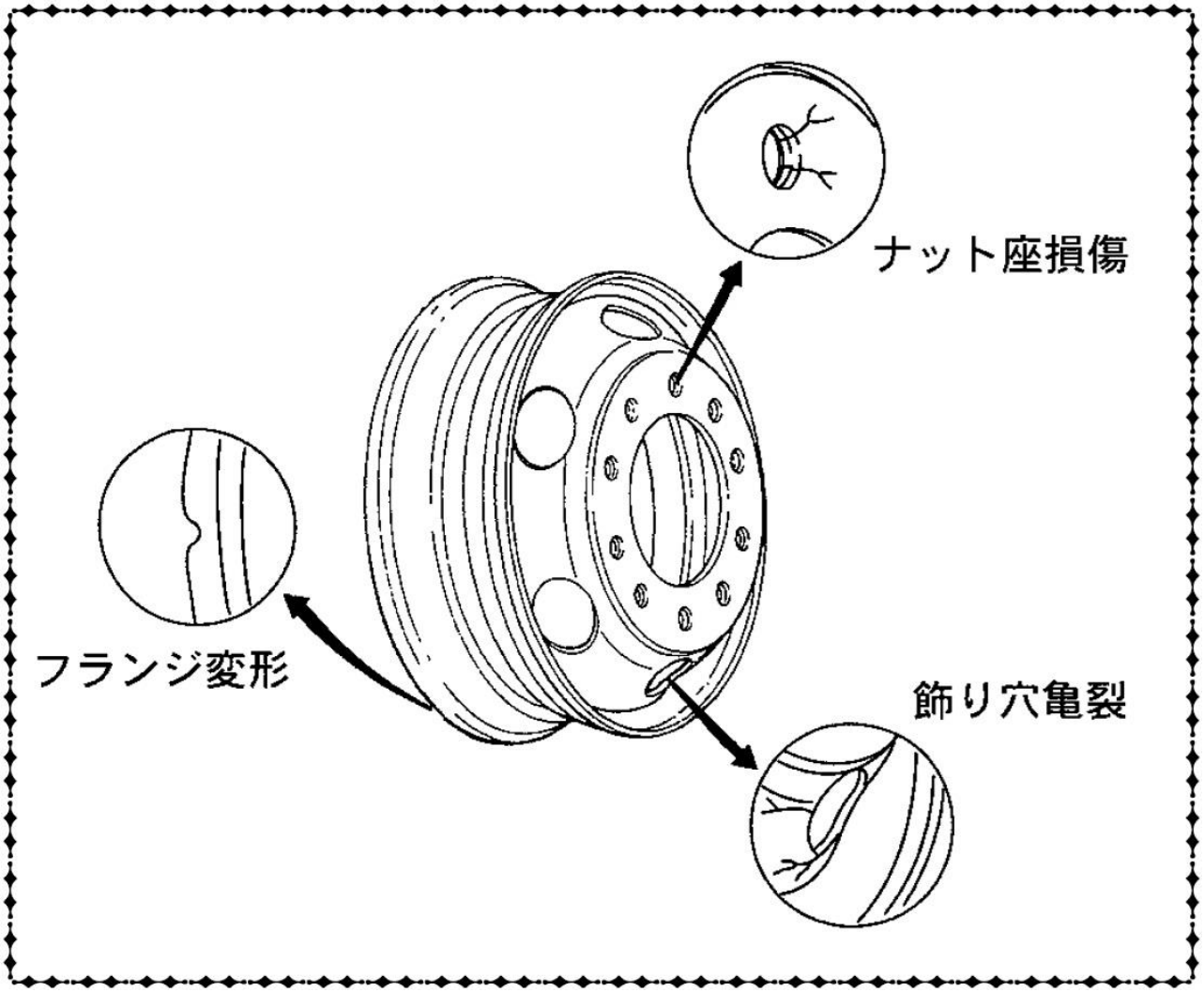
2007	2013	2016	2018

点検箇所	ホイール	点検整備時期	1月*1 3月 12月	点検の分類	メーカー指定 メーカー指定 法定点検
点検内容	ﾘﾑ、ｻｲﾄﾞ･ﾘﾝｸﾞ及び ﾃﾞｨｽｸ･ﾎｲｰﾙの損傷	点検方法	ﾘﾌﾄ･ｱｯﾌﾟ点検、目視点検		

＊１：シビア・コンディション項目（本書 20 頁参照）

1．リム、サイド・リング、ディスク・ホイールに損傷、腐食などがないかを、目視などにより点検する。また、サイド・リング付きのディスク・ホイールは合い口のすき間も規定値内（※）にあるかを点検する

※規定値については、トレーラメーカー各社発行の「取扱説明書」を参照



走行装置

2007 2013 2016 2018

点検箇所	ホイール	点検整備時期	3月*1 12月	点検の分類	メーカー指定 法定点検
点検内容	ﾎｲｰﾙ･ﾍﾞｱﾘﾝｸﾞのがた	点検方法	ﾘﾌﾄ･ｱｯﾌﾟ点検、触手点検又は聴音点検		

＊１：シビア・コンディション項目（本書 20 頁参照）

1．リフト・アップなどの状態で、タイヤの上下に手を掛けて動かし、がたがないかを点検する。がたがある場合にはブレーキを作動させて再度点検し、ホイール・ベアリングのがたであるかどうかを点検する。（ブレーキを作動させて再度点検した時にがたがなくなれば、サスペンションのがたではなくホイール・ベアリングのがたとなる。）

2．ホイールを回転させて、異音がないかを点検する。

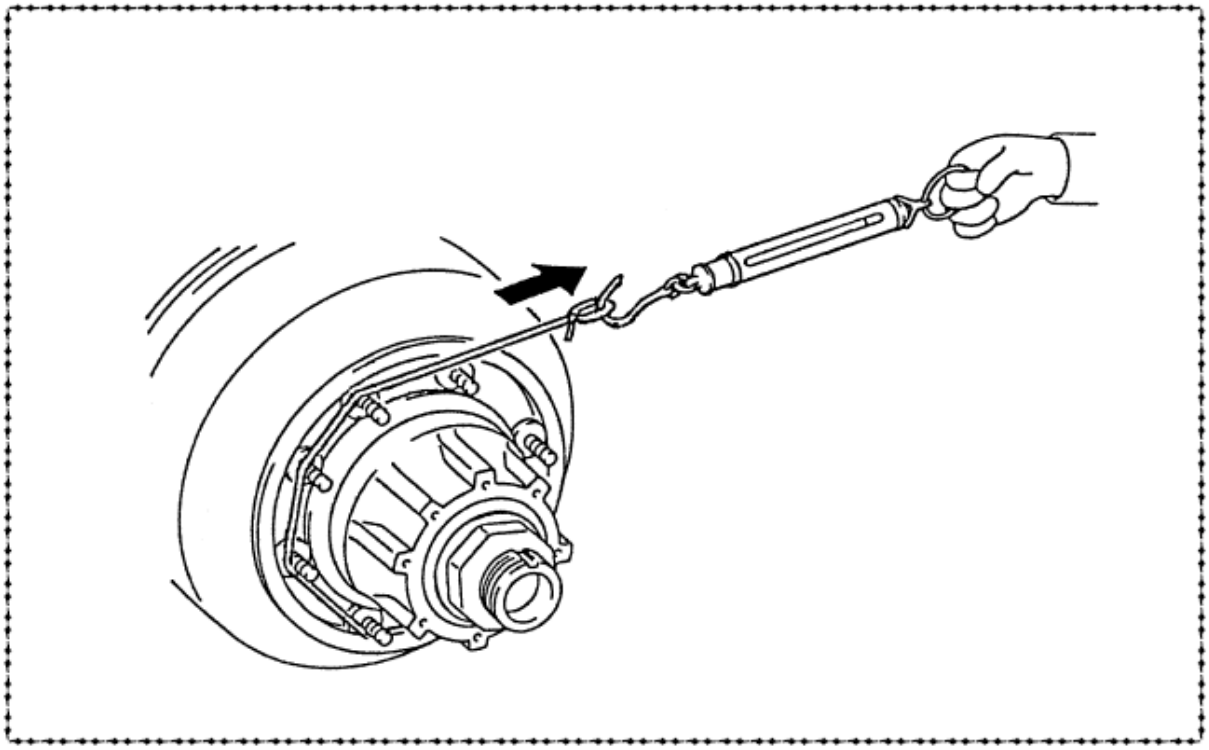
3．アクスル・ナットが緩んでいないかを点検する。

4．ホイール･ベアリングのアウタ･レース及び、ローラーに異状な摩耗、錆、損傷がないかを点検する。

〈ワンポイント・アドバイス〉

- **ホイール・ベアリングのプリロード過多・過少は、脱輪や火災の原因にもなるので十分な注意が必要です。**
- **組立てにあたってはベアリングのプリロードが規定値（※）にあるかを確認してください。**
  ※プリロードの規定値については、トレーラメーカー各社発行の「取扱説明書」を参照

プリロードの測定方法は、下図のように行う



走行装置

2007 2013 2016 2018

点検箇所	ホイール	点検整備時期	3月 12月	点検の分類	メーカー指定 メーカー指定
点検内容	ハブ・キャップの取付状態	点検方法	目視点検、測定点検		

2007 年版適用車では、本点検項目は「アクスルの亀裂、損傷及び変形」の点検に含めて取り扱うことを推奨

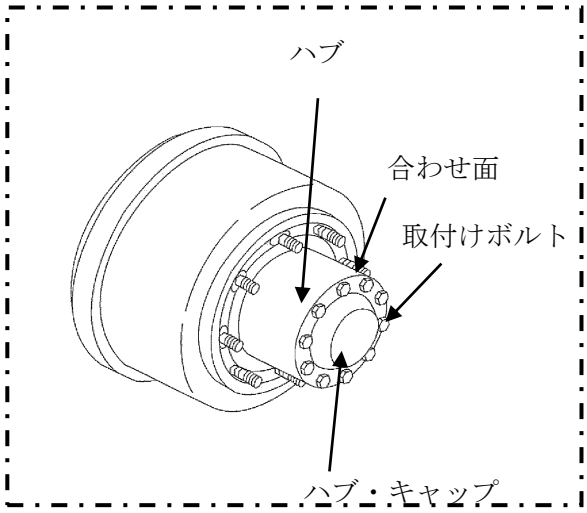
【ボルトタイプの場合】

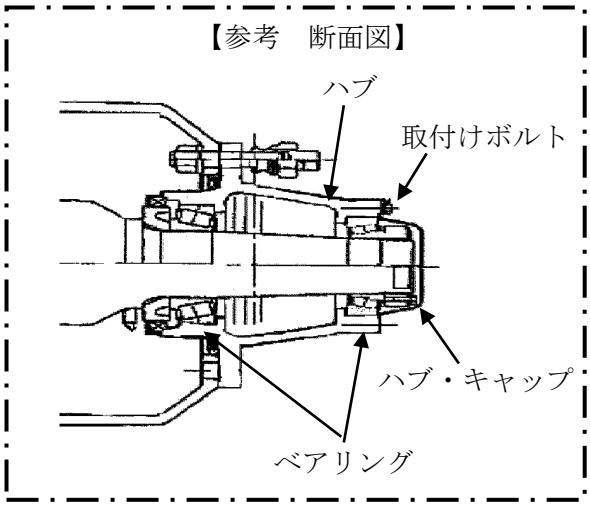
1．車両を安全な場所に停止し、ハブ・キャップ取付け部の取付けボルトに緩みがないかを点検する。

1）取付けボルトに緩みがあるときは、メーカー規定のトルクにて取付けボルトを締め付ける。

2）ハブとハブ・キャップとの合わせ面からグリースが出てきていないか目視で点検する。グリースが出てきているときは、ハブ・キャップを取り外し、ベアリング・グリースをハブ・キャップ内に充填する。

※ベアリング・グリースはメーカー推奨品を使用のこと。

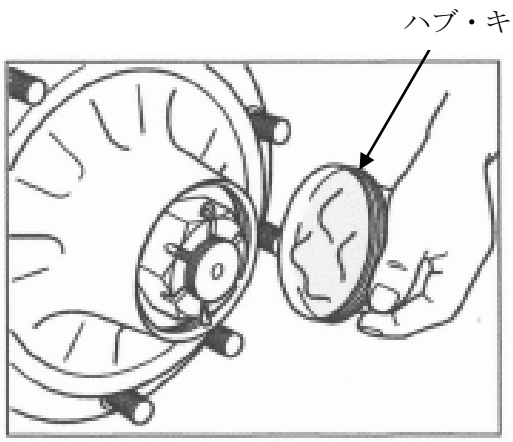


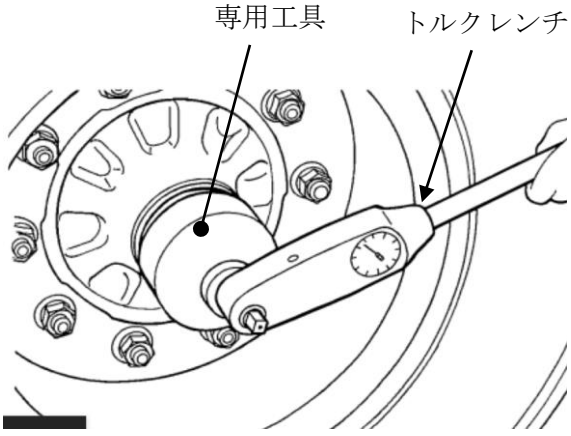


【ねじ込みタイプの場合】

1．車両を安全な場所に停止し、ハブ・キャップに緩みがないかを点検する。

2．緩みがある場合は、メーカー指定の工具を使用して規定のトルクで締める。
（トルクの規定値については、取扱説明書等による）
ハブ・キャップのねじが損傷している場合は新品に交換する。その場合、ハブ・キャップのねじ部には耐熱グリースを塗布し取付ける。





走行装置

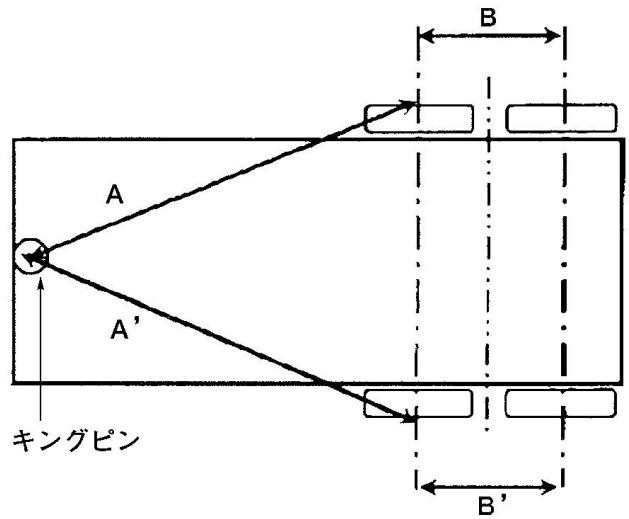
2007 2013 2016 2018

点検箇所	ホイール	点検整備時期	12月	点検の分類	メーカー指定
点検内容	車軸のｱﾗｲﾒﾝﾄ	点検方法	目視点検、測定点検		

1．タイヤの空気圧が適正であるかを点検する。 次にタイヤの異状摩耗がないかを、目視などにより点検し、異状摩耗が見られた場合は下記の要領で点検する。

2．平坦な場所でトラクタから切り離し、キングピンから車軸左右中心までの長さ及び、車軸間の長さの左右差が基準内にあるかを、スケールなどにより点検する。

※トレーラ車軸アライメント点検整備要領､左右差基準は､各トレーラメーカーの取扱説明書などの指示による。



A＝A’ キングピン中心から車軸中心間距離
B＝B’ 車軸中心間距離

緩衝装置

2007 2013 2016 2018

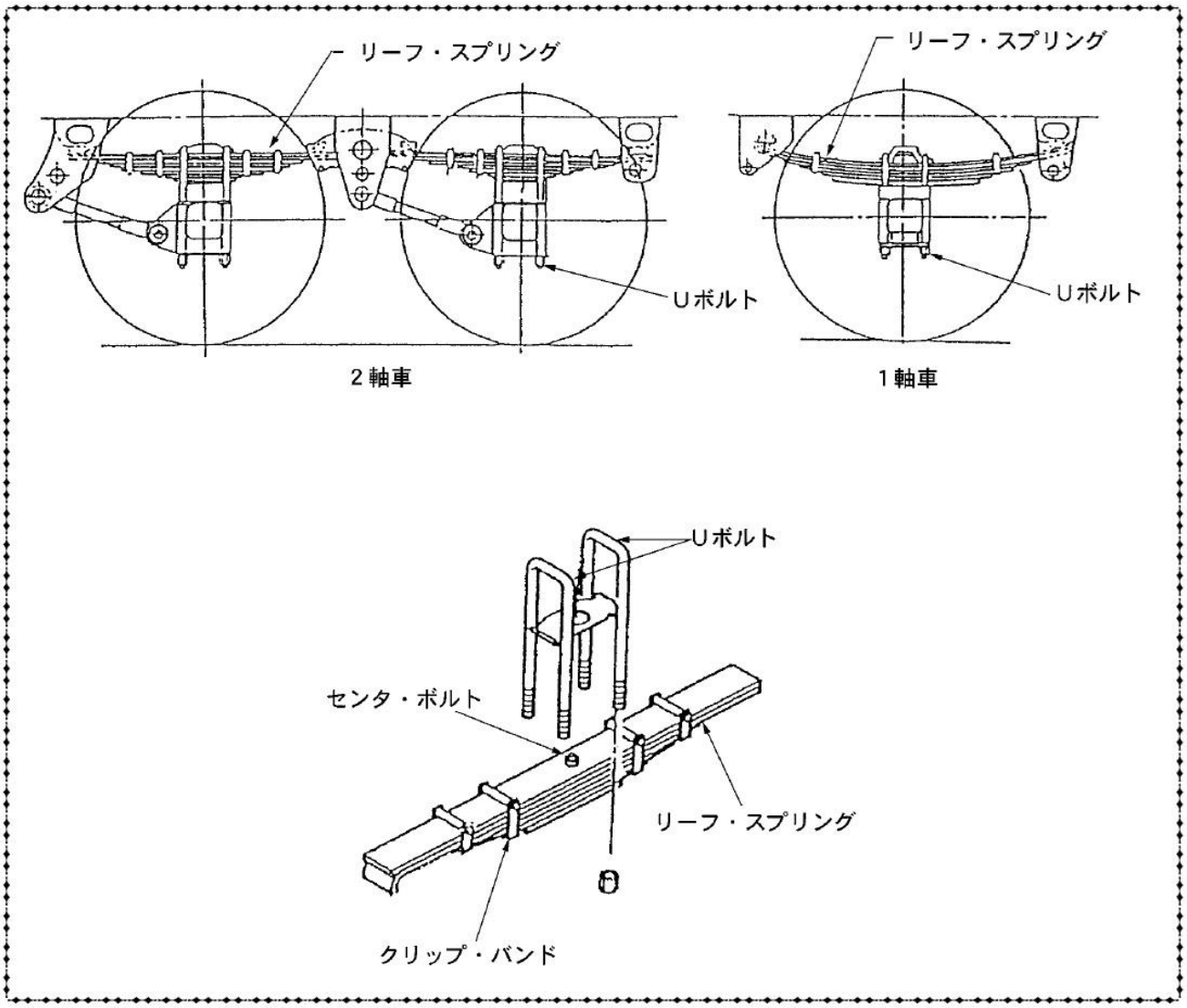
点検箇所	リーフ・サスペンション	点検整備時期	1月*1 3月 12月	点検の分類	メーカー指定 法定点検 法定点検
点検内容	ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞの損傷	点検方法	目視点検、手工具による点検 ﾘﾌﾄ･ｱｯﾌﾟ点検		

【リーフ・サスペンション車のみ】　　＊１：シビア・コンディション項目(本書 20 頁参照)

1．リフト・アップなどの状態で、リーフ・スプリングに折損、亀裂などがないかを、目視などにより点検する。

2．リーフ・スプリングに塗装剥離、腐食がないか目視などにより点検する。

3．リーフ・スプリングに左右、または前後方向にズレがないか目視などにより点検する。



緩衝装置

2007	2013	2016	2018

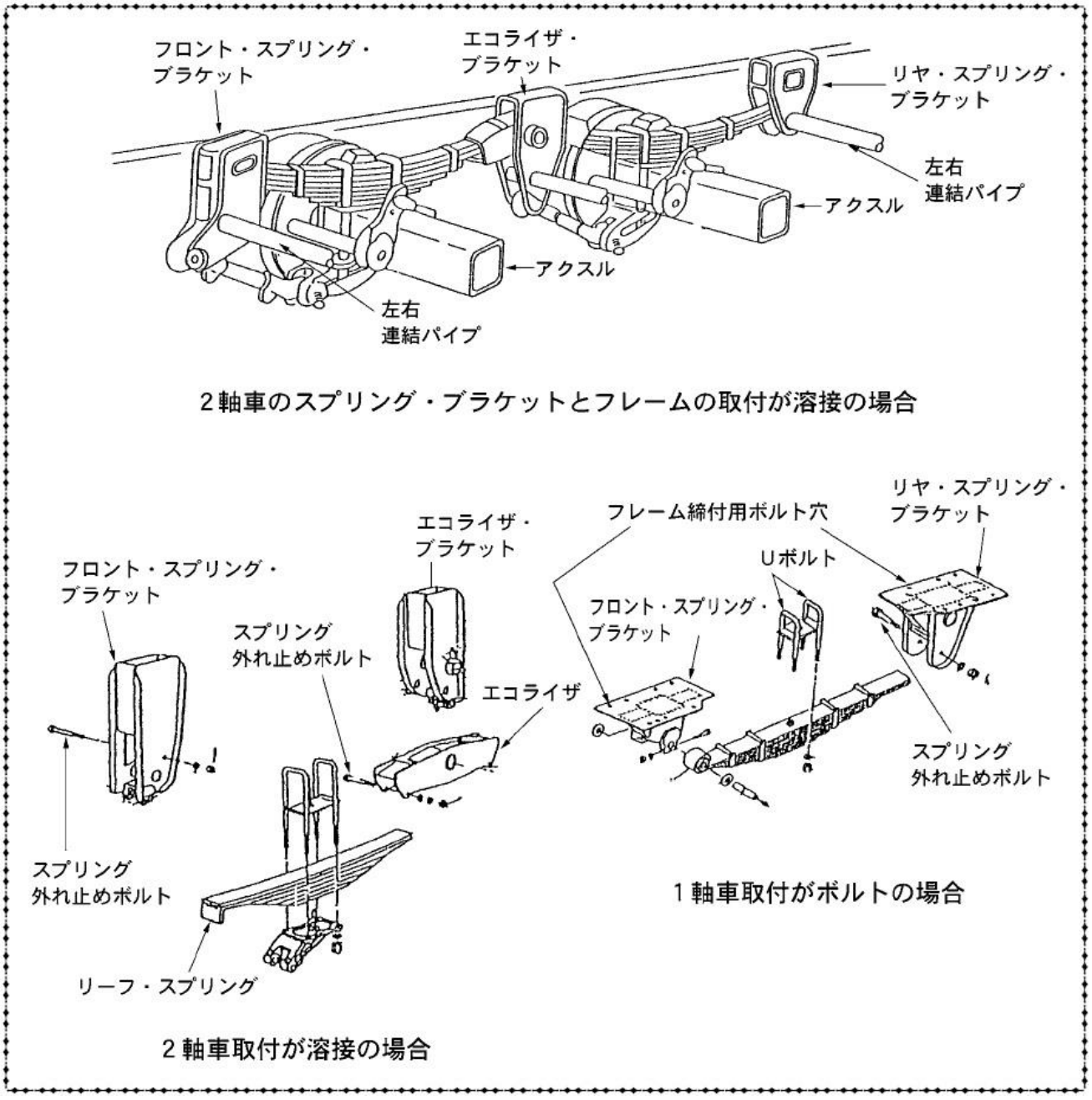
点検箇所	リーフ・サスペンション	点検整備時期	3月 12月 *3	点検の分類	メーカー指定 法定項目 メーカー指定
点検内容	取付部及び連結部の緩み、がた及び損傷	点検方法	目視点検、手工具による点検 ﾘﾌﾄ・ｱｯﾌﾟ点検		

【リーフ・サスペンション車のみ】　　＊３：納入後及び交換後１月

1. 取付け部の緩み及び損傷

1）スプリング・ブラケット本体、スプリング・ブラケットとフレームの溶接部及び、各ブラケット左右連結パイプの溶接部に亀裂、損傷がないかを、目視などにより点検する。
また、スプリング・ブラケットとフレームとの取付けがボルトによる取付けの物については、取付けボルトに緩みがないかを、スパナなどにより点検する。

2）スプリング外れ止めボルトなどに緩みがないかを、スパナなどにより点検すると共に摩耗がないかを、目視による点検をする。



緩衝装置

2007	2013	2016	2018

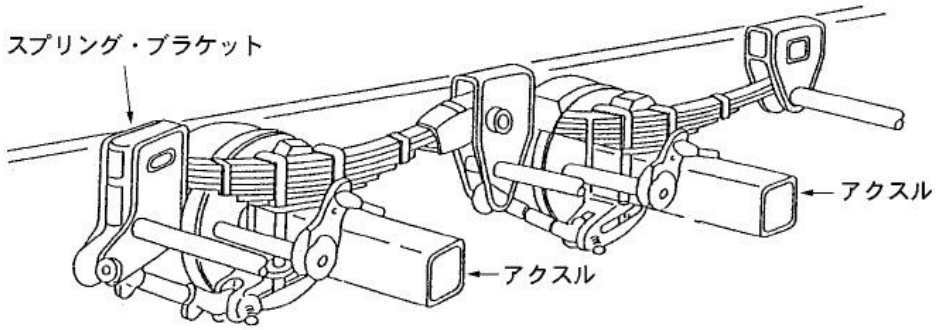
点検箇所	リーフ・サスペンション	点検整備時期	3月 12月 *3	点検の分類	メーカー指定 法定項目 メーカー指定
点検内容	取付部及び連結部の緩み、がた及び損傷	点検方法	目視点検、手工具による点検 ﾘﾌﾄ・ｱｯﾌﾟ点検		

【リーフ・サスペンション車のみ】　　＊３：納入後及び交換後１月

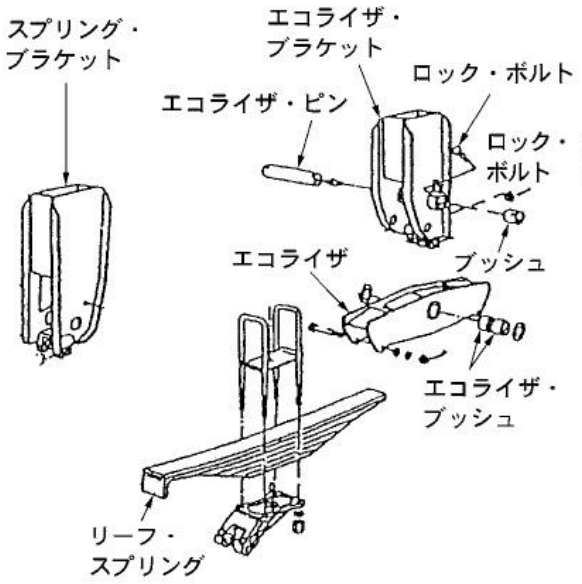
２．連結部のがた

１）リーフ・スプリングまたはエコライザを「てこ棒」などで揺するなどしてスプリング・ピン（1 軸車）又は、エコライザ・ピン（2 軸車、3 軸車）の軸方向、あるいは直角方向にがたがないか点検する。
各ピン部分を分解する場合は、ピンとブッシュに異状な摩耗がないかを、目視などにより点検する。

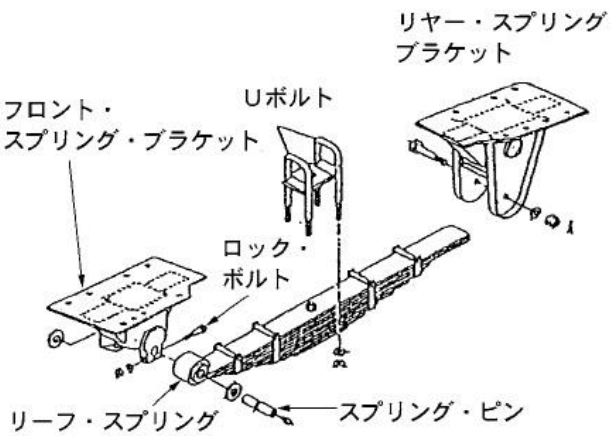
２）スプリング・ピン（1 軸車）エコライザ・ピン（2 軸車・3 軸車）のロック・ボルトに緩みがないか、点検ハンマ及び、スパナなどにより点検する。



２軸車リーフ・スプリングサスペンション



２軸車
３軸車　の分解図



１軸車の分解図

緩衝装置

2007 2013 2016 2018

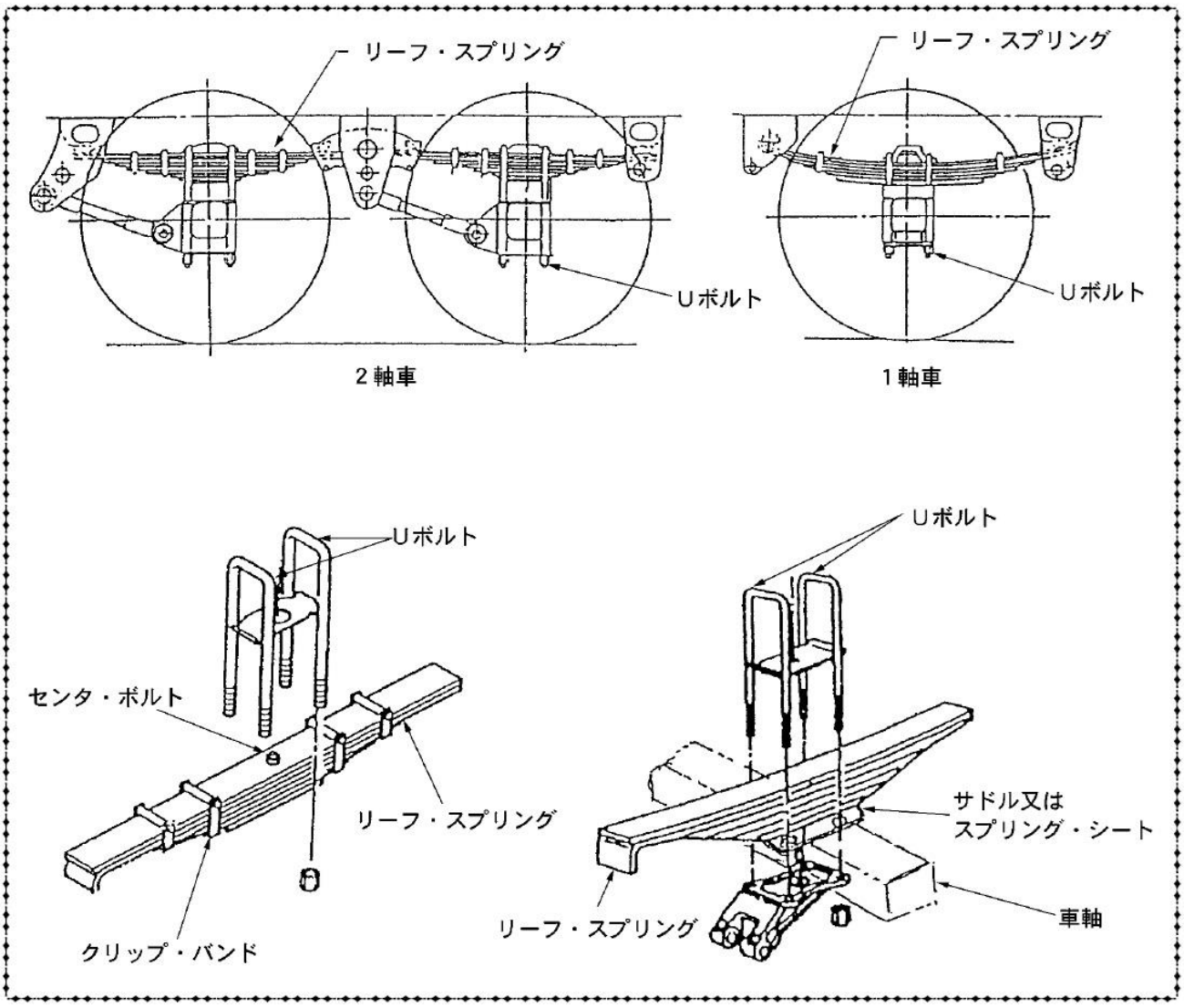
点検箇所	リーフ・サスペンション	点検整備時期	3月 12月 *3	点検の分類	メーカー指定 法定項目 メーカー指定
点検内容	取付部及び連結部の 緩み、がた及び損傷	点検方法	目視点検、手工具による点検 ﾘﾌﾄ・ｱｯﾌﾟ点検		

【リーフ・サスペンション車のみ】　　＊３：納入後及び交換後１月

３．Uボルトの緩み及び損傷

１）リーフ・スプリングのUボルト、サドル、スプリング・シートなどに損傷、緩みズレがないかを、目視、点検ハンマ、スパナなどにより点検する。

２）リーフ・スプリングのクリップ・バンドに緩みがないかを点検ハンマ及び、スパナなどにより点検する。
また、損傷がないかを目視などにより点検する。



緩衝装置

2007 2013 2016 2018

点検箇所	リーフ・サスペンション	点検整備時期	3月 12月 *3	点検の分類	メーカー指定 法定項目 メーカー指定
点検内容	取付部及び連結部の 緩み、がた及び損傷	点検方法	目視点検、手工具による点検 ﾘﾌﾄ・ｱｯﾌﾟ点検		

【リーフ・サスペンション車のみ】　　＊３：納入後及び交換後１月

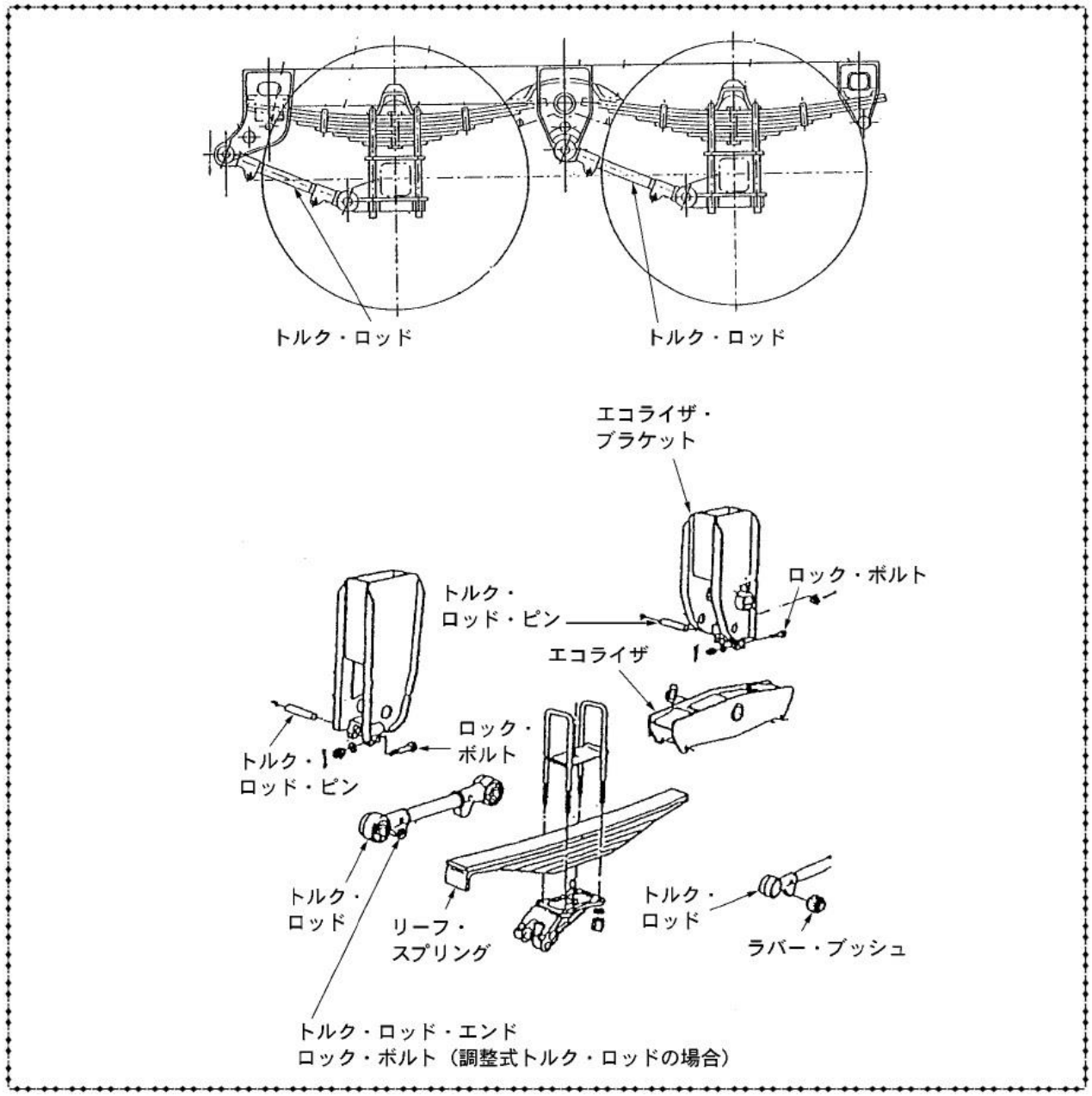
４．トルク・ロッド（ラジアス・ロッド）の連結部のがた

１）トルク・ロッド（ラジアス・ロッド）の連結部にがたがないかを、点検ハンマ及び、手で揺するなどして点検する。
トルク・ロッド（ラジアス・ロッド）部を分解する場合は、ラバー・ブッシュの連結穴に摩耗及び、ゴムの劣化などないかを、目視などにより点検する。

２）トルク・ロッド（ラジアス・ロッド）に曲りなどの変形がないかを、目視などにより点検する。

３）トルク･ロッド（ラジアス･ロッド）ピンのロック･ボルトに緩みがないかを、点検ハンマ及び、スパナなどにより点検する。

４）調整式トルク・ロッド（ラジアス・ロッド）の場合は、トルク・ロッド・エンド・ロック・ボルトに緩みがないかを、点検ハンマ及び、スパナなどにより点検する。



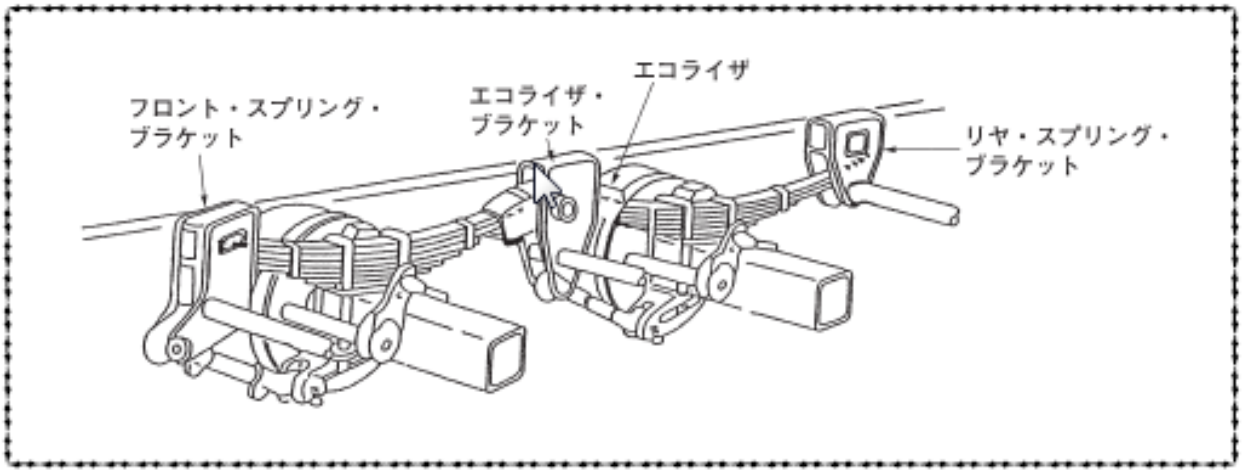
緩衝装置

2007 2013 2016 2018

点検箇所	リーフ・サスペンション	点検整備時期	12月	点検の分類	メーカー指定
点検内容	ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞ摺動面の摩耗	点検方法	目視点検、ﾘﾌﾄ･ｱｯﾌﾟ点検		

【リーフ・サスペンション車のみ】

1．リフト・アップなどの状態で、スプリング・ブラケット及び、エコライザのリーフ・スプリングとの摺動面に、異状な摩耗などがないかを、目視などにより点検する。



緩衝装置

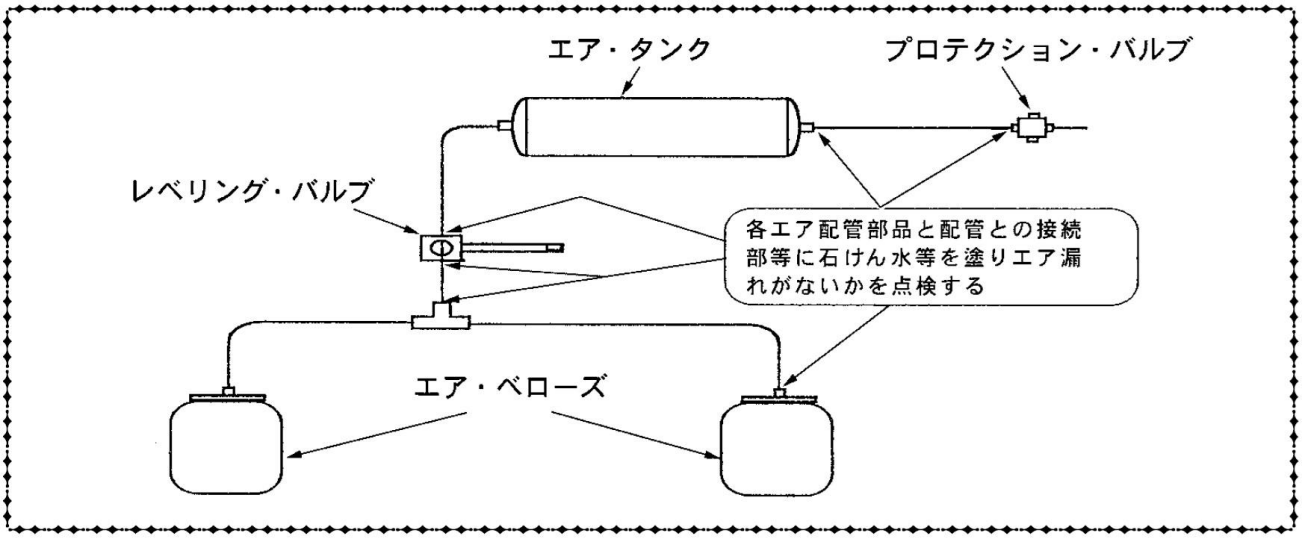
2007 2013 2016 2018

点検箇所	エア・サスペンション	点検整備時期	3月 12月	点検の分類	法定点検 法定点検
点検内容	エア漏れ	点検方法	目視点検、ﾘﾌﾄ･ｱｯﾌﾟ点検、測定点検		

【エア・サスペンション車のみ】【連結状態】

1．トラクタと連結させ、エンジンを始動させ、エア・タンク内圧力が規定値（※）に達したときエンジンを停止し、圧力計により空気圧の保持状態からエア漏れがないかを点検する。
※規定値についてはトレーラメーカー各社発行の「取扱説明書」を参照

2．リフト・アップなどの状態で、ベローズ、レベリング・バルブ、及び、パイプの接続部などに石けん水などを塗布し、エア漏れがないかを、目視などにより点検する。



緩衝装置

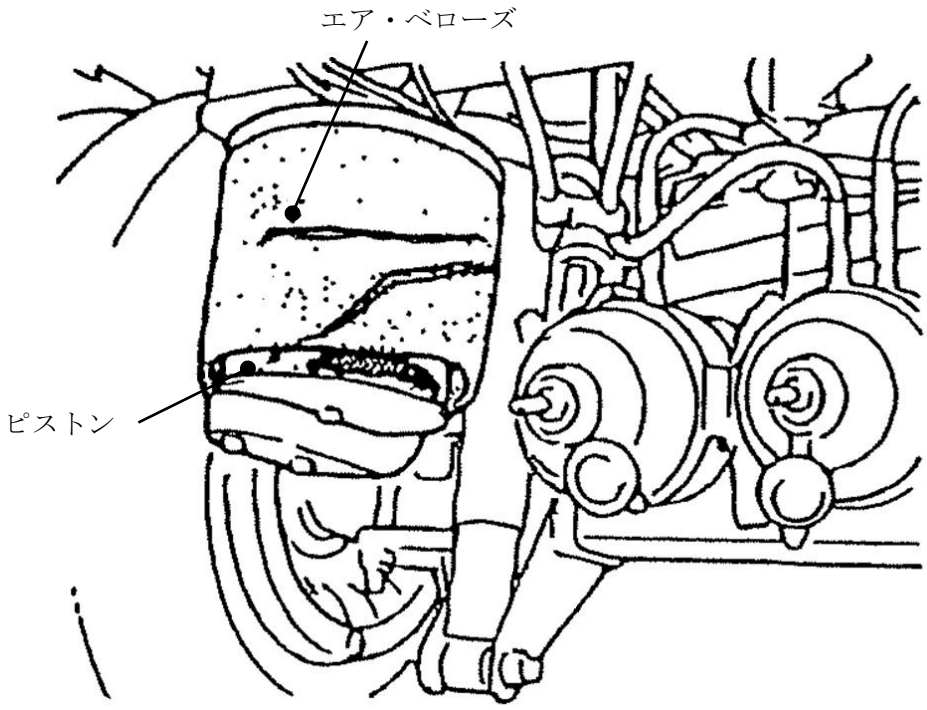
2007 2013 2016 2018

点検箇所	エア・サスペンション	点検整備時期	1月*1 3月*2 12月*2	点検の分類	メーカー指定 法定項目 法定項目
点検内容	ベローズの損傷	点検方法	目視点検		

【エア・サスペンション車のみ】【連結状態】

＊１：シビア・コンディション項目（本書 20 頁参照）
＊２：距離項目（本書 7 頁参照）

１．リフト・アップなどの状態で、ベローズに損傷がないかを、目視などにより点検する。



〈ワンポイント・アドバイス〉

● ベローズは定期交換部品となっているので、メーカーの指定する時期に交換する必要があります。

緩衝装置

2007 | 2013 | 2016 | 2018

点検箇所		点検整備時期		点検の分類	
	エア・サスペンション		1月*1 3月 12月		メーカー指定 メーカー指定 メーカー指定
点検内容		点検方法			
	ﾄﾚｰﾘﾝｸﾞ・ｱｰﾑの損傷		目視点検、リフト・アップ点検		

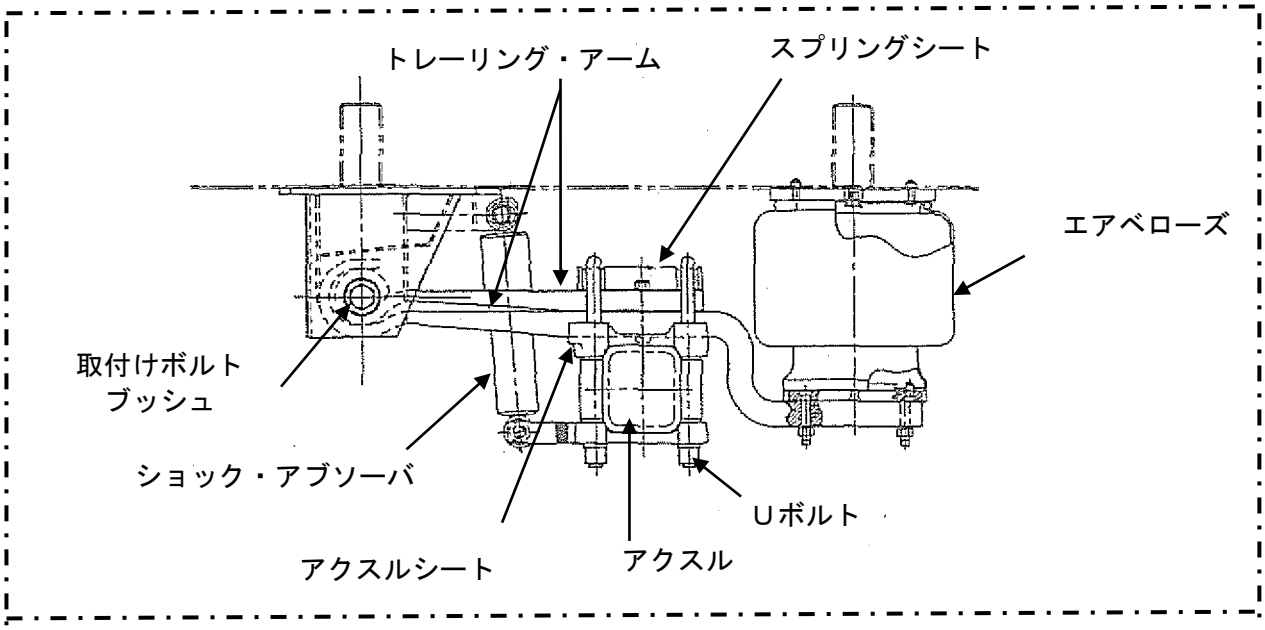
【エア・サスペンション車のみ】【連結状態】　　＊１：シビア・コンディシヨン項目（本書 20 頁参照）

2007 年版適用車では、本点検項目は「エア・サスペンションの取付部及び連結部の緩み並びに損傷」の点検に含めて取り扱うことを推奨

１．リフト・アップなどの状態で、トレーリング・アームに折損、亀裂などがないかを、目視などにより点検する。

２．トレーリング・アームが２枚構成の場合、左右、または、前後方向にズレがないか確認する。

３．トレーリング・アームに塗装剥離、腐食がないか目視などにより確認する。



緩衝装置

2007 2013 2016 2018

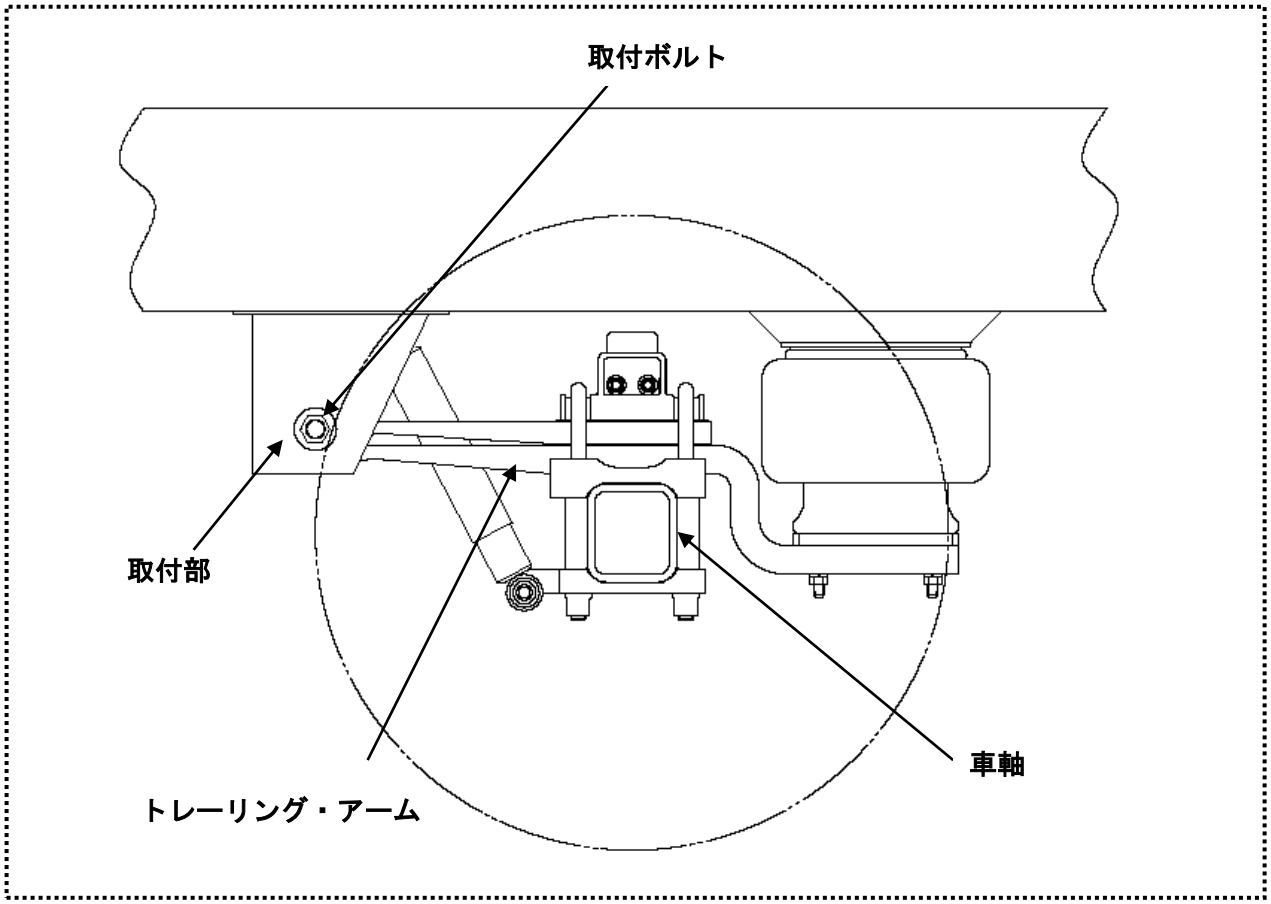
点検箇所	エア・サスペンション	点検整備時期	3月 12月	点検の分類	メーカー指定 メーカー指定
点検内容	ﾄﾚｰﾘﾝｸﾞ・ｱｰﾑ取付ﾎﾞﾙﾄの緩み	点検方法	手工具による点検		

【エア・サスペンション車のみ】【連結状態】

2007 年版適用車では、本点検項目は「エア・サスペンションの取付部及び連結部の緩み並びに損傷」の点検に含めて取り扱うことを推奨

1．取付けボルトが規定トルクで締まっているか、トルクレンチ等を使用して確認する。

2．緩みがある場合は、トルクレンチなどを使用して規定トルクで締付ける。
規定トルクは、各トレーラメーカーの取扱説明書などの指示による。



〈ワンポイント・アドバイス〉

- 取付ボルトが緩んだ状態で使用を続けると、取付ボルトだけでなく、トレーリング・アームやトレーリング・アームの取付部にも重大な損傷を及ぼす恐れがあるので、定期点検は重要です。
- 規定トルクで締まっていても、取付ボルト部にサビやズレがある場合は取付ボルト・ナットが緩んだ状態でサビで固着している場合が多いので、取付ボルト・ナットを新品と交換し規定トルクで締付ける。

緩衝装置

2007	2013	2016	2018

点検箇所	エア・サスペンション	点検整備時期	3月*2 12月*2 *3	点検の分類	法定項目 法定項目 メーカー指定
点検内容	取付部及び連結部の緩み並びに損傷	点検方法	目視点検		

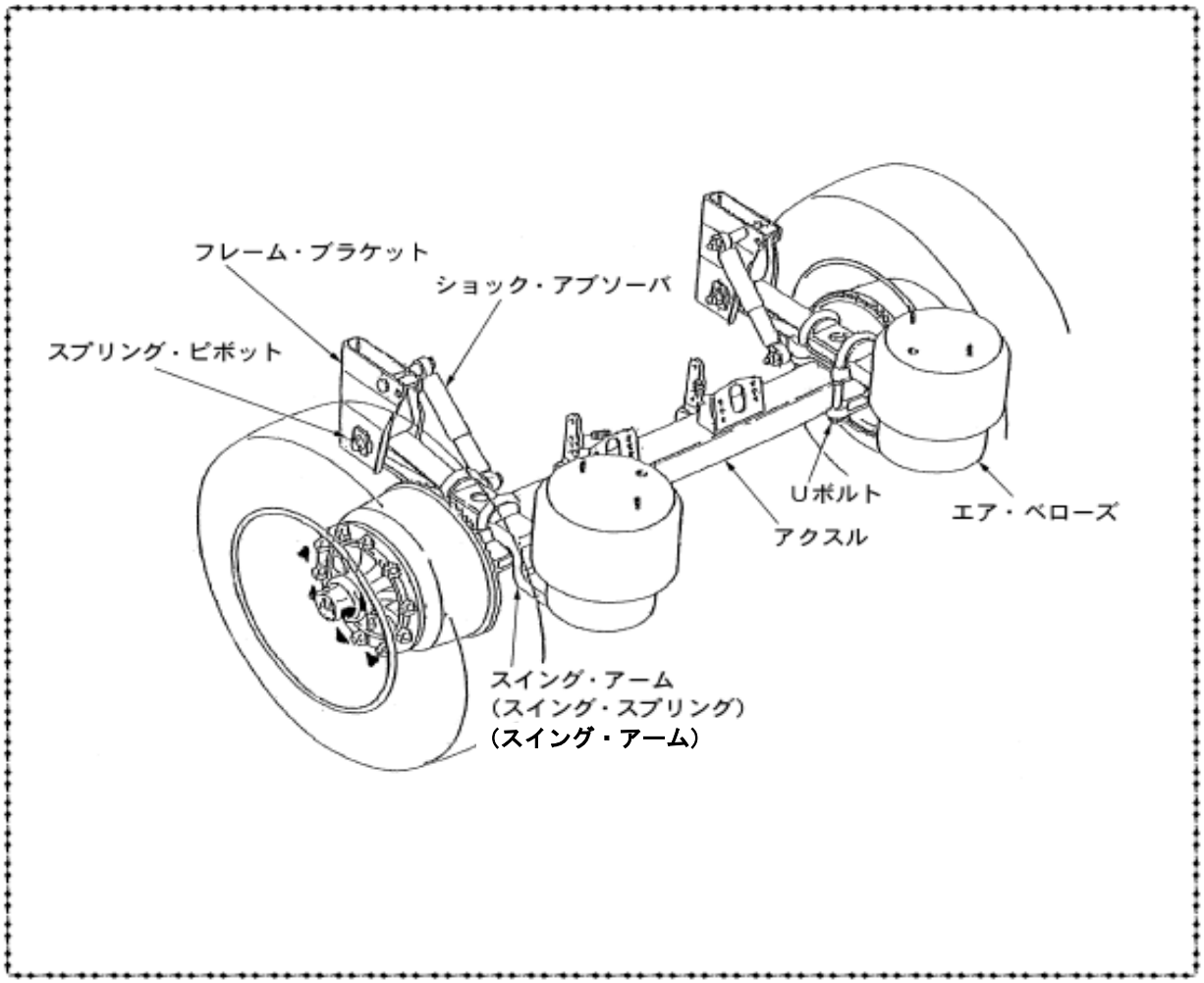
【エア・サスペンション車のみ】【連結状態】

＊２：距離項目（本書７頁参照）
＊３：納入後及び交換後１月

2007 年版適用車では、本点検項目に「エア・サスペンションのトレーリング・アームの損傷」の点検、「エア・サスペンションのトレーリング・アーム取付ボルトの緩み」の点検を含めて取り扱うことを推奨

1．フレーム・ブラケット、スプリング・ピボット、エア・ベローズ、Uボルト、ショック・アブソーバ、スイング・アーム（トレーリング・アーム）などの取付け部、または、連結部などに緩みがないかを、トルク・レンチなどにより点検する。

2．各取付け部と連結部に損傷がないかを、目視などにより点検する。



〈ワンポイント・アドバイス〉

- 取付け部、連結部の締付トルクが、メーカーにより規定されている場合は、締付トルクを点検してください。
- 新車時（部品交換時）は走行時のなじみにより、取付けボルトに緩みが生じることがありますので、使用初期の点検整備が重要です。

緩衝装置

2007 2013 2016 2018

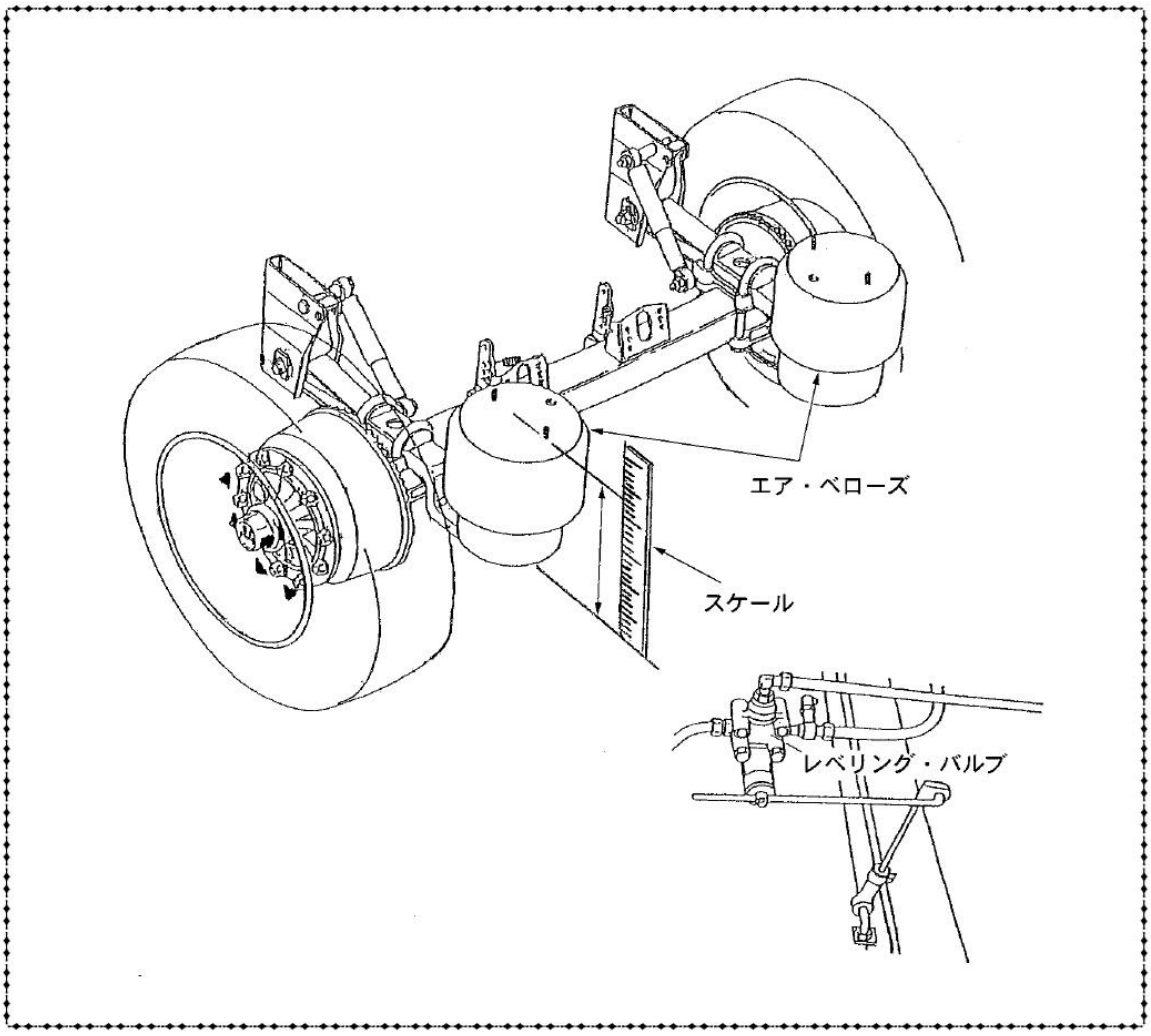
点検箇所	エア・サスペンション	点検整備時期	12月	点検の分類	法定点検
点検内容	ﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ･ﾊﾞﾙﾌﾞの機能	点検方法	測定点検		

【エア・サスペンション車のみ】【連結状態】

1．トラクタと連結し、規定の空気圧の状態でレベリング・バルブのレバーを操作し、車高が上下するかを点検する。

2．車両を水平な場所に置き、エア・タンク内圧力が規定の範囲にあることを確認した後、ベローズの高さが規定の範囲にあることをスケールなどにより点検する。

※ 規定の空気圧，規定のベローズ高さについては、各メーカーの取扱説明書などの指示による。



〈ワンポイント・アドバイス〉

● ベローズの高さ調整は、車高に影響するので必ず規定の高さにセットしてください。この調整は、サスペンション系統にエアを充填し、エア圧が規定値以内にあることを確認した後、レベリング･バルブ･ロッドの取付けを緩め、ロッド調整によりベローズの高さが規定値になるように調整してください。

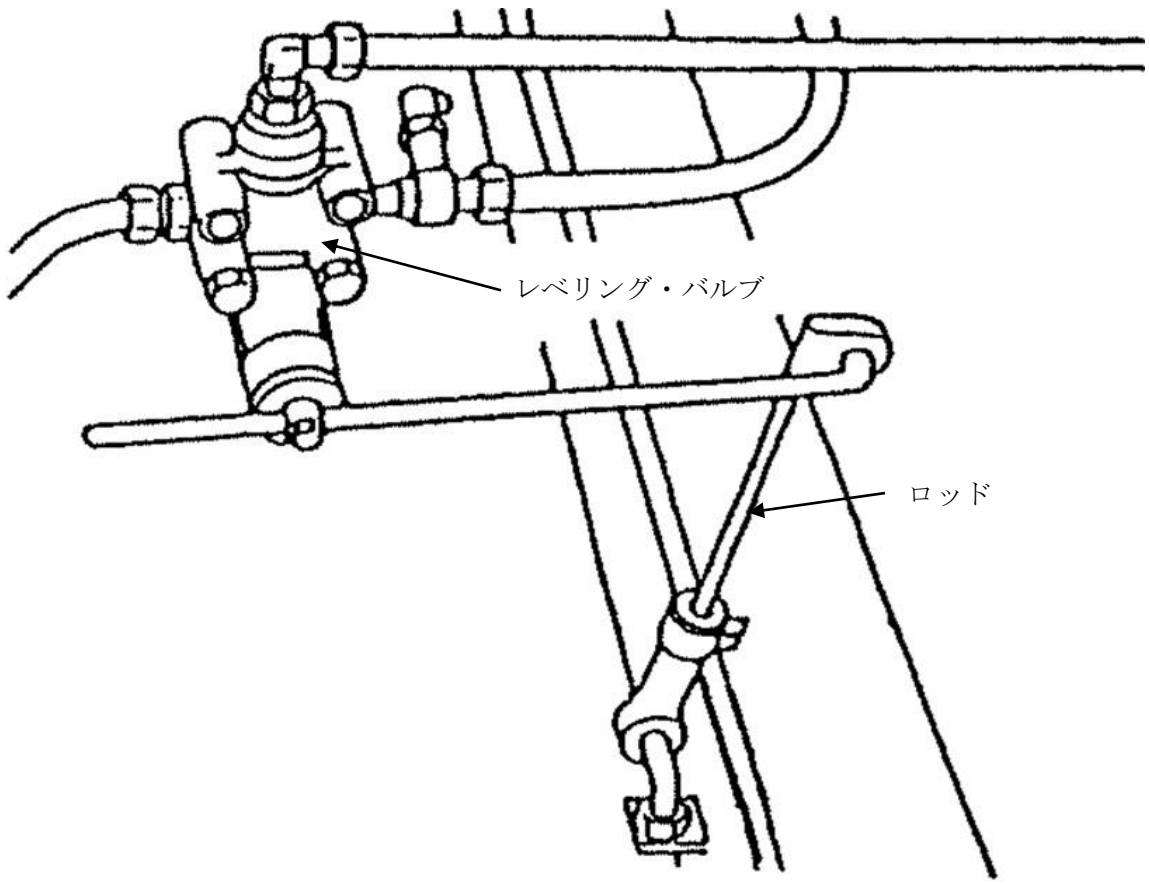
緩衝装置

2007 2013 2016 2018

点検箇所	エア・サスペンション	点検整備時期	3月 12月	点検の分類	メーカー指定 メーカー指定
点検内容	ﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ･ﾊﾞﾙﾌﾞのﾛｯﾄﾞ取付部の損傷	点検方法	目視点検		

【エア・サスペンション車のみ】【連結状態】

1．レベリング・バルブのロッド取付け部に損傷がないかを、目視などにより点検する。



緩衝装置

2007 2013 2016 2018

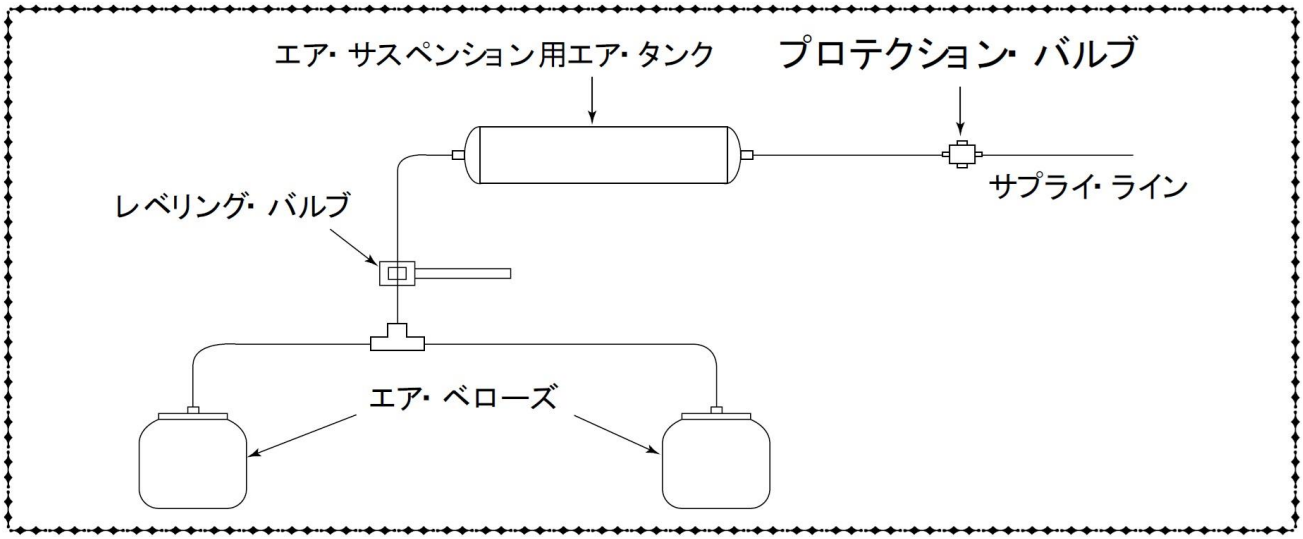
点検箇所	エア・サスペンション	点検整備時期	12月	点検の分類	メーカー指定
点検内容	ﾌﾟﾛﾃｸｼｮﾝ･ﾊﾞﾙﾌﾞの機能	点検方法	目視点検		

【エア・サスペンション車のみ】【連結状態】

1．エア・サスペンション用のエア・タンクの空気圧を空にして、プロテクション・バルブの出口側を解放し、サプライ・ライン（エマージェンシ・ライン）のホース・カップリングから圧力計を介して徐々にエアを供給する。

規定の空気圧でプロテクション・バルブの出口側からの排気があるかを点検する。

※ 規定の空気圧については、各メーカーの取扱説明書などの指示による。



緩衝装置

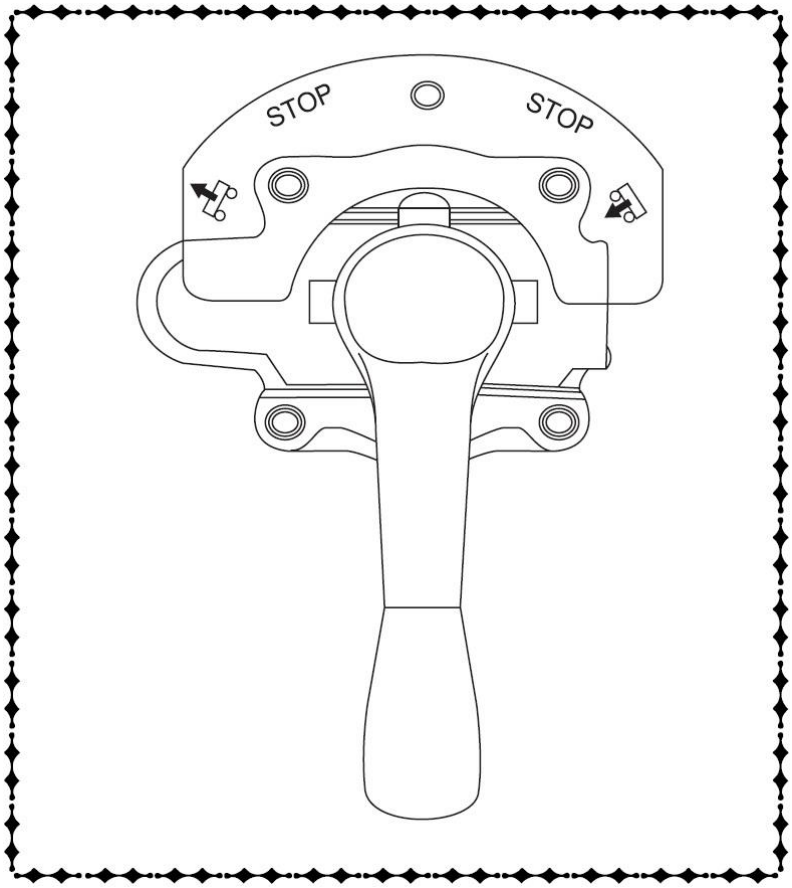
2007 2013 2016 2018

点検箇所	エア・サスペンション	点検整備時期	12月	点検の分類	メーカー指定
点検内容	ﾊｲﾄ･ｺﾝﾄﾛｰﾙ･ﾊﾞﾙﾌﾞの機能	点検方法	目視点検		

【エア・サスペンション車のみ】【連結状態】

1. トラクタと連結させ、規定の空気圧の状態で、ハイト・コントロール・バルブのレバーを操作し、トレーラの後部が上昇、停止、下降するかを点検する。
   また、トレーラをレバー操作で上昇させたとき、上限の位置で自動的に停止するかを点検する。

※ 上限の位置については、各メーカーの取扱説明書などの指示による。



緩衝装置

2007 2013 2016 2018

点検箇所	ショック・アブソーバ	点検整備時期	3月 12月	点検の分類	法定項目 法定項目
点検内容	油漏れ及び損傷	点検方法	目視点検		

【取付車のみ】

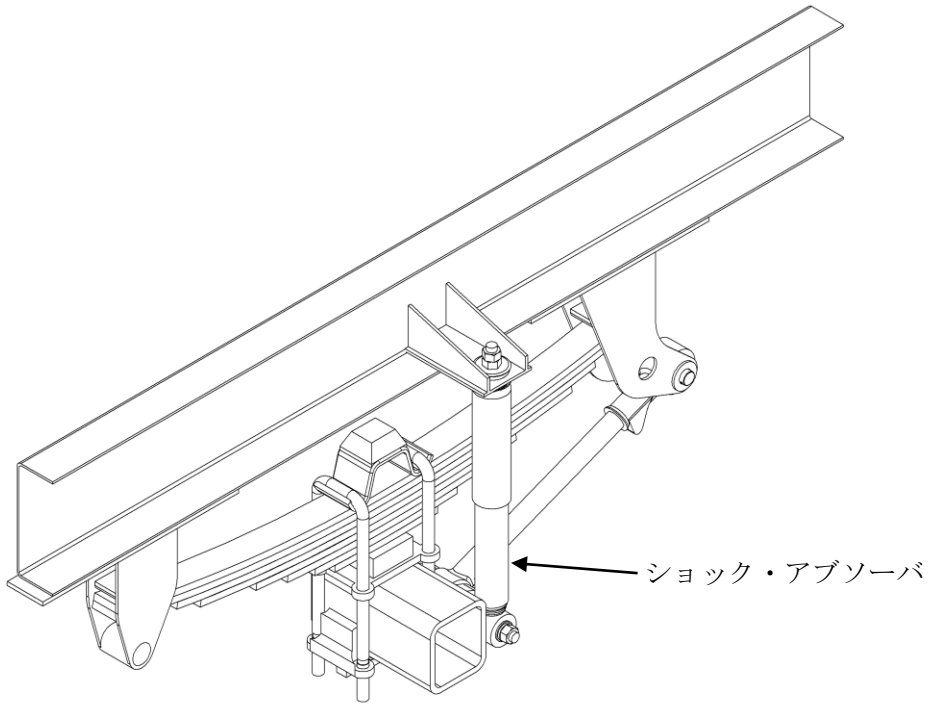
2007 年版適用車では、本点検項目に「ショック・アブソーバの取付ボルトの緩み」の点検を含めて取り扱うことを推奨

１．ショック・アブソーバに油漏れがないかを、目視などにより点検する。

２．ショック・アブソーバに損傷がないかを、目視などにより点検する。

３．ショック・アブソーバの取付け部に損傷がないかを、目視などにより点検する。

※ 油漏れなどの判断については、各トレーラメーカーの取扱説明書などの指示による。



緩衝装置

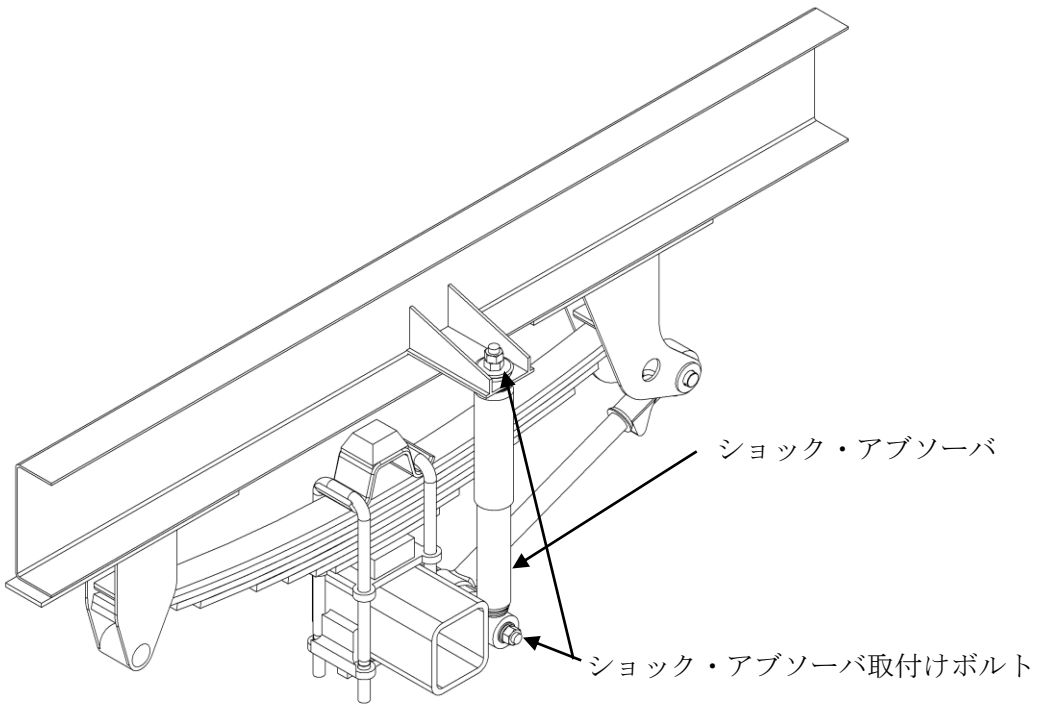
2007 2013 2016 2018

点検箇所	ショック・アブソーバ	点検整備時期	12月 *3	点検の分類	メーカー指定 メーカー指定
点検内容	取付ﾎﾞﾙﾄの緩み	点検方法	目視点検、手工具による点検		

【取付車のみ】　　＊３：納入後及び交換後１月

2007 年版適用車では、本点検項目は「ショック･アブソーバの油漏れ及び損傷」の点検に含めて取り扱うことを推奨

1. ショック・アブソーバ取付けボルトに緩みがないかを、点検ハンマ及びトルク・レンチなどにより点検する。
   ＊ショック・アブソーバ取付けボルトの締付トルクについては、各メーカーの取扱説明書などの指示による。



〈ワンポイント・アドバイス〉

- 新車時（部品交換時）は走行時のなじみにより、取付けボルトに緩みが生じることがあります。走行時に受ける激しい振動を吸収するエア・サスペンション装置は、より過酷にこの影響を受けるため、使用初期の点検整備が重要です。

緩衝装置

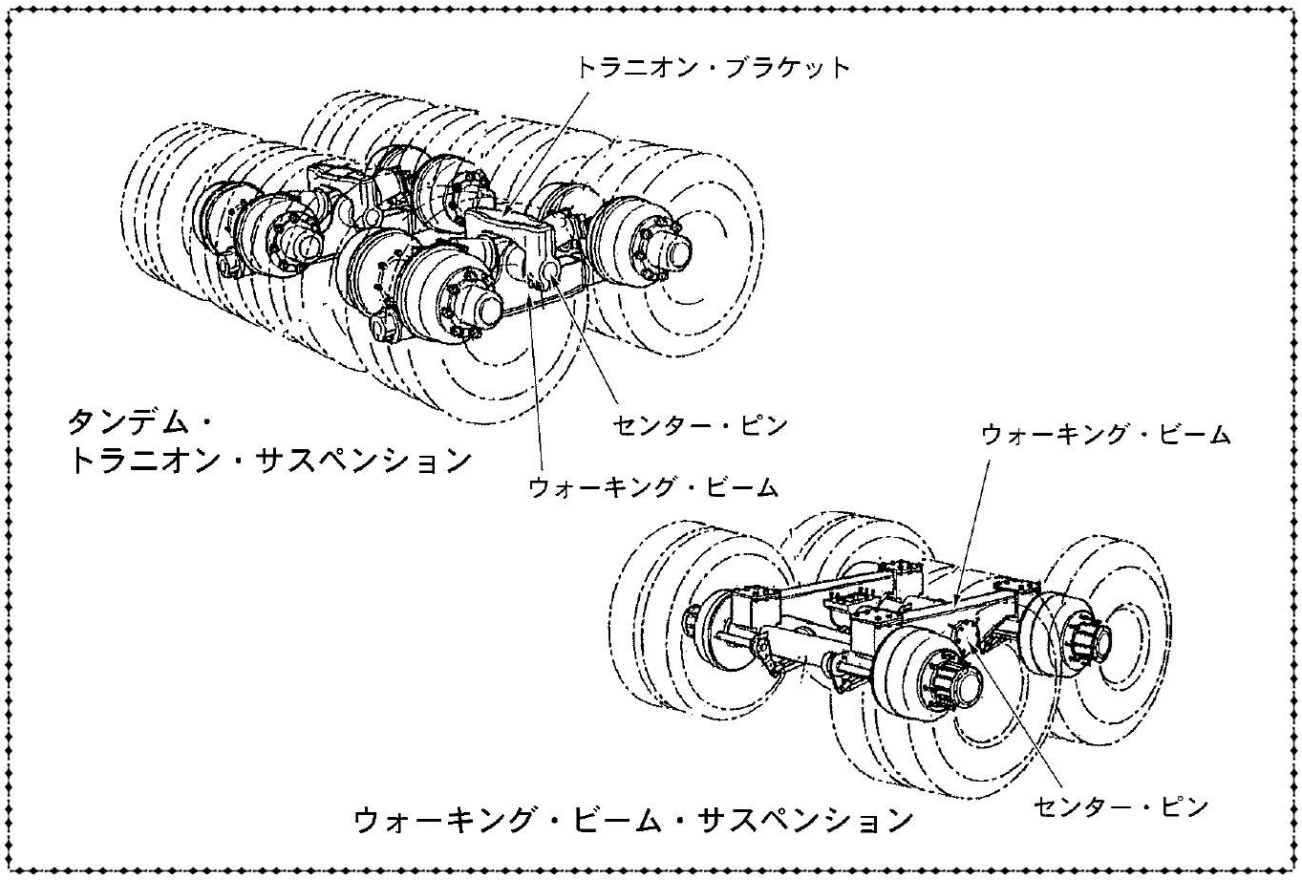
2007 2013 2016 2018

点検箇所	ｳｫｰｷﾝｸﾞ･ﾋﾞｰﾑ･ｻｽﾍﾟﾝｼｮﾝ	点検整備時期	12月	点検の分類	メーカー指定
点検内容	連結部のがた及び損傷	点検方法	ﾘﾌﾄ・ｱｯﾌﾟ点検、目視点検、測定点検 手工具による測定		

【ウォーキング・ビーム・サスペンション車のみ】

1．リフト・アップなどの状態で、ウォーキング・ビーム及びトラニオン・ブラケットに損傷がないかを、目視などにより点検する。

2．センター・ピン及びウォーキング・ビーム前後の連結部分に緩み、がた及び、損傷がないかを点検する。



〈ワンポイント・アドバイス〉

- センター・ピン及びウォーキング・ビーム前後の連結部にがたがある場合は、分解整備を行い、各部の摩耗具合を点検してください。
- センター・ピン及びプッシュの摩耗限度は、メーカーで設定されている基準に基き判定し、摩耗限度に達したものは交換してください。

緩衝装置

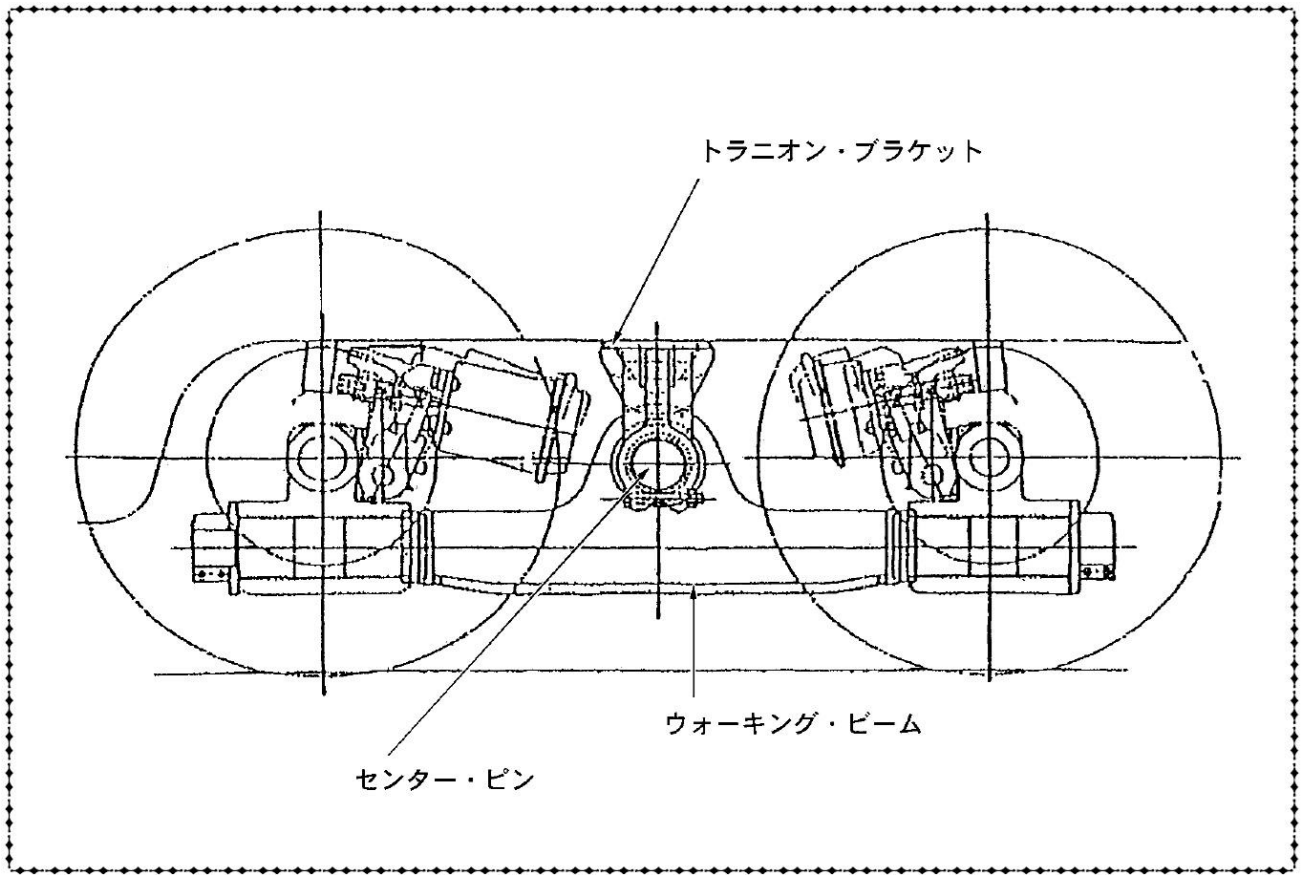
2007	2013	2016	2018

点検箇所	ｳｫｰｷﾝｸﾞ・ﾋﾞｰﾑ・ｻｽﾍﾟﾝｼｮﾝ	点検整備時期	3月 12月 *3	点検の分類	メーカー指定 メーカー指定 メーカー指定
点検内容	ﾌﾞﾗｹｯﾄ取付部の緩み及び損傷	点検方法	目視点検、手工具による点検		

【ウォーキング・ビーム・サスペンション車のみ】　　＊３：納入後又は交換後１月

１．トラニオン・ブラケットがボルトなどによる取付けの場合は、スパナなどにより緩みがないか、また、損傷がないかを目視などにより点検する。

２．トラニオン・ブラケットが溶接による取付けの場合は、溶接部に亀裂、損傷などがないかを目視などにより点検する。



電気装置

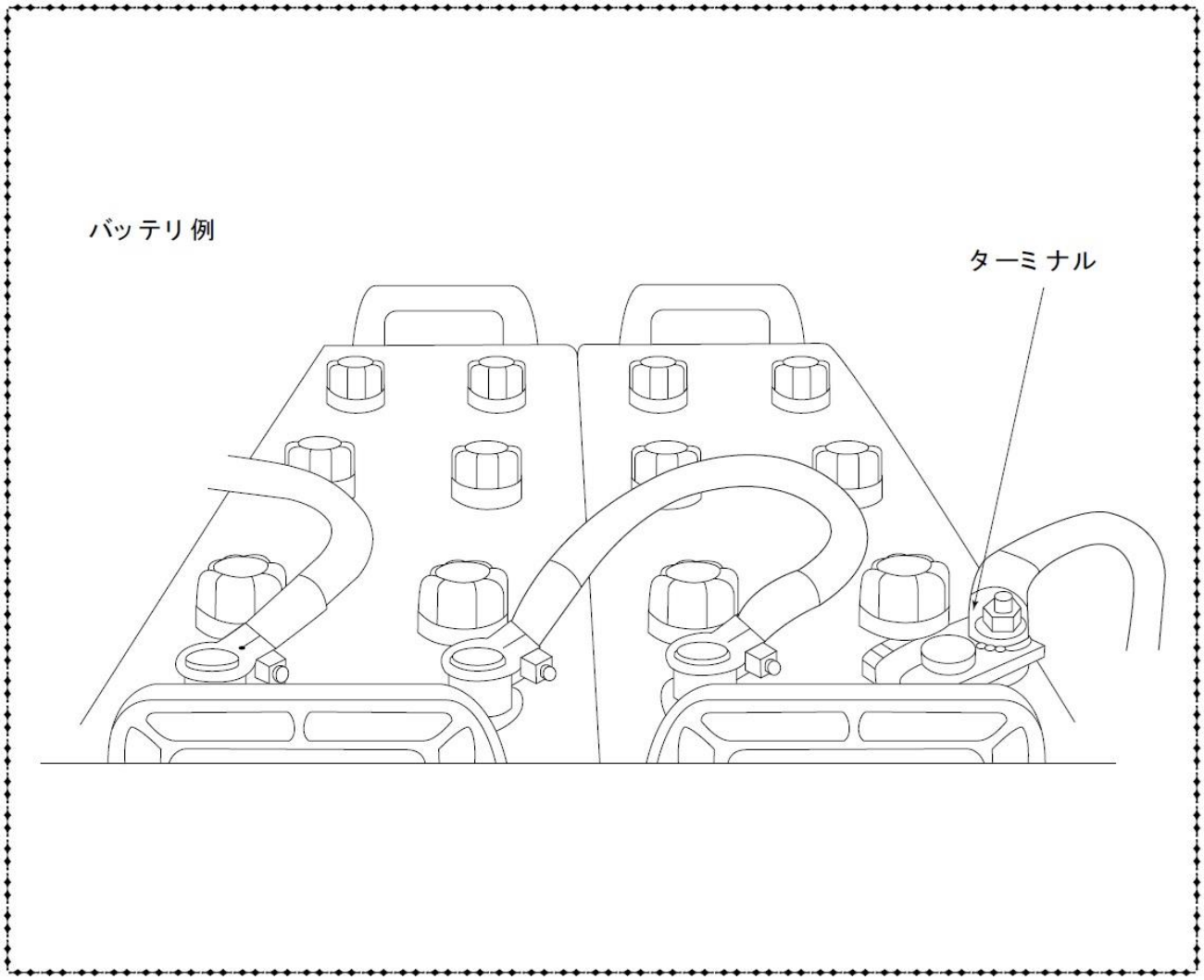
2007 2013 2016 2018

点検箇所	バッテリ	点検整備時期	3月 12月	点検の分類	メーカー指定 メーカー指定
点検内容	ﾀｰﾐﾅﾙ部の接続状態	点検方法	目視点検、手工具による点検		

【取付車のみ】

1．ターミナル部に緩みがないかを手で動かすなどして点検する。

2．ターミナル部が、腐食により接続状態が不良でないかを目視などにより点検する。



電気装置

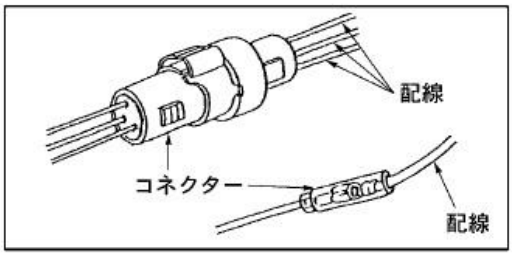
2007 2013 2016 2018

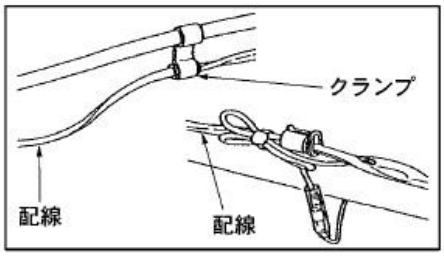
点検箇所	電気配線	点検整備時期	3月 12月	点検の分類	法定項目 法定項目
点検内容	接続部の緩み及び損傷	点検方法	目視点検		

1．電気配線に損傷がないか、配線接続の各コネクターに緩みがないかを、目視などにより点検する。

2．電気配線のクランプに緩みがないかを、目視などにより点検する。

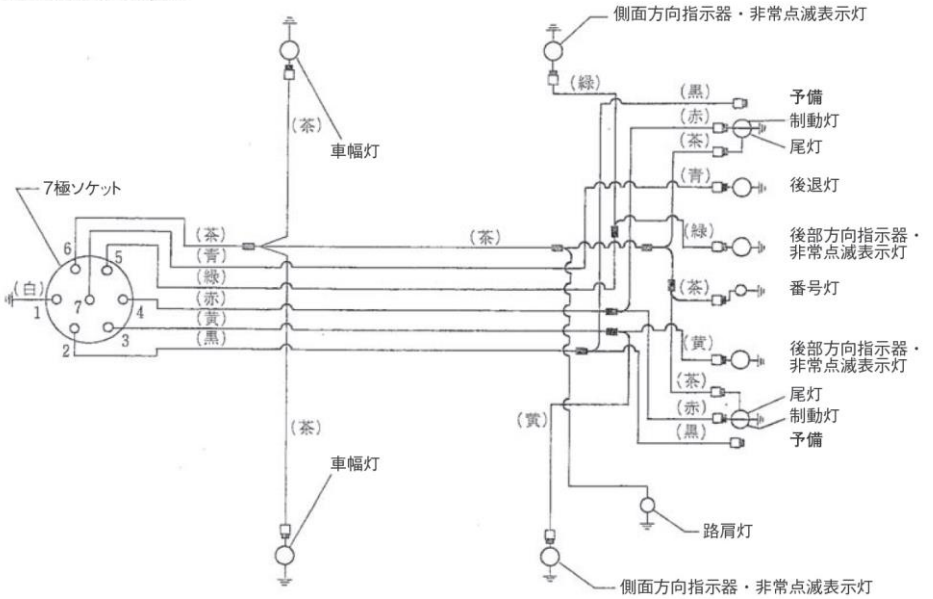
3．電気配線が他部品と干渉する恐れがないかを、目視などにより点検する。



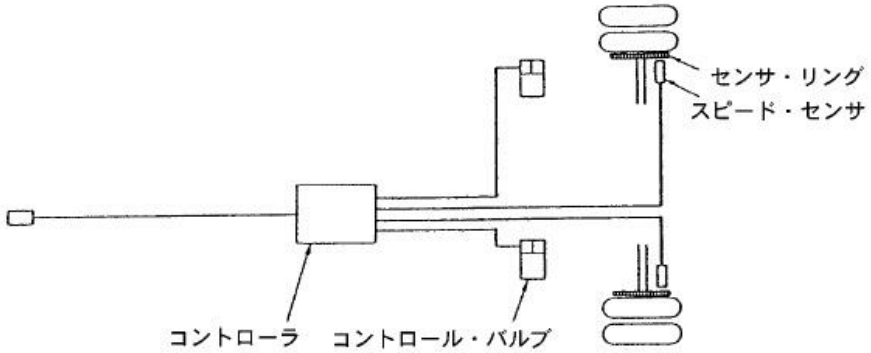


トレーラの一般的な灯火器用及び ABS 用電気配線図

灯火器用電気配線図



ABS 用電気配線図



附属装置

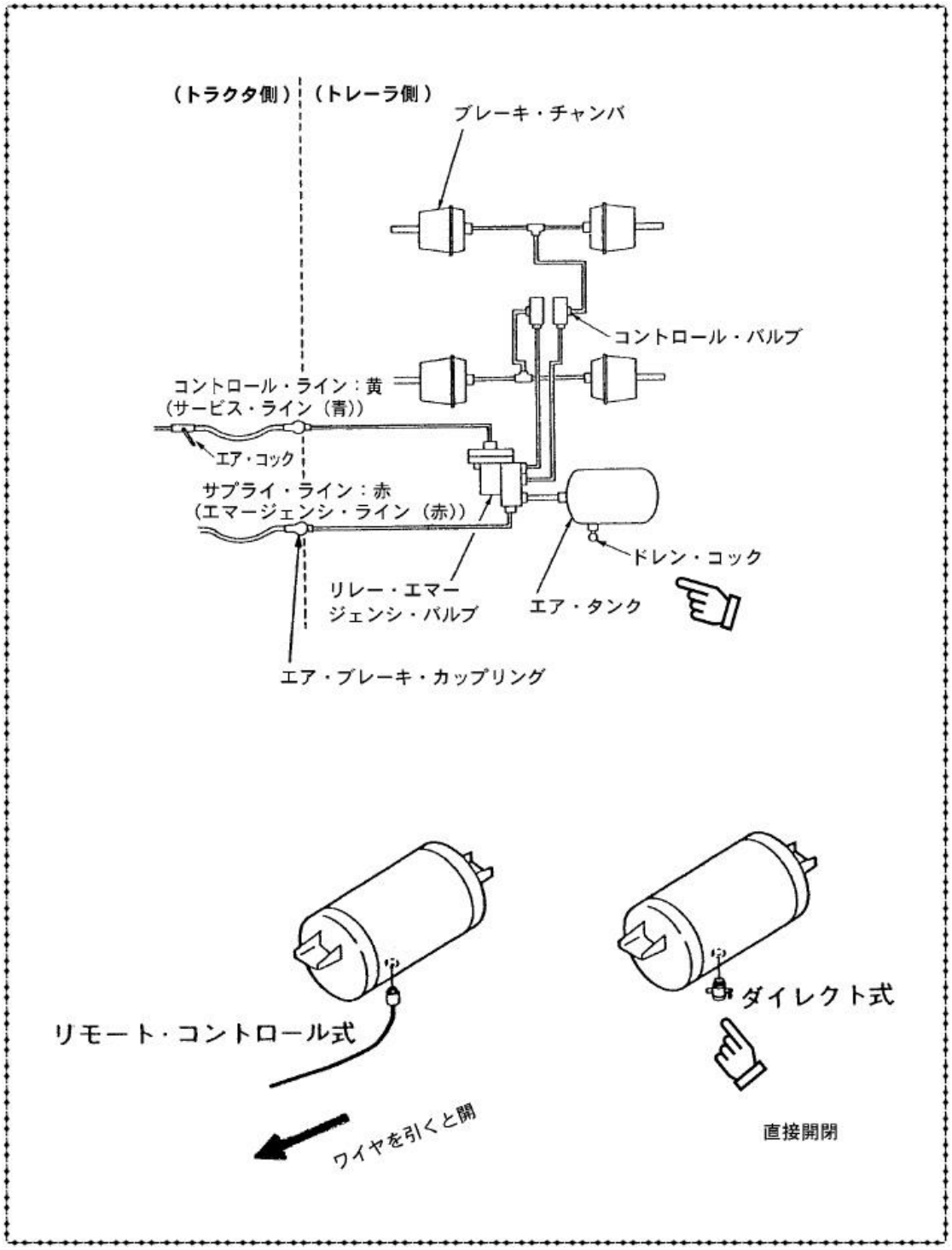
2007 2013 2016 2018

点検箇所	エア・コンプレッサ	点検整備時期	3月 12月	点検の分類	法定項目 法定項目
点検内容	エア・タンクの凝水	点検方法	目視点検、ﾘﾌﾄ･ｱｯﾌﾟ点検、測定点検		

【連結状態】

1．エア・タンクのドレン・コックを開き、タンクに水がたまっていないかを点検する。

2．エア・タンクが、2個以上付いている場合は、全てのドレン・コックを開き点検する。



車枠及び車体

2007 2013 2016 2018

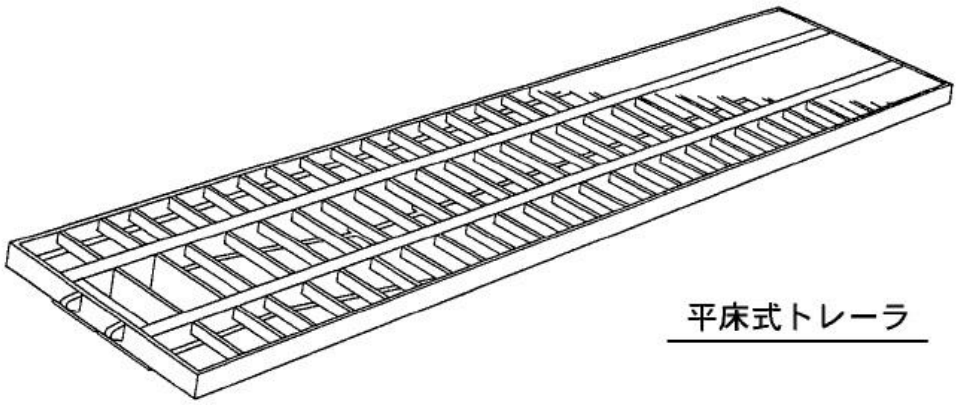
点検箇所	車枠及び車体	点検整備時期	3月 12月	点検の分類	法定点検 法定点検
点検内容	緩み及び損傷	点検方法	ﾘﾌﾄ･ｱｯﾌﾟ点検、目視点検 手工具による点検		

2007 年版適用車では、本点検項目に「車枠及び車体の錆腐食状態」の点検を含めて取り扱うことを推奨

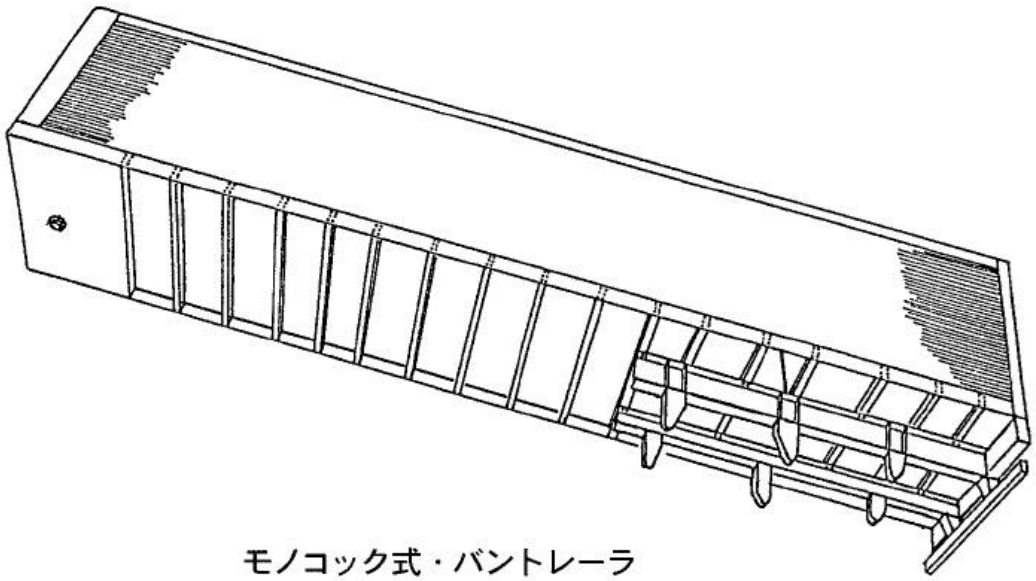
1．車枠及び車体

1）車枠、車体各部に亀裂、損傷などがないかを、目視などにより点検する。

2）フレーム、サイド・メンバ、クロス・メンバなどのリベット、ボルトに緩みがないかを、スパナなどにより、また、溶接部に亀裂などがないかを、目視などにより点検する。



平床式トレーラ



モノコック式・バントレーラ

車枠及び車体

2007 2013 2016 2018

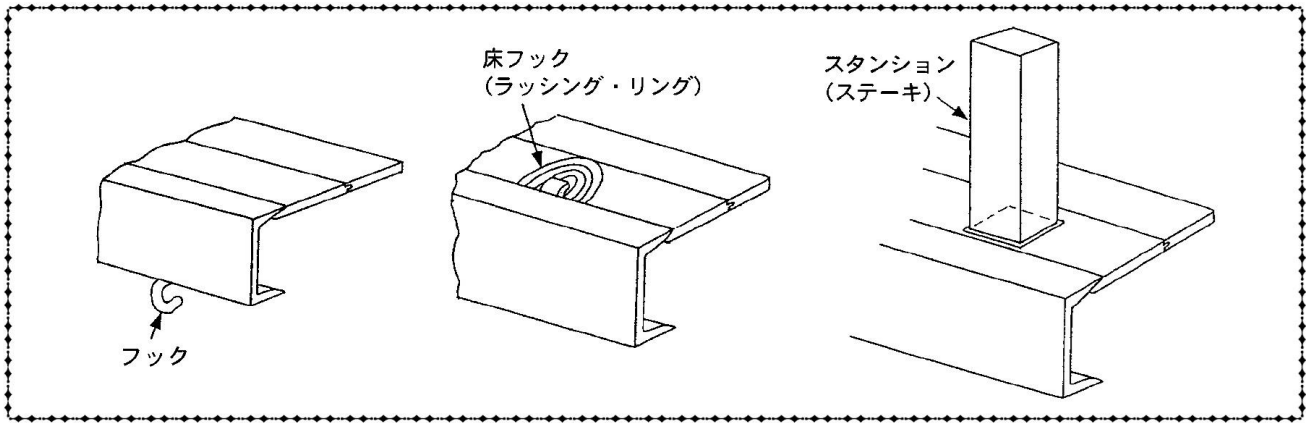
点検箇所	車枠及び車体	点検整備時期	3月 12月	点検の分類	法定点検 法定点検
点検内容	緩み及び損傷	点検方法	目視点検、手工具による点検		

2007 年版適用車では、本点検項目に「車枠及び車体の錆腐食状態」の点検を含めて取り扱うことを推奨

２．物品積載装置

１）フック、床フック、スタンションなどの物品積載装置に亀裂、損傷、変形がないかを、目視などにより点検する。

２）各物品積載装置の取付けボルトに緩みがないかを、スパナなどにより点検する。また､溶接で取付けられているものにあっては、溶接部に亀裂などがないかを、目視などにより点検する。



車枠及び車体

2007 2013 2016 2018

点検箇所	車枠及び車体	点検整備時期	3月 12月	点検の分類	法定点検 法定点検
点検内容	緩み及び損傷	点検方法	目視点検、手工具による点検、触手点検		

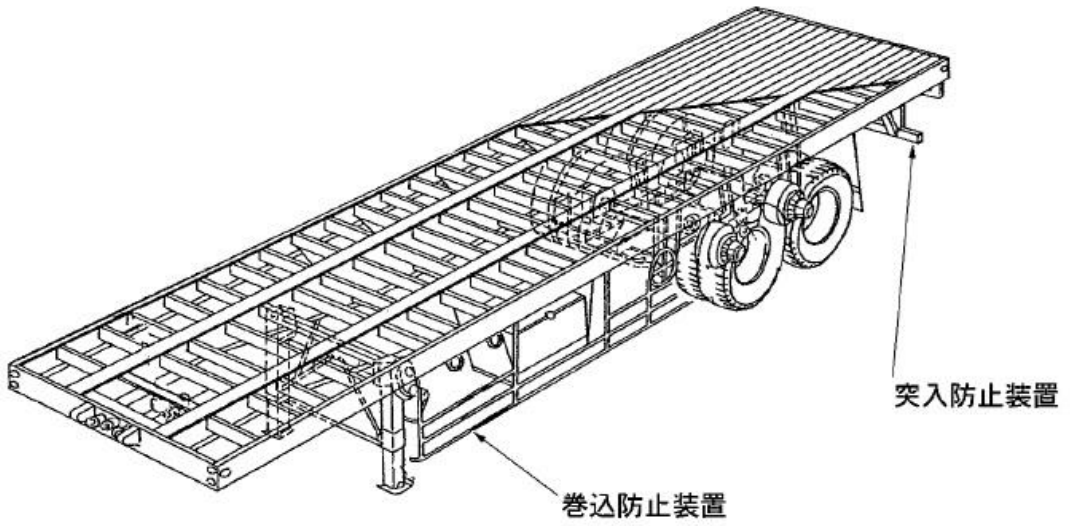
2007 年版適用車では、本点検項目に「車枠及び車体の錆腐食状態」の点検を含めて取り扱うことを推奨

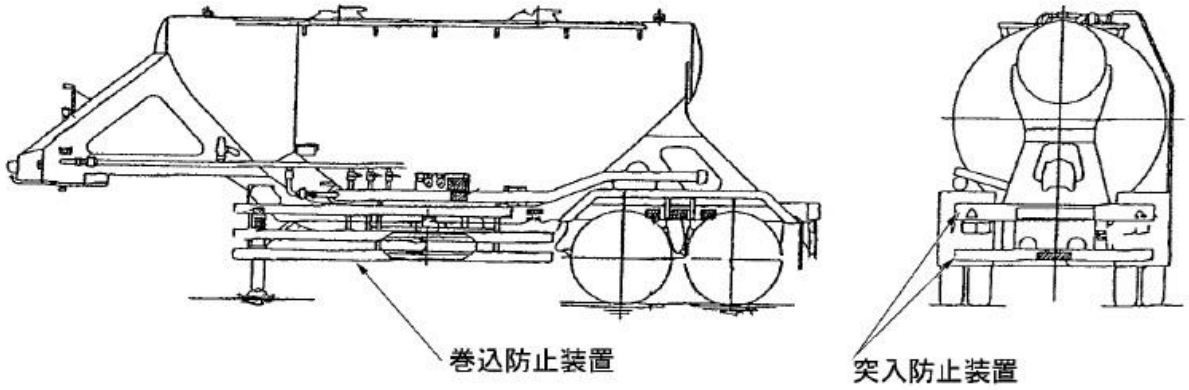
３．巻込及び突入防止装置

１）巻込及び、突入防止装置の取付けボルトに緩みがないかを、スパナなどにより点検する。

２）巻込及び、突入防止装置の溶接部に亀裂、損傷などがないかを、目視などにより点検する。

３）巻込及び、突入防止装置に亀裂、損傷、変形などがないかを、目視などにより点検する。





車枠及び車体

2007 2013 2016 2018

点検箇所	車枠及び車体	点検整備時期	3月 12月	点検の分類	法定点検 法定点検
点検内容	スペアタイヤ取付装置の緩み、がたおよび損傷	点検方法	目視点検、手工具による点検		

【車両総重量 8 ㌧以上の被牽引自動車のみ】【取付車のみ】

1．スペアタイヤを取り外し、次の点検を行う。

1）スペアタイヤ取付装置の取付部に緩みがないかをスパナなどにより点検する。また、損傷がないかを目視などにより点検する。

2）スペアタイヤ取付装置に緩みがないかをスパナなどにより点検する。また、がたがないかを手で揺するなどして点検する。さらに、損傷がないかを目視などにより点検する。

3）スペアタイヤのディスク・ホイールについて、ボルト穴や飾り穴の周り及び溶接部に亀裂及び損傷がないかを目視などにより点検する。また、スペアタイヤ取付装置とディスク・ホイール合わせ面に摩耗や損傷がないかを目視などにより点検する。



車枠及び車体

2007	2013	2016	2018

点検箇所	車枠及び車体	点検整備時期	3月 12月	点検の分類	法定点検 法定点検
点検内容	スペアタイヤの取り付け状態	点検方法	目視点検、触手点検		

【車両総重量 8 ㌧以上の被牽引自動車のみ】【取付車のみ】

スペアタイヤを取り付ける際に次の点検を行います。

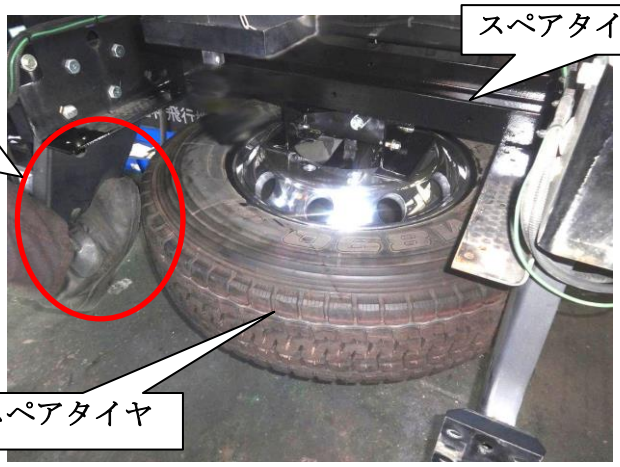
1）スペアタイヤ取付装置のハンドルが円滑に回ること及び吊上げチェーンが円滑に回ること及び吊上チェーンにねじれやひっかかりがないことを確認し、規定トルク（※）で締め付ける。

2）スペアタイヤを取り付けた後、スペアタイヤに異常な傾きがないかを目視などにより点検する。また、スペアタイヤの取付けに緩みがないかをスペアタイヤを強く押すなどして点検する。

※ 規定トルクは各トレーラメーカーの取扱説明書などの指示による。



操作ハンドルを確実に差し込み
確実に巻き上げてください。
→ 操作ハンドルは、逆回転させずに
抜いて下さい。



スペアタイヤキャリア

スペアタイヤが確実に
固定された事を確認
するため、端部を手等で
強く押し、緩みやガタ
つきがない事を確認して
下さい。

スペアタイヤ

車枠及び車体

2007 2013 2016 2018

点検箇所	車枠及び車体	点検整備時期	3月 12月	点検の分類	法定点検 法定点検
点検内容	ツールボックスの 取付部緩み及び損傷	点検方法	目視点検、手工具による点検		

【車両総重量 8 ㌧以上の被牽引自動車のみ】【取付車のみ】

※ツールボックスとは

フレームやボディーなど、車外に取り付けられた工具箱や資材入れ等。

ツールボックスに該当する事例を 96 頁、97 頁に、ツールボックスに該当しない事例を 98 頁、99 頁に掲載しますが、解釈については各トレーラメーカーに御問い合わせください。

●ツールボックスの取り付け状態の確認

ツールボックスの取付部に緩みがないかをスパナなどにより点検する。

また、損傷がないかを目視などにより点検する。

目視による確認
錆、錆汁、亀裂、損傷、ナットの緩み、ナット外れ、ボルト折れ



・ツールボックスが確実に固定されているか確認する。
・緩み及び損傷がないか確認する。



・取付部のボルト、ナット部に緩みがないか確認する



・亀裂及び腐食などが無いか確認する。

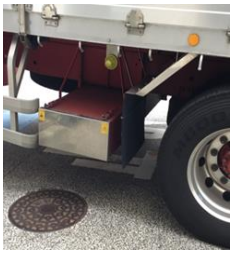
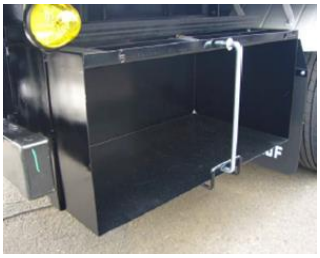
車枠及び車体

2007 2013 2016 2018

点検箇所	車枠及び車体	点検整備時期	3月 12月	点検の分類	法定点検 法定点検
点検内容	ツールボックスの 取付部緩み及び損傷	点検方法	目視点検、手工具による点検		

【車両総重量 8 ㌧以上の被牽引自動車のみ】【取付車のみ】

●ツールボックスに該当する事例

ツールボックス事例	構造・取付方法・使用目的等
① 	板状の箱（六面体） フレーム側面へ取付
② 	板状の箱（六面体） キャブ後フロア上面へ取付
③ 	エキスバンドメタルの箱 箱の上面はオープン 荷台下のフレーム側面へ取付 主にりん木入れとして使用
④ 	板状の箱（六面体） フレーム下面へ取付 主にりん木入れとして使用
⑤ 	板状の箱 後面はオープン、帯板の飛出し防止付き フレーム後部下面へ取付 主に台車入れとして使用
⑥ 	板状の箱 側面はオープン、丸棒の飛出し防止付き フレーム側面へ取付 主に台車入れとして使用

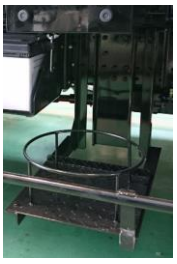
車枠及び車体

2007 2013 2016 2018

点検箇所	車枠及び車体	点検整備時期	3月 12月	点検の分類	法定点検 法定点検
点検内容	ツールボックスの 取付部緩み及び損傷	点検方法	目視点検、手工具による点検		

【車両総重量８トン以上の被牽引自動車のみ】【取付車のみ】

●ツールボックスに該当する事例

ツールボックス事例	構造・取付方法・使用目的等
⑦ 	板状の箱（六面体） フレーム側面へ取付 消火器入れとして使用
⑧ 	板状の箱 上面はオープン、下面はすのこ状の木の板 荷台前立て上前部へ取付 主にシート入れとして使用
⑨ 	板状の箱 上面はオープン、後面は３本の丸棒で構成 キャブ上シートキャリア 主にシート入れとして使用
⑩ 	重機、建機運搬車用の歩み板を格納するもの。 フレーム側面、荷台床下へ取付
⑪ 	ペール缶受け 平板を床として、ペール缶がズレ落ちぬよう 丸棒を円状に配置した専用受け フレーム側面へ取付
⑫  	上面はオープン、下面はすのこ状の木の板、 側面及び前面は丸棒で構成のシート置き トレーラ単体での輸送効率化（全長制限）のため 折り畳み可能としている。

車枠及び車体

2007 2013 2016 2018

点検箇所	車枠及び車体	点検整備時期	3月 12月	点検の分類	法定点検 法定点検
点検内容	ツールボックスの 取付部緩み及び損傷	点検方法	目視点検、手工具による点検		

【車両総重量 8 ㌧以上の被牽引自動車のみ】【取付車のみ】

●ツールボックスに該当しない事例

ツールボックスに該当しない事例	構造・取付方法・使用目的等
① 	ウイング扉のパワーユニット （モータ、油圧ポンプ等）ボックス 荷台床面へ取付
② 	テールゲートリフターのパワーユニット （モータ、油圧ポンプ等）ボックス 左写真はテールゲートリフターへ取付したもの。 車枠や荷台へ取付することもある。
③ 	テールゲートリフトーの荷台操作ボックス フレーム側面へ取付 荷台やテールゲートリフターへ取付することもある。
④ 	１台積の車両運搬車の荷台操作ボックス フレーム側面へ取付
⑤ 	チェーンを掛けるためのフック
⑥ 	消火器受け 平板を床として、消火器をバンドで固定する 専用受け 左写真は左側後輪前巻込み防止装置へ取付たもの。

車枠及び車体

2007 2013 2016 2018

点検箇所	車枠及び車体	点検整備時期	3月 12月	点検の分類	法定点検 法定点検
点検内容	ツールボックスの 取付部緩み及び損傷	点検方法	目視点検、手工具による点検		

【車両総重量 8 ㌧以上の被牽引自動車のみ】【取付車のみ】

●ツールボックスに該当しない事例

ツールボックスに該当しない事例	構造・取付方法・使用目的等
⑦ 	差込式タイヤ歯止め入れ 平板と帯板で構成された歯止め専用受け 脱落防止の帯ゴム取付け部有り 左写真はキャブ後部の架装物へ取付 フレーム側面、巻込み防止装置等へ 取付けることもある

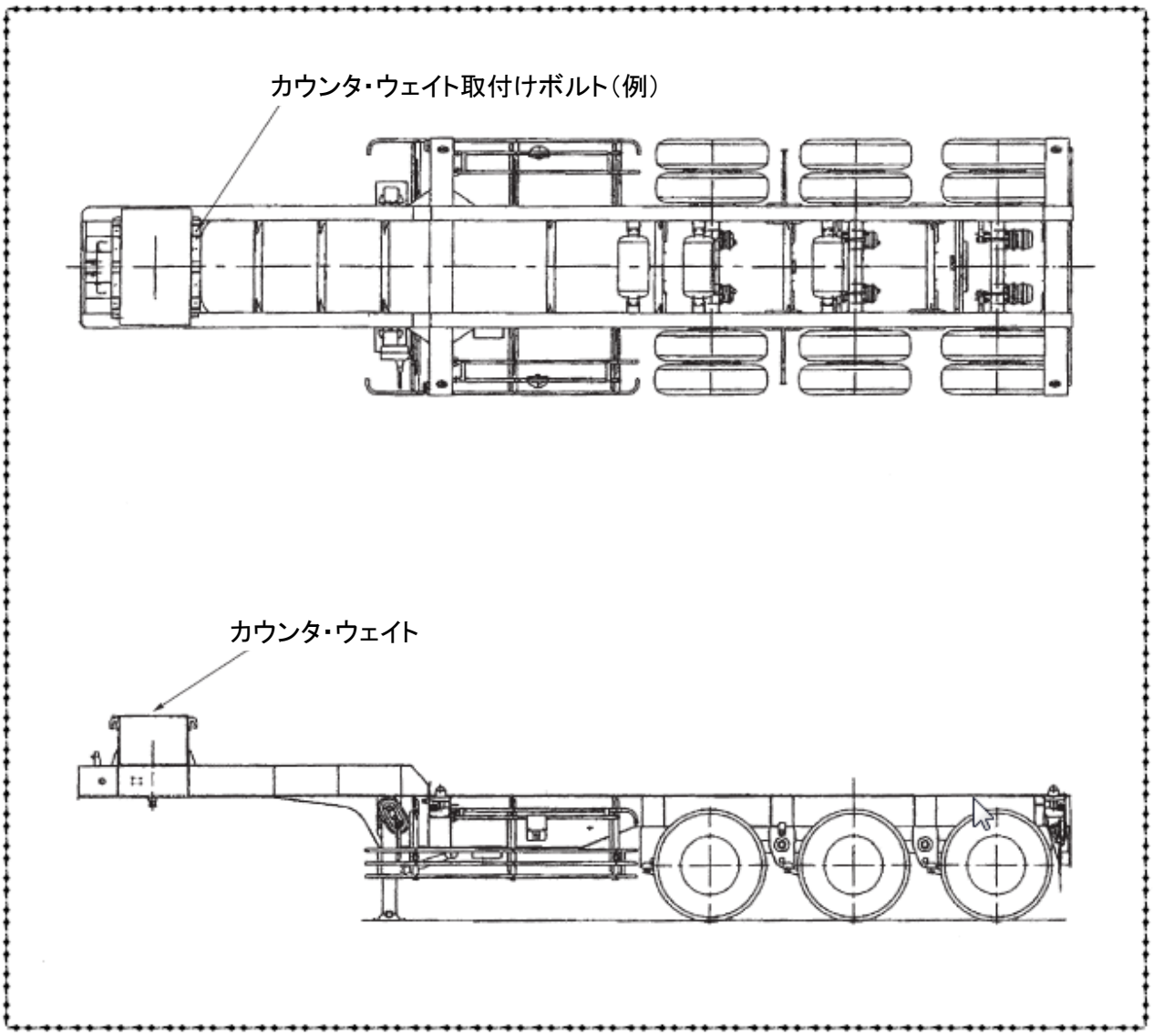
車枠及び車体

2007 2013 2016 2018

点検箇所	車枠及び車体	点検整備時期	3月 12月	点検の分類	メーカー指定 メーカー指定
点検内容	ｶｳﾝﾀ･ｳｪｲﾄ取付ﾎﾞﾙﾄの緩み及び損傷	点検方法	目視点検、手工具による点検		

【取付車のみ】

1．カウンタ・ウェイト取付けボルトに緩み及び、損傷がないかを、スパナ等で確認する。



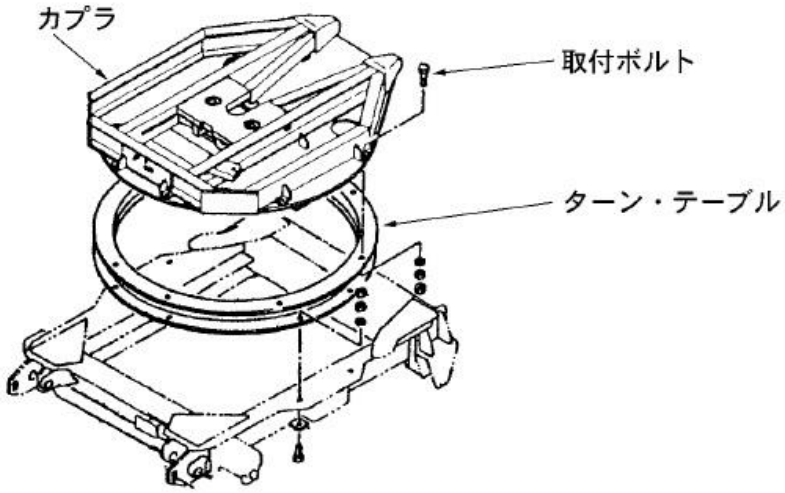
連結装置

2007 2013 2016 2018

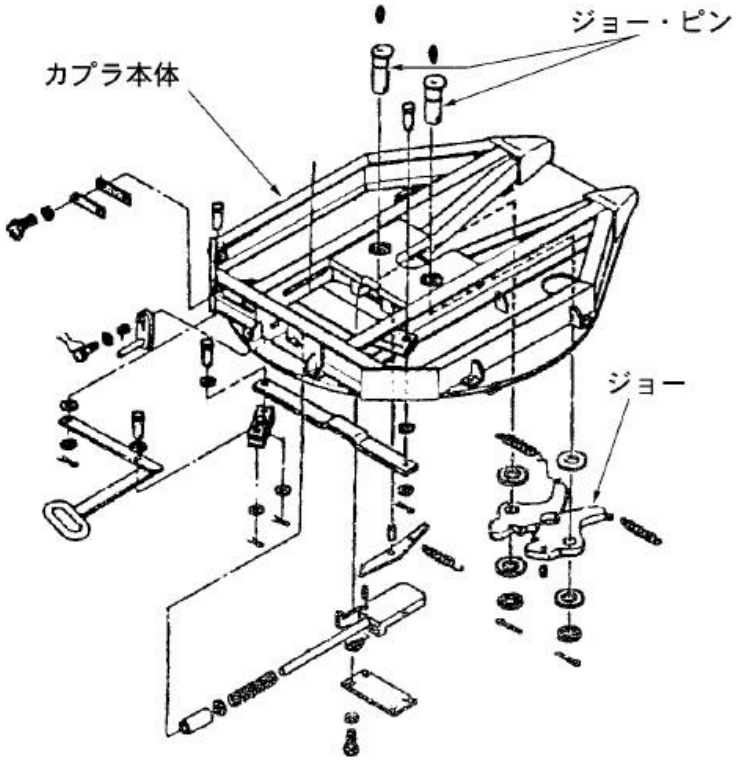
点検箇所	連結装置	点検整備時期	12月	点検の分類	法定点検
点検内容	カプラの機能及び損傷	点検方法	目視点検、手工具による点検		

【取付車のみ】

1．平坦な場所でドーリ付トレーラのドーリ部との連結及び、切離しがスムーズに行えるかを点検する。
2．カプラの取付け部に緩みがないかを、スパナなどにより点検する。
3．カプラのジョー、ジョー・ピン、シャフト及び軸受部に摩耗や損傷、がたがないかを目視などにより点検する。
4．カプラ・サドル（ベース）の上面に損傷及び、摩耗がないかを、目視などで点検する。
※摩耗限度については、各メーカーの取扱説明書などの指示による。



ドーリ付トレーラ



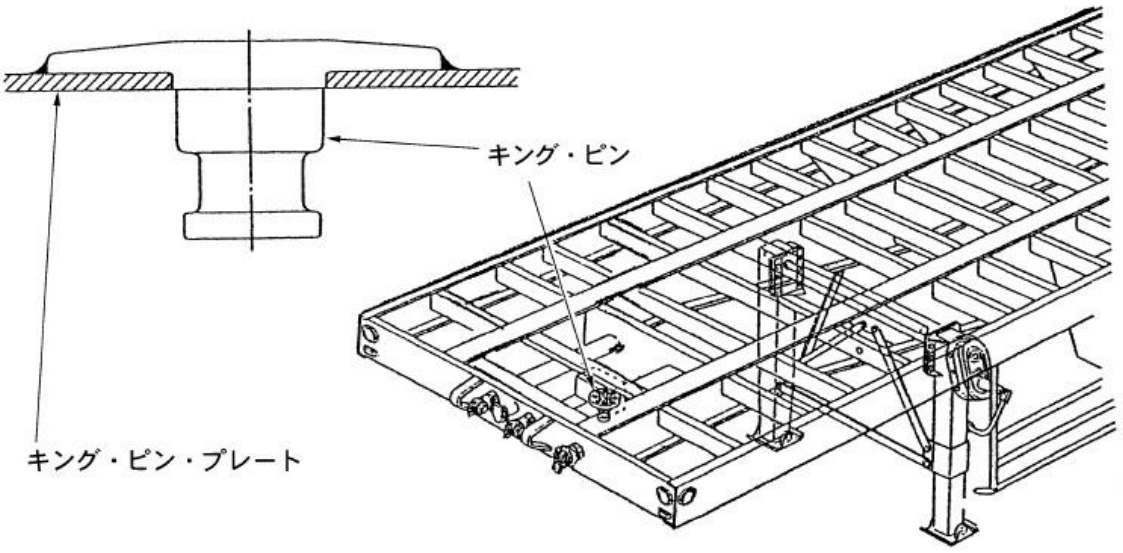
連結装置

2007 2013 2016 2018

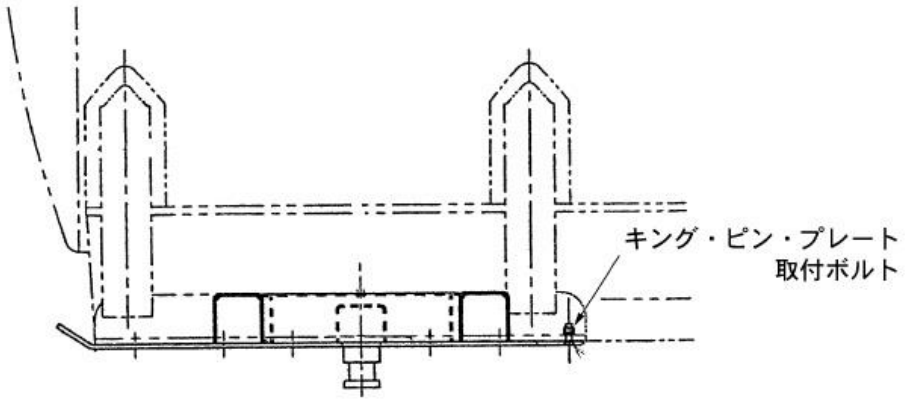
点検箇所	連結装置	点検整備時期	3月 12月	点検の分類	メーカー指定 法定点検
点検内容	ｷﾝｸﾞ･ﾋﾟﾝ及びﾙﾈｯﾄ･ｱｲの摩耗、亀裂及び損傷	点検方法	目視点検、手工具による点検、触手点検、測定点検		

1．キング・ピン及びキング・ピン・プレート

1）キング・ピン及びキング・ピン・プレートに亀裂、摩耗及び損傷がないかを、目視などにより点検する。
また、キング・ピン・プレートに腐食及び損傷がないかを目視などにより点検する。キング・ピン・プレートに異状な変形、損傷が見受けられる場合は、キング・ピン・プレートの上部床板等を取り外し、キング・ピン・プレートの上部の状況についても点検する。
※キング・ピン・プレート上部の点検整備については、各メーカーの取扱説明書などの指示による。



※　平床式セミ・トレーラの床板なしの状態でキング・ピンを上から見た状態



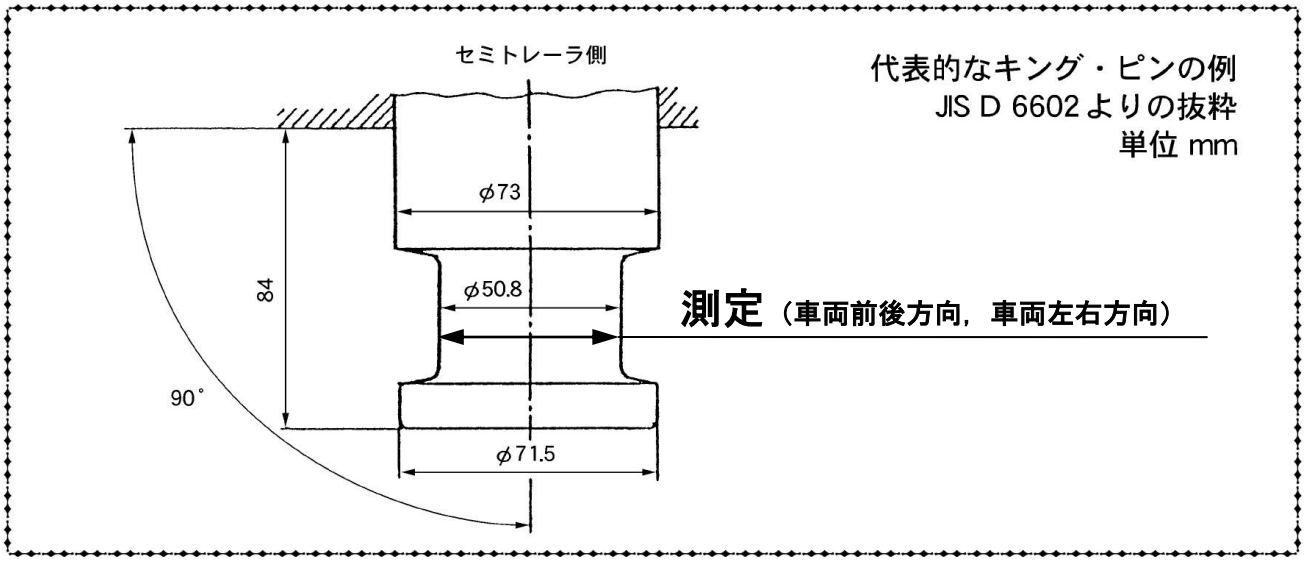
※　ボルト取付方式のキング・ピン・プレート

連結装置

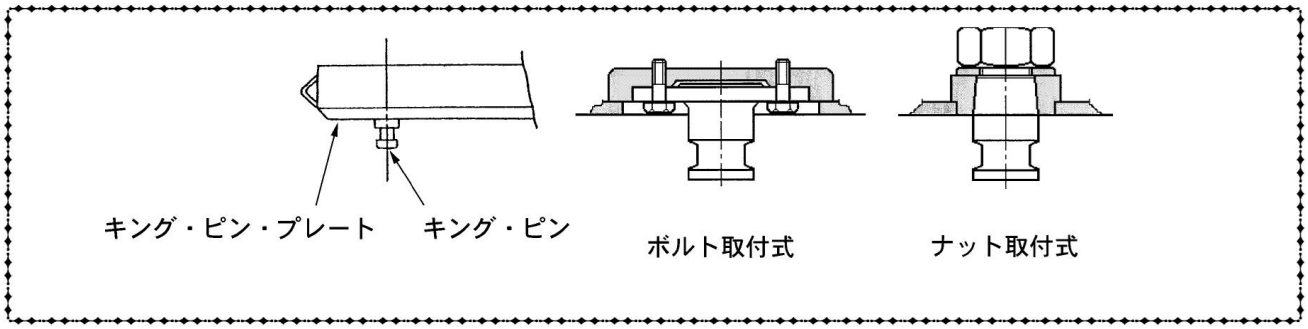
2007 2013 2016 2018

点検箇所	連結装置	点検整備時期	3月 12月	点検の分類	メーカー指定 法定点検
点検内容	ｷﾝｸﾞ･ﾋﾟﾝ及びﾙﾈｯﾄ･ｱｲの摩耗、亀裂及び損傷	点検方法	目視点検、手工具による点検、触手点検、測定点検		

2）キング・ピンのカプラ・ジョーとの連結部の直径を、車両前後方向と車両左右方向の二方向でノギスなどにより測定し、摩耗限度以内であることを点検する。
※摩耗限度については、各メーカーの取扱説明書などの指示による



3）キング・ピン取付部に損傷がないかを目視などにより点検する。
ボルト取付け式のものについては、取付けボルトに緩みがないかを、スパナなどにより点検する。
ナット取付け式のものについては、キング・ピンを手で揺するなどして、がたがないかを点検し、がたがあれば床板を取り外すなどして、ナットに緩みがないかを、スパナなどにより点検する。



連結装置

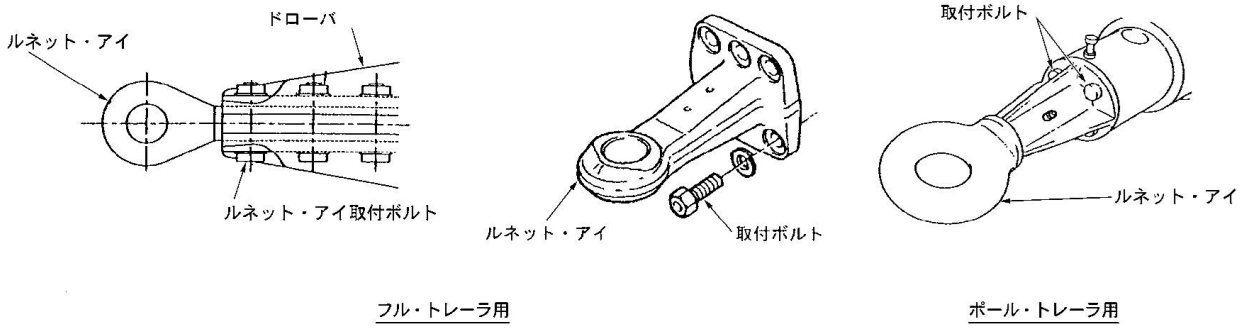
2007 2013 2016 2018

点検箇所	連結装置	点検整備時期	3月 12月	点検の分類	メーカー指定 法定点検
点検内容	ｷﾝｸﾞ･ﾋﾟﾝ及びﾙﾈｯﾄ･ｱｲの摩耗、亀裂及び損傷	点検方法	目視点検、手工具による点検、触手点検、測定点検		

２．ルネット・アイ

１）ルネット・アイに亀裂、摩耗及び損傷がないかを、目視などにより点検する。
また、取付け部に緩みがないかを、スパナなどにより点検する。

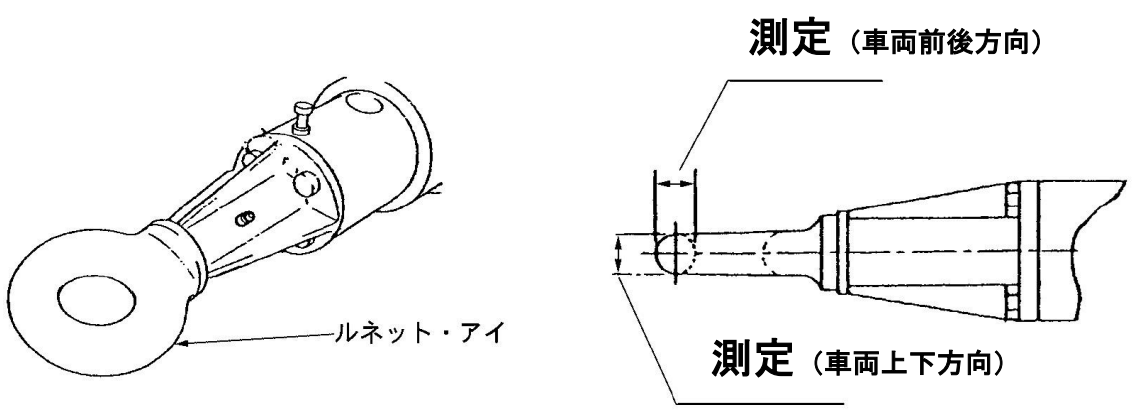
※ルネット・アイの目玉部に、「てこ棒」などを入れて前後方向に揺するなどして、がたがないかを点検する。



フル・トレーラ用　　ポール・トレーラ用

２）ルネット・アイの径を車両前後方向と車両上下方向の二方向でノギスなどにより測定し、摩耗限度以内であることを点検する。

※摩耗限度については、各メーカーの取扱説明書などの指示による。



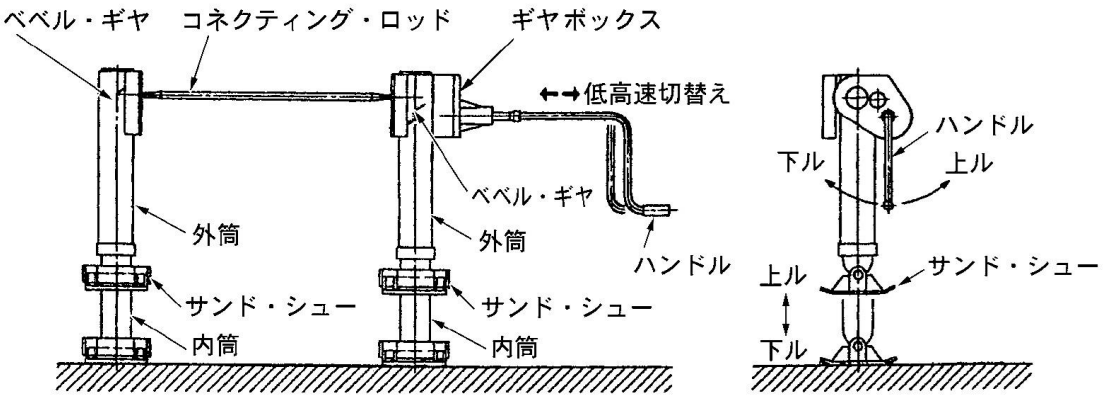
補助脚

2007 2013 2016 2018

点検箇所	補助脚	点検整備時期	3月 12月	点検の分類	メーカー指定 メーカー指定
点検内容	作動状態	点検方法	作動点検		

【取付車のみ】

1．トラクタと連結させ、補助脚のハンドルを操作し、上下、高速･低速作動に異状がないかを点検する。



手動式補助脚の構造概要図

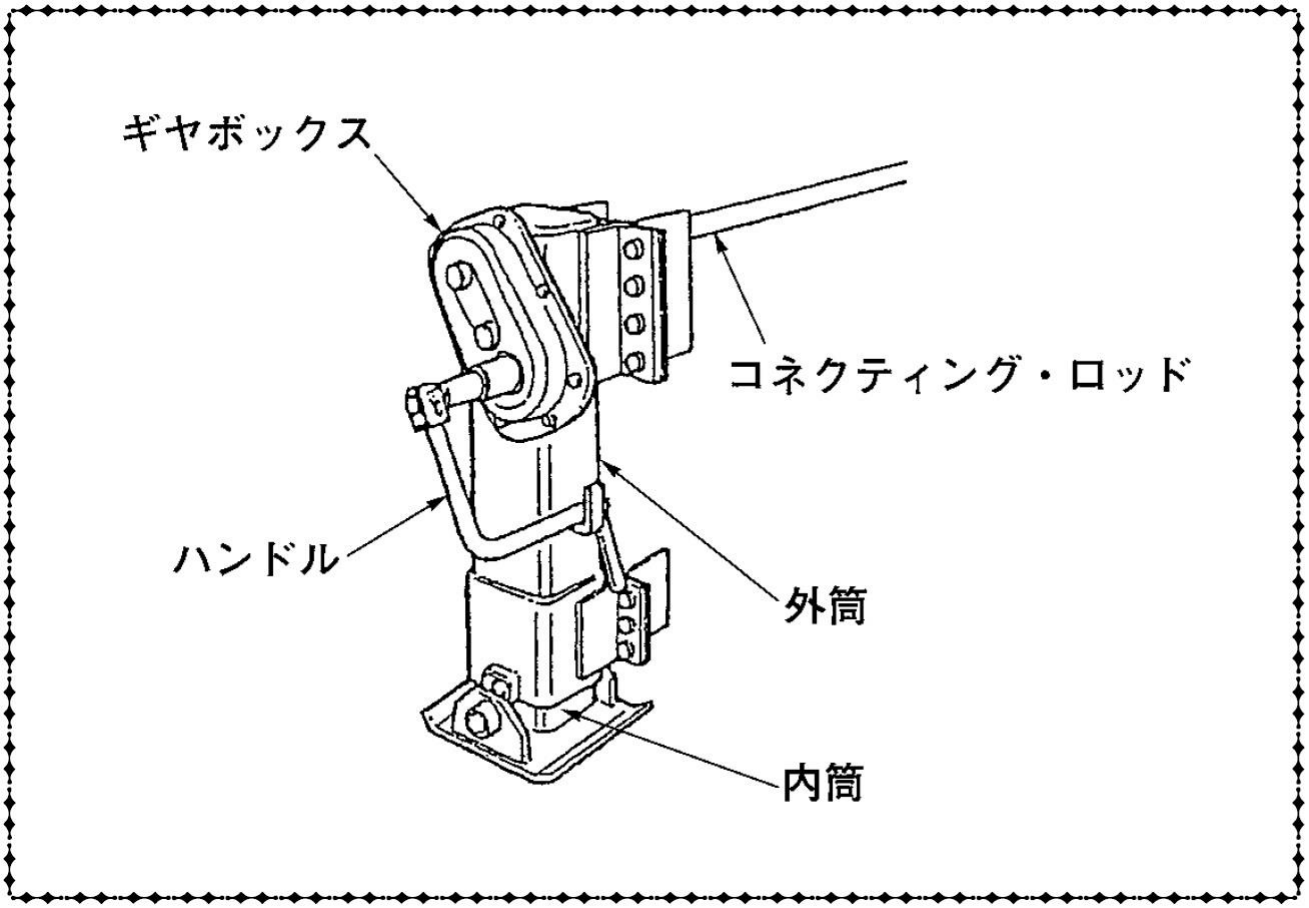
補助脚

2007	2013	2016	2018

点検箇所	補助脚	点検整備時期	3月 12月	点検の分類	メーカー指定 メーカー指定
点検内容	内外筒の損傷	点検方法	目視点検		

【取付車のみ】

1．補助脚を最大に伸ばし、内筒、外筒及びギヤボックスに亀裂・損傷がないかを、目視などにより点検する。



補助脚

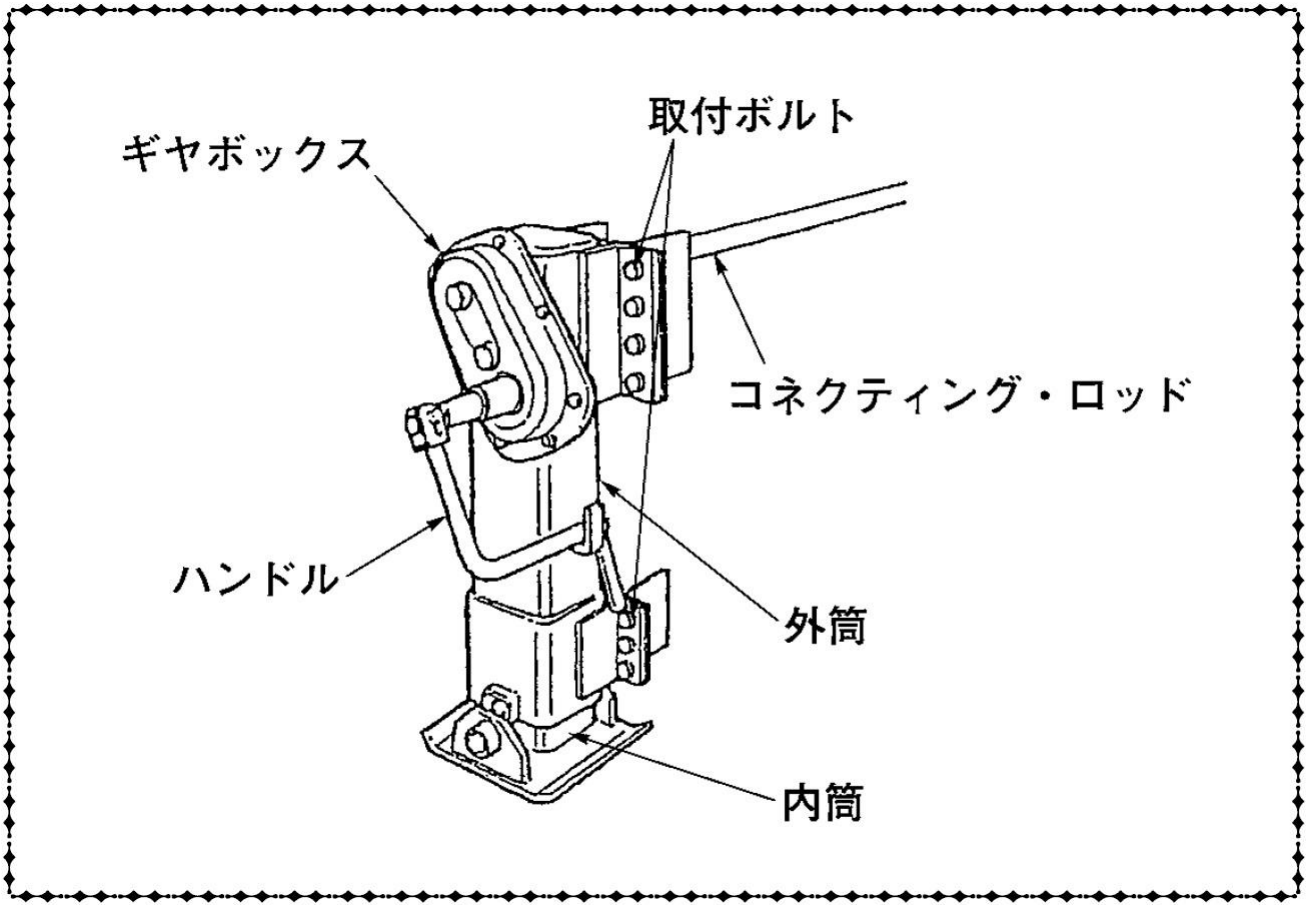
2007 2013 2016 2018

点検箇所	補助脚	点検整備時期	12月	点検の分類	メーカー指定
点検内容	取付部の緩み及び損傷	点検方法	目視点検、手工具による点検		

【取付車のみ】

1．補助脚取付けボルト、各ステーの取付ボルト、左右連動補助脚にあっては、コネクティング・ロッドの取付けボルトに緩みがないかを、スパナなどにより点検する。

2．取付け部に損傷がないかを、目視などにより点検する。



補助脚

2007 2013 2016 2018

点検箇所	補助脚	点検整備時期	12月	点検の分類	メーカー指定
点検内容	回転部及び摺動部の摩耗	点検方法	作動点検		

【取付車のみ】

1．補助脚のハンドルを操作し、回転部に著しいがたがないかを点検する。

2．外筒と内筒の摺動部に著しい摩耗がないかを、目視などにより点検する。

3．ギヤボックスを分解する場合は、ギヤシャフトのベアリングに損傷がないかを、目視などにより点検する。

4．ハンドルの取付け部やコネクティング・ロッド部に、がたや著しい摩耗などがないかを、ハンドルを作動させて点検する。

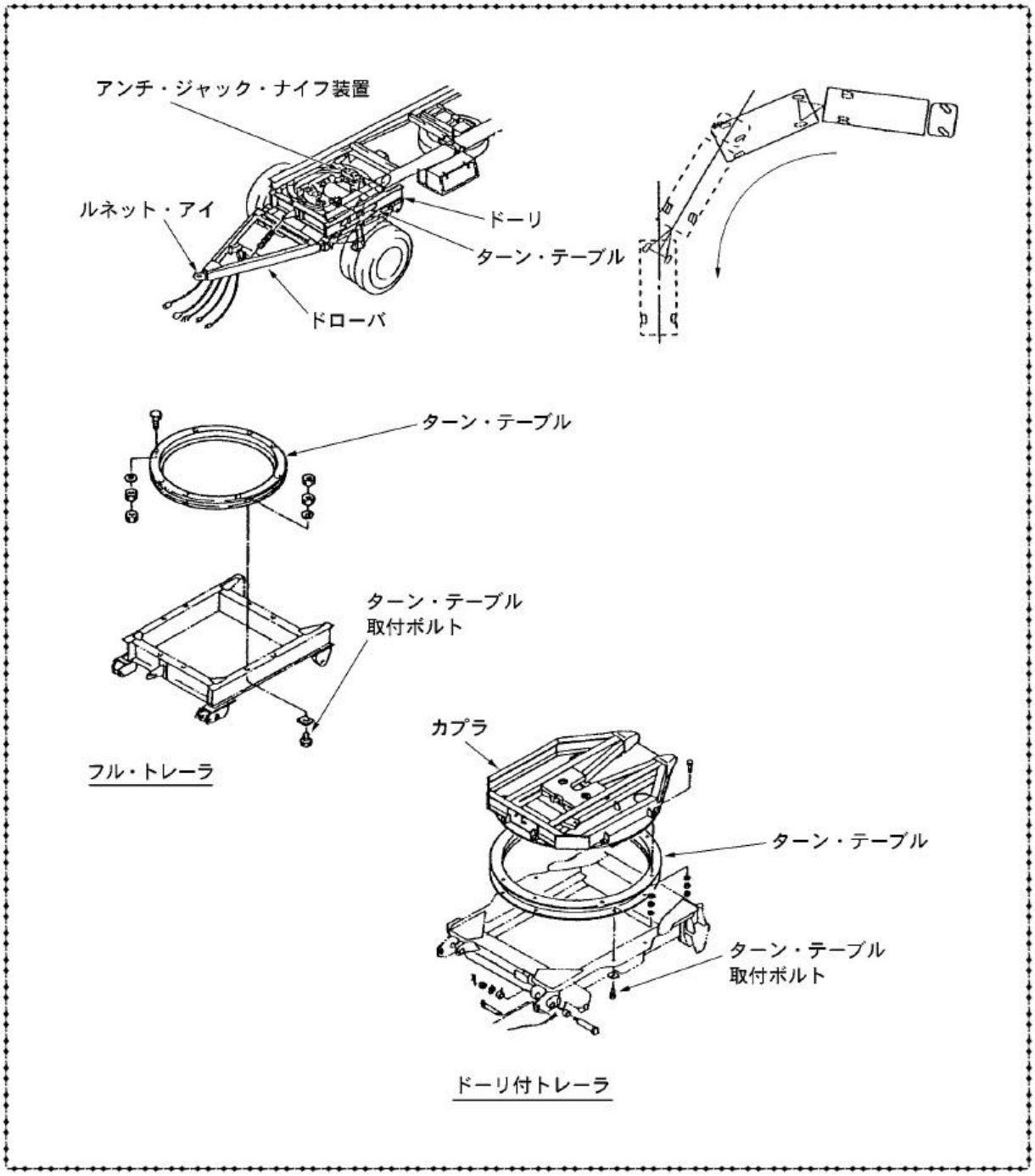
ドーリ・ドローバ

2007 2013 2016 2018

点検箇所	ターン・テーブル	点検整備時期	3月 12月	点検の分類	メーカー指定 メーカー指定
点検内容	作動状態	点検方法	走行点検、感覚点検、目視点検		

【フル・トレーラのみ】【連結状態】

1．トラクタと連結し、ステアリング・ハンドルを一杯に切った状態で緩やかに走行させ、運転者とは別の点検者が、ターン・テーブルの回転状態を点検する。
また、フル・トレーラの駐車ブレーキを作動させ、フル・トレーラが動かない程度にトラクタを前後に移動し、ターン・テーブルのベアリングにがたがないかを点検する。
回転作動状態に異状が認められる場合は、トレーラとドーリを分離し、ターン・テーブルを回転させ、ベアリングにがたがないかを、感覚及び目視などにより点検する。



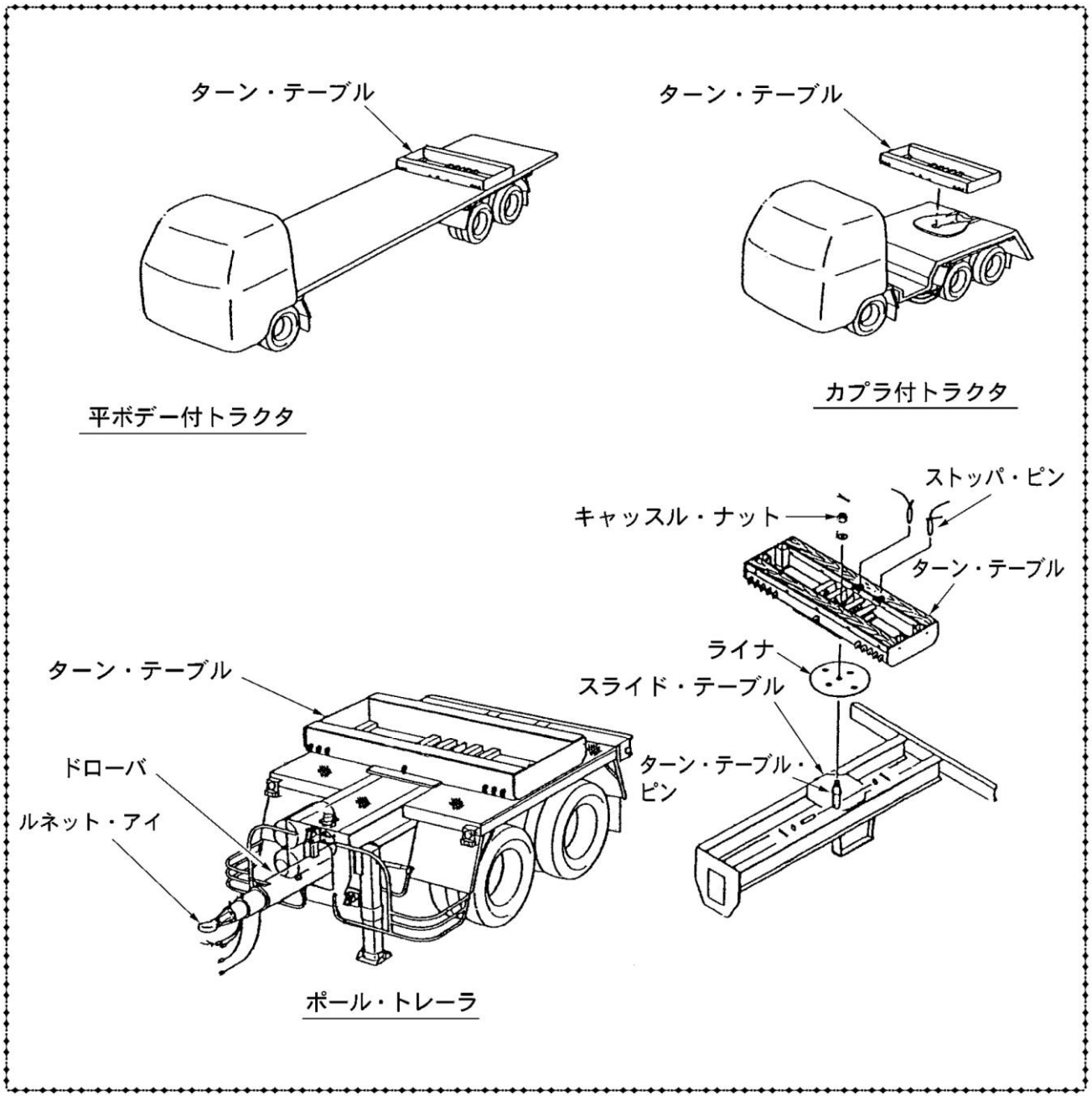
ドーリ・ドローバ

2007 2013 2016 2018

点検箇所	ターン・テーブル	点検整備時期	3月 12月	点検の分類	メーカー指定 メーカー指定
点検内容	作動状態	点検方法	感覚点検、目視点検		

【ポール・トレーラのみ】

1．トレーラ側及び平ボデー付トラクタまたは、カプラ付きトラクタ側のターン・テーブルを手などで回転をさせ、回転状態に異状がないかを点検する。
回転状態に異状が認められる場合は、ターン・テーブルを取外し、ターン・テーブル、ライナ、スライド・テーブル（カプラ付トラクタの場合はターン・テーブルとカプラ上面）間に泥のつまり、かじり傷がないか、各部を清掃し目視などにより点検する。
また、ライナに異状な摩耗、変形がないかを目視などにより点検する。



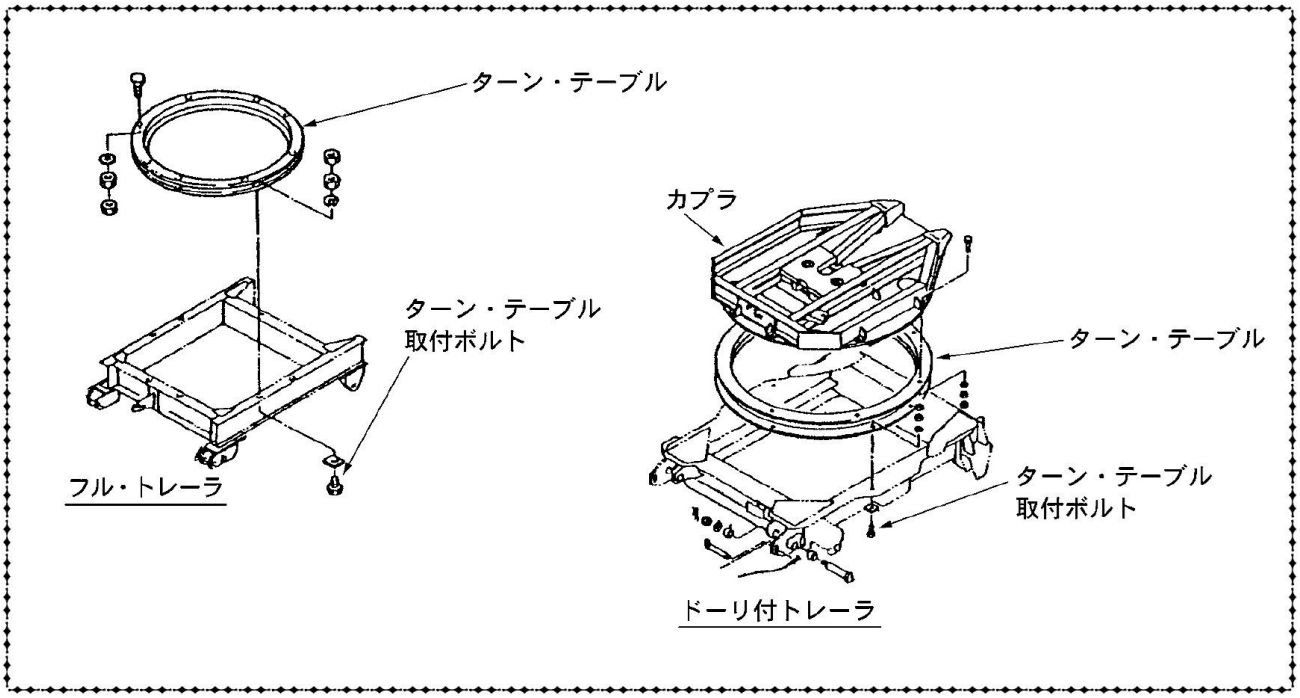
ドーリ・ドローバ

2007 2013 2016 2018

点検箇所	ターン・テーブル	点検整備時期	3月 12月	点検の分類	メーカー指定 メーカー指定
点検内容	亀裂、損傷及び変形	点検方法	目視点検		

【フル・トレーラのみ】【連結状態】

1．ターン・テーブル本体及び取付け部に亀裂、損傷、変形などがないかを、目視などにより点検する。



ドーリ・ドローバ

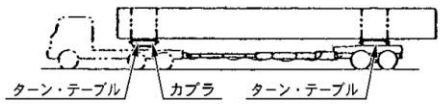
2007 2013 2016 2018

点検箇所	ターン・テーブル	点検整備時期	3月 12月	点検の分類	メーカー指定 メーカー指定
点検内容	亀裂、損傷及び変形	点検方法	目視点検		

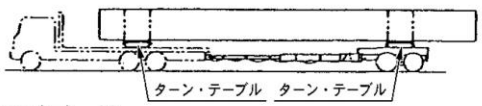
【ポール・トレーラのみ】

2013 年, 2016 年, 2018 年版適用のポール･トレーラでは、本点検項目に「ターン･テーブル･ピンの摩耗、変形」の点検、「ストッパ･ピンの摩耗、変形」の点検を含めて取り扱うことを推奨

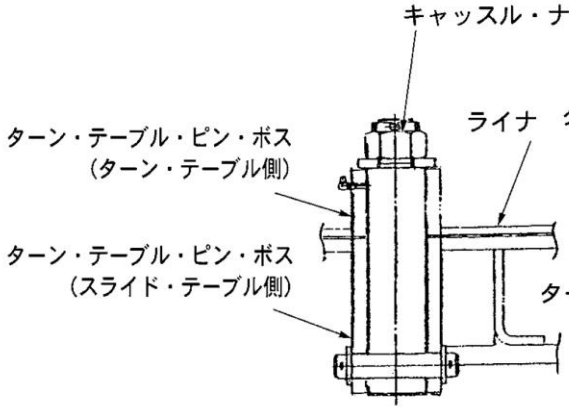
1．ターン・テーブル本体や物品積載部分に亀裂、損傷、変形などがないかを目視などにより点検する。
2．トレーラ用ターン・テーブル、平ボデー用ターン・テーブルは、ターン・テーブル・ピン・ボスや溶接部に亀裂、損傷などないかを目視などにより点検する。
3．トラクタ用ターン・テーブルは、カップリング・ピン（キング・ピン）や溶接部に亀裂、損傷などがないかを目視などにより点検する
4．トレーラ用スライド・テーブル、平ボデー用スライド・テーブルのターン・テーブル・ピン・ボスや溶接部に亀裂、損傷などがないかを目視などにより点検する。



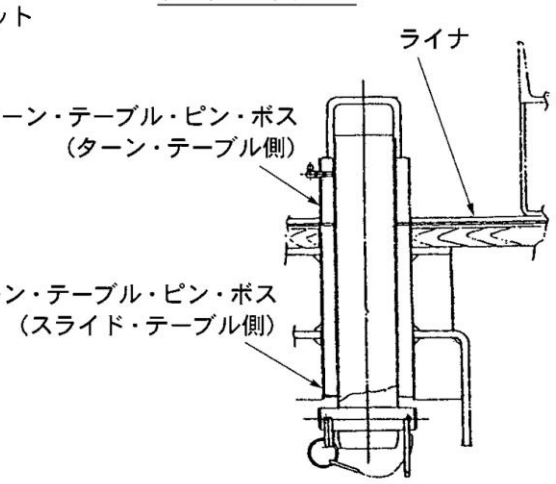
カプラ付トラクタ



平ボデー付
トラック・トラクタ

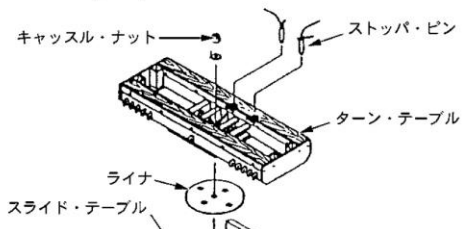


トレーラ用
ターン・テーブル・ピン

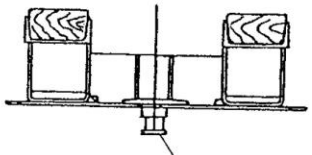


平ボデートラック用
ターン・テーブル・ピン

参 考



トレーラ用ターン・テーブル・ピン部分解図


カップリング・ピン
（キング・ピン）
カプラ付トラクタ用
ターン・テーブル

ドーリ・ドローバ

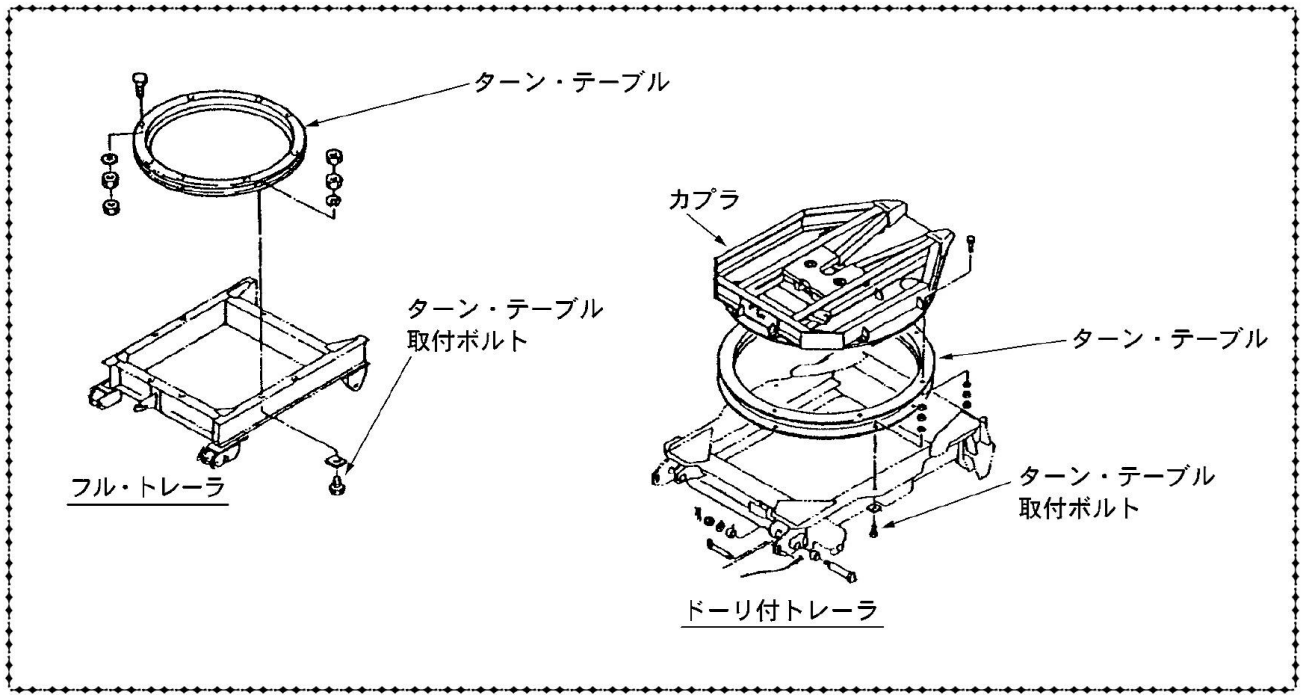
2007	2013	2016	2018

点検箇所		点検整備時期		点検の分類	
	ターン・テーブル		3月 12月 *3		メーカー指定 メーカー指定 メーカー指定
点検内容		点検方法			
	取付ﾎﾞﾙﾄの緩み		目視点検、手工具による点検		

【フル・トレーラのみ】【連結状態】　　３：納入後及び交換後１月

１．フル・トレーラのドーリ及び、フレームとターン・テーブルとの取付ボルトに緩みがないかを、スパナなどにより点検する。

２．ドーリ付トレーラについては、ドーリ及びカプラとターン・テーブルとの取付ボルトに緩みがないかを、スパナなどにより点検する。



ドーリ・ドローバ

2007 | 2013 | 2016 | 2018

点検箇所	ターン・テーブル	点検整備時期	3月 12月	点検の分類	メーカー指定 メーカー指定
点検内容	ターン・テーブル・ピンの摩耗、変形（カプラ付トラクタ用は、カップリング・ピン（キング・ピン）の摩耗、変形）	点検方法	感覚点検、目視点検、 手工具による点検、測定点検		

【ポール・トレーラのみ】

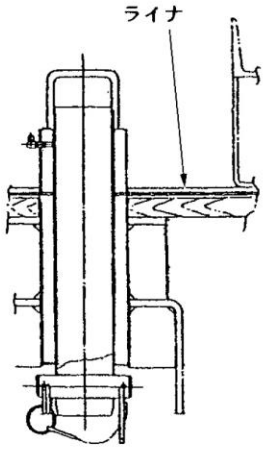
2013 年, 2016 年, 2018 年版適用のポール･トレーラでは、本点検項目は「ターン･テーブルの亀裂、損傷及び変形」の点検に含めて取り扱うことを推奨

ターン・テーブル・ピンの点検

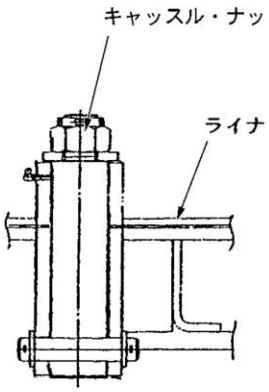
1．ターン・テーブル本体をてこ棒などで揺するなどしてターン・テーブル・ピンとボス穴部に、がたがないかを点検する。
また、トレーラ用ターン・テーブル・ピンにあっては、ピン上部のキャッスル・ナットに緩みがないかをスパナなどにより点検する。
ターン・テーブル・ピンを分解する場合は、ターン・テーブル・ピンに異状な摩耗、変形がないか、また、ボス穴に異状な摩耗がないかをノギスなどにより点検する。

カップリング・ピン（キング・ピン）の点検

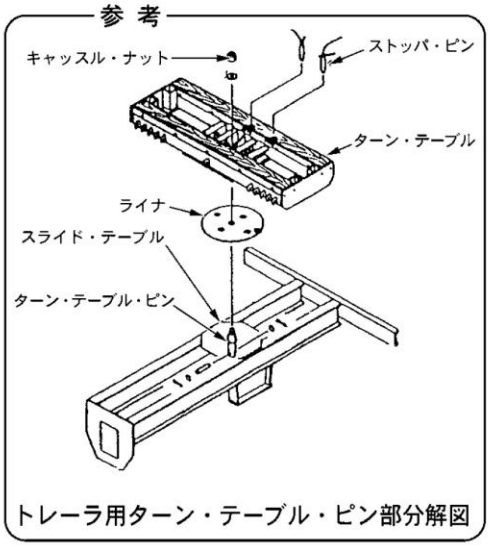
1．カップリング・ピン（キング・ピン）の点検要領は本書 102 ページ、103 ページ参照。



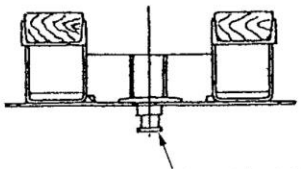
平ボデートラック用
ターン・テーブル・ピン



トレーラ用
ターン・テーブル・ピン



トレーラ用ターン・テーブル・ピン部分解図



カップリング・ピン
（キング・ピン）
カプラ付トラクタ用
ターン・テーブル

ドーリ・ドローバ

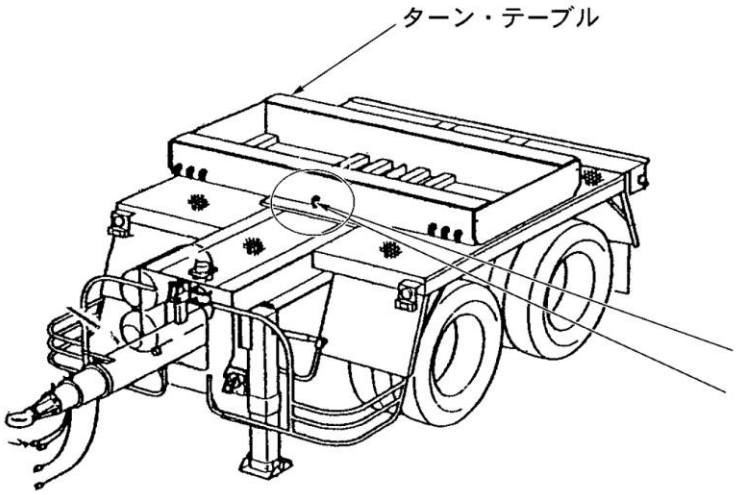
2007 | 2013 | 2016 | 2018

点検箇所	ターン・テーブル	点検整備時期	3月 12月	点検の分類	メーカー指定 メーカー指定
点検内容	ストッパ・ピンの摩耗、変形	点検方法	目視点検、測定点検		

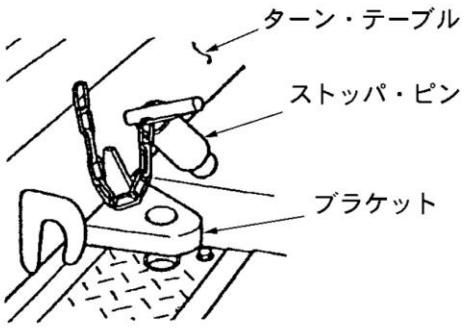
【ポール・トレーラのみ】

2013 年, 2016 年, 2018 年版適用のポール･トレーラでは、本点検項目は
「ターン･テーブルの亀裂、損傷及び変形」の点検に含めて取り扱うことを推奨

1．ストッパ・ピンに異状な摩耗、変形などがないか、また、ストッパ・ピン・ブラケットの穴に異状な摩耗がないかをノギスなどにより点検する。
2．ストッパ・ピン・ブラケットに損傷、変形などがないか、また、ブラケット溶接部に亀裂、損傷がないかを目視などにより点検する。



ポール・トレーラ



ドーリ・ドローバ

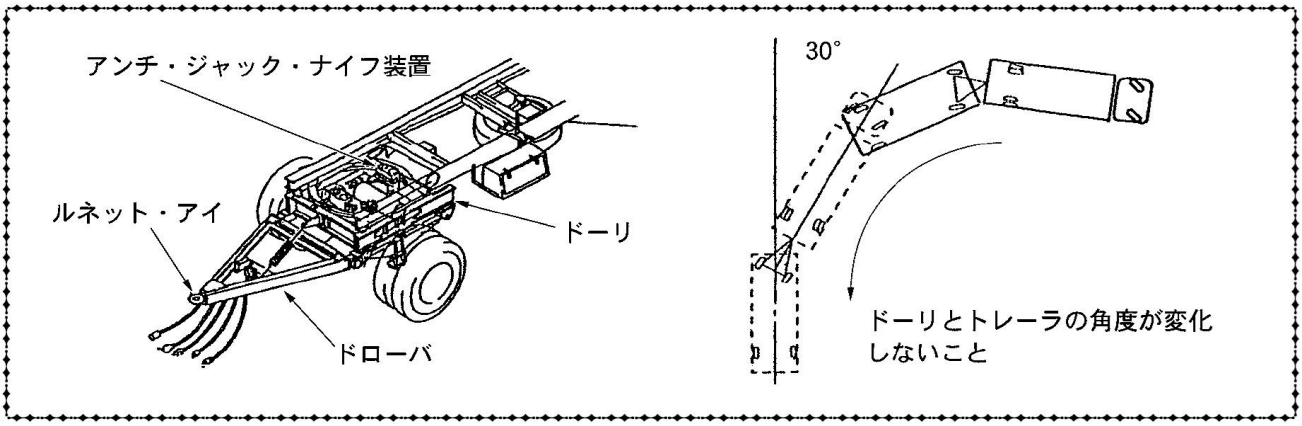
2007 2013 2016 2018

点検箇所	ｱﾝﾁ･ｼﾞｬｯｸ･ﾅｲﾌ装置	点検整備時期	3月 12月	点検の分類	メーカー指定 メーカー指定
点検内容	作動状態	点検方法	感覚点検、目視点検		

【フル・トレーラのみ】【連結状態】

1．トラクタと連結し、アンチ・ジャック・ナイフ装置を作動させ、作動時と解除時の状態を、目視やエア音などにより点検する。

2．ドーリとトレーラの角度を約 30°にし、アンチ・ジャック・ナイフ装置を作動させ、フル・トレーラ・トラクタを後退させた時にアンチ・ジャック・ナイフ装置が滑らない（ドーリとトレーラの角度が変わらない）ことを、目視などにより点検する。



ドーリ・ドローバ

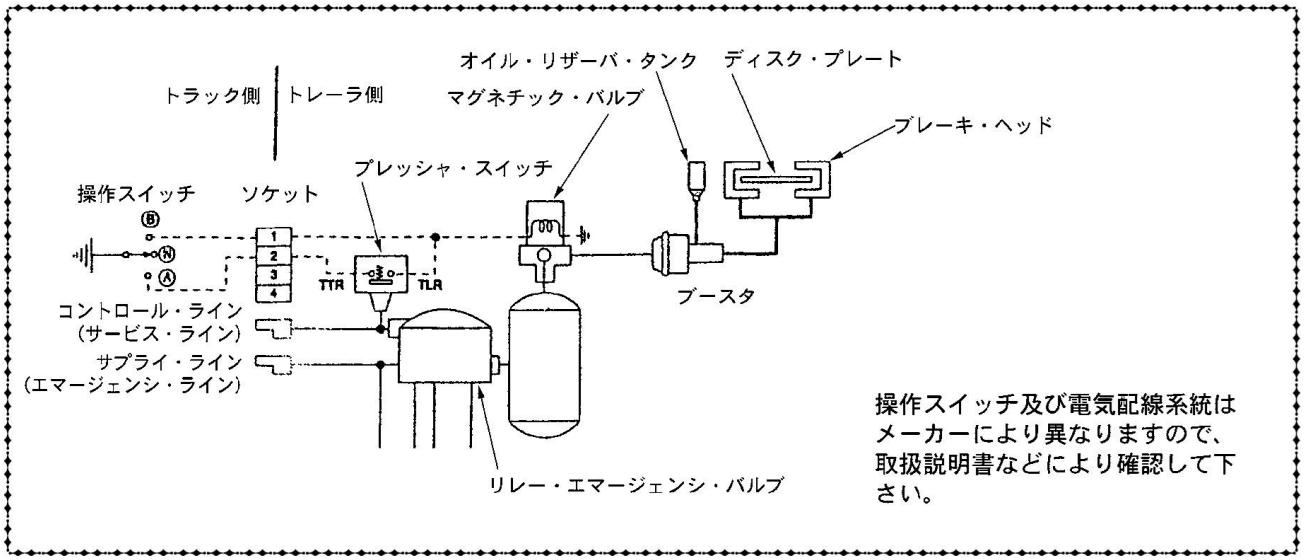
2007 2013 2016 2018

点検箇所	ｱﾝﾁ･ｼﾞｬｯｸ･ﾅｲﾌ装置	点検整備時期	3月 12月	点検の分類	メーカー指定 メーカー指定
点検内容	配管のｴｱ漏れ及び油漏れ	点検方法	目視点検、聴覚点検、測定点検		

【フル・トレーラのみ】【連結状態】

1．トラクタと連結し、アンチ・ジャック・ナイフ装置を作動させ、本点検要領書の制動装置のホース及び、パイプの点検（29 頁）と同一方法にてエア漏れがないかを点検する。

2．アンチ・ジャック・ナイフ装置を作動させ、配管、各継手部などからオイル漏れがないかを、目視などにより点検する。



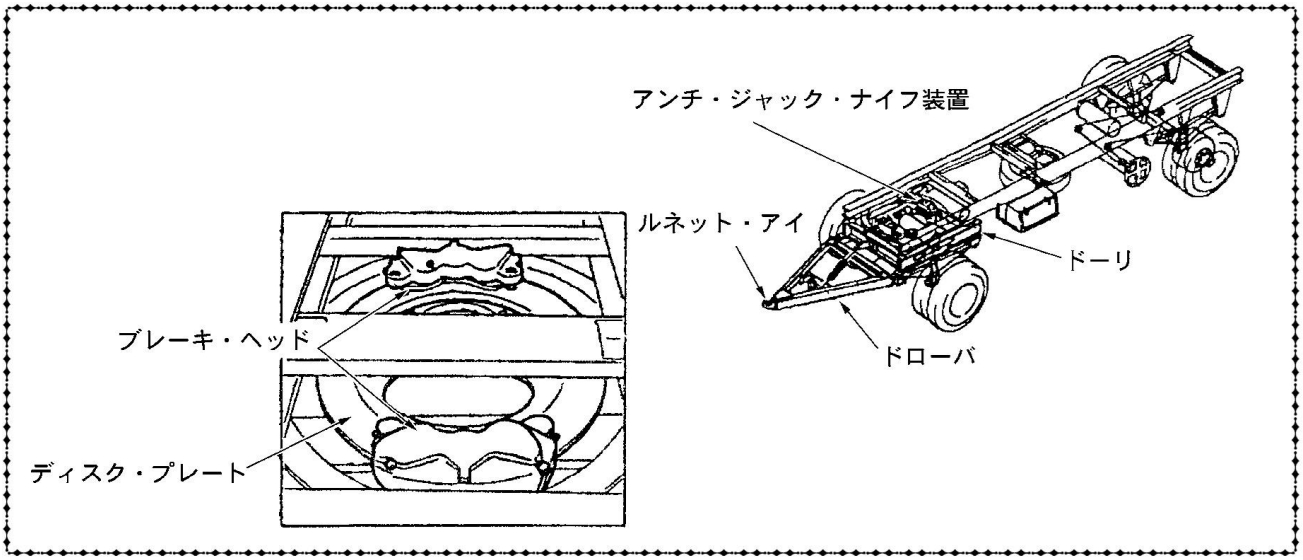
ドーリ・ドローバ

2007 2013 2016 2018

点検箇所	ｱﾝﾁ･ｼﾞｬｯｸ･ﾅｲﾌ装置	点検整備時期	3月 12月	点検の分類	メーカー指定 メーカー指定
点検内容	ﾃﾞｨｽｸ･ﾌﾟﾚｰﾄの汚れ	点検方法	目視点検		

【フル・トレーラのみ】【連結状態】

１．ディスク・プレートに異物、油脂などが付着していないかを、目視などにより点検する。



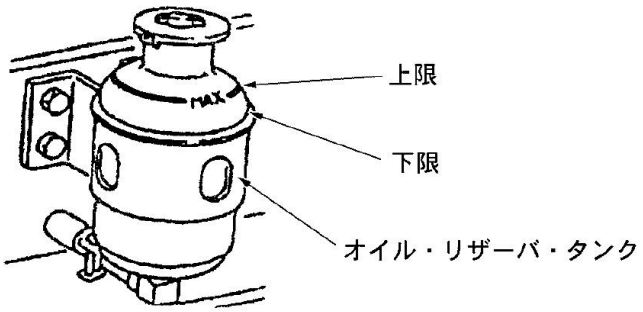
ドーリ・ドローバ

2007 2013 2016 2018

点検箇所	ｱﾝﾁ･ｼﾞｬｯｸ･ﾅｲﾌ装置	点検整備時期	3月 12月	点検の分類	メーカー指定 メーカー指定
点検内容	ｵｲﾙ･ﾘｻﾞｰﾊﾞ･ﾀﾝｸの液量	点検方法	目視点検		

【フル・トレーラのみ】【連結状態】

１．オイル・リザーバ・タンク内のブレーキ液量が規定の範囲にあるかを、目視などにより点検する。



アンチ・ジャック・ナイフ装置が作動していないとき、
オイル・リザーバ・タンクの液量は、上限(MAXマーク)
と下限の間にあること。

ドーリ・ドローバ

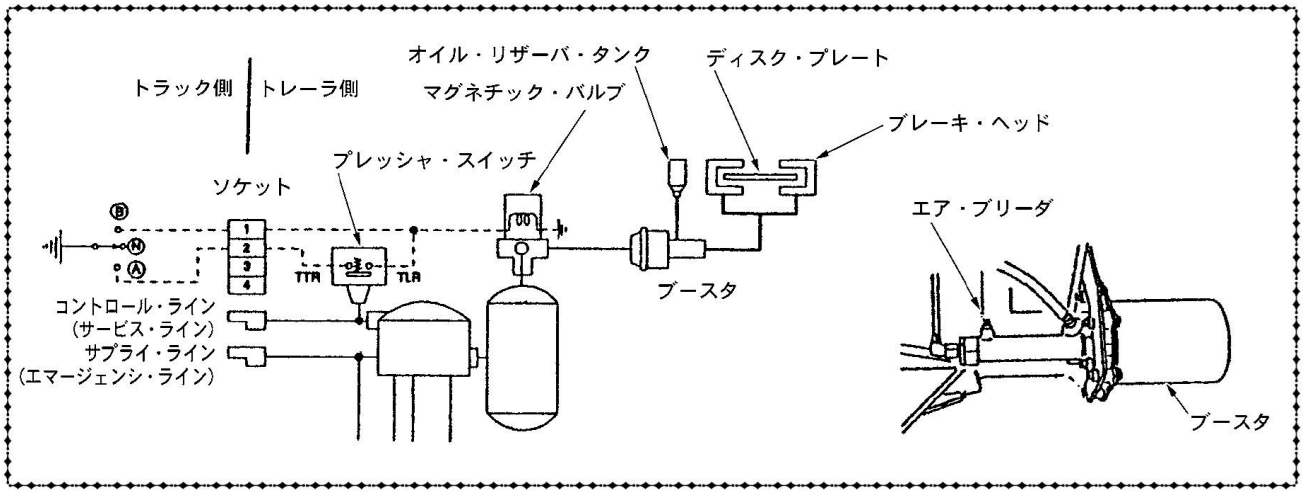
2007 2013 2016 2018

点検箇所	ｱﾝﾁ･ｼﾞｬｯｸ･ﾅｲﾌ装置	点検整備時期	12月	点検の分類	メーカー指定
点検内容	ブースタの機能	点検方法	走行点検、感覚点検、目視点検		

【フル・トレーラのみ】【連結状態】

1．トラクタと連結させ、アンチ・ジャック・ナイフ装置の作動状態などに異状がないかを点検する。

2．ブースタを分解する場合は、シリンダ内面及びピストンなどに錆､傷などの異状がないかを点検する。



ドーリ・ドローバ

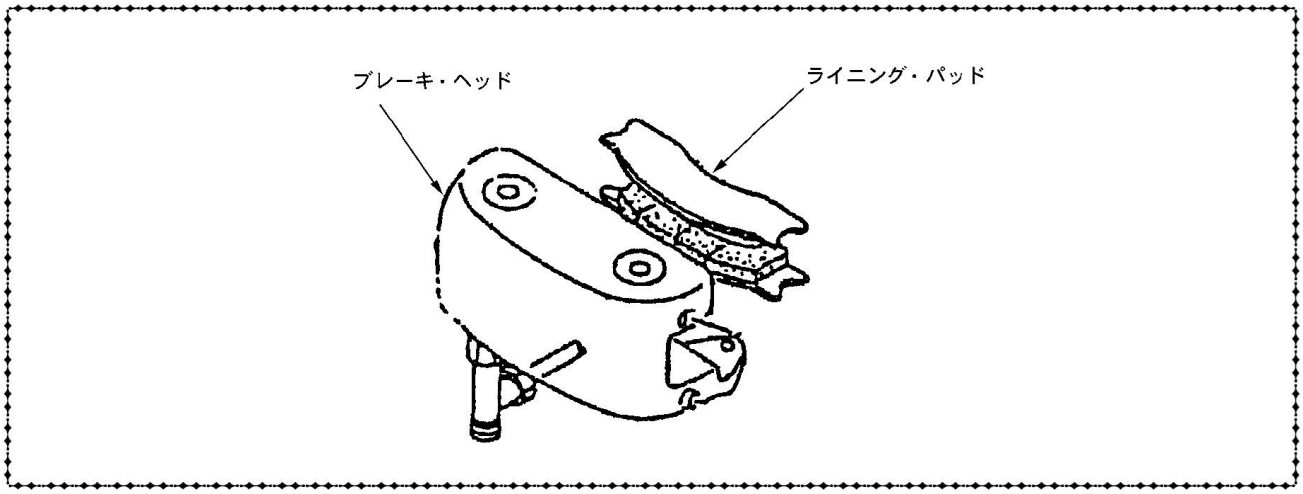
2007 2013 2016 2018

点検箇所	ｱﾝﾁ･ｼﾞｬｯｸ･ﾅｲﾌ装置	点検整備時期	3月 12月	点検の分類	メーカー指定 メーカー指定
点検内容	ﾌﾞﾚｰｷ･ﾗｲﾆﾝｸﾞの摩耗	点検方法	目視点検、測定点検		

【フル・トレーラのみ】【連結状態】

1．トラクタと連結させ、ターン・テーブル・ロック用ブレーキ・ライニングの摩耗状態を目視などにより点検（使用限度インジケータなどにより確認）する。

2．ブレーキ・ライニングを取外す場合は、ライニングに異状な摩耗、剥離、変質などの損傷がないかを、目視などにより点検する。
また、ライニングの厚みをスケールなどにより点検する。



ドーリ・ドローバ

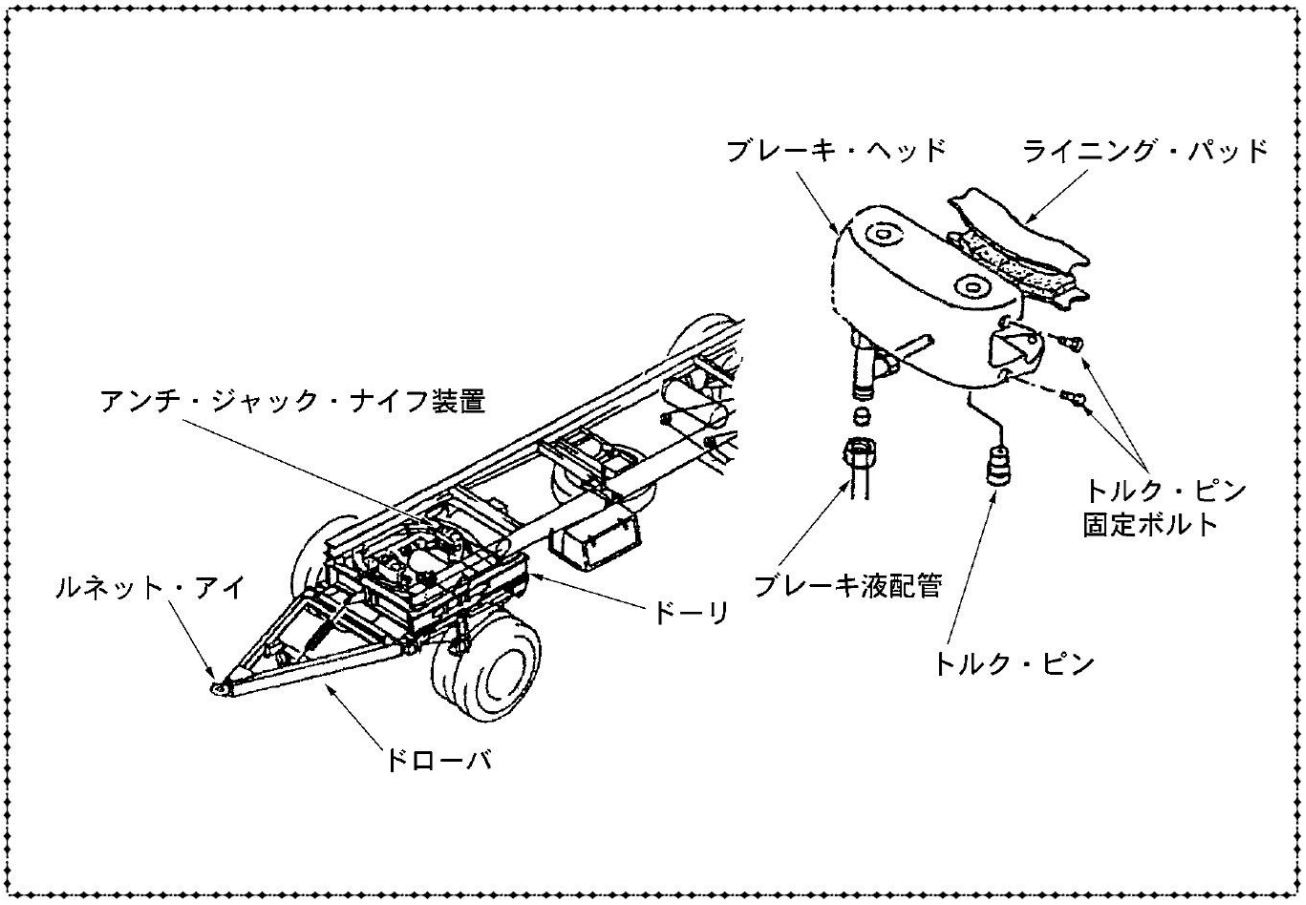
2007 2013 2016 2018

点検箇所	ｱﾝﾁ･ｼﾞｬｯｸ･ﾅｲﾌ装置	点検整備時期	12月	点検の分類	メーカー指定
点検内容	ﾌﾞﾚｰｷ･ﾍｯﾄﾞの機能	点検方法	走行点検、感覚点検、目視点検		

【フル・トレーラのみ】【連結状態】

1．トラクタと連結させ、アンチ・ジャック・ナイフ装置の作動状態などに異状がないかを点検する。

2．ブレーキ・ヘッドを分解する場合は、シリンダ内面及びピストンなどに錆、異物の付着、傷などに異状がないかを点検する。



ドーリ・ドローバ

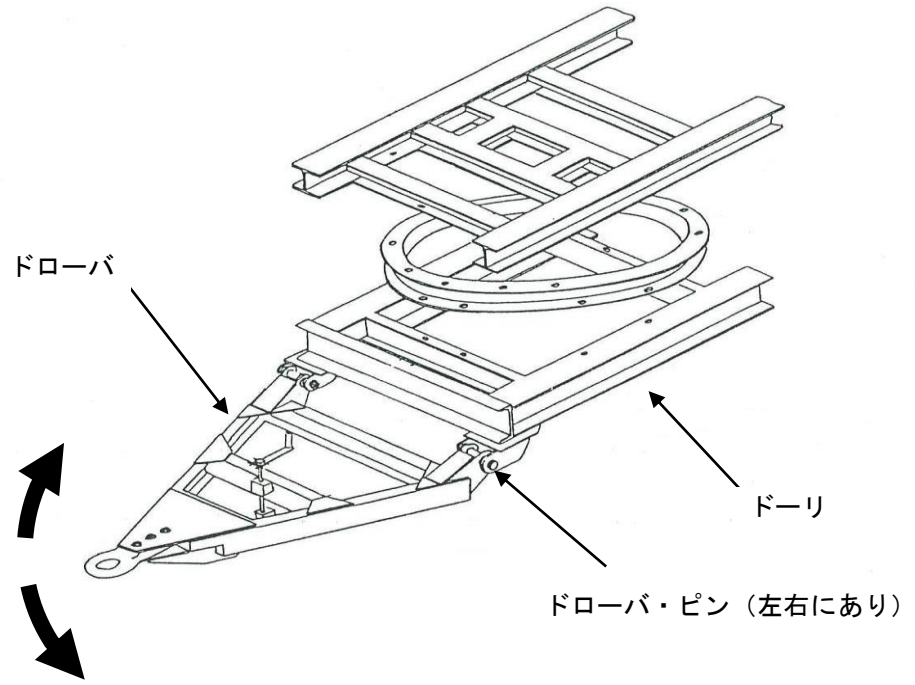
2007 2013 2016 2018

点検箇所	ドローバ	点検整備時期	3月 12月	点検の分類	メーカー指定 メーカー指定
点検内容	作動状態	点検方法	目視点検、感覚点検		

【フル・トレーラのみ】【連結状態】

1．トレーラを連結しない状態で、手でドローバ部を上下させ、ドローバ・ピン部の動きに異状がないか確認する。

2．動きに異状が認められた場合、ドローバ・ピン部の変形や、摩耗等（ドローバ・ピン・ナットの緩みの点検項目参照）について点検する。



手でドローバを上下動させて確認

〈ワンポイント･アドバイス〉

●ドローバ・ピンやブッシュに異状がある場合、ドローバの動きに影響を与えるため、関連する部品の点検を行なってください。

ドーリ・ドローバ

2007 2013 2016 2018

点検箇所	ドローバ	点検整備時期	3月 12月	点検の分類	メーカー指定 メーカー指定
点検内容	作動状態	点検方法	走行点検、目視点検、感覚点検		

【ポール・トレーラのみ】【連結状態】

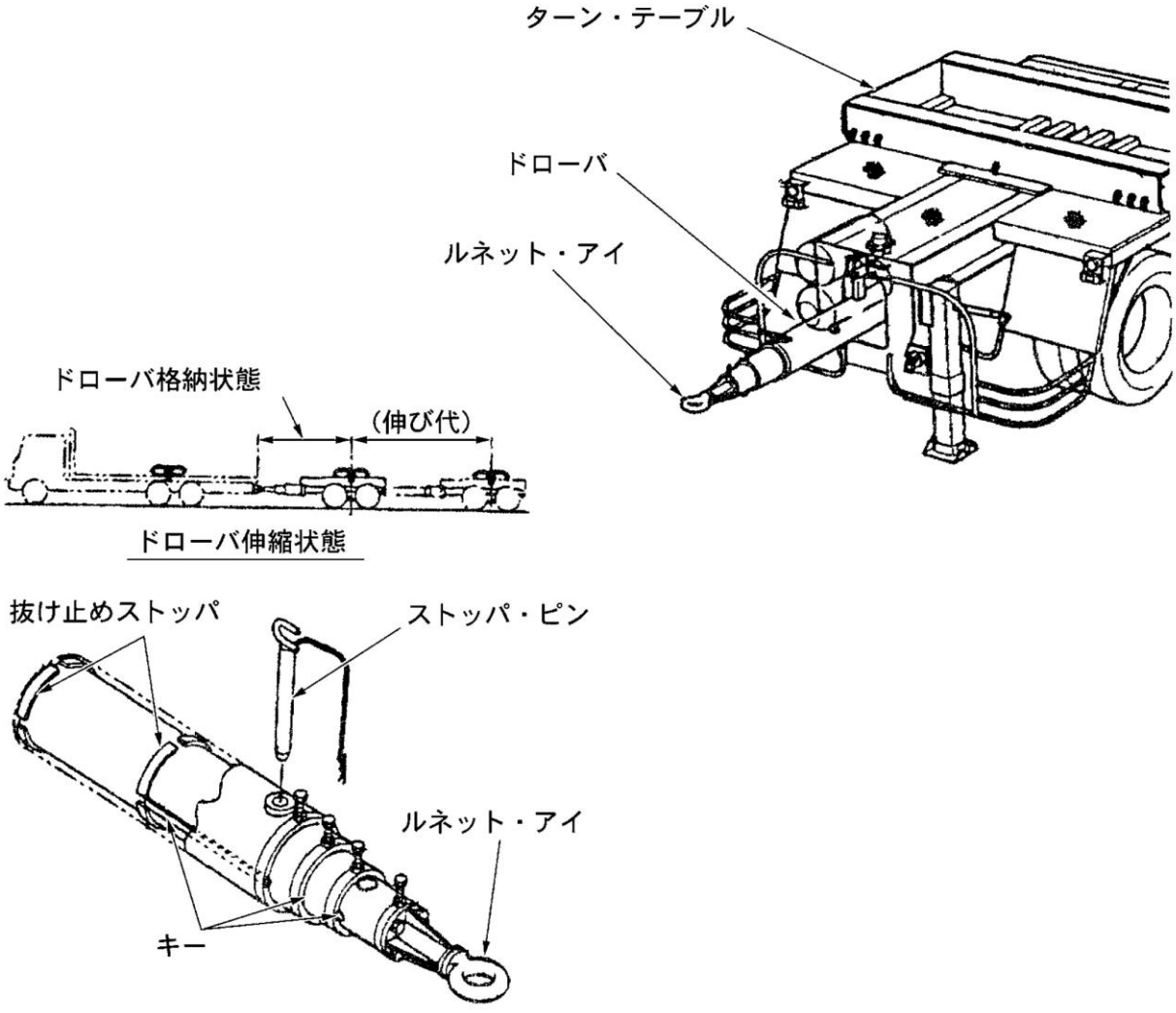
2013 年, 2016 年, 2018 年版適用のポール･トレーラでは、本点検項目に「ドローバ･ストッパ･ピンの摩耗、変形」の点検、「スイング･ガイド･ピンの摩耗、変形」の点検を含めて取り扱うことを推奨

1．ポール・トレーラ用トラクタと連結させ、ドローバ格納状態で、トレーラ側駐車ブレーキを掛け、トレーラ車輪前後に歯止めをセットしてから、フロント側ストッパ・ピンを抜いて、ポール・トレーラ用トラクタを緩やかに前進させ、ドローバを引き出せる範囲で引き出す。
次にポール・トレーラ用のトラクタを緩やかに後退させ、ドローバを完全に格納する。この前進後退時のドローバの作動に異状がないかを運転者と別の点検者が目視などにより点検する。

2．ドローバを出来る限り引き出した状態にて各段のドローバ外形部に異状なかじり傷などがないか、また、ドローバに亀裂、損傷、曲がり、変形などの異状がないかを目視により点検する。

3．ドローバ各段のガイド部に、がたなどがないかをドローバを回転方向に揺するなどして点検する。

4．ドローバの各段を分解して点検する場合は、ドローバ抜け止めストッパー・プレートや、ガイドなどの溶接部に亀裂、損傷がないかを目視などにより点検する。



ドーリ・ドローバ

2007 2013 2016 2018

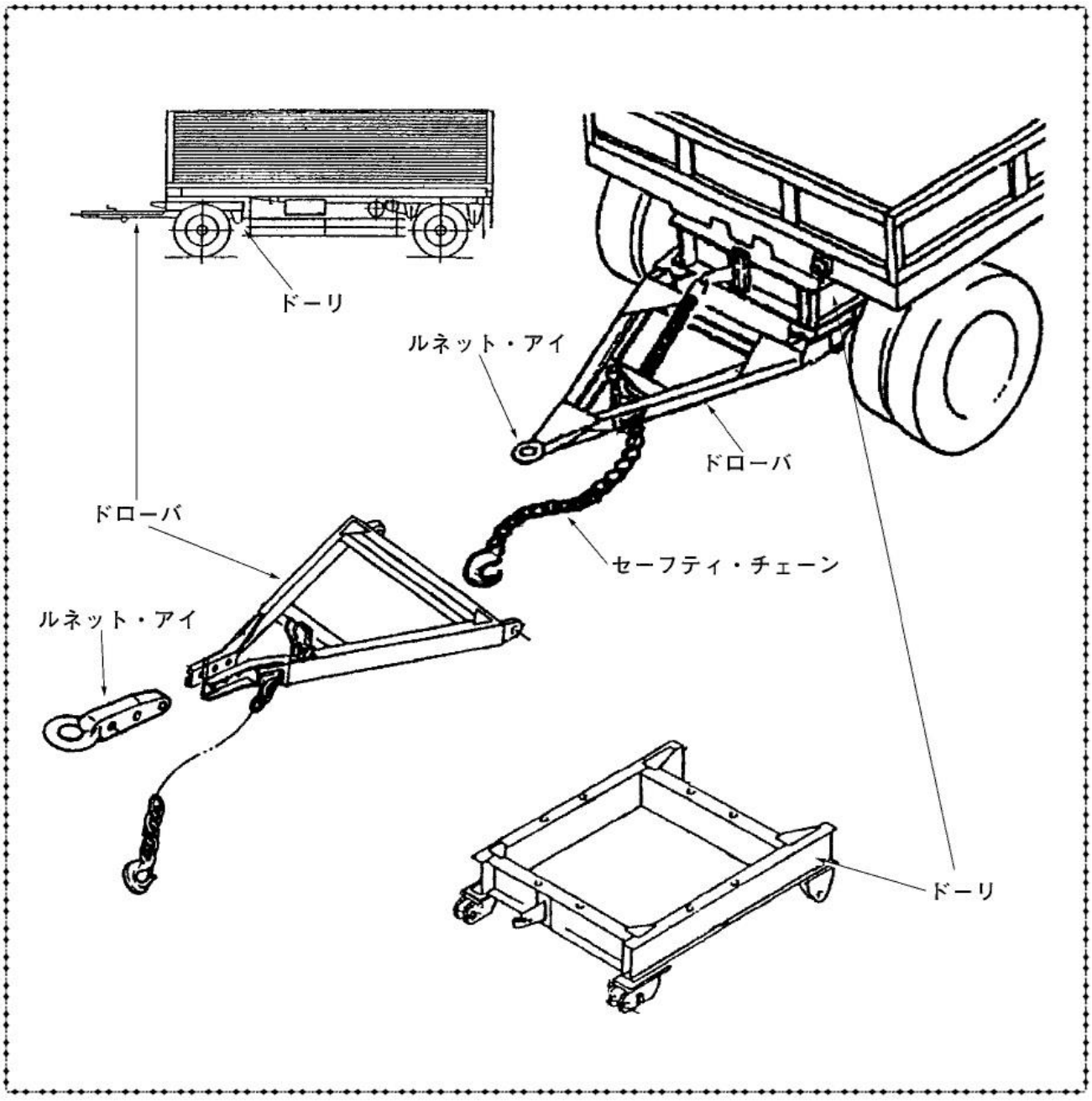
点検箇所	ドローバ	点検整備時期	3月 12月	点検の分類	メーカー指定 メーカー指定
点検内容	ﾌﾚｰﾑの亀裂、損傷及び変形	点検方法	目視点検		

【フル・トレーラのみ】【連結状態】

1．ドローバに亀裂、損傷、変形などがないか、また、各溶接部に亀裂、損傷などがないかを目視などにより点検する。

2．ドーリに亀裂、損傷、変形などがないか、また、各溶接部に亀裂、損傷などがないかを目視などにより点検する。

3．セーフティ・チェーンのフック、チェーン及びドローバ取付け部に亀裂、損傷、変形などがないかを目視などにより点検する。



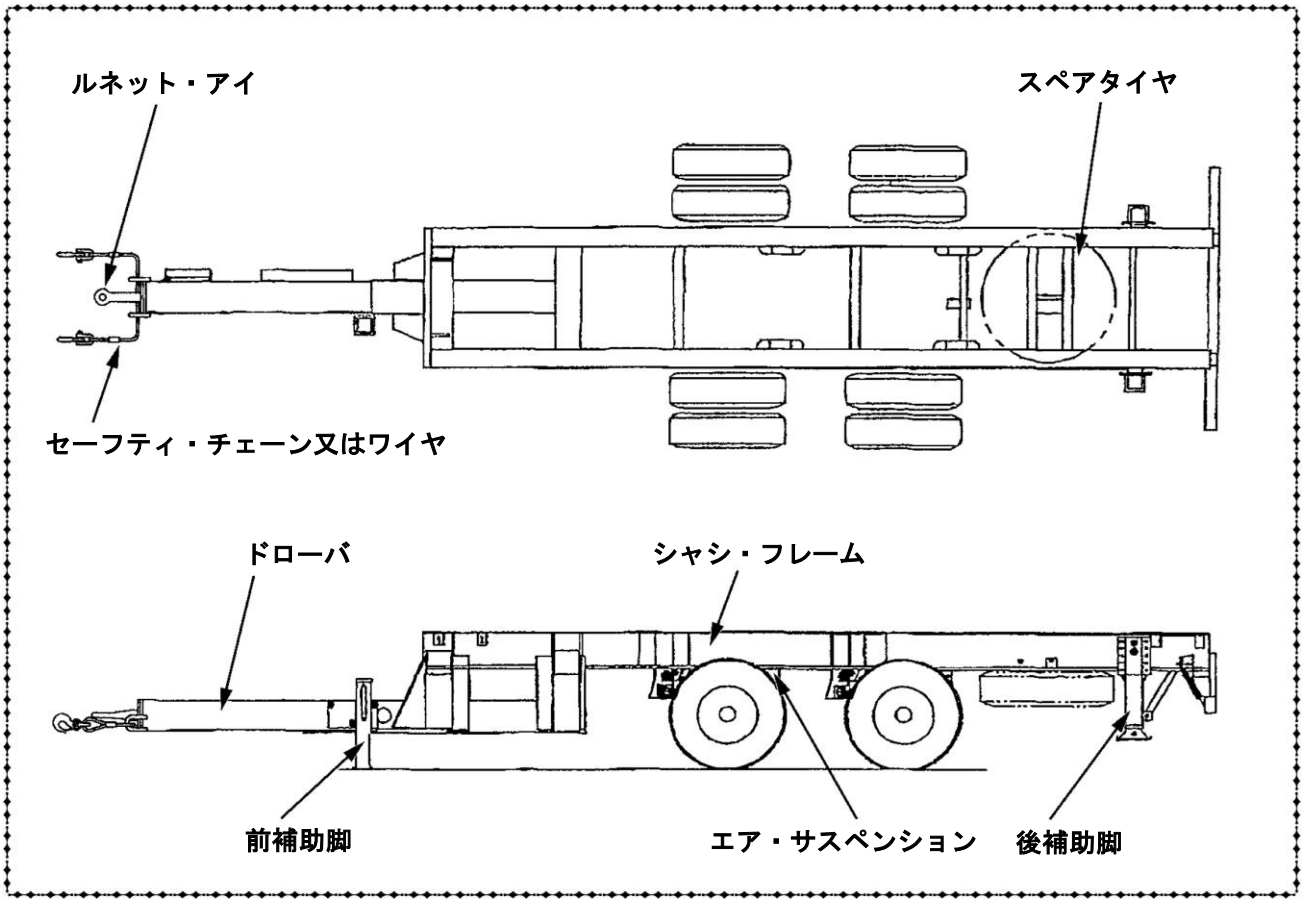
ドーリ・ドローバ

2007 2013 2016 2018

点検箇所	ドローバ (ｾﾝﾀｰｱｸｽﾙ･ﾌﾙ･ﾄﾚｰﾗ用)	点検整備時期	3月 12月	点検の分類	メーカー指定 メーカー指定
点検内容	ﾌﾚｰﾑの亀裂、損傷及び変形	点検方法	目視点検		

【フル・トレーラのみ】【連結状態】

1．ドローバに亀裂、損傷、変形などがないか、また、各溶接部に亀裂、損傷などがないかを目視などにより点検する。
2．セーフティ・チェーン又はワイヤのフック、チェーン又はワイヤ及びドローバ取付け部に亀裂、損傷、変形などがないかを目視などにより点検する。



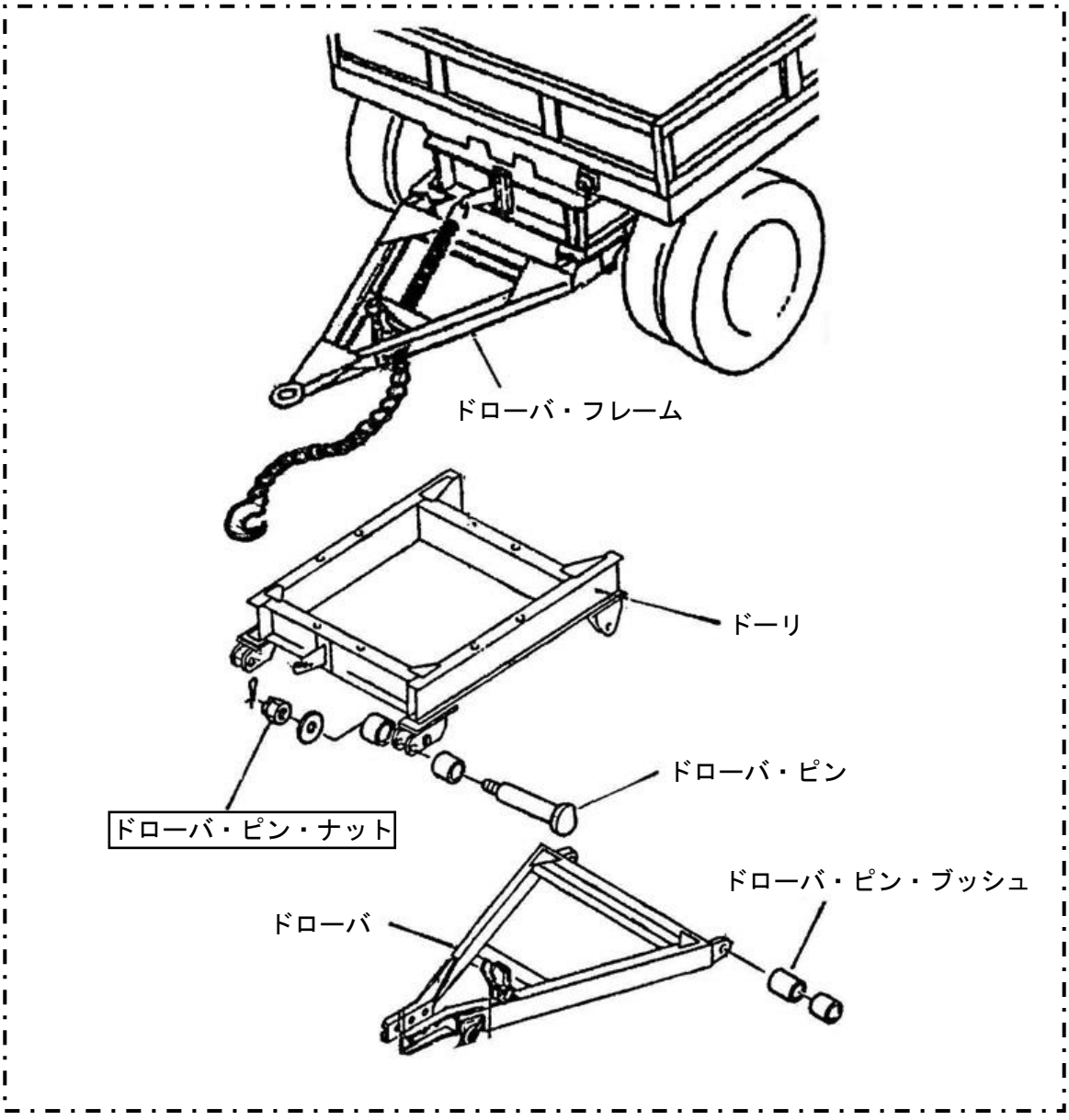
ドーリ・ドローバ

2007 2013 2016 2018

点検箇所	ドローバ	点検整備時期	12月	点検の分類	メーカー指定
点検内容	ﾄﾞﾛｰﾊﾞ･ﾋﾟﾝ･ﾅｯﾄの緩み	点検方法	手工具による点検、目視点検、感覚点検		

【フル・トレーラのみ】【連結状態】

1．定置にて、ドローバ・ピン・ナットに緩みがないかスパナなどにより点検する。
　　＊締付ナットの締付トルクについては、各メーカーの取扱説明書などの指示による。



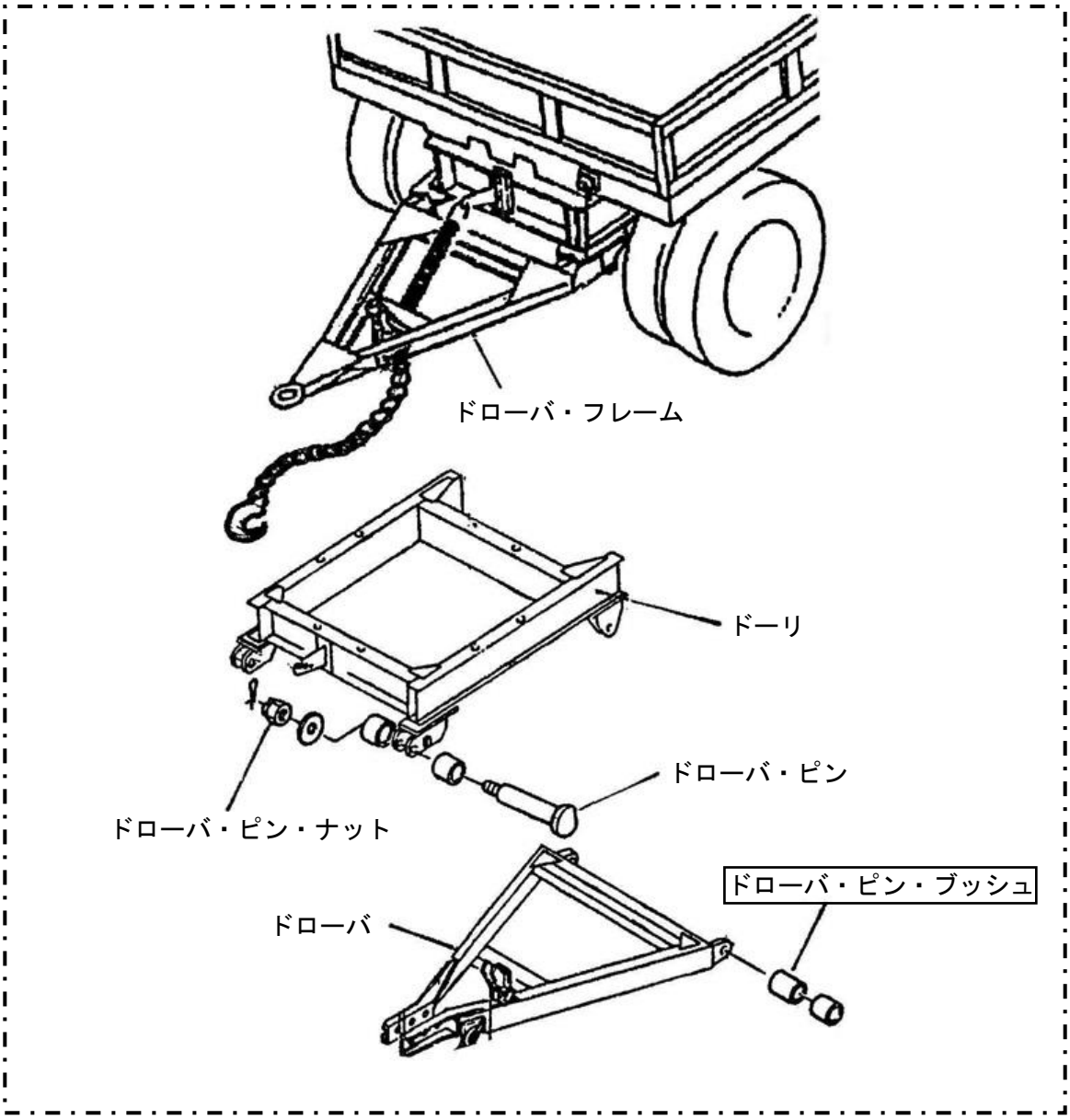
ドーリ・ドローバ

2007 2013 2016 2018

点検箇所	ドローバ	点検整備時期	3月 12月	点検の分類	メーカー指定 メーカー指定
点検内容	ﾄﾞﾛｰﾊﾞ･ﾋﾟﾝ･ﾌﾞｯｼｭの摩耗	点検方法	目視点検、感覚点検		

【フル・トレーラのみ】【連結状態】

1．フル・トレーラ・トラクタと分離した状態で、定置にて、ドローバ先端を揺するなどしてドローバ・ピンとブッシュにがたなどがないかを点検する。
ドローバ・ピンを分解する場合は、ドローバ・ピンに変形、摩耗がないか、また、ブッシュに摩耗がないか目視により点検する。
＊摩耗限度については、各メーカーの取扱説明書などの指示による。



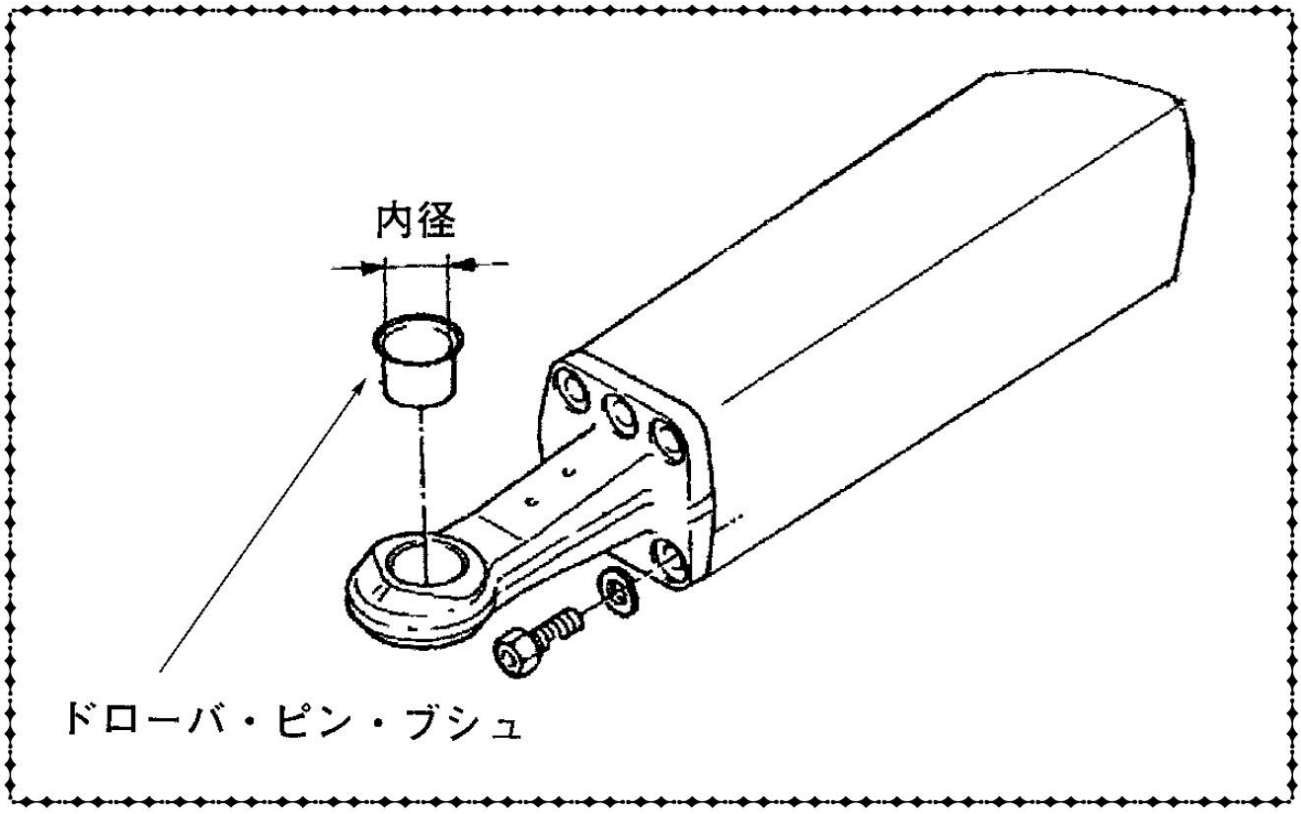
ドーリ・ドローバ

2007 2013 2016 2018

点検箇所	ドローバ (ｾﾝﾀｰｱｸｽﾙ･ﾌﾙ･ﾄﾚｰﾗ用)	点検整備時期	3月 12月	点検の分類	メーカー指定 メーカー指定
点検内容	ﾄﾞﾛｰﾊﾞｰ･ﾋﾟﾝ･ﾌﾞｯｼｭの摩耗	点検方法	目視点検、測定点検		

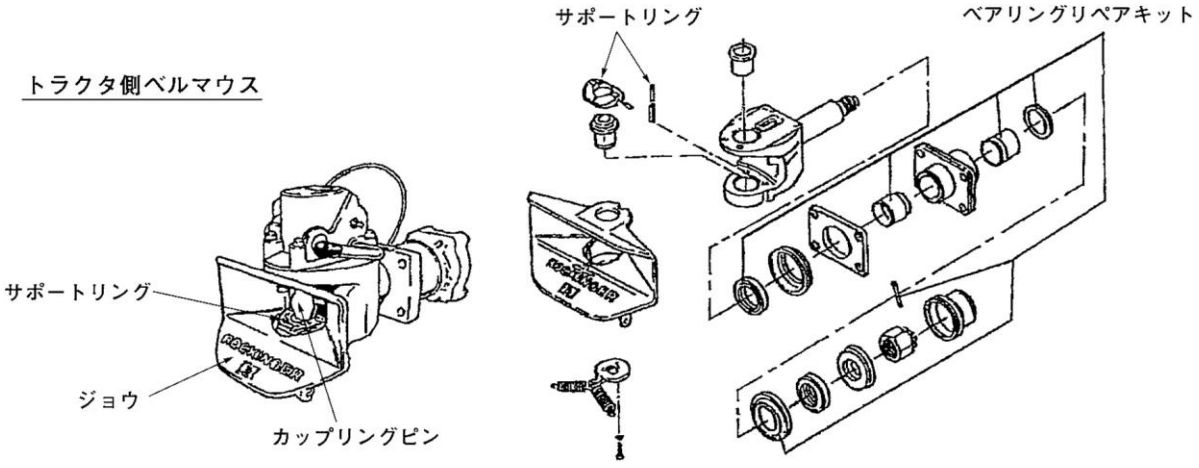
【フル・トレーラのみ】【連結状態】

1．ドローバ・ピン・ブッシュの内径が摩耗限度以上に摩耗していないかをノギスなどにより点検する。



〈ワンポイント・アドバイス〉

● トラクタ側ベルマウスも定期点検が必要です。
具体的な点検内容、交換部品、交換時期については各メーカー発行の取扱説明書等にしたがってください。



ドーリ・ドローバ

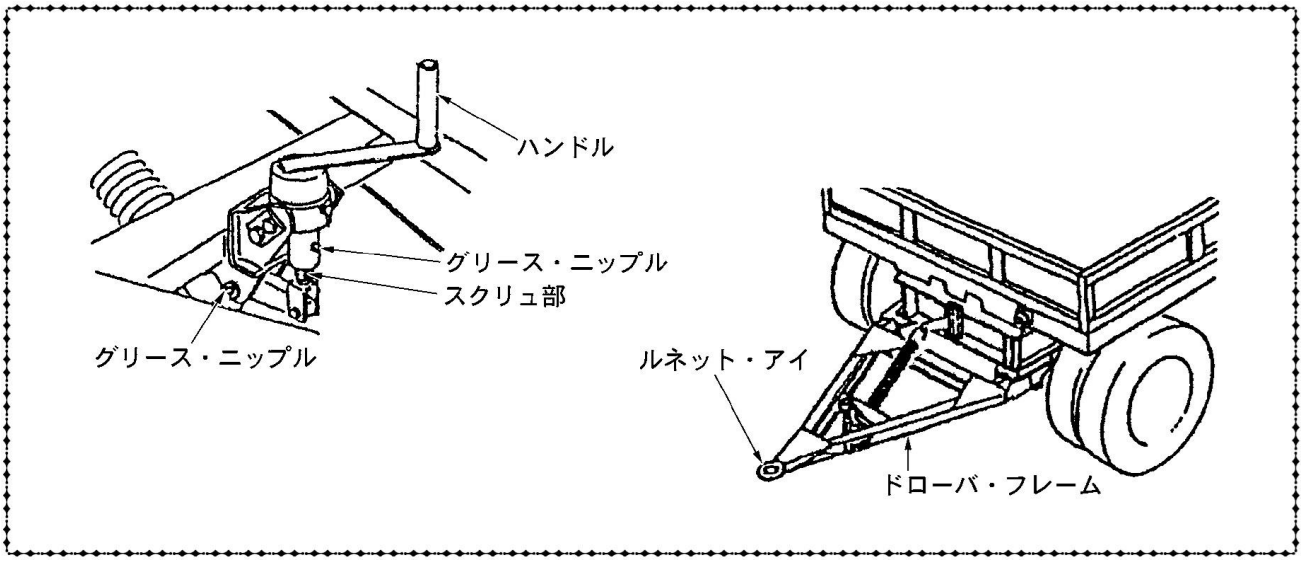
2007 2013 2016 2018

点検箇所	ドローバ・サポート	点検整備時期	3月 12月	点検の分類	メーカー指定 メーカー指定
点検内容	作動状態	点検方法	目視点検		

【フル・トレーラのみ】【連結状態】

1・ドローバ・サポート装置（フル・トラクタと切離した状態で、ドローバが路面に下がるのを防止したり、連結時にドローバ高さを調整する装置）が取付いているものについては、機能、操作作動などに異状がないかを点検する

また、装置機器、取付け状態などに異状な損傷、変形などがないかを目視などにより点検する。



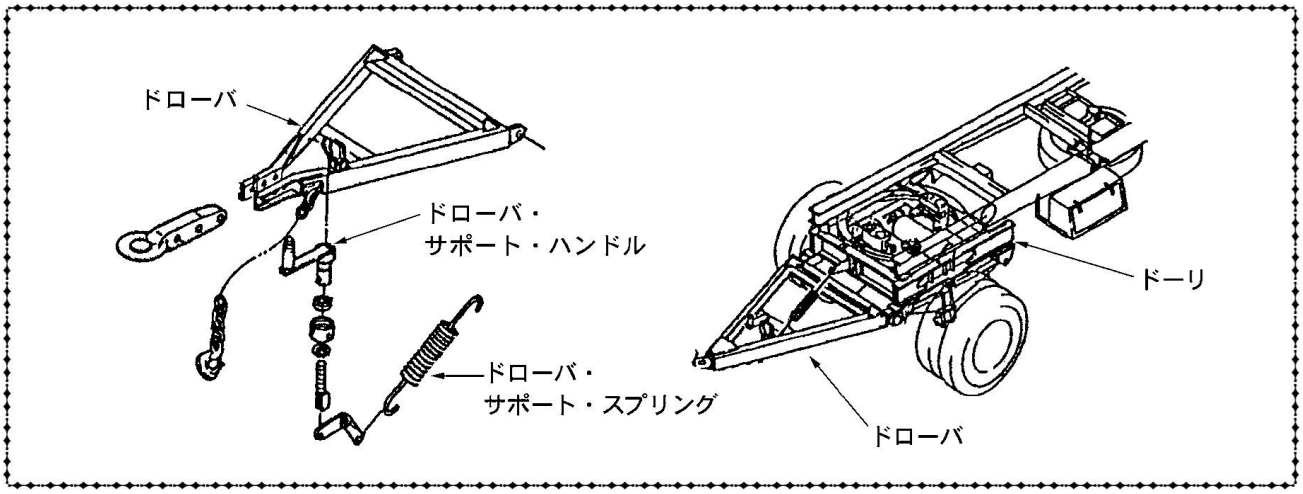
ドーリ・ドローバ

2007 2013 2016 2018

点検箇所	ドローバ・サポート	点検整備時期	3月 12月	点検の分類	メーカー指定 メーカー指定
点検内容	ｻﾎﾟｰﾄ･ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞの損傷	点検方法	目視点検		

【フル・トレーラのみ】【連結状態】

1．ドローバ・サポート・スプリングの取付状態に異状がないか、また、スプリングにへたり、損傷変形などがないかを目視などにより点検する。



ドーリ・ドローバ

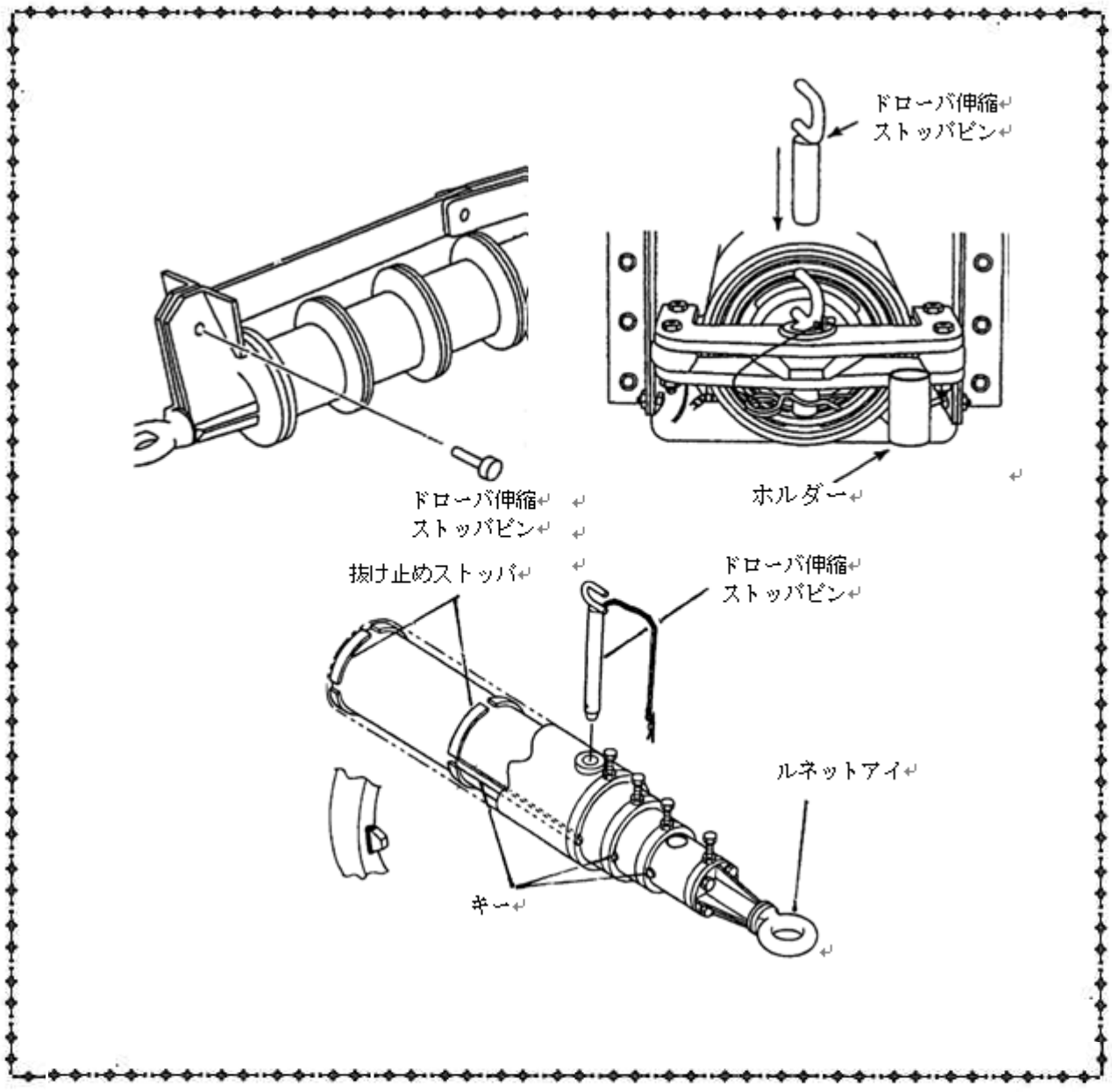
2007 | 2013 | 2016 | 2018

点検箇所	ドローバ・サポート	点検整備時期	3月 12月	点検の分類	メーカー指定 メーカー指定
点検内容	ドローバ・ストッパ・ピンの摩耗、変形	点検方法	目視点検		

【ポール・トレーラのみ】

2013 年, 2016 年, 2018 年版適用のポール･トレーラでは、本点検項目は「ドローバの作動状態」の点検に含めて取り扱うことを推奨

1．ドローバ・ストッパ・ピンに摩耗、変形などがないかを目視などにより点検する。
また、ドローバ本体のドローバ・ストッパ・ピンセット穴に異状な摩耗、変形がないかを目視などにより点検する。



ドーリ・ドローバ

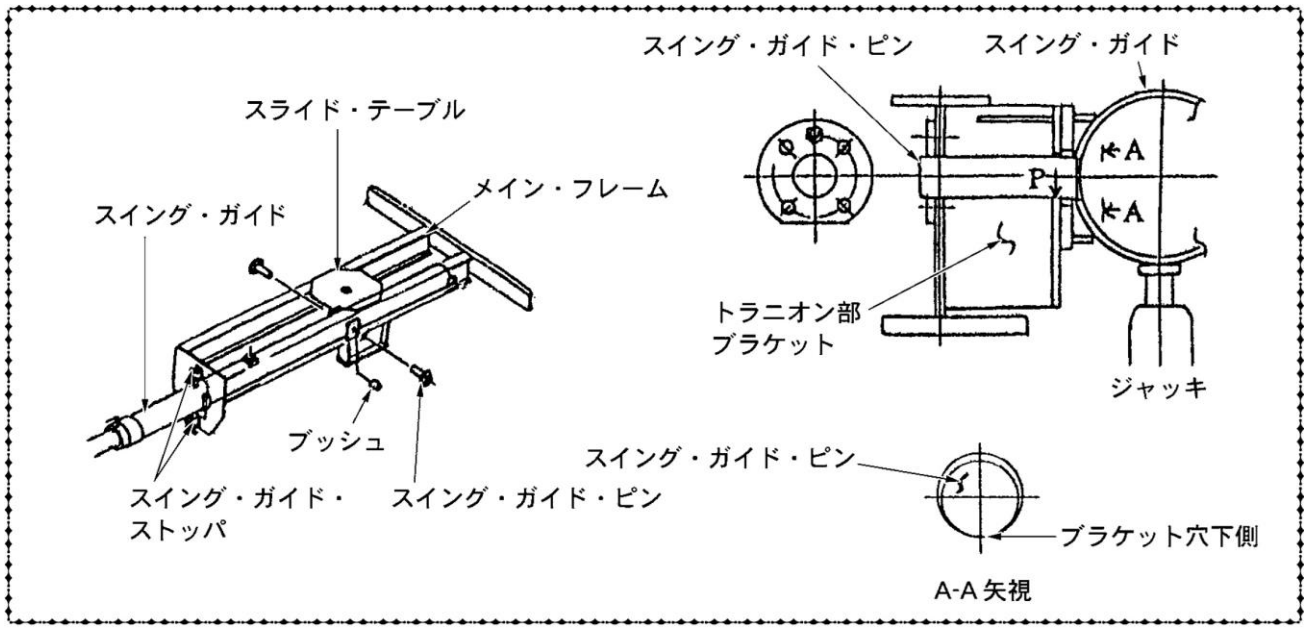
2007 | 2013 | 2016 | 2018

点検箇所	ドローバ・サポート	点検整備時期	3月 12月	点検の分類	メーカー指定 メーカー指定
点検内容	スイング・ガイド・ピンの摩耗、変形	点検方法	目視点検		

【ポール・トレーラのみ】

2013 年, 2016 年, 2018 年版適用のポール･トレーラでは、本点検項目は「ドローバの作動状態」の点検に含めて取り扱うことを推奨

1．スイング・ガイド下部をジャッキ・アップし、スイング・ガイド・ピンに、がたがないかを点検する。
2．スイング・ガイド・ピン部を分解する場合は、スイング・ガイド・ピンに摩耗・変形・亀裂などがないかを目視などにより点検する。
また、スイング・ガイド・ボス穴部のブッシュに異状な摩耗などがないかを目視により点検する。



緩衝装置

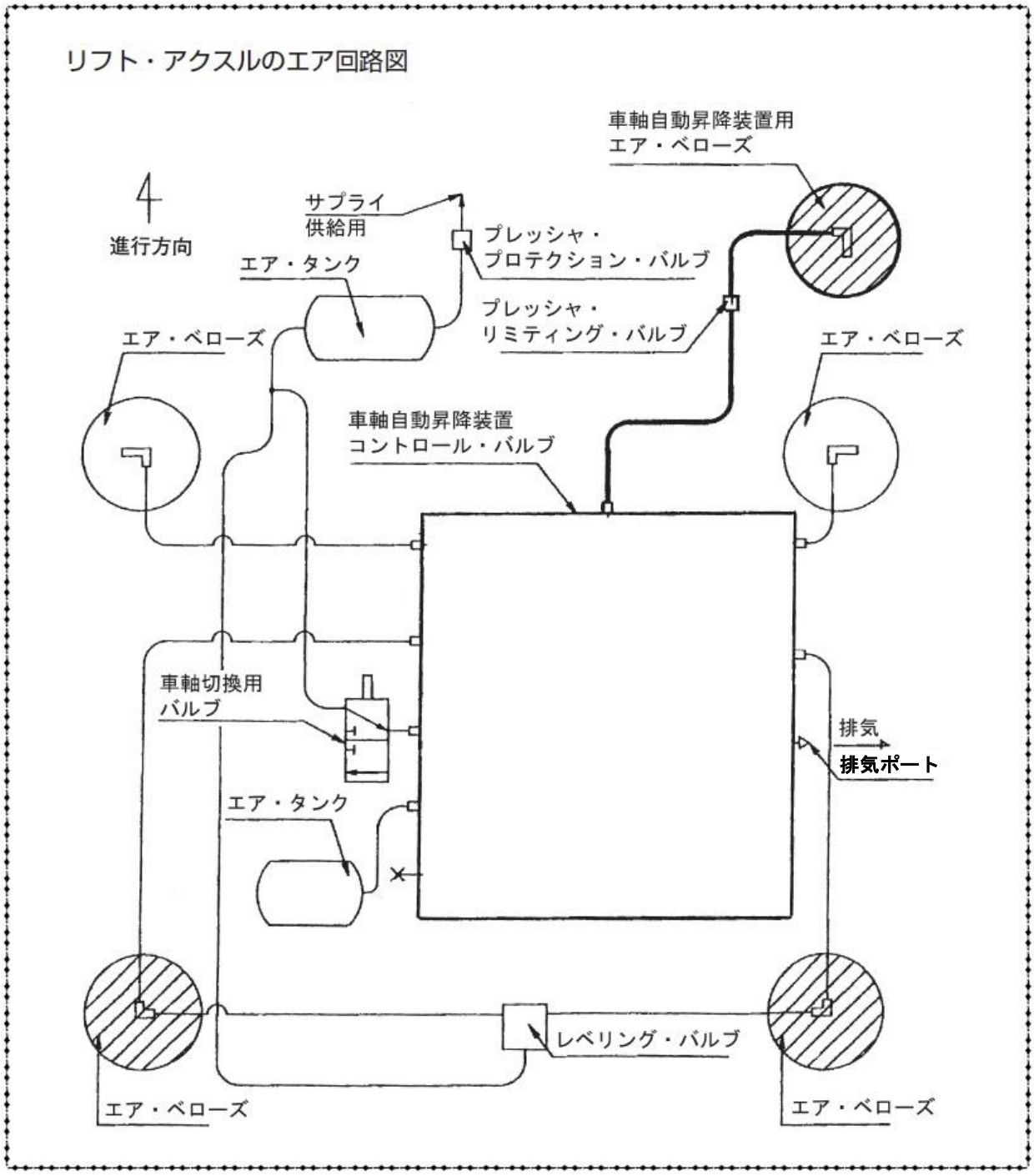
2007 2013 2016 2018

点検箇所	車軸自動昇降装置	点検整備時期	3月 12月	点検の分類	メーカー指定 メーカー指定
点検内容	エア漏れ	点検方法	目視点検、ﾘﾌﾄ･ｱｯﾌﾟ点検、測定点検		

【車軸自動昇降装置取付車のみ】

1．トラクタと連結状態でエンジンを始動させ、エア・タンク内圧力が規定値（※）に達したときエンジンを停止し、圧力計により空気圧の保持状態からエア漏れがないかを点検する
※規定値についてはトレーラメーカー各社発行の「取扱説明書」を参照

2．リフト・アップなどの状態で、エア・ベローズ、プレッシャ・リミティング･バルブ（又はレギュレータ・チャージング・バルブ）及びパイプの接続部などに石けん水などを塗り、エア漏れがないかを目視などにより点検する。



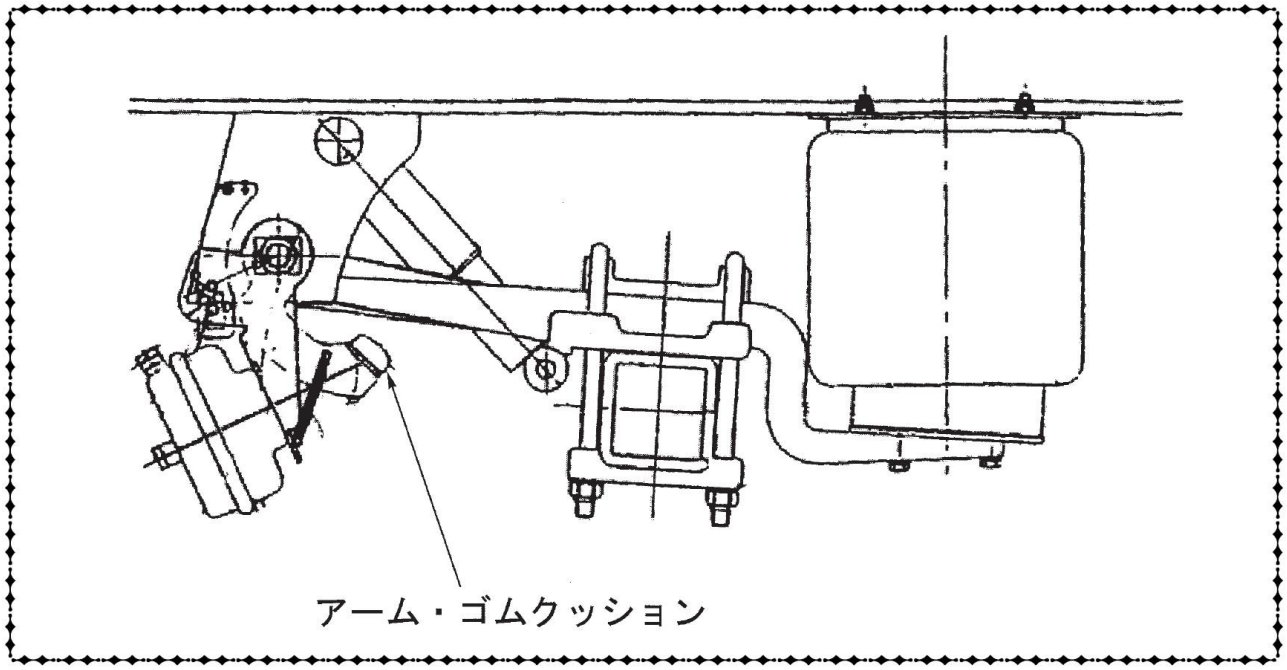
緩衝装置

2007 2013 2016 2018

点検箇所	車軸自動昇降装置	点検整備時期	3月 12月	点検の分類	メーカー指定 メーカー指定
点検内容	ｱｰﾑ･ｺﾞﾑ･ｸｯｼｮﾝの摩耗	点検方法	ﾘﾌﾄ･ｱｯﾌﾟ点検、目視点検		

【車軸自動昇降装置取付車のみ】

1．アーム・ゴムクッションの摩耗がないかを、目視などにより点検する。



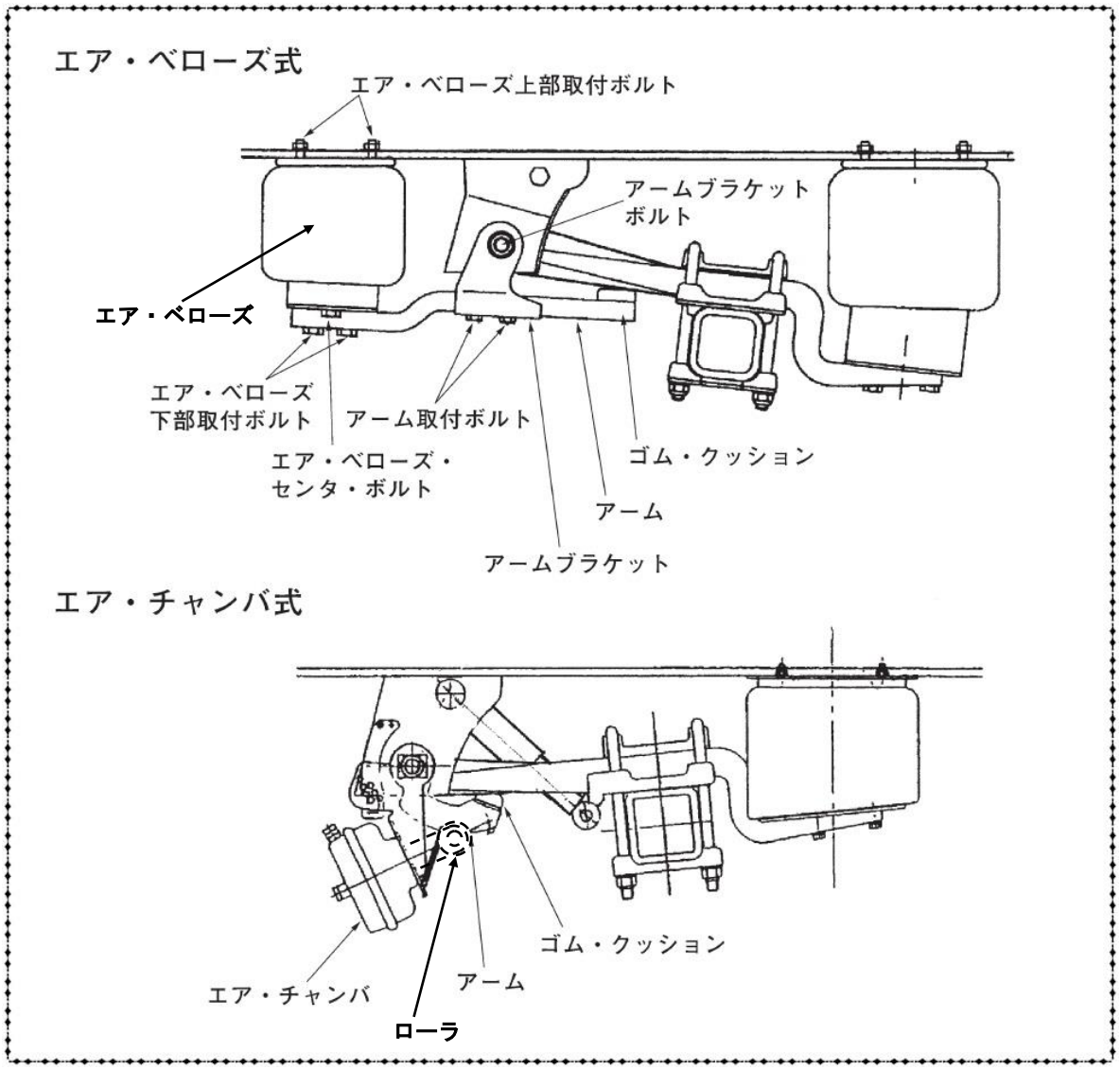
緩衝装置

2007	2013	2016	2018

点検箇所	車軸自動昇降装置	点検整備時期	1月*1 3月 12月	点検の分類	メーカー指定 メーカー指定 メーカー指定
点検内容	ﾍﾞﾛｰｽﾞまたはﾁｬﾝﾊﾞの損傷	点検方法	ﾘﾌﾄ軸･ｱｯﾌﾟ点検、目視点検		

【車軸自動昇降装置取付車のみ】　　＊１：シビア・コンディション項目(本書 20 頁参照)

1．車軸自動昇降作動(リフト・アップ)の状態で、エア・ベローズ式はベローズ等に、エア・チャンバ式はアーム、エア・チャンバ、ローラ等に損傷がないか、目視などにより点検する。



〈ワンポイント・アドバイス〉

● エア・ベローズ及びエア・チャンバは、部品によっては定期交換部品となっているので、メーカーの指定する時期に交換することが必要です。

緩衝装置

2007	2013	2016	2018

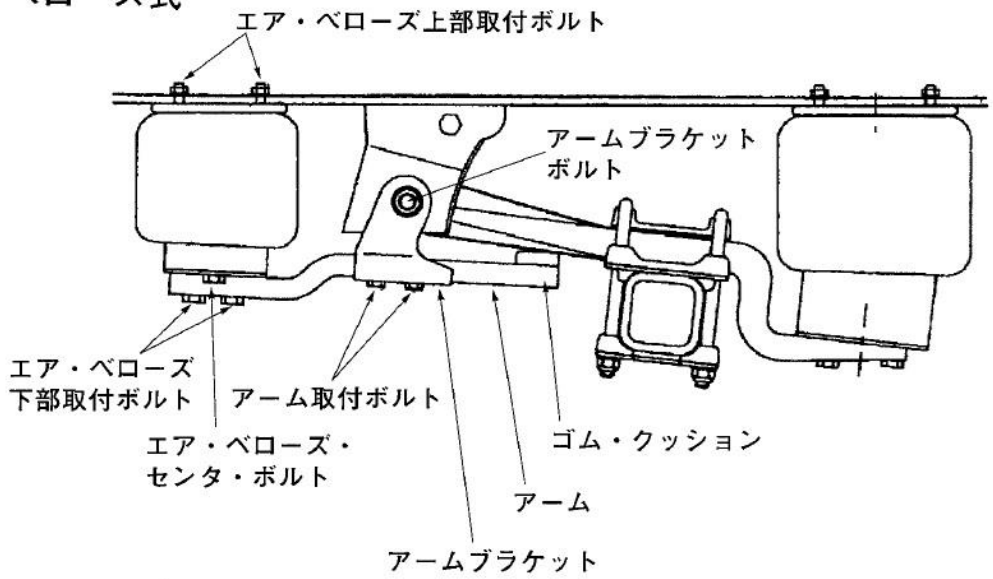
点検箇所	車軸自動昇降装置	点検整備時期	3月 12月 *3	点検の分類	メーカー指定 メーカー指定 メーカー指定
点検内容	取付部及び連結部の緩み並びに損傷	点検方法	目視点検、手工具による点検		

【車軸自動昇降装置取付車のみ】　　＊３：納入後及び交換後１月

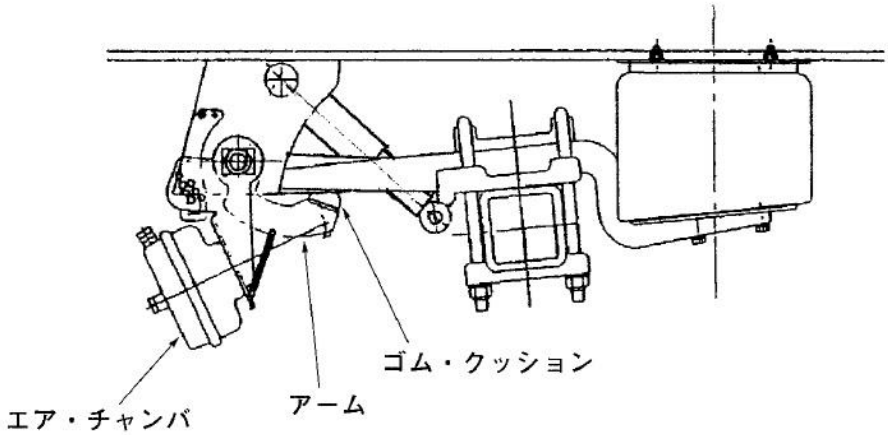
1．アーム・ブラケット、アーム、エア・ベローズ、ゴム・クッション、アーム・ブラケット・ボルトその他ボルト類などの取付け部、または、連結部などの緩みがないかを、トルク・レンチなどにより点検する。

2．各取付け部と連結部に損傷がないかを、目視などにより点検する。

エア・ベローズ式



エア・チャンバ式



〈ワンポイント・アドバイス〉

- 取付け部及び連結部の締め付けは、メーカーにより規定されているトルクで締め付けて下さい。

その他

2007	2013	2016	2018

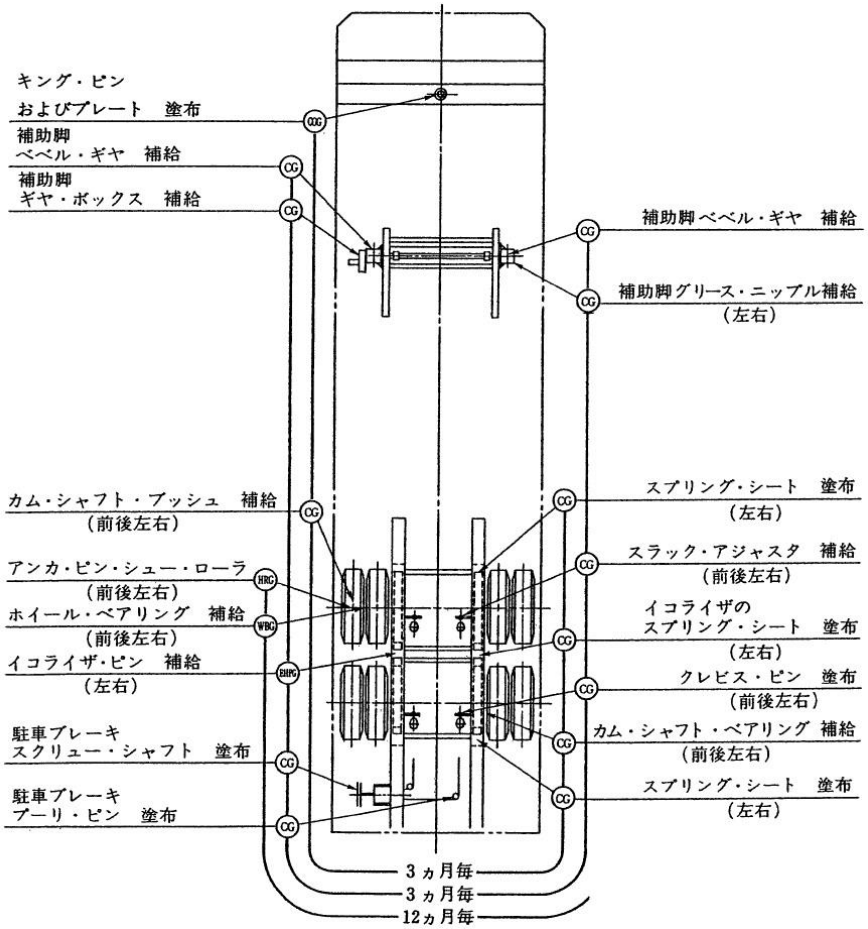
点検箇所	その他	点検整備時期	1月*1 3月 12月	点検の分類	メーカー指定 法定点検 法定点検
点検内容	ｼｬｼ各部の給油脂状態	点検方法	接地又は、ﾘﾌﾄ･ｱｯﾌﾟ点検、目視点検		

＊１：シビア・コンディション項目（本書 20 頁参照）

1．トレーラ各部の給油脂状態が十分であるかを、目視などにより点検する。

2．給油脂のダスト・ブーツの破損、及び、グリース・ニップルの脱落及び、緩みを点検する。
※下記は、一般的なトレーラの給油脂箇所、給油脂時期を示す。実際の給油脂は、各トレーラメーカーの取扱説明書などの指示による。
※給油脂時期は、法定点検では３月毎となっているが、メーカー指定では１月毎の給油脂部位もあるので、各トレーラメーカーの取扱説明書などの指示により給油脂する。

※グリース、オイルなどは、各メーカーの推奨品を使用のこと



〈参考〉

記号	種類
COG	カプラグリース
CG	シャシグリース
WBG	ホイールベアリンググリース
EHPG	極圧グリース
HRG	耐熱グリース

〈ワンポイント・アドバイス〉

- アンカ・ピン、シュー・ローラの給脂は、多すぎるとブレーキ内部にグリースが侵入してブレーキ能力が低下するため危険です。

その他

2007	2013	2016	2018

点検箇所	その他	点検整備時期	1月*1 3月 12月	点検の分類	メーカー指定 法定点検 法定点検
点検内容	シャシ各部の給油脂状態 （ブレーキ装置摺動部分）	点検方法	接地又は、ﾘﾌﾄ･ｱｯﾌﾟ点検、目視点検 測定点検、聴音点検		

＊１：シビア・コンディション項目（本書 20 頁参照）

〈ブレーキ装置摺動部の給油脂の重要性について〉

・ブレーキ装置摺動部分（カム･シャフト、シュー・ローラ、アンカ・ピン等）の給油脂点検を怠ると、ブレーキ・シューの戻りが悪く引き摺り状態などが発生するため確実に実施することが重要。

１．点検・保守

１２ヶ月点検時に次の点検をする。異状がある場合は、部品交換等の適切な処置を行う。
（詳細は本書 40 頁参照）

１）ブレーキ・シューの摺動部分の異状な摩耗や損傷がないか点検する。

２）アンカ・ピンの摩耗や錆付状態、リターン・スプリングのへたりがないか点検する。

３）シュー・ローラがスムーズに作動するか点検する。

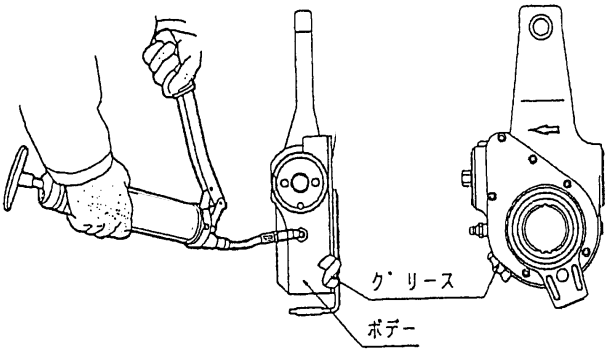
４）調整装置がスムーズに作動するか点検する。

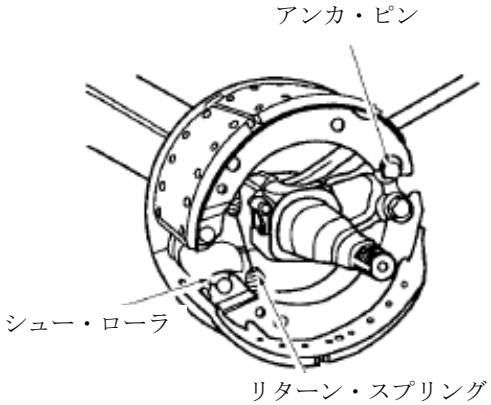
２．ブレーキ装置の給油脂

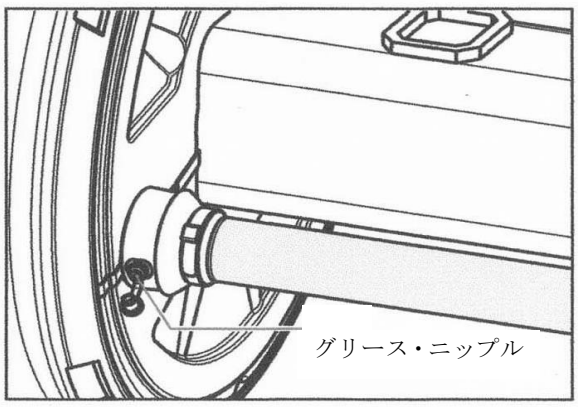
◇：シビア・コンディション項目　●：法定点検項目

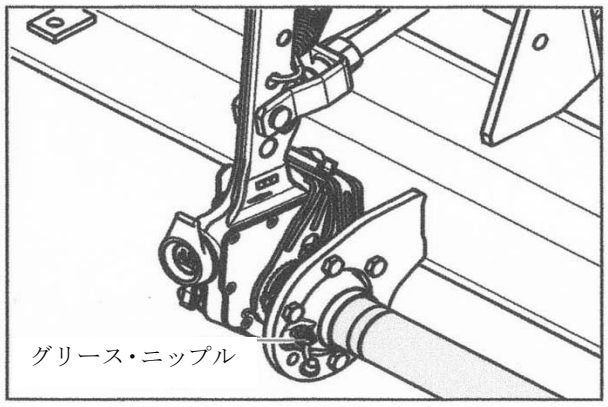
給油脂箇所（※１）	給油脂時期		
	１ヶ月ごと	３ヶ月ごと	１２ヶ月ごと
スラック・アジャスタ	◇（※２）	●	●
カム・シャフト	◇（※２）	●	●
シュー・ローラ			●
アンカ・ピン			●

※１：油脂類は各メーカの指定品・推奨品を使用する。
※２：各メーカの取扱説明書による。









長期使用過程車の劣化及び損傷(走行装置)

① 2007 2013 2016 2018
② 2007 2013 2016 2018

点検箇所	アクスル	点検整備時期	①12月*4 ②12月*5	点検の分類	メーカー指定 メーカー指定
点検内容	①ｽﾋﾟﾝﾄﾞﾙの亀裂及び損傷 ②ｽﾋﾟﾝﾄﾞﾙの摩耗	点検方法	ﾘﾌﾄ･ｱｯﾌﾟ点検、目視点検、測定点検		

＊４：使用開始から 5 年以上経過車
＊５：使用開始から 10 年以上経過車、シビア・コンディション該当車(本書 20 頁参照)は使用開始から 5 年以上経過車
2007 年版適用車では、「②スピンドルの摩耗」の点検は「①スピンドルの亀裂及び変形」の点検に含めて取り扱うことを推奨

〈アクスルのスピンドル部点検の重要性について〉

- アクスルのスピンドル部の劣化が進行すると、当該車両の走行安全性が低下するおそれがありますので、入念に点検を実施してください。
- アクスルのスピンドル部の安全性を維持するため、摩耗、損傷、亀裂などがないか、目視だけではなく、染色浸透探傷検査等による点検を行ってください。また、アクスル・チューブとスピンドルの溶接部についても亀裂、損傷などがないか確実に点検を行ってください。

1．スピンドルの亀裂及び損傷の点検

（使用開始から 5 年以上経過車の場合に、12 ヶ月ごとに点検する。）

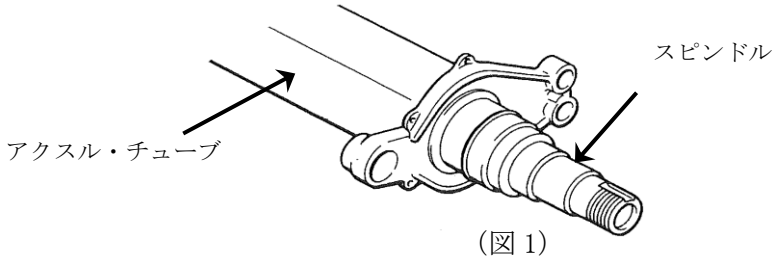
点検するアクスル部分をリフト・アップなどの状態で、ホイール、ハブ、ドラム、ブレーキ・シューなどを取外し次の点検をする。

1）アクスルのスピンドル部のインナ・ベアリング挿入Ｒ部(図 2 参照)に亀裂、損傷などがないか確実に点検する。
2）アクスル・チューブとスピンドルの溶接部(図 2 参照)に亀裂、損傷などがないか確実に点検する。
3）亀裂の点検方法は、染色浸透探傷検査等による。
4）異状な亀裂、損傷が認められた場合は、速やかにアクスルを交換する。

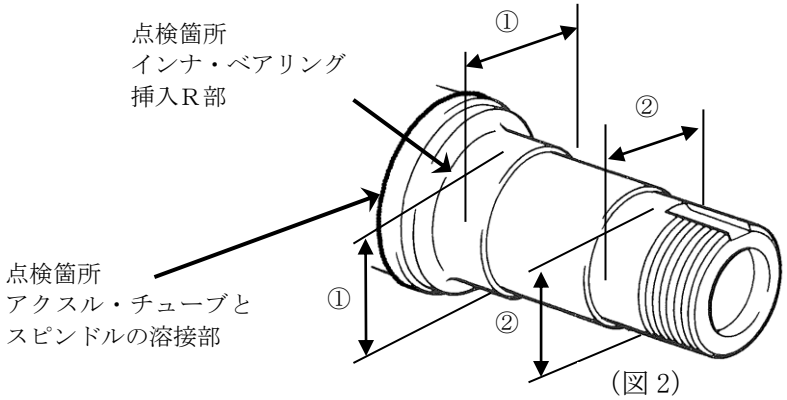
2．スピンドルの摩耗の点検

（使用開始から 10 年以上経過車、シビア・コンディション該当車は使用開始から 5 年以上経過車の場合に、12 ヶ月ごとに点検する。）

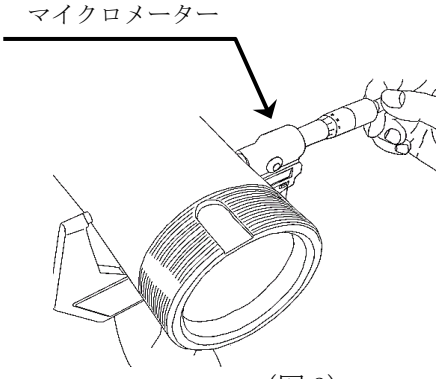
1）上記 1 の点検に加え、スピンドルのインナ・ベアリング挿入部径(図 2①部)およびアウタ・ベアリング挿入部径(図 2②部)の測定を図 3 に示す要領でマイクロメーター等を用いて行う。
※インナ・ベアリングおよびアウタ・ベアリング挿入部径の摩耗限度については各メーカーに問合せする。



(図 1)



(図 2)



(図 3)

長期使用過程車の劣化及び損傷(走行装置)

2007 2013 2016 2018

点検箇所	ホイール	点検整備時期	3月*4	点検の分類	メーカー指定
点検内容	ﾎｲｰﾙ･ﾅｯﾄ及びﾎｲｰﾙ･ﾎﾞﾙﾄの損傷	点検方法	ﾘﾌﾄ･ｱｯﾌﾟ点検、目視点検		

【車両総重量 8 ﾄﾝ以上の被牽引自動車のみ】　　＊４：使用開始から５年以上経過車

使用開始から 5 年以上経過車の場合に、3 ヶ月ごとに点検する。
点検は、本書 62 ページ，63 ページの通りに行う。

長期使用過程車の劣化及び損傷(走行装置)

① 2007 2013 2016 2018
② 2007 2013 2016 2018

点検箇所	ホイール	点検整備時期	①12月*4 ②12月*5	点検の分類	メーカー指定 メーカー指定
点検内容	①ﾊﾌﾞの亀裂、損傷及び変形 ②ﾊﾌﾞの摩耗	点検方法	ﾘﾌﾄ･ｱｯﾌﾟ点検、触手点検、聴音点検		

＊４：使用開始から 5 年以上経過車
＊５：使用開始から 10 年以上経過車、シビア・コンディション該当車(本書 20 頁参照)は使用開始から 5 年以上経過車
2007 年版適用車では、「②ハブの摩耗」の点検は「①ハブの亀裂、損傷及び変形」の点検に含めて取り扱うことを推奨

〈アクスル、ハブの点検の重要性について〉

・アクスル、ハブの劣化が進行すると、当該車両の走行安全性が低下するおそれがありますので、入念に点検を実施してください。
・アクスル、ハブの安全性を維持するため、摩耗、損傷、亀裂などがないか、目視だけではなく染色浸透探傷検査等による点検を行ってください。

１．ハブの摩耗部と未摩耗部との段差（図１のＡ部）をシックネスゲージにて測定する。

２．２箇所の未摩耗部に直定規を渡し、外側の脇にて段差を計測する。(図 3)

３．１箇所の未摩耗部に直定規を密着させ、脇にて段差を計測する。(図 4)
※いずれかの方法で全てのホイール・ボルト部を計測する

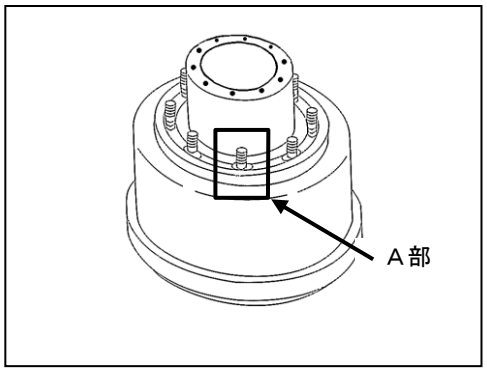


図１　ハブ、ドラム

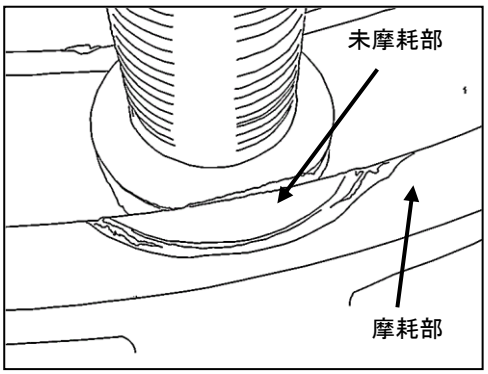


図２　Ａ部詳細

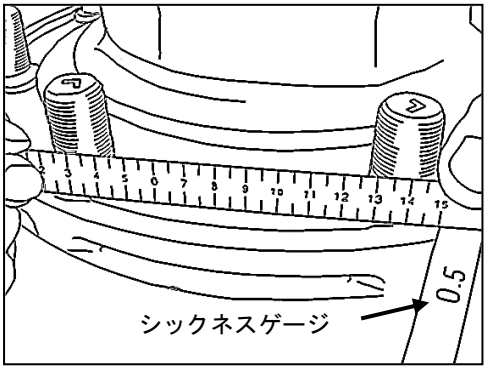


図 3

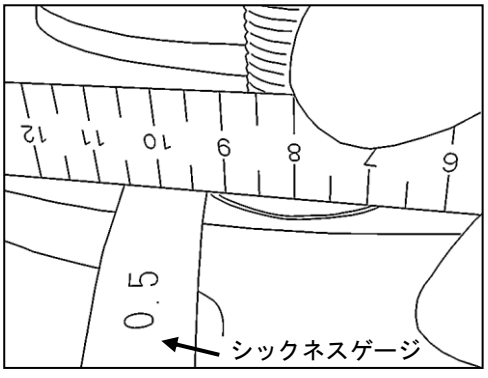


図 4

〈ワンポイント・アドバイス〉

ホイール･ボルト部摩耗の整備基準については各トレーラメーカーに問い合わせてください。

長期使用過程車の劣化及び損傷(走行装置)

① 2007 2013 2016 2018
② 2007 2013 2016 2018

点検箇所	ホイール	点検整備時期	①12月*4 ②12月*5	点検の分類	メーカー指定 メーカー指定
点検内容	①ﾊﾌﾞの亀裂、損傷及び変形 ②ﾊﾌﾞの摩耗	点検方法	ﾘﾌﾄ･ｱｯﾌﾟ点検、触手点検、聴音点検		

＊４：使用開始から 5 年以上経過車
＊５：使用開始から 10 年以上経過車、シビア・コンディション該当車(本書 20 頁参照)は使用開始から 5 年以上経過車
2007 年版適用車では、「②ハブの摩耗」の点検は「①ハブの亀裂、損傷及び変形」の点検に含めて取り扱うことを推奨

4．ハブ単体状態で亀裂、損傷、変形などがないかを点検する。
特にハブ・フランジ付け根部両面に亀裂等がないかを目視だけではなく、染色浸透探傷検査等による点検をする。(図 5)

5．ホイール・ナットに ISO 方式を使用しているハブにあっては、ホイールとのはめ合い部に摩耗等の異状はないか、特にホイール取付け状態にガタ等の異状がないか目視により点検する。
(図 6)

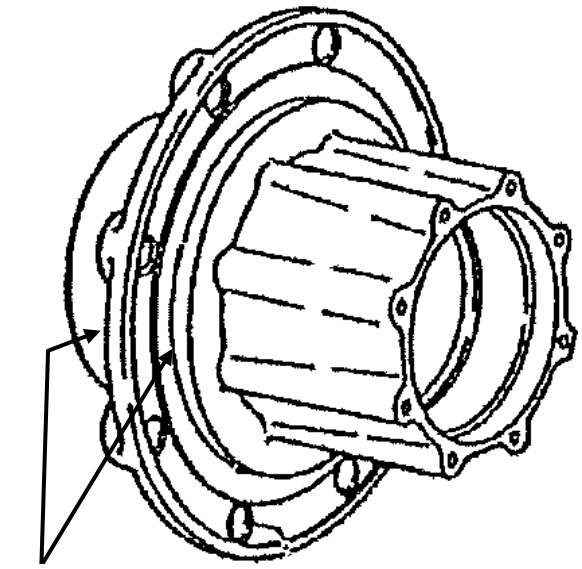


図 5. ハブ単体

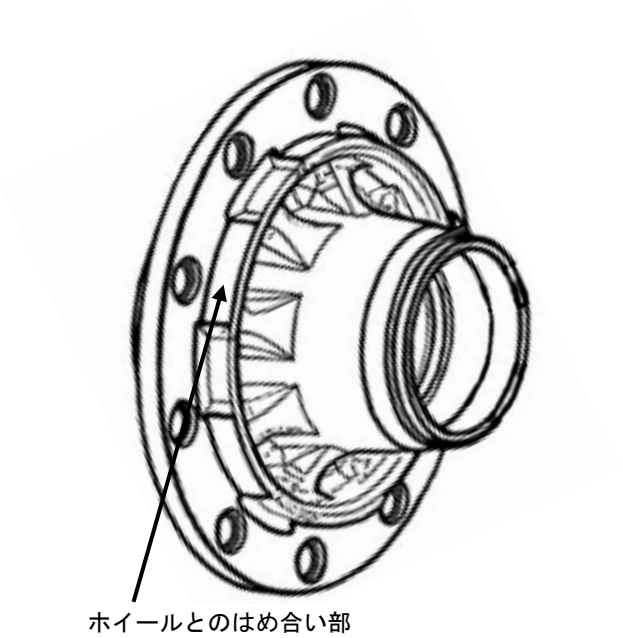


図 6. ＩＳＯ方式ハブ

〈ワンポイント・アドバイス〉

ホイールとのガタが大きい場合、ホイール・ボルトの荷重負担が多くなりホイール・ボルト折損の原因となることがあります。

長期使用過程車の劣化及び損傷(車枠及び車体) 2007 2013 2016 2018

点検箇所	車枠及び車体	点検整備時期	12月*6	点検の分類	メーカー指定
点検内容	錆腐食状態	点検方法	目視点検		

＊６：使用開始から 10 年以上経過車

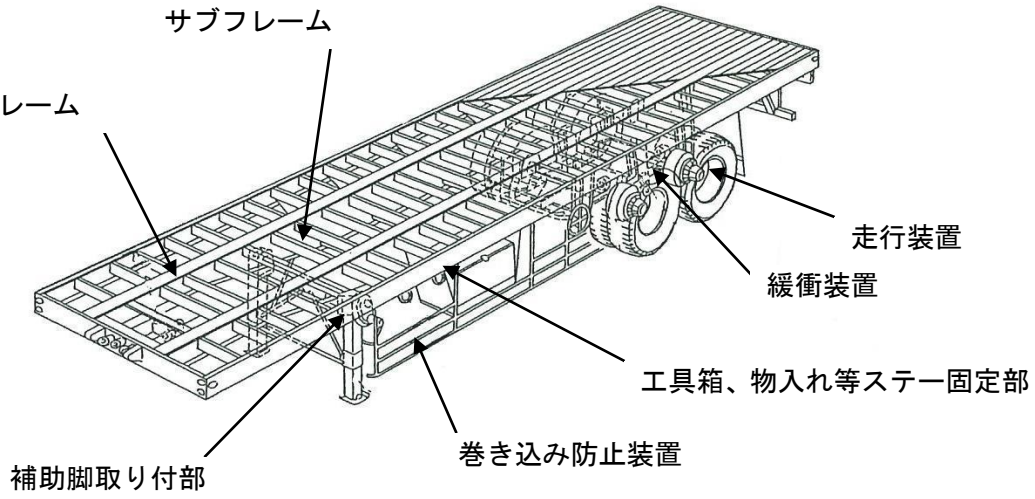
2007 年版適用車では、本点検項目は「車枠及び車体の緩み及び損傷」の点検に含めて取り扱うことを推奨

1．長期間使用したトレーラの錆腐食の点検は次のように行う。
①トレーラに積載物等の残りがないように、荷下ろしや排出をする。
②工具箱内や物入れ等の搭載物を全て取り出す。
③車枠や車体の下周り及び、走行装置、制動装置の汚れを洗浄等により除去し、安全で十分な広さのある場所にトレーラを設置する。
④車枠や車体に錆や腐食が発生していないか、目視により調べる。
⑤走行装置、緩衝装置の溶接接合部は特に、微小なクラックによる錆などが発生していないか調べる。
⑥工具箱や物入れなどがステーにより、フレームに取付けされている場合、各固定部の錆や腐食の状態をチェックする。

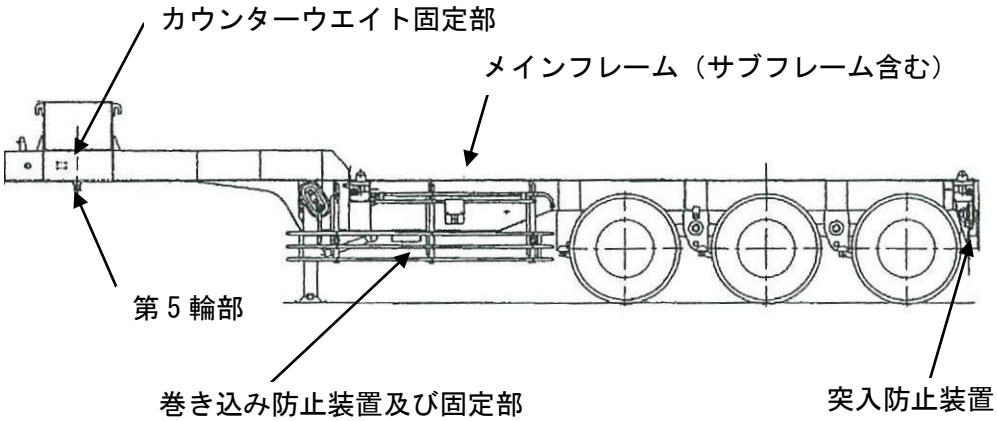
2．錆や腐食が確認された場合、適切な方法で補修等を行なう。腐食の進行が著しいものは、部品の交換等により必要な強度を確保する。

3．トレーラの代表的な点検部位を示す。

（1）平床トレーラ



（2）コンテナトレーラ



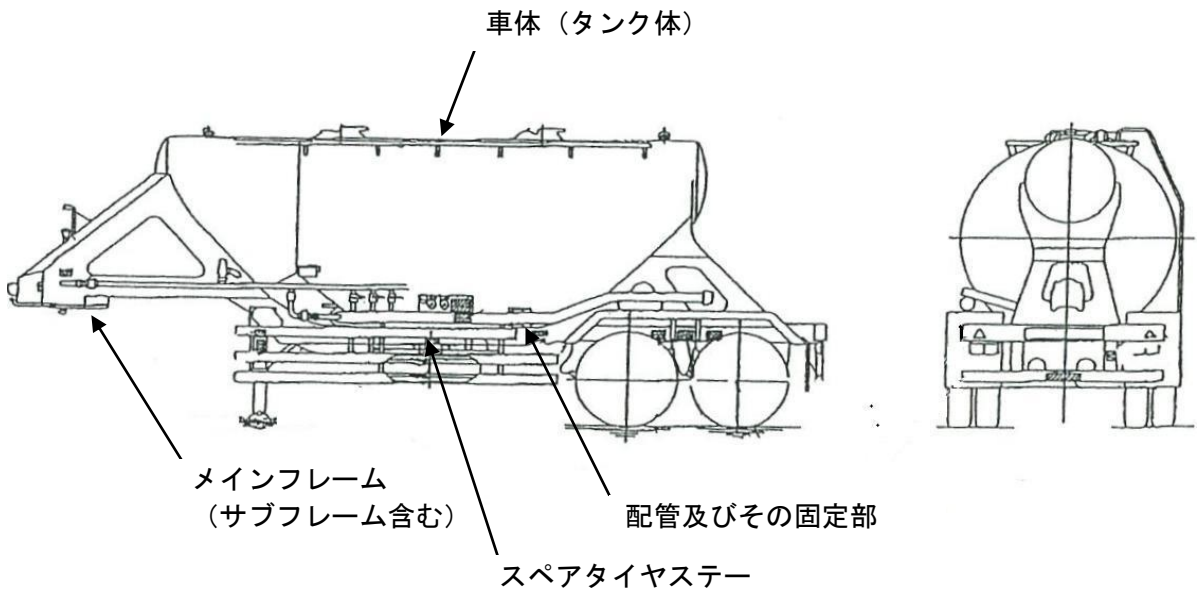
長期使用過程車の劣化及び損傷(車枠及び車体)　2007　2013　2016　2018

点検箇所	車枠及び車体	点検整備時期	12月*6	点検の分類	メーカー指定
点検内容	錆腐食状態	点検方法	目視点検		

＊６：使用開始から 10 年以上経過車

2007 年版適用車では、本点検項目は「車枠及び車体の緩み及び損傷」の点検に含めて取り扱うことを推奨

（3）タンクトレーラ



〈ワンポイント・アドバイス〉

● 錆腐食による強度低下の程度の判断は、各トレーラメーカーの基準による。
また、点検後の修理要領については十分な強度を確保するため、各トレーラメーカーの設計基準を満足する必要があります。

トレーラメーカー一覧

（五十音順）

（一般社団法人 日本自動車車体工業会 トレーラ部会会員）

ＮＸ商事株式会社

極東開発工業株式会社

Ｋ・Ｍウィング株式会社

小平産業株式会社

昭和飛行機工業株式会社

新明和工業株式会社

東邦車輛株式会社

株式会社トーヨートレーラー

トレーラーハウスデベロップメント株式会社

日本車輌製造株式会社

日本トレクス株式会社

日本フルハーフ株式会社

株式会社花見台自動車

株式会社浜名ワークス

株式会社矢野特殊自動車

トレーラ定期点検整備の手引き 2026年版

2026年（令和8年）9月30日発行
編集･発行　一般社団法人 日本自動車車体工業会
トレーラ部会
〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-30（日本自動車会館15階）
電話 03-3578-1681　FAX 03-3578-1684



JAPAN AUTO-BODY INDUSTRIES ASSOCIATION, INC.